第十八輯・第三號・昭和十年三月一日

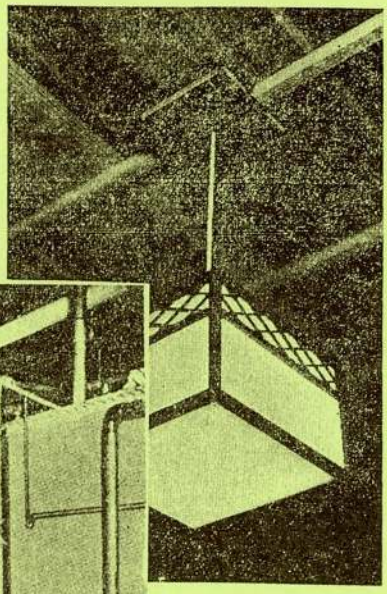
大正六年九月十四日第三種郵便物認可 ・ 昭和十年三月一日發行（毎月一回一日發行） ・ 本納刷印日 五十二月二年十和昭

日本建築協會

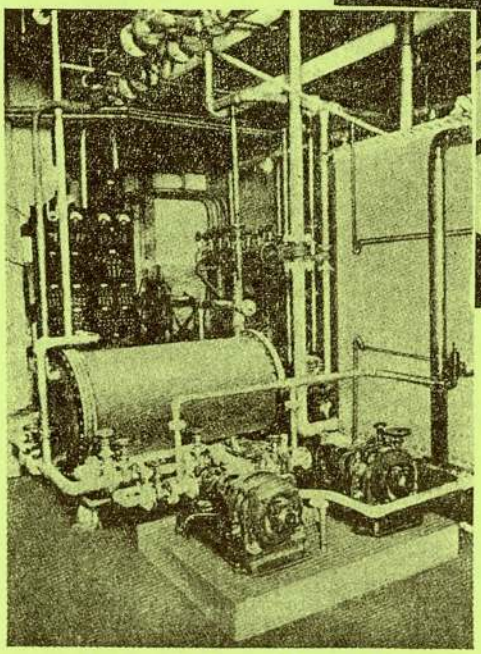
建築と社會

ホテル

近代建築ノ誇ル
樞要機能



日本間のパン式
調整空氣吹出口



眞空ポンプ並に三機式重油加熱器

三機工業株式會社大阪支店

東洋キヤリア工業株式會社大阪支店

大阪市北區中之島（大阪三井ビル）

本店 東京市麹町區有樂町（三信ビル内）

取扱店 三井物産株式會社各地支店出張所

建築と社會

第18輯第3號　昭和10年3月發行

ホテル

目次

本會使命の重大性に就て……片岡安（19）

新大阪ホテルの建築工事が社會に與へた教訓……竹腰健造（21）
新大阪ホテル計畫案に就て……富士岡重一（24）
新大阪ホテル計畫の概要……新名種夫（26）
完成への道は……三好貫一（30）
工事隨想……池田宮彦（35）
新大阪ホテル家具裝飾に就て……長谷部鋭吉（41）
新大阪ホテル裝飾意匠に就て……笹川愼一（57）
新大阪ホテル家具裝飾を擔當して……古賀鄕實（58）
新大阪ホテルの構造及强度計算……竹內政治（63）
新大阪ホテル設備設計施工の跡を顧みて……甲斐原四郎（76）
新大阪ホテル設備概要と配管準備工作に就て……竹花末春（85）
新大阪ホテル工事施工に就て……加藤誠二（93）
隨感……山手研吾（95）
新大阪ホテルの厨房に就て……上田清一（97）
新大阪ホテル衛生設備……須賀藤五郎（101）
新大阪ホテルの建築を語る夕……（109）

ホテル建築（寫眞）……（1）
ホテル建築紹介……（125）
國際新建築……（135）

時報……（159）
會報……（162）

會　　告

五　版

市街地建築物法令改訂版刊行豫告

本書は六大都市施行細則その他關係命令を蒐め昭和8年刊行第四版を出し暫く絶版中のものであつたが今回同法及施行規則・施行細則の一部或は全部が改正發令されたのでこれを機會に改訂して第五版として刊行するものである。

刊行期は三月下旬、定價は一部50錢、郵送料は6錢、その他體裁等は前版通りである。御希望の向はこの際至急豫約を申込んで戴きたい。

市街地建築物法施行細則（大阪府）改正印刷物引換に就て

前年本會發行の〝市街地建築物法令〟御買求めの方へ約束してゐます同法施行細則中大阪府の改正印刷物は印刷を了し既に引換証を以て御申越の方へは御送り致しましたが、まだこの外に御受取無き方は直接本會事務所へ御出になるか或は引換証に郵券2錢封入して御申出下さい。

昭和10年3月

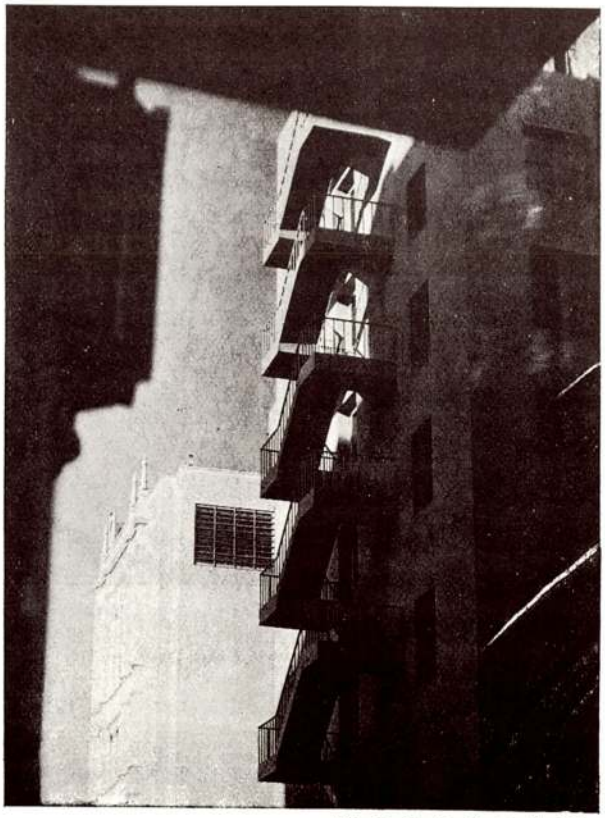
社團法人　日本建築協會



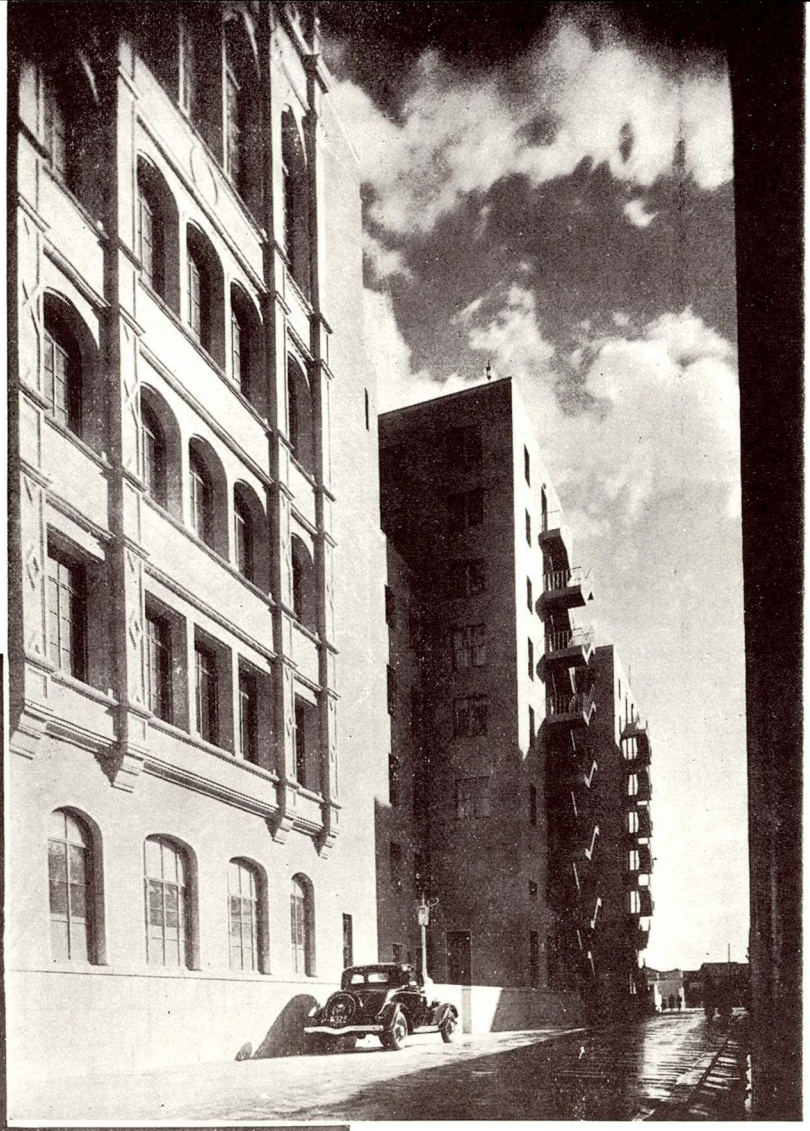
土佐堀川に面する全景



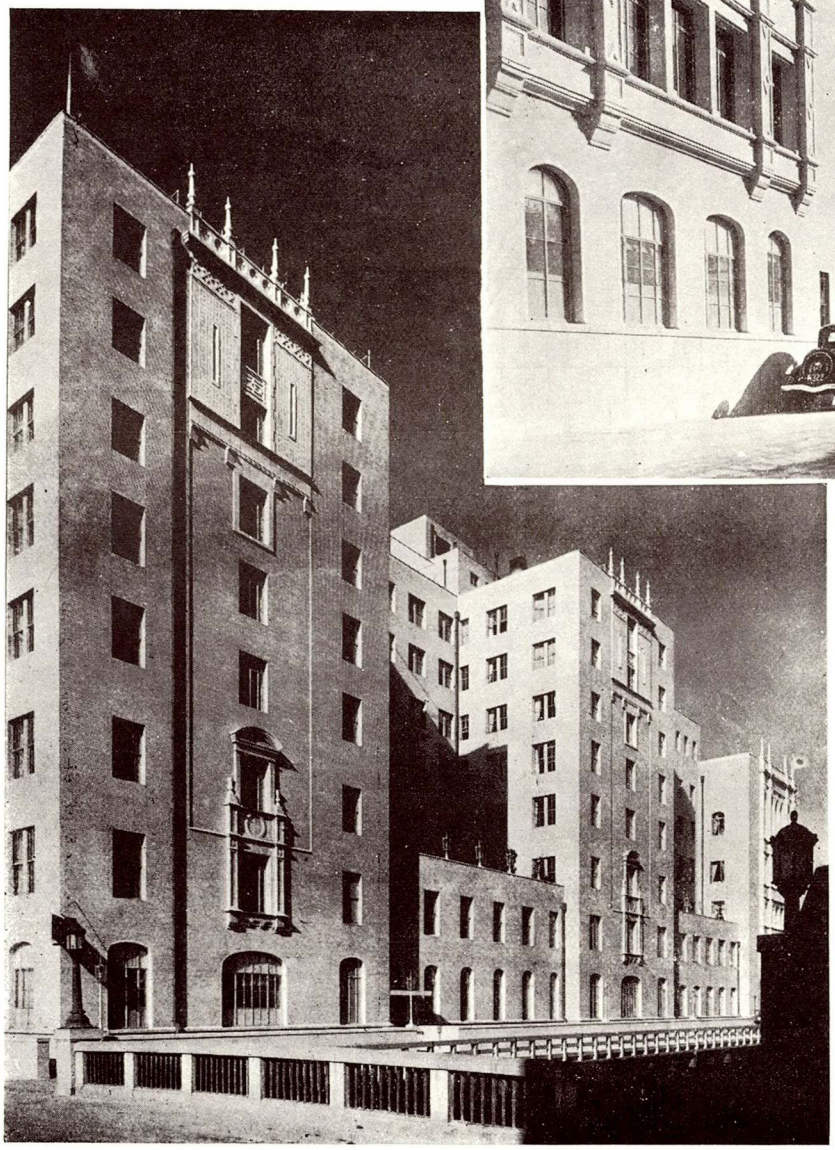
北面よりの外觀



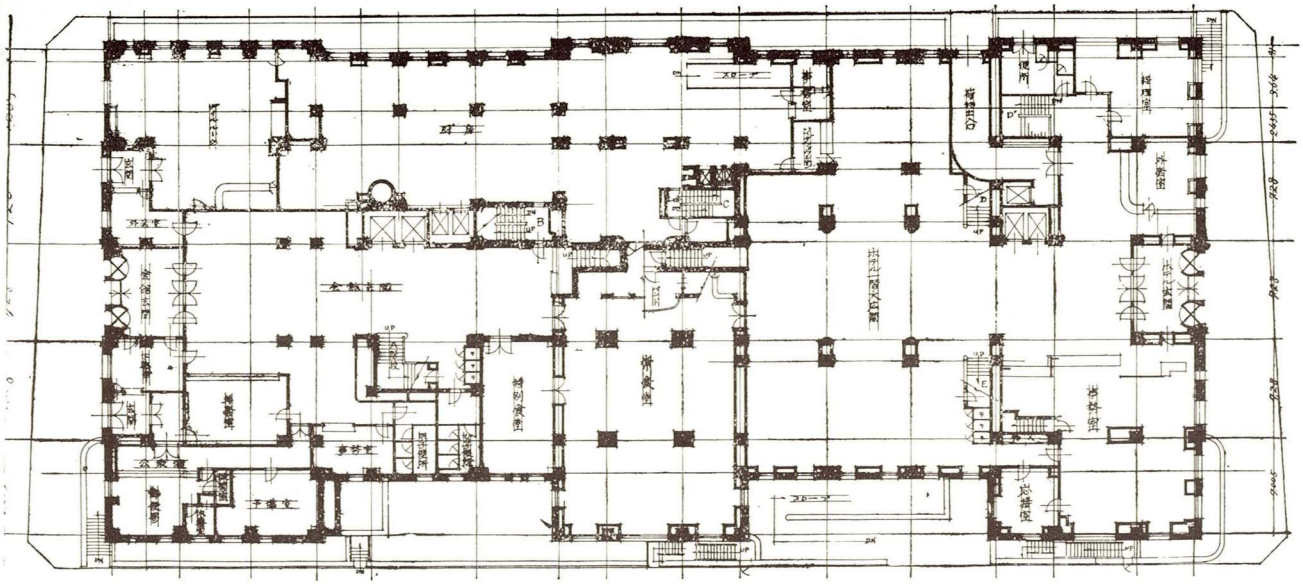
西南面よりの外觀



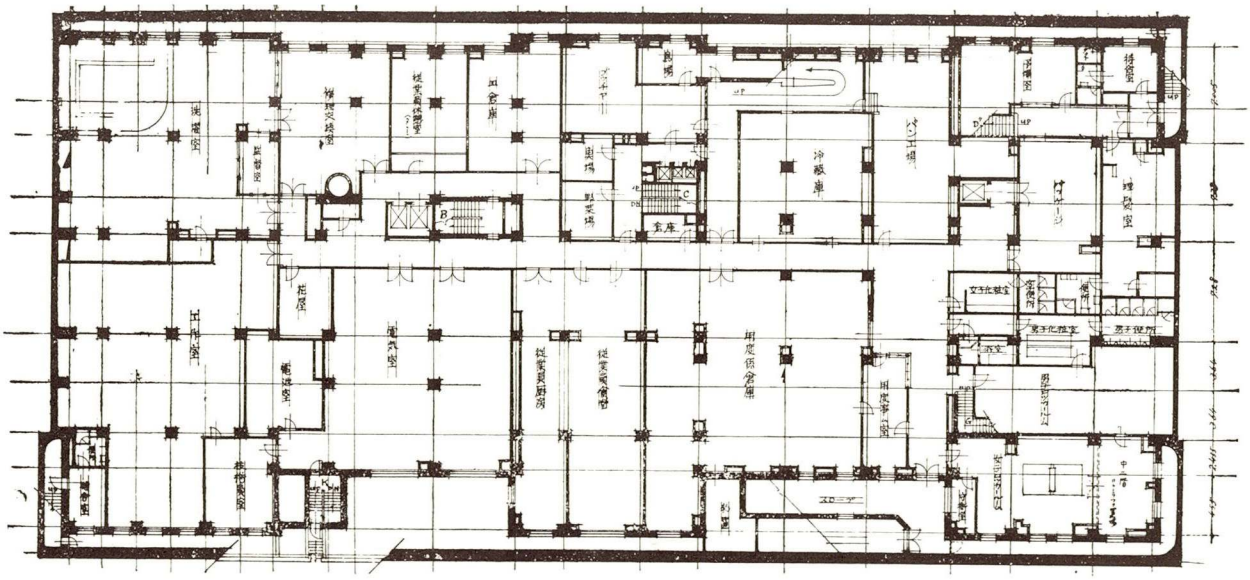
西北面よりの外観



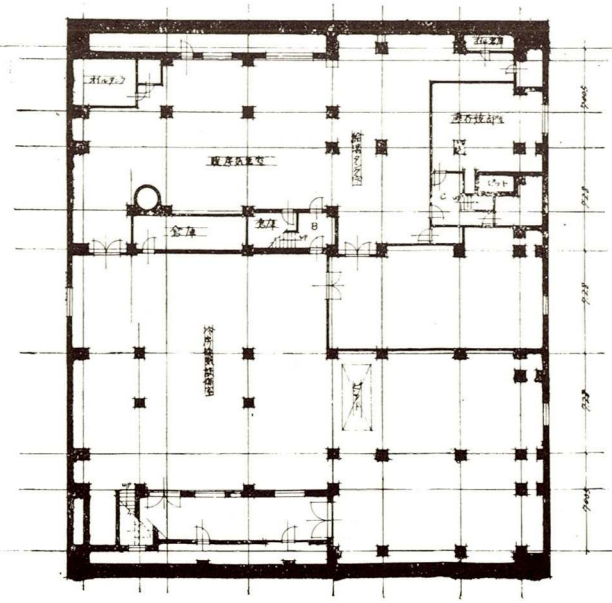
東南面よりの外観



1 階 平 面 圖

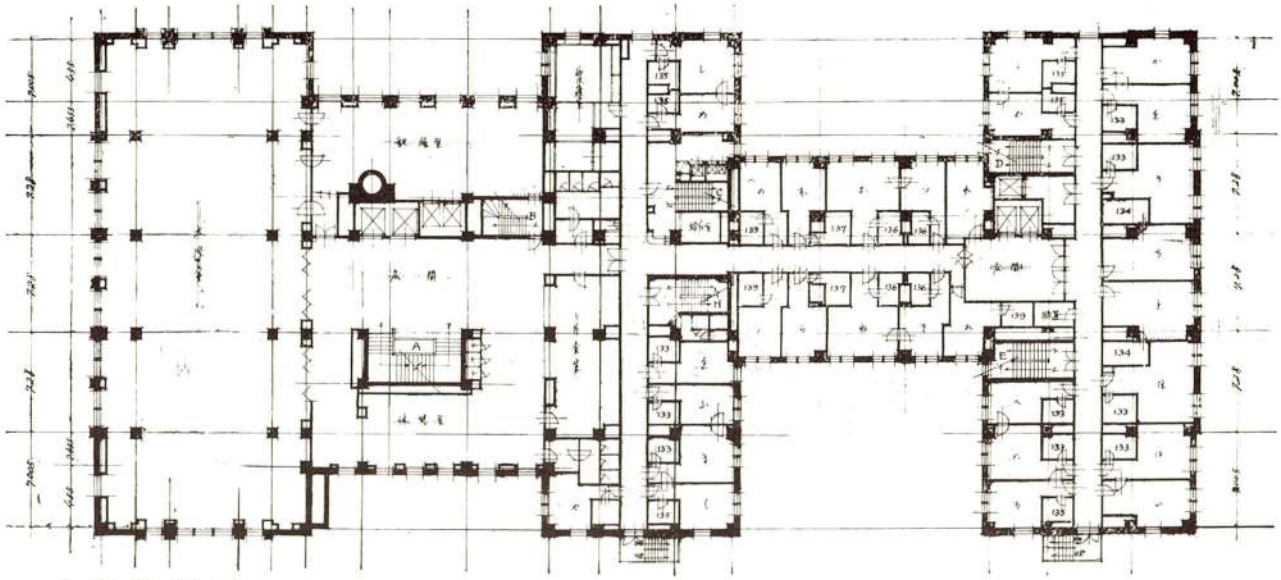


地 下 1 階 平 面 圖

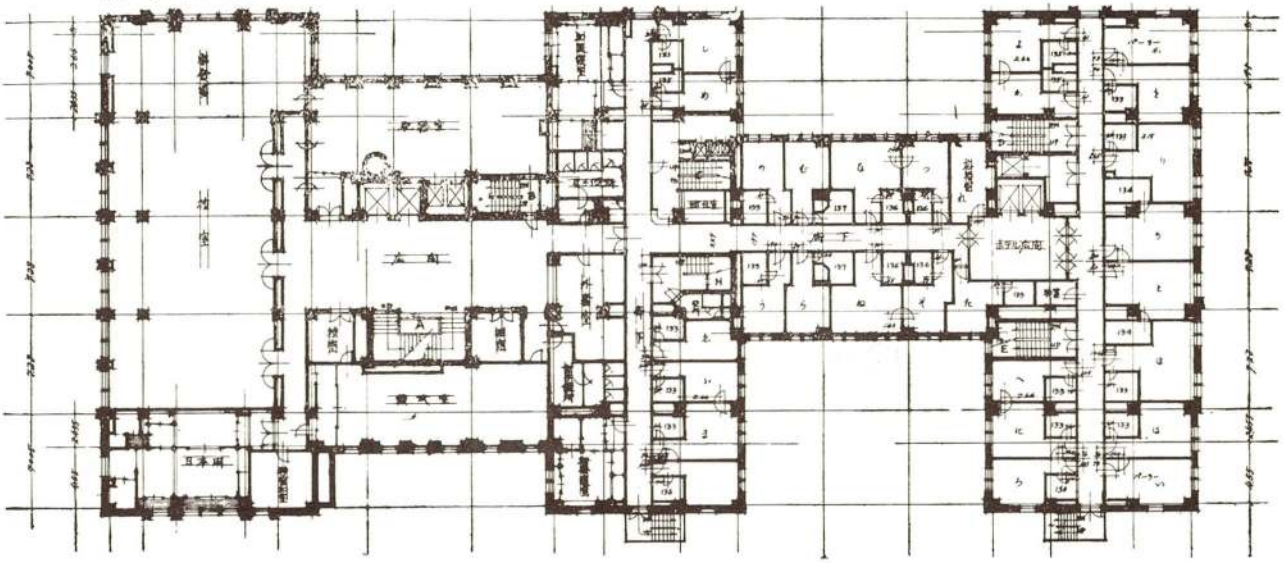


第 2 地 階 平 面 圖

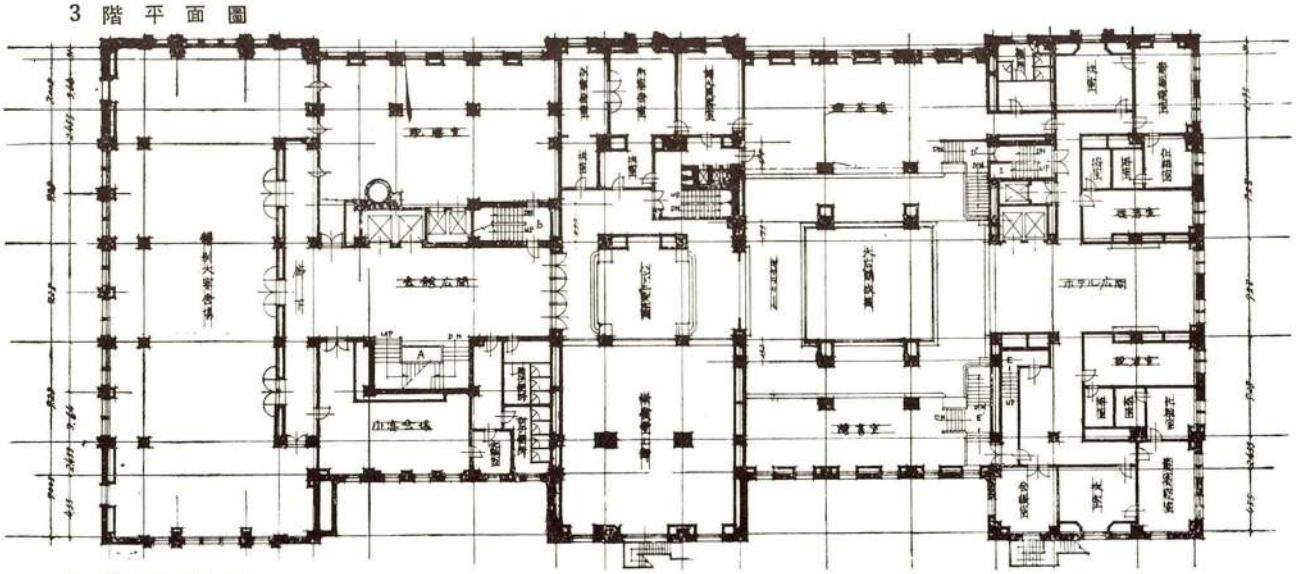
III 4　新 大 阪 ホ テ ル



4 階 平 面 圖

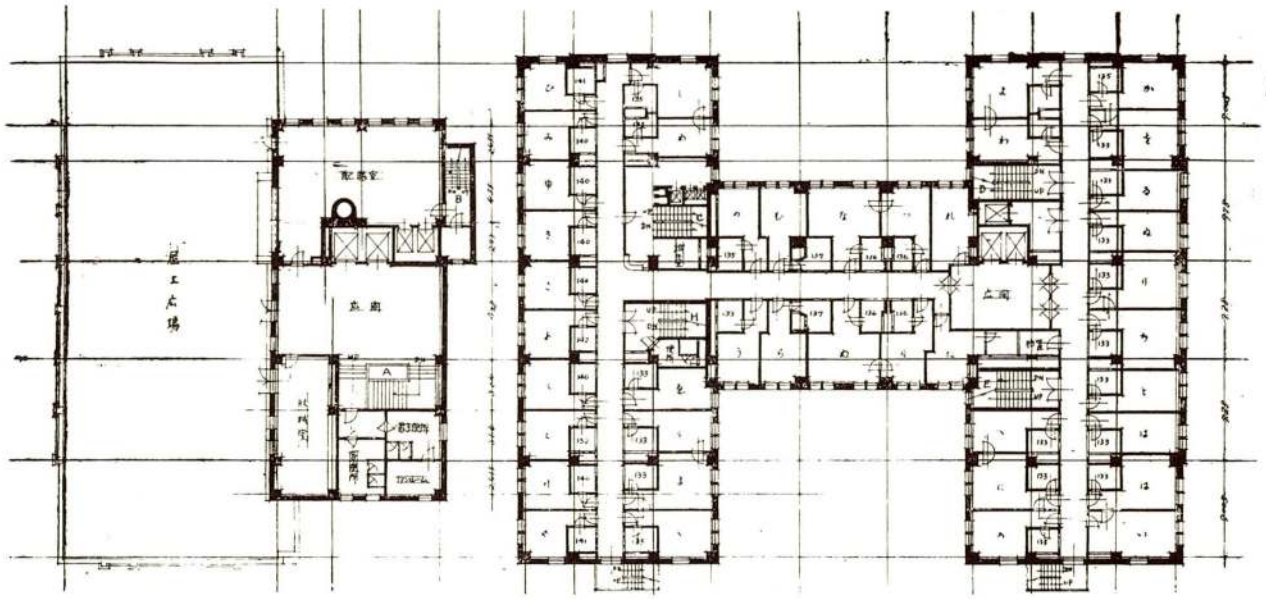


3 階 平 面 圖

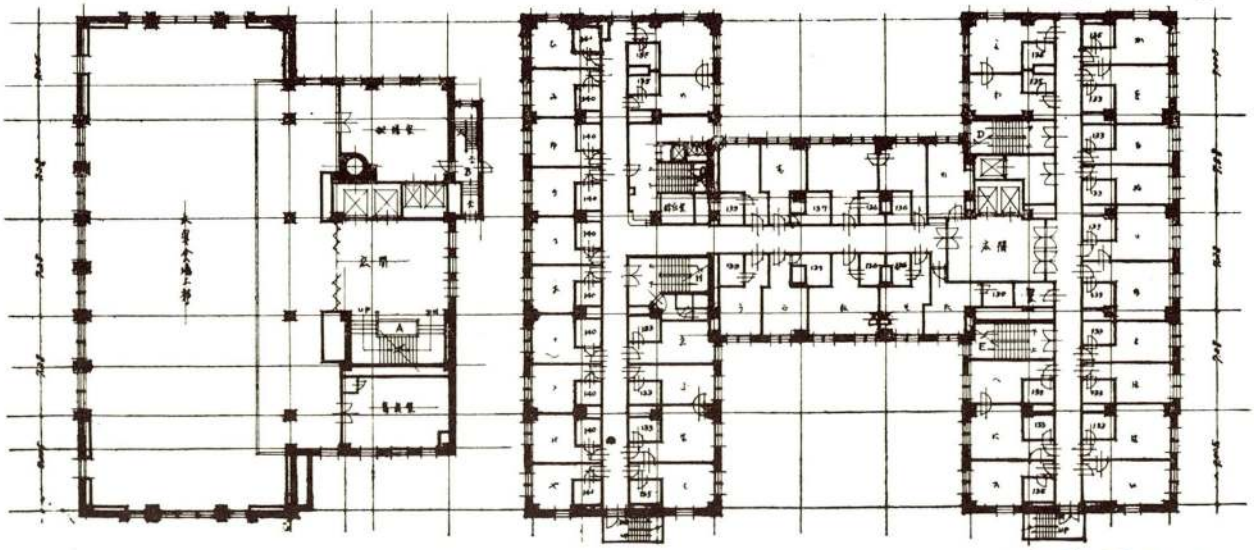


2 階 平 面 圖

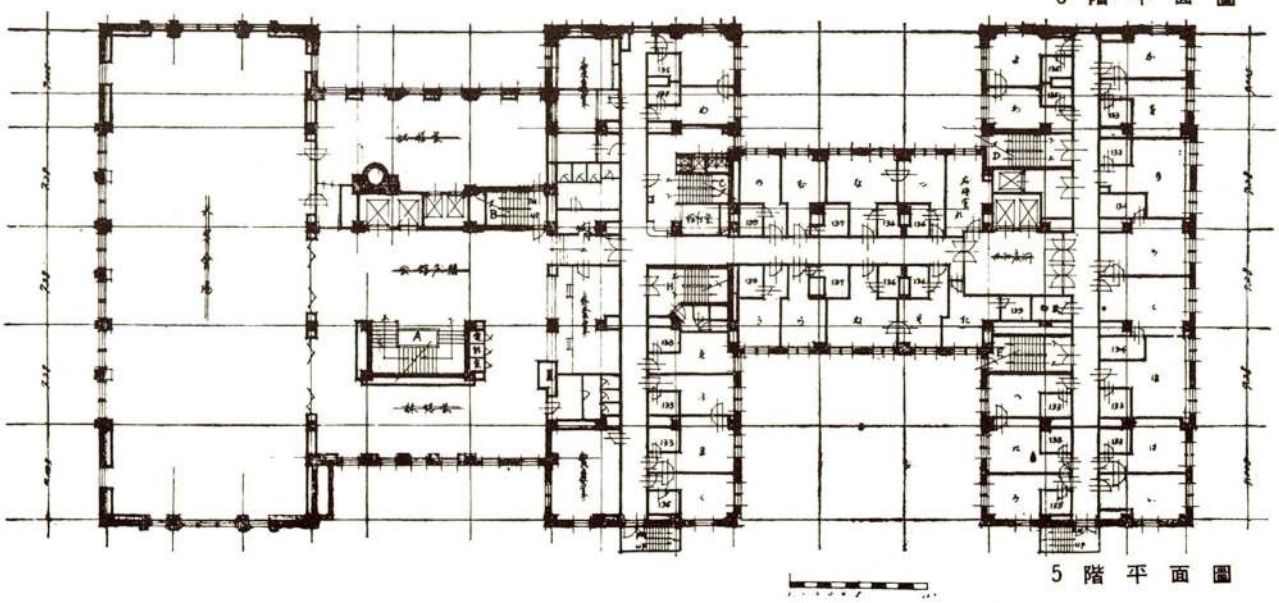
新 大 阪 ホ テ ル



7 階 平 面 圖

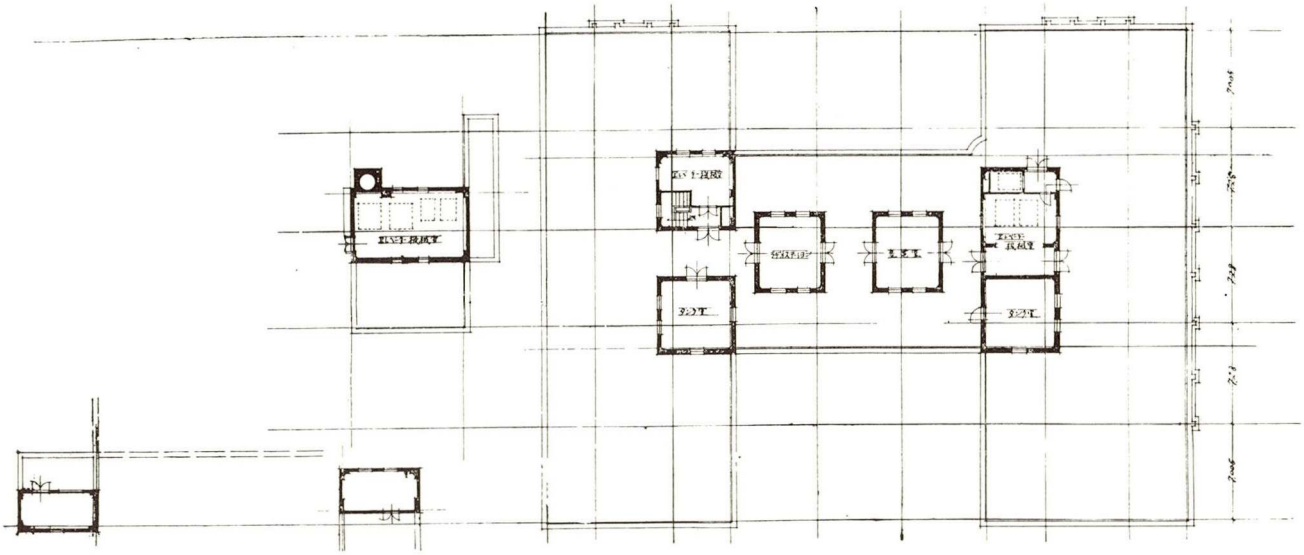


6 階 平 面 圖

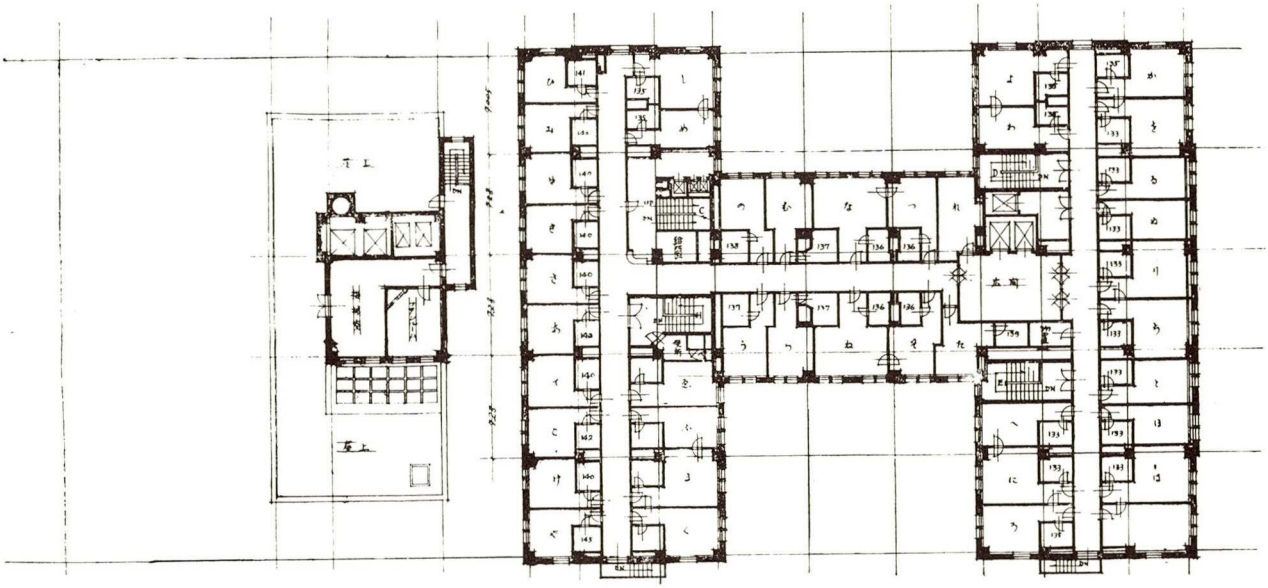


5 階 平 面 圖

116 新大阪ホテル



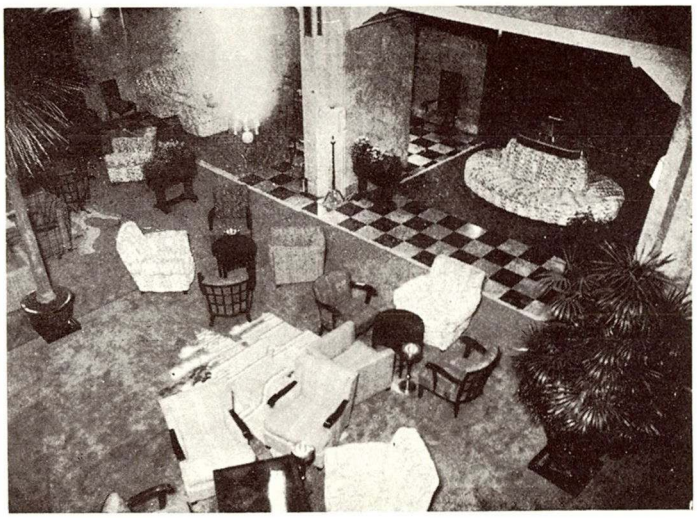
屋上塔屋平面圖



8階平面圖



ホテル側１階ホール１部の詳細



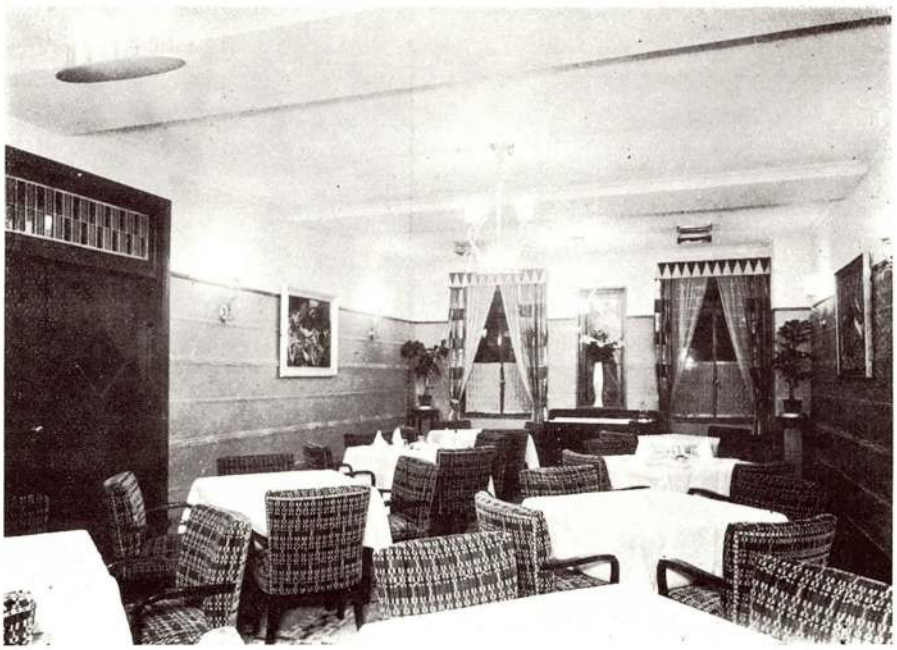
ホテル側１階ホール１部見下し



ホテル側１階ホールの１部



1階常食堂



1階特別食堂

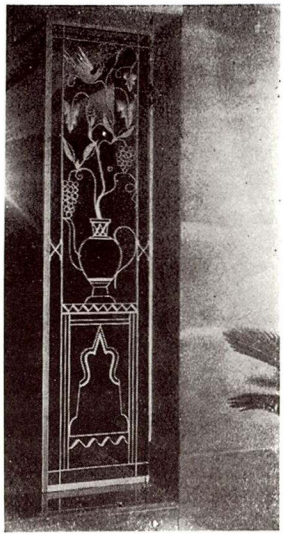


2階讀書室

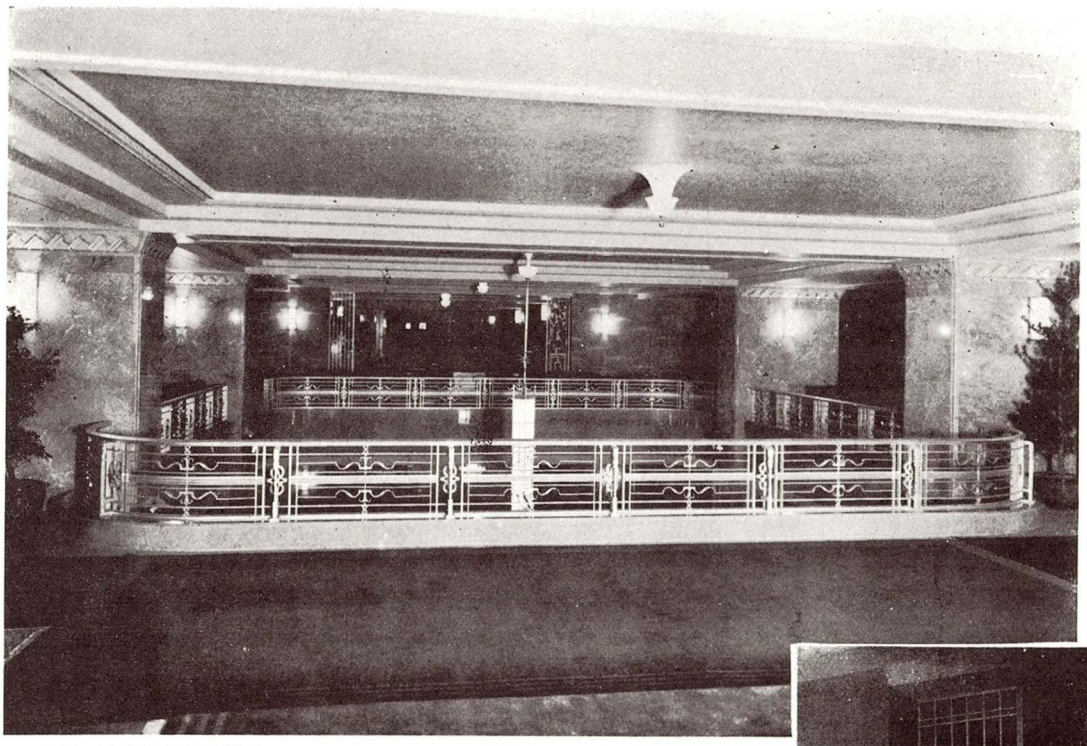


2階喫茶室



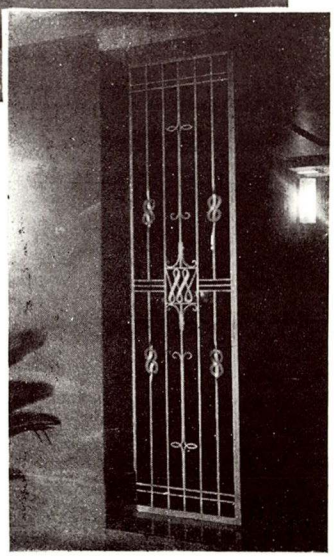


2階バンド上部廣間

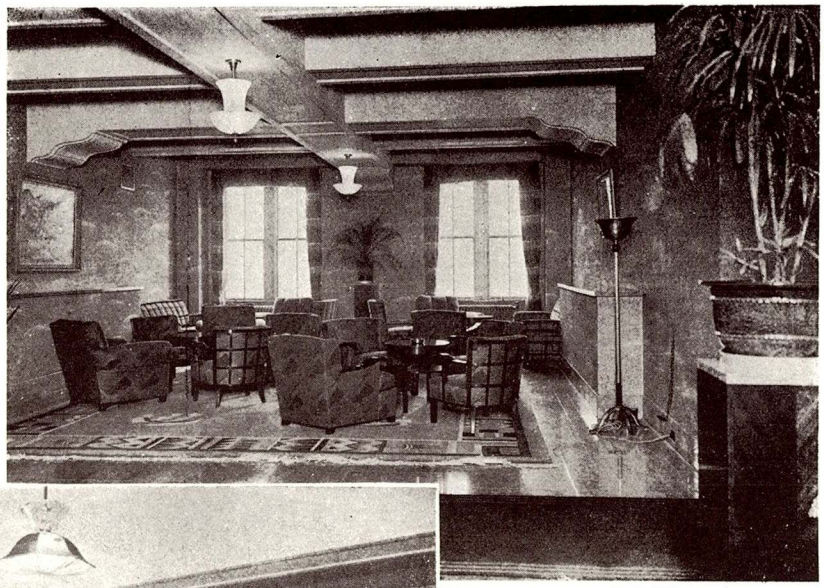


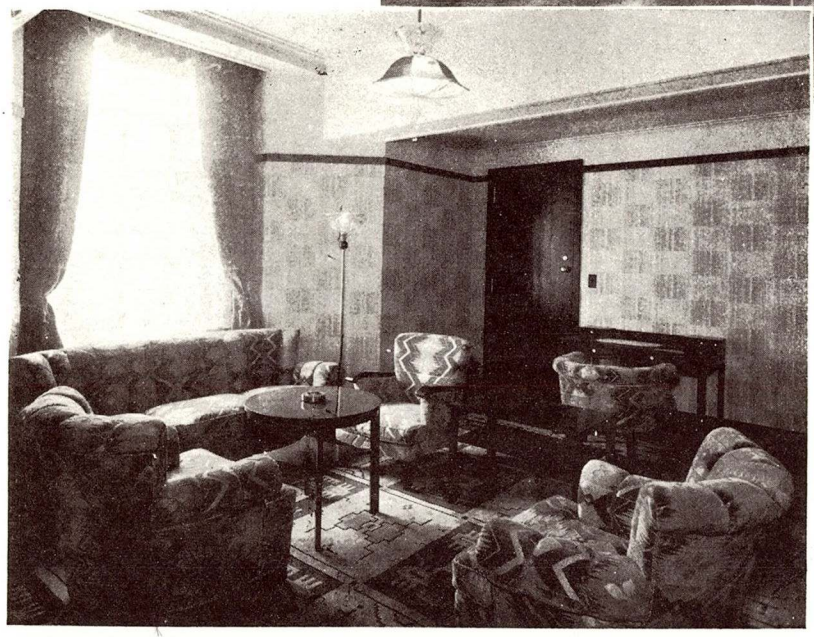
ホテル廣間上部ギヤラリー

ホテル側2階廣間より
會館側を望む



ホテル側2階貴賓室廣間





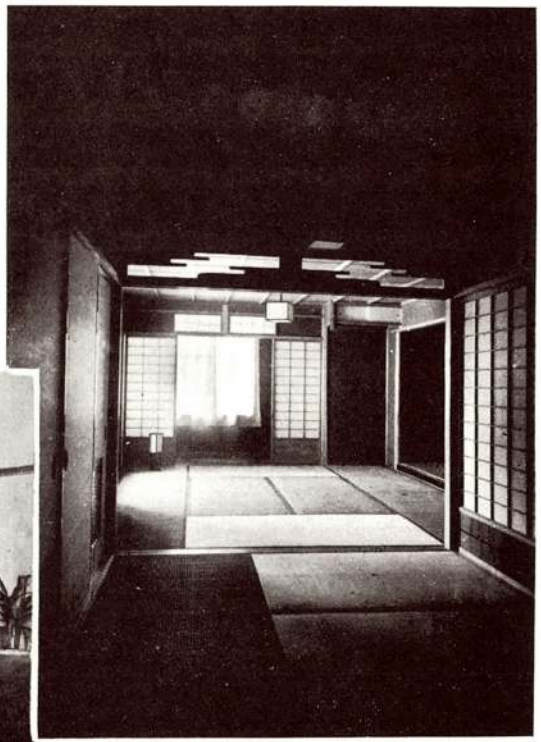
貴賓室次室



貴賓寢室



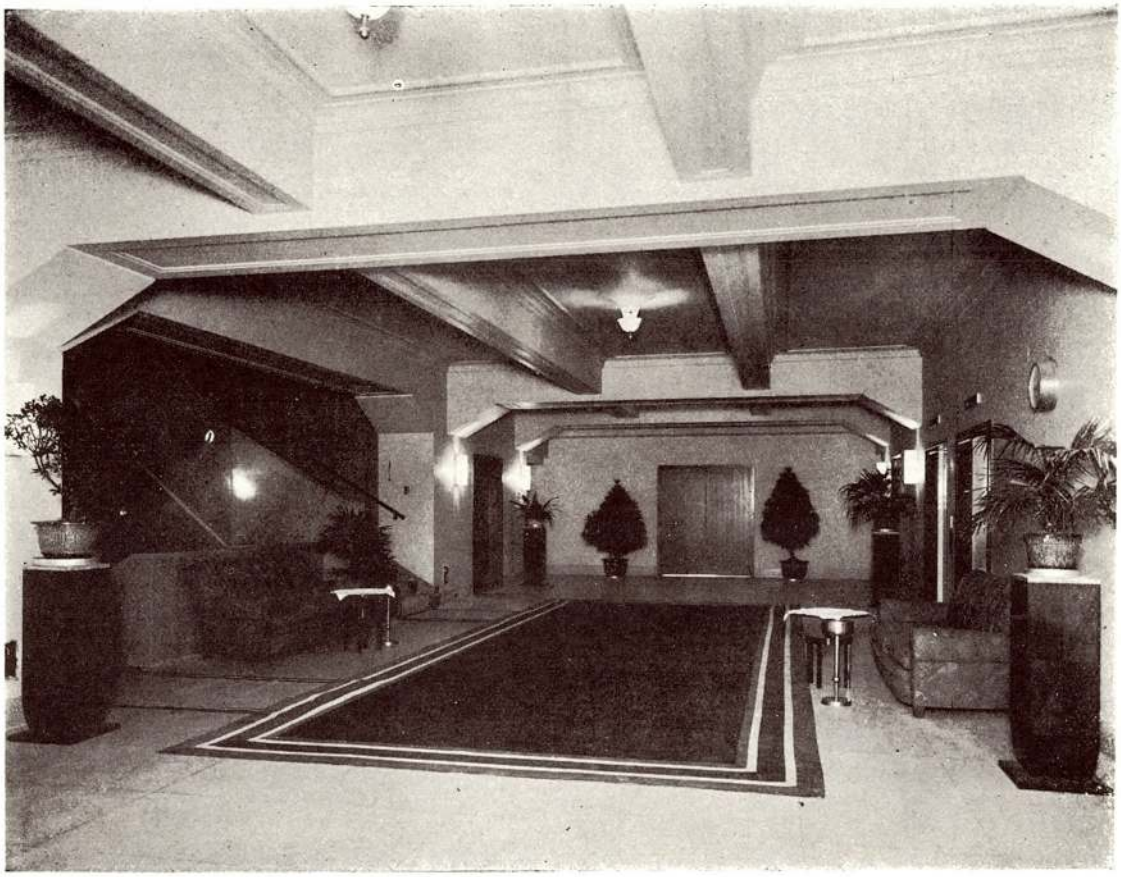
一 般 寢 室



和 風 寢 室

一 般 寢 室

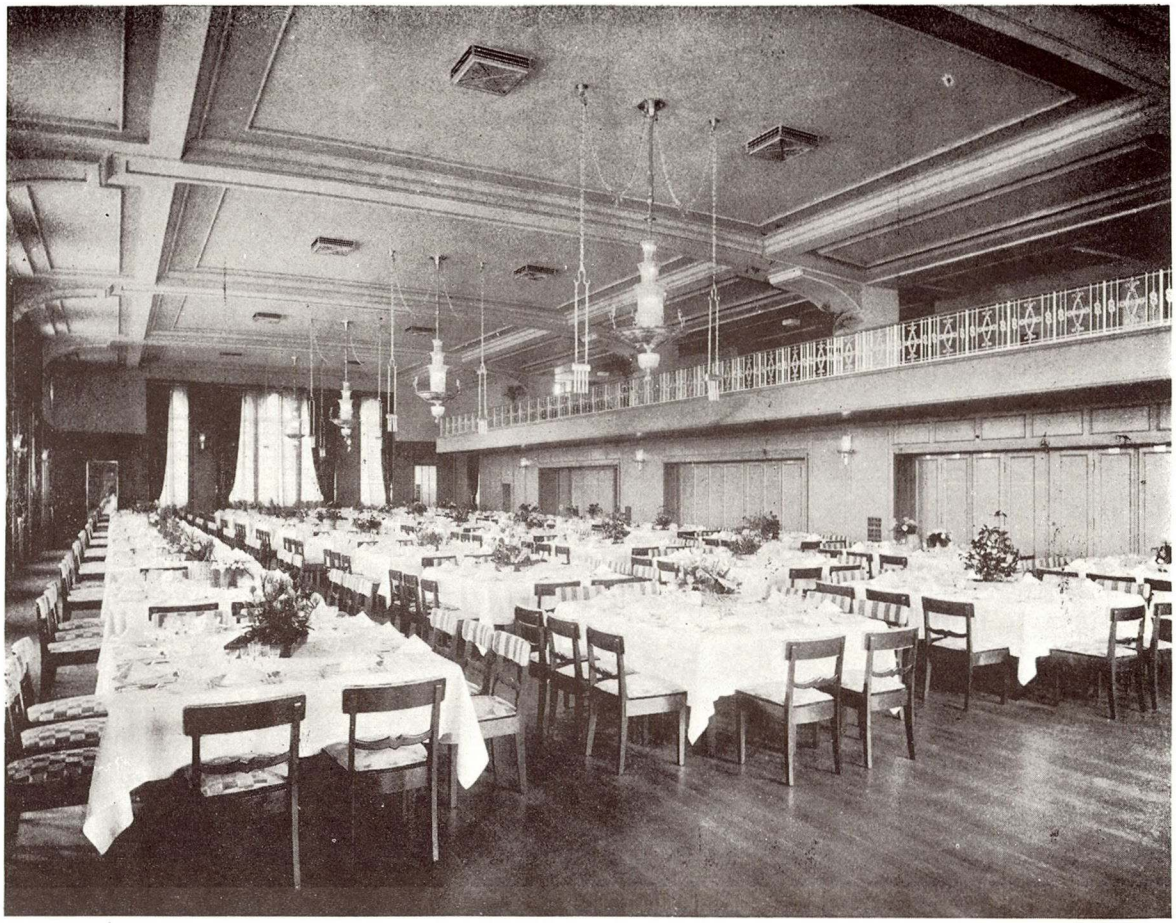




會館側2階廣間



會館側1階廣間



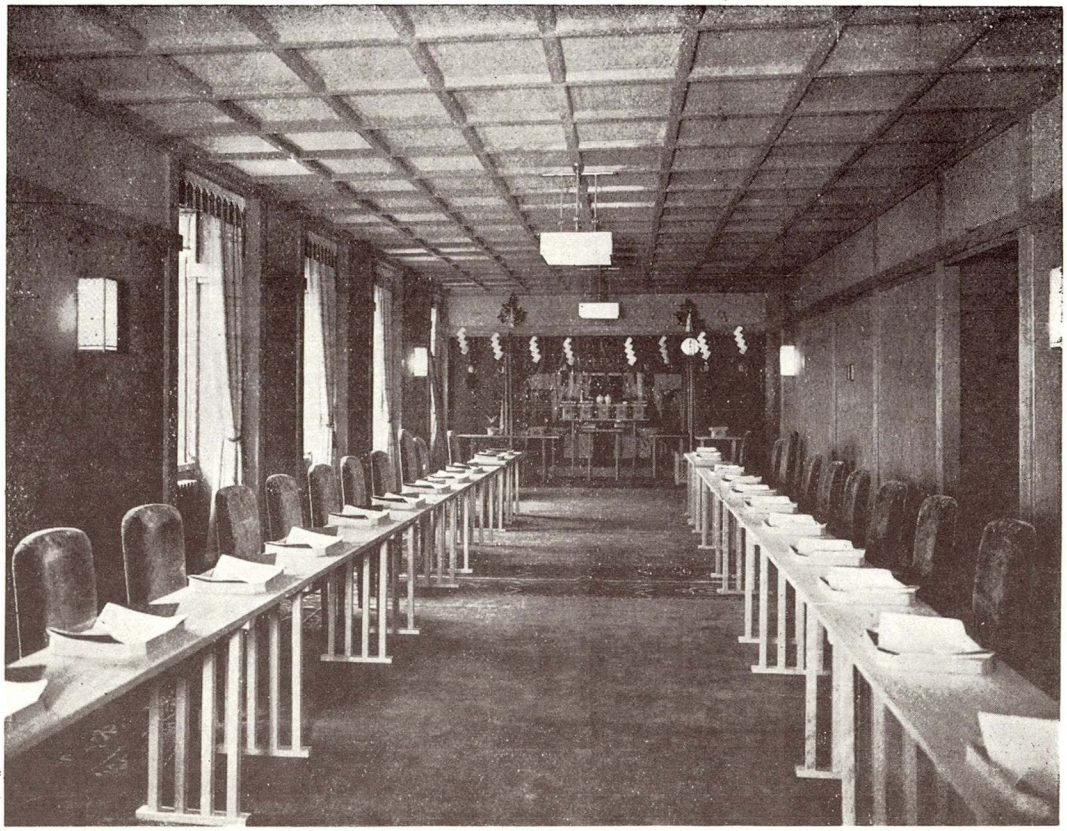
5 階 大 宴 會 場



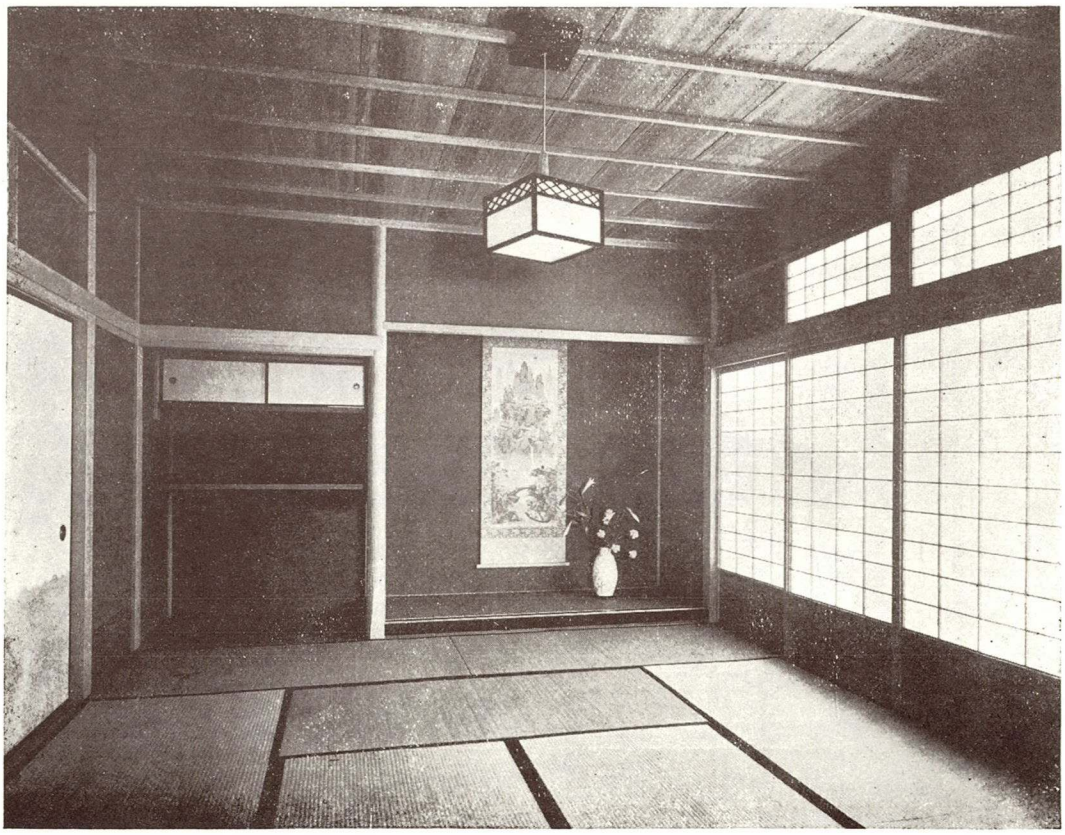
4 階 大 宴 會 室



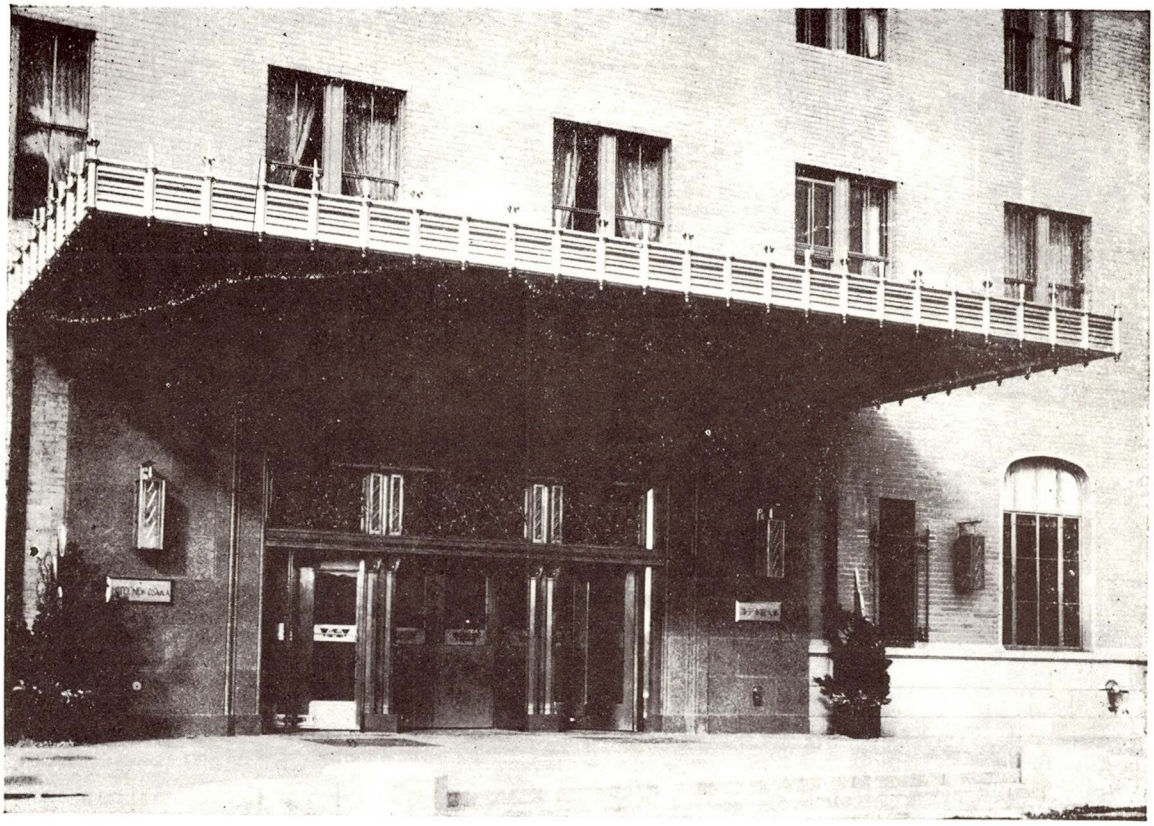
1階グリル



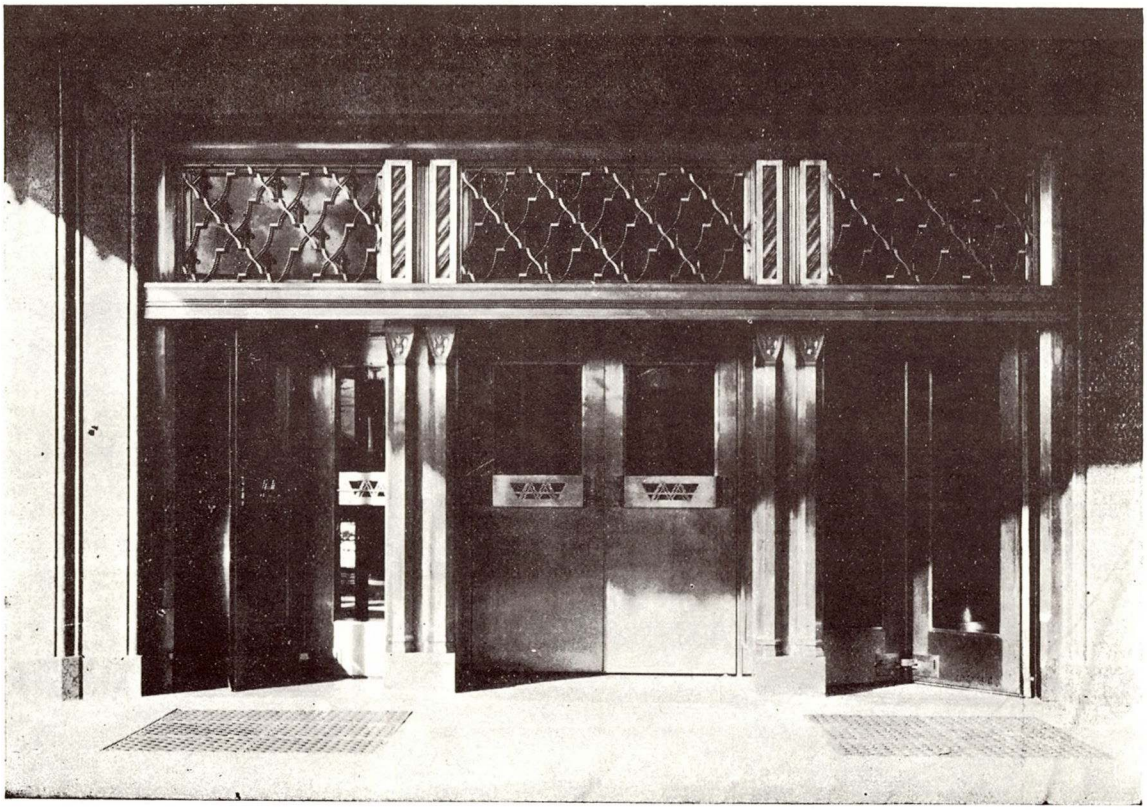
3階儀式室



3階結婚準備室



玄關詳細



入口詳細

本會使命の重大性に就て

―都市武裝の急要―

工學博士　片岡安

本會は主として關西地方在住の建築技術家を網羅する團體であつて、その使命は我々建築技術家の協力に依り現代の我國社會の改善に奉仕せんとするに在ることは今更之を繰返すまでもない。過去17年間に於ける本會の努力は、一としてその方針に據らざるものはないのであるが、最近更に一層緊張してその努力を倍加せねばならぬ時機に到達したことを痛感するのである。歐米各國の都市は主として不燃質の建築物を以て構成せられ、都市の最も恐るべき災害たる大火に依る大火災害若くは全滅の憂はないのであるが、我國の都市は古來常に其危險に暴されて來たのみならず、今日も尙ほ依然として都市の大部分が一朝の大火に依り燒失するの可能性を有するのであるから、我國都市行政の根本問題としてその危險率を輕減することを講究し、市是の基礎をばその點に置かねばならぬのである。しかるに我國の都市行政の實際を見るに、平穩無事の時のみを規準として萬般の施設が運營されて居るような感がする。固より木造可燃性の建築物を漸次排除するの方針は顧みられぬのではなく、殊に都市建築物法の命ずるところにより防火地區の制定もあり、又防火建築の制限等も嚴重に實施されては居るが、唯改築又は新築の際にのみそれが運用されるに過ぎないから、實際に於ては、我國の都市は其大小を問はず不燃質の建築物のみを以て構成さるゝは果して今後幾年の後なるか、將た又幾十年の後なるかその見透しがつかないのである。

本會の從來唱へ來りし我國都市の改造――主として建築物改善の急要なることは已に社會一般を首肯せしを得たと同時に、當局を動かして都市建築物法の制定も出來、今はその實施期に入りて十數年の星霜を經過したのであるが、前述の如くその成績は法令の精神を發揮するに至らず、其改善まことに遲々たる實情であつて、參々伍々防火建築が散點式に建設されつゝあるに過ぎない。都市の順調なる進展上に常に一抹の暗雲が漂ふ感が深いのである。本會としての努力はその形に於て成効したのであるが、その實質に於ては、未だ甚だ不徹底たるを免かれぬので、まことに遺憾千萬のことである。しかるに最近に至りこの問題はその緊急の度を益々高めて來たのであつて、我々は唯これを以て遺憾なりとして看過するを容さぬ時期に到達したのである。

最近飛行機の發達により一飛行機が猛烈なる威力を有する燒夷彈數百を搭載して敵地を横行し得るようになつたので、一朝有事の際、都市防護の急迫せる際には、什うしても建築物の堅牢なることを最も緊要とするのである。從來は大火、大地震等の災厄を輕減することに努めつゝあつたが、將來は更に一步を進め、非常時の空襲に備へる爲めに、都市の重要地區は却て堅牢なる建築物に改造し大災厄を輕減することに邁進し、一日も早くその實現を期せねばならぬのである。所謂都市の武裝を必要とする時代に到着したと考へてよいのである。都市の空襲防備には、各般の施設を必要とするが、其最大緊要のことは、重要地區に於ける建築物の防火、耐震其他の堅牢性を具備するを以て第一とするのである、本會の社會的使命の最大なるものも亦その實現の急要なるを社會一般に認識せしめることである。

新大阪ホテルの建築工事が社會に與へた教訓

竹腰健造

大阪市民が多年の待望であつた「新大阪ホテル」の建築も、昭和4年以來6ヶ年の間、其設計及び工事の遲延について幾多の噂の種を蒔きながら、漸く茲に完成を見た。この建築はその規模に於ても、內容に於ても、近年の建築界に稀に見る大計畫であつて、大都市構成上の一要素である。此建築の達成に携はる事の出來た事は、一市民としても又、建築技術者としても、本懷とする處である。然し昭和8年5月、先任武田五一博士に代つてこの建築の統率を委せられてから、今日之れが完成を見るまでの一ケ年半の歲月は、予に取つては實に荊棘の道であつた。其間に何等の興趣もなく、單に事務的に既成工事の欠陷を是正し、完成後の使用者の意嚮を容れ、豫算と工費の合致する樣、工事を强行する以外の何物でもなかつたのである。予がこの建築に携はる事を餘儀なくされた時、この建築の設計及び工事の關係を熟知せる一友人は、極力之に關係する事を回避する樣に忠告して呉れた。然し、それは多年の恩義の絆に縛られた身には不可能であつたので、幾多の困難を覺悟しつゝ、其渦中に投じたのであつた。今日當時を顧みて、友の友情を偲ぶと共に、萬難を排して建築を竣工に導き得た事を祝福して呉れた事と思ふ。

この建築は其設計に於て、未曾有の長年月を費して居る。18ヶ月前、予が之れに關與した時は、萬般の設計も漸く終了して、入札の結果請負者も定まり、分割して施工せられたる基礎工事も漸く完了した際であつたが、技術的にも、對外的にも、又工事に携はる技術者の內部的關係に於ても、全く行き詰り、眞相を明にし得ざる事より生ずる疑雲は種々の噂を生むで、建築界を賑はし、工事は殆んど休止の已むなき狀態となつて居た時であつたのである。

一體この建築は其設計又は工事が斯くの如き紛糾を來す程困難なものであらうか。予をして言はしむれば、經驗に富み强き責任感を有する建築士が其衝に當れば、寧ろ興趣に富み、容易なる建築でなければならないと思ふのである。然るに、斯くの如く、其設計並に施工を紛糾せしむるに至つたのには、其處に當然の理由がなければならない。この點に於てこの建築は建築界並に一般社會に對して再び其轍を踏む事なからむ樣、種々の教訓を與

へた事と思ふ。事の其處に到つた原因並に紛糾した事態を詳述するは今は其機會に非ずと思考するが、この建築によつて與へられた教訓を述べる事は建築界、惹いては一般社會を稗益する處尠くないと思ふのである。

一國にあつても、一團體にあつても、凡そ一つの事を遂行するに當つては、人の和、程重要なものはあるまい。特に現代の建築にあつては、意匠の設計に當る者、構造の設計に當る者、機械電氣等設備の設計に當る者、此等が各々其特異の技能と、技術者的個性を以て其完成に携はるものであるから、此等技術者間に充分なる和衷協同の精神が存するに非ざれば迅速完全なる設計並に施工を期する事は殆んど不可能の事である。此等非常に多數の技術者は、其技術の性質上、技術上の利害が相反する事もあり、又性格に於ても融和し難き場合が多いから、他の如何なる事業よりも人の和を必要とするのである。人の和は單に此等の技術者間に於て必要なるのみでなく、建築を企圖せる者と建築士との間の和は、更に更に必要なるものである事を痛感するのである。この人の和はこの建築が與へた教訓の第一である。

現代の建築は文化の進展と共に極めて複雜多岐となり、一の建築を達成するには、建築の種々の方面の專門家の力に俟たなければならぬ時代となつて來た。即ち構造方面に於ては、19世紀以前の、石煉瓦の靜力學的構造から、鋼又は鐵筋凝混土の動力學的の複雜なる建築に進歩し、建築設備に於ける機械電氣の發達は建築を無機的築造物から有機的のものに推移せしめた。此等技術の發達複雜化は、建築を19世紀以前の如く一建築家の技能のみによつて達成せしむる事を不可能なるに到らしめたのである。即ち現代の建築は、此等多數の專門技術者の計畫の綜合物であるのである。この意味に於て、19世紀以前の建築士と今日の建築士とは其意義に非常なる變化を見た。現代の建築士の職務は建築の終局に着眼し、各緊要の度に從つて是等各方面の技術者の計畫を部分的にも、總體的にも、一を讓り他を生かして綜合し、統一せられたる一計畫とするにあるのである。爲之萬一綜合統一の任に當る建築士にして、經驗と能力とに缺け、統率力の足らぬ時は、計畫は遲々として進まず、假令辛じて綜合せられても統率力の缺けて居る事は必ずや設計及び工事の欠陷として建築の何處かに現るゝものである。建築工事の責任を負ふ建築士が充分の統率力を有する事はこの建築の與へた教訓の第二である。

凡そ世の中に建築を企劃せる中心人物が、其建築士に對する信頼を失つた場合程悲慘な結果を招來する事はあるまい。現代の建築は多く經濟的の企圖の許に計畫せらるゝものであるが、特にホテルの如きは建築自體が直接に商取引の對象となるものであつて、建築の

成功不成功は直に其投資に影響するのであるから、建築士はこの莫大なる投資に直接の責任を有し、投資家は、事業の成否に關し、一に建築士を信頼せざるべからざる事情にあるのである。この點から云つて建築士が投資者の運命を左右すると云つても過言ではあるまい。斯かる關係の許に置かれたる投資家と建築士との間に於て、一旦投資家が建築士に對して信頼を失ふ如き事あらむか、兩者の意志は次第に疎隔し、投資者の意志は建築士に通ぜず、建物に表はるゝ結果は其不滿を買ひ、其結果は推して知るべきである。この意味から、投資家は莫大なる投資に對し、其運命を托すべき建築家としては、自己の最も信頼する者を撰ぶべきであり、建築士も又其信頼を得ざるが如き場合は自ら退くべきである。建築士が投資者に對し絶對の信頼を得べき事はこの建築が與へたる教訓の第三である。

現代の建築は多數技術者の專門的技術計畫の綜合物である事は前述の如くであるが、然し此等は一つの統率者である建築士によりて統一せらるべきものであつて、此意味に於て尙繪畫彫刻等と等しく一の個人的の表現である事を失はない。然も其範圍は複雜多岐に亘るるから建築士は其全精神を傾到し、寢食を忘れて之れに從ふに非ざれば種々の缺陷を生ずるものである。爲之大建築にあつては建築士の責任感と云ふものが重要視されねばならない。單なる無責任なる批判や、部分的の助言を以てしては如何なる名の許に於ても、大建築は統率せらるべきものではないのである。大建築に於ては建築士の責任感が重大である事はこの建築の與へたる教訓の第四である。

昭和8年5月、紛糾を重ね、混沌として行き詰れる「新大阪ホテル」の建築の渦中に投じたのであるが、靜かに事の茲に至つた事情を究め、爾來今日其完成を見る迄の18ヶ月の辛苦を顧みて上記の如き事を痛感した。幸にして大方の助力を得て大過なく完成に導く事を得たが、この建築に關與して得た予に取つて最も貴重なるものは此四つの教訓であつて、是等はやがては予が今後世に處する上の覺悟となると共に、更に建築界並に社會に與へた貴重なる教訓であると信ずるのである。

新大阪ホテル計畫案に就て

冨士岡重一

1. 經　過

商工都市として世界に有數の地歩を占める吾が大大阪市に、ホテルらしきホテルを有しないと言ふことは、大都市の施設の1つを缺ぐものとして、一流のホテルを建設すべしとの議は、夙に大阪市各方面多年の要望であつた。

これが幾分具體的問題として論議せられはじめたのは、大正14年の頃、當時の府知事中川望氏、關大阪市長、商工會議所の有力者等の間に、ホテル建設に就いて語られたことに始まると聞いて居る。

翌大正15年にはホテル建設相談會が、元の市長池上氏及財界の有力者等を中心として設けられ、續いて關市長、白川市會議長、大阪財界の有力者に依つてホテル建設準備委員會の誕生となり、大正15年から昭和3年にかけて、同委員會にて此の問題に就いて種々研討が行はれて居たと聞く。

が、ホテル建設問題が急轉直下具體化するに至つたのは、準備委員會の勸誘に依り、住友家の參加を條件として、大倉男爵がこの事業に乘出すことになつた時にはじまる。恰も昭和5年初頭の頃であり、住友の湯川寛吉氏が建設準備委員長として、ホテル建設事業の實行の爲に、株式の豫約其他の建設準備事務、及市の瀧山助役、三宅庶務部長等と提携して市への低利資金借入等に大に盡力せられた。

湯川氏の逝去後小倉正恒氏が後任委員長として盡力せられ、昭和6年末には「新大阪ホテル」の名稱が決定、次いで資本金 3,000,000 圓の株式會社新大阪ホテルの株式を公募、翌7年2月小倉正恒氏を取締役會長として株式會社新大阪ホテルの設立を見るに至つた。

この間敷地に關しては帝國ホテル支配人犬丸徹三氏の意見に徵し、同氏推薦の多くの候補地の中から朝日新聞社隣接地東神倉庫用地約 1,342 坪を選定買收を終へ、茲に愈々ホテルの建築計畫案作製に着手することになつた。

2. 計　畫

プランはこのホテル建設計畫の當初より種々關係せられた犬丸徹三氏が、帝國ホテル支配人としての多年の經驗と研究とを基礎として作製せられたものであり

1. 困難なホテル經營を如何にすれば經濟的に成立せしめ得るか
2. その爲にホテルの建築計畫の中心を奈邊に置くべきか

こうした問題に對して同氏が平素より主張されて居る腹案に基礎を置いて、建築技術的には高橋貞太郎氏に相談する所あり、敷地決定後間もなく平面計畫の基礎案が出來上つた次第であつた。

ホテルと會館とを劃然と區別し、南土佐堀川に面してホテル入口、北堂島川に面して會館入口を有する王字形のプランで、部分的に多少の變更はあつたが、現在出來上つたものはプランに關する限り、大體に於て原案通である。

この平面を基礎として實施設計案を作製するに當り、市は下の7氏よりなるホテル建築委員會を組織し、建築設計の根本方針を諮問する機關とした。

武田　五一氏　　片岡　安氏　　古宇田　實氏　　日高　胖氏
長谷部鋭吉氏　　續　　城氏　　犬丸　徹三氏　　島　重治氏

扨、委員會に持寄られた計畫案中より、水都としての環境に順應せる武田五一氏の案が採用される事になり、同案を基礎として市建築課に於て愈々實施設計を進める事になつた。

實施設計に當つては建築委員諸氏、特に原案作製者である武田博士、犬丸徹三氏の意見を徴しつゝ、關係各方面の要求を充分合理的に設計の上に表現することに努めた次第であつた。ホテル大廣間、常食堂、讀書室、喫茶室、貴賓室、會館各階宴會場、儀式室、グリル等主要なる諸室は全てパースペクチブを作製して打合せつゝ愼重に設計を進めて行つた殊にホテルの生命とも言ふべき諸設備の配管に對して、既に決定せられたプランを損ふことなく構造的に建築を適應せしめる爲に、鐵骨の構法には可成の苦心が拂はれねばならなかつたのであつた。

偖て當初の計畫の大要を示すと

工　費　3,500,000圓　　構　造　鐵骨鐵筋コンクリート造地上8階地下2階建
建築面積　建坪　約2,850平方米　　延坪　約21,450平方米
樣　式　水都の環境に順應したる近世式
仕　上　外部、1階窓下は花崗岩張り、主要玄關廻は松葉石、上部壁面は淡色化粧タイル、コルニス及主要窓廻はテラコッタ仕上。
内部は床壁共主要部は大理石、チーク、オーク、テラゾオ等を以て適當に張り詰め、右材料を用ひざる壁面はプラスターの上布及ペンキ等を以て適當に處理す。
天井は凡てプラスター・ペンキ仕上。

かくて昭和6年8月先づ基礎の設計を完了入札した結果大林組の手で基礎工事に着手する一方、武田博士にホテル建築設計主幹を依囑して鋭意上部構造の設計を進め、7年8月上部構造の中鐵骨部の設計完了を見たので、先づ鐵骨の入札を行ひ、鐵骨工事施工中設計の完了を待つて更に被覆工事の入札を行ふを、工事進行の順序上得策なりとし、先づ鐵骨部の入札を行つたが、恰も昭和7年末の鐵骨暴騰の時期に當り入札不調に終つた爲、鐵骨のみの入札を中止し、主體工事全部の設計完了を待つて入札を行ふことに決定、昭和8年2月全部の設計完了と共に入札を行つた所、これ亦材料騰貴の爲に多額の豫算超過を見たのであるが折衝の結果清水組に決定、材料騰貴に依る工費不足額100,000圓は更めて起債に待つことゝし、基礎工事完成に續いて昭和8年3月愈々主體工事着工の運びとなつた。

工事着手と同時に工事現場に於ける諸種の手續の簡便を計り、工事の進捗を迅速ならしめる爲に、ホテル建築事務を分離して土木部臨時ホテル建設事務所が設けられ、武田五一氏を主幹とし竹腰健造氏を副主幹として、市土木部長直轄の下に現場施工が行はれることになり、それより以後の設計變更其他の現場事務萬端は武田、竹腰兩氏の御盡力に依るものであるが、關係所員諸君の熱誠なる努力により爾來1年6箇月にして昭和10年1月10日無事工事一切の竣工を見た次第である。

3. 感　想

經營者側よりの新規註文、1部冷房より全館冷房への變更等に伴つて、建築各部に多くの設計變更が加へられたかに聞き及んだのであつたが、完成せられた建物の各部分を見るに、グリル・ルーム、1階特別食堂等が原案と異るほか、外觀にしても内部諸室の意匠にしても大略原案通に施工せられ、その上適當なる簡易化に依つて近代的簡潔さをさへ加へられた感があることは、原案作製に携はつたものとして大に喜びとする所である。

殊に家具裝飾は長谷部鋭吉氏の優秀なる設計であり、家具、カーテン、敷物等の色調と器具にカット・グラスを基調として用ひた照明とが、室内各部の調子と相俟つて充分にホテルの雰圍氣を出すことに成功して居ると深く思ふ次第である。

新大阪ホテル計畫の概要

新　名　種　夫

はしがき

平面圖は帝國ホテル支配人犬丸氏の案であり、外觀は武田博士の御設計を基礎としたものである。

それ等の原案に基いて大阪市の建築課に於て詳細の設計が進められ、先づ基礎工事の入札が行はれ、基礎工事が大林組の手に依つて殆んど完成し、上部主體工事が清水組で既に着手しやうとする際、大阪市土木部臨時ホテル建設事務所の設立があり、自分は其時初めて設計主任としてこのホテルの建設事務に携はることになつた次第であつた。

從つて自分が關係した頃には、詳細圖、仕樣書、明細書等全く出來上つて居たわけであるから、普通ならば設計の仕事としては、現寸圖作製以外殆んど殘つて居ないわけのものである。

だが、それにも關らず設計の方面も亦非常に忙しかつた。昭和7年6月に自分がこの工事に關係してから、昭和10年1月に任を終るまで、毎日心の休まる暇もない有樣であつた。

これは一に上部主體工事着手後、諸種の原因に依つて已むなく行はれた設計變更の爲であり、設計係の仕事は一にこの上にかゝつて居たと言つても過言ではなかつたと思ふ。

主體工事着手後設計變更が多く行はれた原因に就ては、座談會に於て竹腰健造氏より詳しく報告せられて居る如く、1は工事着手のはじめ土木部長の手に依つて行はれた諸種の設計變更に要した費用、及經營者側の要求に依つてホテルの單窓を2連窓に變更したる爲に要したる費用等を捻出する爲、各部に渉つて材料の合理的節約を目標として行はれたものと、1は當初計畫の部分的冷房を工事着手後全館冷房に變更したる爲に餘儀なくせられた變更とがその主要なるものであつたが、この爲に多忙であつたことは、現場の人達には氣の毒な次第であつたが、設計係1個の立場から言へば、原設計の儘に現寸圖を作製する仕事に比べて、一面寧ろ仕事のやり甲斐があつたものと言ふことが出來やう。

種々苦勞も多かつたとは言へ比較的無難に工事を終へ得たことは、武田博士、竹腰健造氏の御指導と長谷部竹腰建築事務所の河盛、笹川兩氏の援助に依るものと心から感謝して居る次第である。

茲に建築工事全般に關する概要の說明を自分が擔當することになつたことは、唯たまたま工事の最後の段階に自分が關係したと言ふ因緣に依るもので、當初の計畫以來このホテル完成まで相繼いで計畫に參加せられた皆樣に代つて說明するに過ぎない次第である。

敷　地

このホテル計畫の當初より相談役として力を盡された犬丸徹三氏は、ホテル建築の具備すべき條件として次の如き條項を擧げて居る。

第1　グード・ローケーション　　第2　グード・サイズ
第3　グード・フアイナンス　　第4　グード・マネーヂメント

ホテル敷地の具有すべき條件も同じく上の4つに盡きる。

中之島3丁目5番地の新大阪ホテル敷地は、間口は東西約20間、奥行は南北約44間、面積約1,340坪、上の諸條件を考慮して決定せられたものである。

第1のグード・ローケーションに就ては、交通の便、環境の閑靜等がホテル敷地として最大の要件であるが、上の敷地は市のシビツク・センターに位し、大阪驛に徒歩にて10分の距離にあり、而も北に堂島川、南に土佐堀川を控へ、兩者を連結する東側の運河は近く暗渠として空地の用をなし、西側亦三井ビルとの間を通路として、四圍何れも自動車を通ずる道路を有することゝなり、建築の部分に依つては眺望の點は理想的とは言ひ難けれど交通の便と環境の閑靜とを併せ有することは、喧騒の大阪市中にあつては先づ以てホテル

敷地として首肯し得べきものと言へやう。

第2のサイズに就ては、他の位置にこれを求むれば尚よりよき敷地を見出し得たであらう。能ふべくはこの位置にして今少し南北に短く東西に長い敷地を得て、東側に相當なパーキングと主要入口とを有するプランになし得れば理想的なりしならむと思はれる、實際、敷地さへ許せばその方針で計畫される筈であつた。唯敷地の形の爲に前面にパーキングを取り得なかつた憾はあるが、南及北に夫々ホテルと會館との入口を設け、ホテルと會館とを區分する既定方針は充分實行し得たのであるから、この點も亦ホテル敷地として及第點を附けるべきであらう。

第3のグード・フアイナンスに就いては如何。敷地の面積1,340坪、この買收費約992,000圓、坪當り價格約740圓となつて居り、敷地として決して安い方でないかも知れないが、市の中央部のこの一流の場所に、交通環境等から言つて充分ホテルに適當な敷地をこの價格で得たことは、ホテル營業に伴ふ投資としては寧ろ成功であり、この場所がホテル敷地として發揮するであらう機能がこの値段をカバーして餘あるものと思ふのである。

第4、マネーヂメントの中心は寧ろ經營の衝に當る擔當者にあらう。だがこの敷地に惠まれた交通の便、特に南北(及東)を繞る水運の便は燃料ガソリンの供給、食料品の運搬等に極めて好都合であり、ホテル從業員の通勤の便と共に經營上利益する所極めて多い。

平面計畫

計畫の規模及各階配室は次の通である。

建坪　2854 平方米　　延坪　21502 平方米

内譯

第2地階	1184 平方米	第1地階	2836 平方米	第1階	2854 平方米
第2階	2454 平方米	第3階	2360 平方米	第4階	2360 平方米
第5階	2360 平方米	第6階	1734 平方米	第7階	1673 平方米
第8階	1431 平方米	塔屋	256 平方米		

建物大さ　間口　東西　36米　奥行　南北　80米

高さ　ホテル側地盤より8階扶欄上端まで29米60、同塔屋上端まで35米95

會館側6階扶欄まで24米50、同塔屋上端まで34米23

ホテル側

第1地階　理髪室、供待室

第1階　車寄、玄關、外套室、廣間、パームルーム、ソーダフアウンテン、常食堂、事務室、支配人室

第2階　廣間、讀書室、喫茶室、婦人美容室貴賓室廣間、貴賓室(寢室、次室、化粧室、浴室、從者寢室、同浴室)2箇所

第3階より第6階まで　寢室各階28室、バーラー、應接室、給仕室

第7階より第8階まで　寢室各階39室、バーラー、應接室、給仕室

屋上　機械室

會館側

第1地階　看守室、食料品並用器倉庫、從業員更衣室、從業員食堂、同上料理室、パン工場各種冷藏庫、ブッチヤー室、皿洗場、洗濯場工作場、電氣室、花屋、供待室、技術員室

第2地階　煖房汽罐室、換氣冷房裝置室、技術員室

第1階　車寄、玄關、外套室、ホール、グリルルーム、酒場、郵便局、ツーリストビユーロー、宴會事務室

第2階　特別食堂、配膳室

第3階　宴會場兼控室、日本室、儀式室、同控室、配膳室、外套預室

第4階　宴會場兼控室、配膳室、外套預室

第5階　大宴會場、控室、配膳室、外套預室

第6階　大宴會場上部ギヤラリー、寫眞室、配膳室

第7階　屋上庭園、配膳室、機械室

屋上　機械室、フアンルーム等

このホテルの平面計畫に於ける特徴を擧げると——

1. 平面を南北に2分してホテルと會館(宴會場)とに分離したこと。
2. ホテルと宴會場とを1つの共通の厨房にて賄ひ、宴會場側には更にその厨房とリフトにて聯絡せられた補助厨房(配膳室)を各階宴會場に隣接して設け、1,500名程度の宴會へのサービスに備へた事
3. 廣間、パームルーム、テイルーム、讀書室等ホテルのパブリックスペイスを能ふ限り縮小して、營業約立場よりホテル建築のスペイスの節約をはかつたこと。
4. ホテル客室の全部に浴室を設け、ホテル側には共同の便所、浴室を全然有せざること。
5. グリルの入口を別にし、容易に直接街路より出入し得る様にしたこと。

1は同じ厨房を用ひて宿屋と料理屋とを兼ねんとするものであり、このホテルに於けるものが世界で恐らく最初の試みであらうと思はれるもので、帝國ホテルとその經營の東京會館とを1つの建築にコンデンスした如き行き方である。

原案作製者である犬丸氏の意見では、敷地さへ許せば東側朝日新聞社との間に相當のパ

ーキングを採つて、會館及ホテルの入口を設け、廣間を境として左右にホテル及會館を配置する計畫であつたとのことであるが、敷地の關係で現在の如く南面にホテル入口、北面して會館入口を設けることになつたわけである。

ホテルと會館とを區別したこの平面の長所を擧げると――

a　入口を別にしたことに依つて宴會場來會者と宿泊者との混雜を防ぎ得ること。

b　宴會場の騷音がホテル側に聞えることを防ぎ得たこと。

c　各階客室に全て浴室を有し、その浴槽、便器、洗面器等の給排水の爲に多數の配管を必要とするホテル側と、主として廣い宴會場のみを各階に有する會館側との分離に依つて、配管の系統を單純化し、設備費を非常に輕減し得たこと。

d　マネーヂメントの便利

だが一方この兩者を餘りにも劃然と區別することに依つて、普通のホテルでは共通に使用し得るパブリツクスペイスが宴會場側とホテル側とに2分せられ、お互に狹隘に感ずる弊があるのと、ホテルの宿泊者が會館側に行く必要のある場合（宴會に出席する場合は勿論、郵便局、ツーリストビユーロー、グリル、酒場等は何れも會館側にあり、ホテル宿泊者にしてこれ等に用がある場合も決して少くはない）、兩者の適當な聯絡がなければ非常に不便を感ずるであらうと言ふ欠點とを除く爲に、ホテルと會館と劃然たる區別を保ちながら而も適當に聯絡する必要がある。

新大阪ホテルのプランに於て苦心が拂はれて居るのは第1にこの點であつて、1階では常食堂裏バンドボツクスに通ずる階段に依つてそれとなく兩者を聯絡し、2階に於ては帝國ホテルのアイデアであるが、ホテルと會館とを聯絡すると同時に兩者の廣間を1つの視野の中に收め得る樣にして、2階ホテル廣間を狹隘感から救つて居る。

3階以上5階までは各階とも、會館廣間とホテル廊下と兩開きの鐵扉にて聯絡せられて居るが、平素はシヤツトされて居る。これはホテルの3階以上は全部寢室であり、特殊な場合のほか會館側と交通の必要なき爲である。

ホテル廣間の1階2階をぶち拔きにしたのも感覺の上に於て廣間をより廣く見せる爲に外ならない。

2に就て先づ述べなければならないことは、このホテル計畫の中心が室の善美よりも寧ろよきサービスにあると言ふことである。サービスの第1はよき料理を供給するにあることは勿論であつて、1階から會館側屋階に至る各階に厨房を有し、厨房關係の諸室が建築延面積の15%前後の廣さを占め而も全て東側の上等の部分を占領して居るのもこれが爲である。

1階厨房は廣く會館側よりホテル側まで延びて居り、その北端はグリルに接續し、南端はソーダフアウンテンにつながつて居る。地下1階のパン工場、冷藏庫、各種食料品置場等とはスロープにて、ホテル給仕室とは1臺の昇降機と2臺のダムウエーターにて、それから會館側各階の厨房とは2臺の昇降機にて、何れもこの1階の大厨房を中心として緊密な聯絡が保たれて居る。この一見廣過ぎるかに見える厨房は、開業以來每日平均170乃至180の宿泊者と1,000名以上の宴會とを取扱つた經驗より見るに丁度過不足なき廣さであることが知られ、この點原案作製者の達見に敬意を拂ふ次第である。

3は主として經營方面よりの要求である。經濟的に成り立ち難いホテルの經營を、1つは宴會場の兼設に依つて、1つはホテルの金の取れない部分即ちパブリツクスペイスの廣さを極度に節減することに依つて成り立たしめやうと試みたものである。帝國ホテルなどに比べると非常に切り詰められたものであるが、實際に就て廣間の使用狀態を見るに、每日170乃至180の宿泊者を有して居て而も決して狹くはない。これもこのホテルのプランの成功を物語つて居るものと思ふ。

4. 外國でも全客室バス附の例は少ないと言はれる。このホテルの一流ホテルとして誇るべき設備の1つであらう。但、この爲に配管其他に費された設備費は大變なものであり、限られたスペイスの中に收める爲に、浴槽や便器の位置、大さの決定には想像以上の苦心

が拂はれたものである。

5に就ては說明の必要はなからう。一般の人々が汽氣にグリル又は酒場に入り易い爲である。

最後に計畫の全體に就て見るに、平面の形が王字形であることは、限られた敷地一杯に建物を建てる場合、採光の目的から必然的に生ずる形であり、アメリカの大きなホテル建築は何れもこの型である。

ホテルの部分は階數地上8階、軒高29米60、前面道路の許す限度までの高さに建築せられたのは、これ亦次の如き理由より生じたる必然的結果である。

a 市街地に於ける高價なる地價、敷地買收費の高額。
b 昇降機の發達、從つて昇降機の利用に依つて、平面的よりも立體的に上下に延びた方が客の步行の距離から言つても、各種のサービスから言つても能率的であること。
c 平面的に延びたよりも立體的に延びた方が諸設備に伴ふ配管等が簡便に行くこと。
d 市街地の騷音、塵氣中の塵埃の量は建物の高所に於て尠く、又日光、眺望等も上部の方が寧ろ惠まれ易きこと。

以上の如き理由を以て高層ホテルはアメリカに於て發達し次第に世界的になりつゝあるものであるが、新大阪ホテルは日本に於ける一流高層ホテルの先驅と言ふことが出來やう

構造意匠其他

構造、意匠、仕上材料等に就ては次に仕樣概要を揭げて說明に代へる。

樣式　水都の環境に順應したる近世式

仕上大要

外裝　1階窓下まで紅花崗岩小叩き仕上、上部はクリーム色釉藥掛スクラツチドタイル、窓廻り裝飾及扶欄笠石にはテラコツタを使用す。1階玄關廻は紅花崗岩水磨きを張る。

內裝　各玄關床は紅花崗岩及松葉石水磨きを混用す、1階ホテル廣間會館廣間床は大理石張、常食堂及グリルルーム2階讀書室3階小宴會場は寄木張、喫茶室各宴會場及儀式室はオーク異板張、ホテル2階ギヤラリー及會館2階以上6階までの廣間はテラゾー仕上、同7階床は釉藥掛タイル張、3階以上ホテルロツビー及廊下はテラゾーの緣を取りゴムタイル敷、ホテル事務室及各客室會館事務室同6階ギヤラリーはオークのフロアリングブロツクを敷き込む。厨房及配膳室床はレツドタイル張、其他地階及塔屋各室床はモルタル仕上、1階ホテル廣間より2階ギヤラリーに通ずる階段ホテル常食堂バンドボツクスに通ずる階段會館大階段は何れも蹴上踏面共緣大理石、中央部松板張の上に絨氈を敷く、サービス用階段は蹴上踏面共テラゾー仕上、段鼻アランダムタイル張、其の他の階段は踏面は緣テラゾー中央部ゴムタイル張、眞鍮製止金物を附し蹴上はテラゾー仕上。寫眞室はダンローア張りとす。

壁はホテル玄關會館中央玄關ホテル1階大廣間會館1階廣間同大階段室貴賓室浴室は大理石張、會館の左右玄關は釉藥タイル張、常食堂會館2階及5階大宴會場、壁は夫々オーク鹽地及滿洲クルミの羽目板張、會館側グリルルーム特別食堂3階大宴場は腰ドンゴロスペンキ塗仕上、貴賓寢室同次室及化粧室婦人美容室の控室小宴會場は壁紙、儀式室は和風付け柱の間を紋紗張、ホテル客室は何れも蚊屋布張ペンキ仕上、厨房及各配膳室は腰レツドタイル及白色磁器タイル張上部プラスター、便所化粧室は何れもモザイツクタイル、サービス用階段及ホテル側各階段室は腰テラゾー上部プラスター仕上、其他の諸室は何れも壁プラスターの上ペンキ、コルク撒ペンキ仕上等とする。

天井は何れもプラスターの上ペンキ、コルク撒ペンキ水性ペンキ等である。

儀式室は臺檜ベニア板嵌込格天井、會館側大階段室最上階天井はステンドグラス張、ホテル3,4,5階の和風客室は何れも數寄屋風にして疊敷砂壁竿緣天井網代組天井等純和風の樣式に依る。

屋根　鐵筋コンクリート陸屋根とし、總て防水層の上にシンダーコンクリートを打ちモルタル仕上又はクリンカータイル敷。

建具及防火扉　各階の外部に面す窓は總てスチールサツシュを用ひ、南土佐堀川に面する各客室の窓全部及西側客室の窓一部は上下スチールサツシュを2重に建込む、硝子は5階大宴會場のゴシック風窓には日米板硝子を其他には主として旭板硝子を、貴賓室窓には特に安全硝子を使用す。ホテル正面玄關會館正面玄關にはレボルビングドアー各2ケ所を附す。其他の各壁各出入口地階各室出入口各階段室出入口厨房同各配膳室出入口3階以上ホテル會館境建具は何れも鐵扉とし、硝子は玄關にはプレイトグラス其他には網入硝子を使用す。各室出入口木造の扉は鹽地、オーク、チーク、滿洲クルミ檜等のベニヤ板製である。ホテル1階常食堂と厨房との境會館7階配膳室より屋上露臺への出入口にはスチールシヤツターを附す。

構造大要

基礎　柱下は生松丸太末口25糎、長20米及25米の杭を打ち版厚45糎、繫梁の高1米10のコンクリート造基礎とす。

主體　鐵骨鐵筋コンクリート耐震耐火構造にして、鐵柱鐵梁は總て鐵筋コンクリートにて被覆し床版外壁小梁及間壁等總て鐵筋コンクリート造、間壁の已むを得ざるものゝみ煉瓦輕量煉瓦積とする。尙耐震壁として强大なる鐵筋コンクリート壁が階段室其他の要所に配置せられて居る。

完成への道は

三好貫一

米國の**ウイスコンシン**州に**コーラー**と云ふ小都市があつて、公園の如く餘りにも美しく整頓されて居つて、何等の不自然もなく工場地域、商業地域、學校地域、住宅地域、等々と區別されて居るが、それぞれ相對的に都市美を構成し、良く自然の美と文化的意識が混然として合理化され、その町を繁華ならしめて居るが、之れは、どうして出來たか。

それは、お互に規約して、こうした、社會としての動きが、明らかに示されて居つて、各個の人が周圍の事情を考慮する能力が養成されて居つて町から、不和と、病人と、無智とを無くなそうと努力する一方、自然の美、人工の美に加ふるに、道德的の美しさを躾けられて、勞働を樂しみ、勞働の能率を上げ、建物愛の豐かな情操をもつて、健康の增進をはかり、全體として、最も合理的に施設せられをると云ふ話です。

1年に1軒以上は必ず最も改良された家が建てられる樣に成つて居て從來に比して必ず改善せられねばならぬ。

かくして、住宅の進步は計畫的に進められて行く。

かゝる努力をする人々は、はたして、如何なる考へを以つて居るか。

より良く、社會を、より良きものを子孫へ、との理想でせう。

自分一個の修養は、其によつて、他は社會全體を良くすると云ふ信念が通つてゐる、自分は自分以上の存在である、社會國家の完成、人類社會の完成への一步一步の步みに思はれる。

自分一個としては確かに幾十年かの生命を持つてゐる存在には相違ないが、その幾十年かの間の生命は單に私有しをるのみではない。

謂はゞ全體的の生命が、其の中に宿つてゐる、民族の生命、人類の生命の過去より未來に行く一つの連續で、こゝに自分の生命は自分以上の生命で、より良き民族社會への生命の連鎖であると、生活態度の基礎を置いてゐる樣に思はれる。自分より自己を離して、其の上へ心を向けて行く所に完成があるとも云へる。

こゝに人々は働くことの動力の基礎を置きたい。

我々が、歷史を讀んで、感することは、仕事をするのは、それほど六ケ敷いものではないが、物事を纏めることは組織が複雜であればあるほど、規模が大きければ、大きなほど困難なことでせう、仕事をするだけなら腕さへあれば成就するかもしれぬが、纏めることは、腕だけではいけない、腹が要る、人格が要る、人間が出來なければ、物事を成就する

ことは六ケ敷いと感ぜられる。

一つのものを動かすにも、摩擦が起る、大きければ、大きなほど摩擦力は大きくなるのが理論で、同様に仕事を進めることが、人との衝突が起り易い、之れを圓滿に切り抜けることは容易でない。

人が或る場合に臨んで、問題にぶつつかり之れを解決するために種々煩悶し、思慮し、遂に其の場合に處する最良の途を選擇、決定する、この決定をなすに就ては、當の場合からの影響もあらう、其の人の見知の働きもあらうが、最も重要な働きをなすものは其の人の性格でせう。

我々の意識内に性格が中心になり、統一的組織が出來て居る。

吾々は平時は、面白の春雨や花の散らぬほどに、と人生を觀ずることもあるが又一生の内には寒暑兩頭を裁斷して、一劍天に依つて寒しの氣慨も起り得るかも知れぬ。

舟でも海上常に波穩やかなりの狀況ばかりではない、時に波高く嵐吹き荒ぶ時、舟の覆沒せざるは、重心が確かなもので、重心は多く上よりも下にある、然かも見へざる所にある。

人間修業は氷に觸れた人が、氷の冷たさを知り、火に觸れた人が、火のあつさを知る、荊刺の道は荊刺の道を歩いた人が解るのではないかとも想像される。

何事に依らず、矛盾撞着はあるが、そこに、第一義と、第二義とを、明らかにして、決斷するのは、容易ではない。最初私がこゝに赴任して來た時は丁度物價騰貴の時期で、圖面をそろへ、豫算を取つて見ると、與へられた豫算と大分開きがある、こゝで何を目安にして、統一すべきか、と質問しても明答がない、それで第一案、第二案、第三案等と腹案を作つて幹部の豫算會議に臨んだ、そして、大體の說明によつて、大丸氏はこの**ホテル**は第一流を目的としてをる、二流に下げる事はいけないとて、幾十萬圓の追加が可決せられた、又竣工式當時、多くの高價な絨氈が敷きつめてあるので、之れを何千人の人々の踏むにまかせると相當に傷むから、上敷をする事にしたら、客には實感を與ふべきだと一夜にして、全部をはぎ取つた、一見識ある見方だと思ふ。

かゝることは、仕事をする上に、隨分と出て來る有機的打算法で、物事を、**スリー・ディメンシヨン**で見る可きもので、平面的解釋でなく、立體的解釋を採る可きだと思はれる。

それで、着眼點が大切で今、空間に一尺の棒があるとする、多くの人は、各方面から、之れを投影させるとすれば、その人々の光源の置き方と、投影面の置き方によつて、a は一點と看たり、b は之れを3尺と見たり c は2寸と見ることもあろう、例へば映畵を見るにしても、洋服業の人は洋服のことを、婦人は婦人の流行を、家具業の人は家具を、音樂家は音樂を等々各人の立場から見るだろう、又或る人は笑はんがため、悲しみの甘み等

等の瞬間的刺戟の快感を求めて見る人も多かろう、又或る人は撮影技師の手腕とか、俳優の演技とか、脚色家の態度、作者の思想、監督の演出手法等々を、注視するだろう、かくの如く各々の**スタンド・ポイント**と思想に異ひがある。

その見方は、各々誤りではないかも知れぬが、大小輕重は確かにある。

さて、我々は何所に注目すべきだろうか。

ヴキクトル・ユーゴーが**ノートルダム**寺院の變遷を述べてゐるのに、**ノートルダム**寺院は巴里市中で、最も莊嚴な、そして幾星霜の歳月にも侵されぬ、美觀を保つてゐる大伽藍であるが、然し吾々は、心なき時の流れと、人間の暴力とで、破壞されて行く、かくして中世紀の素晴しい藝術がまざまざと、蝕ばまれて居るのを、目の當りに見て、吾々は、そこに三つの大きな手が加へられるのを發見する。

第一、時が建物の表面を切り苛んで居る。

第二、政治的及宗教的革命が、この殿堂を飾つてゐる聖者達の石像等を破壞してゐる。

第三、流行の力である各時代の建築家達は、その時々の趣味に從つて、勝手な修繕を加へてこの建物を段々と變化させた。

如斯、偉大なる宗教的建物すら時勢の變遷は脫がれない。

十字架と云ふ中心のない、一般の建物は推して知る可きだと思はれる。

政治的革命が、爆竹の樣に、突發的に起つて、電光石火的に片付くが產業の革命は餘り氣付かぬ內に舞臺面を變へてしまう。

一方は**フイジカル・アクシヨン**、一方は**ケミカル・アクシヨン**の作用の如くで產業革命には、終末がなく、時々刻々に、進展しつゝある、產業と科學との關係が、深くなるに伴れて科學の進步が、一日も止まない限り產業も、日一日と生產の方法が變りつゝある。

如何に產業革命が、**テンポ**が、遲いとは云へ、此頃の科學の進步でも10年20年で革命的の變化がある。

時は進み、人は動く、型も變る、目まぐるしい位の**テンポ**の速い時勢となれば、之れに對して對應性がなければならぬ。

樹木でも、春夏秋冬に依つて、花咲く時季もあろうし、葉の落ちる時季もあるが、樹幹そのものには、時節により對應し得る生命力がある。

建築物も生活力の存在が、大切なことで、有機的壽命はものに依つて、幾年、或は10年位のものも、長くて40年、50年は保し難い、この意味で、杭打地業なども、建築の壽命を考へれば、木杭で可いではないかとの說も建てられる理でせう。それに、構造は鐵骨鐵筋の耐久性によりて工作される、此所に二ツの矛盾が出來る、この解決は仲々六ケ敷い樣に思はれる。

たゞに、興業的價値をねらつて、新しく新しくは云ふのみで、深き根據なき模倣は、著

しき危險率があると云へる。

機能性の發達は、建築內部に如何なる變化は與へるか、豫測し難いだらうが、或は內壁に或は外壁に或は天井高に、或は基礎に、その人々の意見又は建物の性質で各々異れる對應性をとり、之れに依つて平面が成立ち架構を考ふ可きで、ただに現在のみの要求によるだけでは、將來の生命力を失ふ時期を早めることは有り得る。

或る時、漁業の大謀網を見た時に、200 名近くの赤銅色した逞ましき荒くれ漁師は、全員音頭をとりながら、續けた緊張した動作は、見る人に、息をつぐ暇も與へぬ位で、別して、潮風に晒された、茶色の**コールテン**服の上下に身體を包んだ年老ひた大船頭の、**オーガナイザア**として、八方に氣を配つて、小舟を、彼方此方に漕せながら、鉤棒で指圖する活躍振りは、實に素晴しいものでした。

潮に燒けては居るが、どこかに、物に動ぜぬ、落着きを示した、柔和な人相を持ち、百戰練摩の大船頭の一分の隙もない動作、殊に彼が極めて、無口で無造作であつて、少しも權力を揮ふと云ふ所が見へないのに、誰一人として不滿を感ぜず易々として、各々の部署を勵んで居る。

飾り氣とか、氣どりとか云ふものが微塵も見へない、この眇たる一老爺の存在が200 人近い荒くれ男の呼吸を**ピツタリ**と一つに引き緊めて、この苦しい勞働を、毎日繰り返へす。

双頰の邊に微笑を見せつつ、口を一文字に結んで、絶へず全工程に萬遍なく、氣を配つて居る。まずこの老爺の氣魄はすでに、海を呑んでおる、彼は自信をもつて、この氣分は總ての人々の心に通じて、緊張させる、そして、喜んで、安心して、信賴をする、ここに立派な統一が出來上つて、兩方が**ピツタリ**と、意氣が合致する。之れが仕事の出來る第一の動力で、之れあつてこそ困難を物ともせず成し遂げ得るのだろうと思はれる。

彼は決斷が早い、すぐに、實行に移る、そして、總ての前後の狀況を察知して、機に臨み變に應じて、所置を誤まらない、命令を二、三にしない、最も彼等に心の弛みを起させる無駄な仕事をさせない、彼等の勞力を最も効果的に使用させる、之等が彼等をして、常に喜んで全力を擧げて、働く原因だと推せられる。

規模の大小、作業の種類に依つて、各々異るとは云へ、この主意に對しては、感ぜざるを得ない。上手な運轉手は惡い道路をも、良き道路の樣に走るかも知れぬ、巧みな**ブツチヤー**は、肉と骨との間を樂々と庖丁を使用するかも知れぬが、之れは一個の技術で人對人の一つの雰圍氣を作り得る、この老爺の如きは統制者として、何時の世にも、必要な存在でなければならぬ。

今子供に10里の道を行くのと、5 里の道を歩るくのと、どちらが、疲びれるかと質問したら、子供は笑ふだろう。然し10里歩るいて、疲びれず、5 里歩るいて疲びれることは、隨分有り得ることで、或る人が、小田原から熱海の7 里の間を歩るいたが、少しも疲勞を

覺へなかつたのに、那須野の驛から、那須溫泉への4里の道には、へとへとに疲れた、これは如何なる理でせう。

小田原から熱海迄の道は景色が良くて、轉々として、變化がある、山には、柑橘が實り眼下には青々とした海を眺められて、どちらを向いても良き景色で、疲れを、わすれてしまう。それに那須野ケ原は、どちらを向いても景色に變化もなく、心を慰むべきものがない、それで疲れも出るのです、かゝることは、人生到る所にありで、協同作業で多人數が寄り合つた時、御互に朗らかであれば、時間もわすれよう、朝、顔を會した時でも、明るく御早う、御寒う御座います、御暑う御座いますと、挨拶し合つたり、御苦勞さんでしたと、慰め合つたり、朗らかに笑ひ合つたりすれば、心氣は一轉する、疲れはわすれられる要は心の、とけ合ひで、學者の所謂六ケ敷い理論でなく、道は近きにありと思はせられる。

人類の歷史は可成り永いそして色々に移り變つて來た、昔千年を要したものが百年に、百年要したものが、10年で出來る樣になるかも知れぬが、何時の時代でも理想なんて、實現したことはない。然し人間は根氣よく歩るき續けてゐる。

今沙漠を歩るく、**キヤラバン**の胸には、常に**オーシス**が、畵かれて居るだろう。人の歩るいてゐる、先には、**アスピレーシヨン**があるだろう。

イギリスの或青年が、長い間、高山にあこがれて、ようやく望がかなつて、高山へ登山することになつた、同行者に話す言葉に、**イギリス**にも**ウエルス**邊りには、相當大きな山が有りますが、あれ等は山では有りません、もつと高い、年中雪を、頂いた、そして氷の——さう云うのが、私の言ふ山なんです。私が子供の頃、父が大きな山の畵を與れましたが、其以來、私は眞物の山を見たいと願つて居たのです。私はその畵を、額に入れて寢臺の上に掛けて、每朝眺めては、何時かは、本物の大きな山を見たいと願つて居ました。

私は、其等の大きな山の名前も、高さも、皆んな知つてゐるのです、——**アルプス**、**アンデス**、**ヒマラヤ**、其れから**ロツキイ**、**エヴエレスト**、**ダブサン**、**オリザバ**、**モンブラン**——皆んな知つて居ます、**南アフリカ**にも隨分立派なのが有ります。**メルセダリオ**、**ガルデイエリ**、**アコンカグア**、どれも皆んな、2 萬呎以上なんです——それで、私は、子供の時から心掛けて、50迄には、**ヒマラヤ**を見に行こうと思つたのです。

私は、**エヴエレスト**が見たいのです。

世界最高峰の2萬9千2呎へ。

彼は如斯して、花を唉かせる雨は、花を散らす雨で、山に殉じたと云ふ話がある。

吾々は、山高きが故に、尊からず、木あるを以て尊しとすると、云はれてゐるが、高くても、はげ山に登るより、鬱蒼たる樹木のある所へ招かれる、川でも海だか川だか、解らぬ泥水の大川より、山肌をすべつて、落ちて來る凉しい風に、靜かな川の流れに交つて河鹿の聲が聞へるとなれば、行き度いと望みを起す。

工　事　隨　想

池　田　宮　彦

化け公孫樹　私が尋常小學校へ通ふ頃の士族屋敷は、名古屋市内といつても、まだ屋敷の中に廣い梅林や竹籔があり、近所の家も同じやうに森や林のやうな狀態で、其の中に藁葺の家が點在し、杉や槇の生垣があり、門から玄關迄飛石がつゞき熊笹が生ひ茂つて居つた。夜は勿論街燈や門燈もなく眞に靜寂なものであつた。其の頃街外れの伯母さんの家へ時々遊びに行つた。そこは更に淋しい田舍であつた。そしてお化けの譚を聞かされた恐いものを見たしとかいふ諺の樣に、寢床へ入り掛布團を頭から引被つて、怖る怖る其の話に耳傾けたものであつた。狐が人を化かして馬糞のお饅頭を食はせたり肥瓶の溫泉へ入れたり、川獺が美人に化けて蛇の目傘をさして立つて居つた、傘の下から覗いたらとても怖い顏をして居つた話、天狗さんが連れて行つて一週間もあちらこちらと旅行した話、さては人魂といふ火玉が飛び出す話、等々お化けの話は盡きなかつた。そして夜便所へ連れて行つてもらひ、お化けは居はしないかと恐る恐る便所の下地窓から外を覗いたりした事を覺えて居る。又其の頃はコツクリさんと云ふものがはやつた。それはムジナといふ狸が夜になると其の呼ばれた家の緣の下へ來て、コツクリさんになり、活躍するものだと聞かされた。然しそれから段々大きくなつて、尋常四年から高等小學校へ進む頃には、半は好奇心に驅られて、態々闇夜に伯母の家から歩いて歸り、川獺の化けたといふ川べりを歩いたり、天狗さんが火を焚いて居たといふ大松の下を通つたりしたが、遂にお化けも見ず、天狗さんにも會ふ機會がなかつた。そのうちに文化が進んで、電燈がキラキラと田舍道を照し、電車が走り、工場が田舍に建ち並ぶに及んで、それ等のお化けは遂に謎となつてしまつた。どうも是等のお化けは都會と文化には都合が惡いらしく、自分の子供等はかういふお化けや天狗さんの話を知らない樣である。然るに茲に不思議なのは、大阪の眞中、中之島の眞中の而も文化の問屋である新聞社のすぐお隣に、化け公孫樹といふものがあつて、種々の仕業をなし人々を苦しめたといふ話は、時代錯誤も亦甚だしいものではないか。何んでも今の新大阪ホテルの敷地の一隅に化け公孫樹があつた。それを移植するに敬意が足りなかつたとかのタヽリで、ホテル建築の諸工事に蹉跌が多いとやら謂ふ事である。さてどんなタヽリがあつたであらう。

茲で再び幼年時代の話に逆戻りをして考へて見よう。此のお化けといふものは實に怪しいものであつて、之れを心理學的に解剖して見ると、それは化かされた本人が何かの失敗を糊塗せんために作つたお話しであつて、本當は聞いた人が化かされた事になるのである

様だ。又天狗さんは、いつも墨染の衣を着た若いお坊さんの姿をして居るといふ事であつたから、その話の内容から推して之れは全く催眠術の應用であらう。若い坊さんの或る者が、研究の爲めに感應の良い子供を使つて、色々の暗示を與へて實驗をしたものらしいと解釋せられるのである。これは少しく實驗心理學、催眠術的暗示作用といふ事を研究實踐すればすぐ訊得のいく話である。斯く科學的に物事を分析して見ると、世の中は次第に面白みがなくなり、至つて淡白なものとなり、味ひが消えてしまう、が致し方がない。此の化け公孫樹のお話も、科學的に分析して見ると、聞いてゐた者が化かされてゐた事になるのではないでせうか。

さて此の化け公孫樹はどんなにタヽツタか？　どうもをかしいではないか。何度入札しても豫算内に納まらない、眞直ぐに掘つて行く筈の井戸が曲るらしい。吊り上げた鐵柱が落ちる。デリツクが傾く、さては……等々、然しながら今は晴やかに開店せられて、なかなか混雜を極め押すな押すなの繁榮振りで目出度くお化けも退散したらしい。技術者の立場として、再び化けない様に、之等のお化けの正體を解剖して置きたいものである。

水壓　鐵は水より重く、鐵片が水の中へ沈むことは誰れも知つてゐる。然し鐵で造つた船は能く水に浮ぶ。鐵筋コンクリートは水よりも重い。然し鐵筋コンクリート造の船は能く水に浮ぶ。鐵筋コンクリート造の建物の地下室は、恰も船の如きものであつて、殊に大阪の河川の多い所では地下水が非常に多く、地下室の大部分は水中にある。その水中にある深さに相當する水壓によつて浮かされて居る譯である。然し地下室の底が水面（地下の常水面）迄ボツカリ浮き上つて來ないのは建物自身の重量が浮力よりも大きいからである。從つて若しも浮力の方が大きい様な場合があれば、地下室は其の浮力によつて浮き上つて來ることは言ふ迄もない。こんな判りきつたことが往々疎略にせられて失敗の原因となる。又水は相聯絡してゐる途中が如何に細くても水壓力には變りがない。石崖の間を通つたり砂利の間を通つて居るから水壓が減るだらう等、吞氣に構へて設計したり疎に工事を行ふと、ボツカリやつて來る。自然は實に正直である。

土壓　土や砂を高く盛り上げると、上の方が自然に崩れ落ちて、山の形となつて殘る。これ以上積み上げても直ぐに辷り落ちてしまう。そこで辷り落ちない様に、擁壁を造つて、此の辷る土砂を支へることになる。茲に於て擁壁に土壓がかゝることとなる。此の土壓は常時かゝつて居つて決して休むことはない。

船に乘つて居て自分で舷を押しても船は進まない。河の流れに押し流さるゝ船の舷を、上流へ向つて押しても、船の流れは止まらぬ。これと同じく、擁壁にかゝつて居る土壓を其の己れの基礎へ支柱を設けても、此の土壓を防ぐことは出來ない。船と同様にその本體全體が押し動かされるであらう。それ故に此の土壓を支へる切梁、支柱は反對側の土壓と

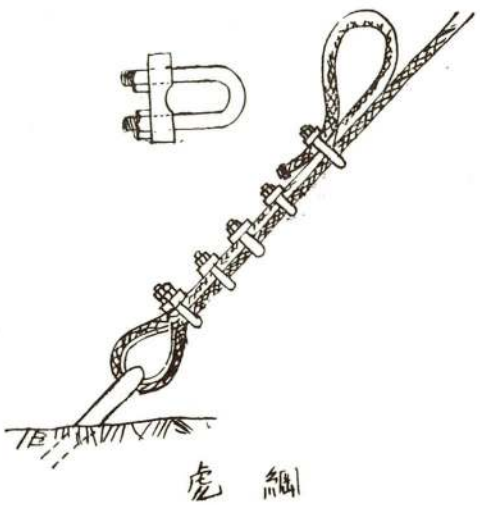
の間に設け、互に相殺出來る様に考へねばならない。

ワイヤーロープ　近年の建築工事は機械設備をフンダンに使用することによつて、非常にスピードアツプせられて居る。洵に結構なことである。然しながら斯く設備に頼りて仕事をする以上、其等の設備のすべての部分が、完全にして充分の能力を發揮するものでなくてはならない。若しも欠陥があれば反つて作業の支障を醸すのみならず、更に思はざる事故を生ずるものである。

建方は專らガイデリツクによつて行はれ、5 噸乃至10噸もある鐵柱や大梁も易々と空中へ釣り上げられて思ふ所へ釣り降される。寸分違はず其の位置へ狙を付けて降す巧妙なる腕前は、近年の鳶職の腕の見せ所である。此の重い鐵柱や鐵梁を釣り上げるにワイヤーロープを用ひられるが、品物を直接縛るに用ゆるものを臺付けと稱して特に太いものを用ゆるのであるが、ワイヤーロープは針金の集りであるから、摺れて一方が切れると急に弱くなる。故に、ワイヤーロープが摺れない様に、鐵製のボールト、或はフツクボールトにて鐵を直かに受け、此のボールトをワイヤーロープにて釣るのである、かくすればワイヤーロープが急に傷みて切れる様な事は防がれる。

鐵材のうちでも *L*, *I*, *C*, 等のロールせられた材料は、其の端が多少の丸味を帶びて居て、ワイヤーロープが觸れても左程危險ではないが、鐵板を切斷した端は非常に鋭いから、ロープが此處へ觸れ或は摺れると、速かに切れる處れが多分にある。梯形の梁とか柱のタイプレート等は、之れを取扱ふ時、此の鐵板へ直接にワイヤーロープを掛けて吊れば、其の重量によつて、ロープが摺れて傷み、豫想外に速く切斷するから深甚の注意を要する。丁度鋏みの刃の先へロープをかけて何噸といふ目方即ち力で押し切つて居る様なものである。切斷しないのが不思議である。

虎綱　彼の高いガイデリツクが空高く聳え立つて居るのは、四方へ張つてある虎綱の張力によつて安定して居るものであつて、ブームに荷物を釣つても倒れないのは、その虎綱が能く抵抗して居るからである。虎綱に用ゆるワイヤーロープは、非常に大きな安全率が與へてあるから、之れが切斷する様な事は殆んどない。然し往々にして起る事故は虎綱の締方或はアンカーの抵抗不足によるものである。締方の不充分から、ロープの一方の結び目が伸びて來て



傾斜する。ロープの締方は圖の様にしてあるから、ボールトのナツトさへ充分に締めて置けば良い筈である。然しこの座金は鑄物であるから、此の鑄物に欠點はないか、一個宛檢査を嚴重に行はねばならない。たとへ一個の座金が破れて飛んでも、荷重の狀態によつては、忽ち全部のものに影響し、此のロープの其の結び目はズルズルと伸びてしまう。そしてデリツクは傾斜し或は轉倒するに至る。時には重大なる事件を生ずるに至るのである。命の虎綱であるから、假設物とは言へ、特に微に入り細を穿つて嚴重に檢査を爲すべきである。

吉日と凶日に就て　一日に晝と夜とがある。晝は陽であり又夜は陰である。陰と陽とは相反するものであり、一日に此の明暗があれば日に吉と凶とがあるとの考へを持つ人が現今に於てもまだ相當澤山ある樣である。晝と夜とは地球の自轉から生じ、一日のうち晝の長短は地球の公轉から生ずる。又潮の滿干は、更に月と太陽との位置によつて自ら定つて來る。之れ等の天文地文の理の判然せなかつた頃の自然現象崇拜の習慣が、未だ吾々人類の腦裡に殘つて居る所から、日に吉凶あるかの如く感ずるものであらう。然しながら之は全く荒唐無稽の事である。

さて此の大工事に何程の事故があつたか。又如何なる日に事故があつたか。即ち吉日には事故がなかつたかどうかを統計上調べて見よう。但し基礎工事（大林組施工）中の事故は判然しない點があるから之れを省略し、主體工事（清水組施工）中の事故については勞働者災害扶助法實施後であつて極めて正確に記錄せられてあるから之れに因つた。

主體工事に從事した延人工は、148,000 人であつて、事故即ち怪我人は、133人である。此の人數の割合は約 1/1100 である。現場に於ける怪我は、勞働者災害扶助法の定むる處によりて、直ちに醫師の診斷を求め、全治迄に要する日數の指定を受くるのである。診斷の結果、擦過傷の如き程度のものでも、全治迄 1 週間位の診斷を下されるのである。眼異物の如きものも 2 日或は 3 日の診斷であるから、本法の施行前は殆んど怪我のうちに入らない樣なものでも、現今に於ては 7 日或は10日といふ譯であるから、件數が統計に於ては多くなつて居る。從つて、此の 133 人の怪我は、本工事に於て、特に怪我が多かつたと考へるのは甚だ早計である。事情が斯くの如くであるから、今輕傷と重傷とに別けて見ると次の通りとなる。但し 3 週間以上を重傷とす。

輕　傷	（2日—20日）	117人
重　傷	（20日以上）	16人

之等の事故は、年齡に於て25歲乃至30歲迄が多く、17歲—20歲及び30歲以上には極めて尠く、又 1 日中に於ては午前10時乃至11時及び午後 3 時頃が多いとの事である。次に世に謂ふ吉日と凶日との關係について分類して見よう。先づ干支によつて分かてば、次の如く、特に多いといふ日は無い樣である。

子の日	9人	計 133 人
丑 〃	4人	
寅 〃	16人	
卯 〃	11人	
辰 〃	8人	
巳 〃	12人	
午 〃	16人	
未 〃	18人	
申 〃	10人	
酉 〃	4人	
戌 〃	17人	
亥 〃	17人	

次に昭和9年1月始めより年末迄滿1ケ年間に於て、建築工事に於て人々の嫌ふ三りんぼうの日即ち凶の日と、大安と稱する吉の日との事故數を分類して見れば

大安の日の事故	19人
三りんぼうの日の事故	7人

之れによつても、大安の日必らずしも安らかでない様である。次に月のうち上旬、中旬、及下旬並に上半月と下半月とに區別して見れば

上　旬	40人	計 133 人
中　旬	45人	
下　旬	47人	

1日より15日迄57人	計 133 人
16日より月末迄75人	

以上の統計上から見ると結局事故（怪我）は疲勞から生することが多い様に思はれる。即ち月の初めに一日或は二日三日迄休み休養をして回復した者が、工事を急ぐ爲めに無理な働きをなし月の終り頃に近づきて、疲勞を爲し、注意力の缺乏を來たして、遂に思はざる怪我が起る様に思はれる。1日のうち午前11時頃或は午後3時頃が事故の多いといふ事及月の終りに近づくに從つて多くなる事も亦此の理由によると思はれる。

之れを要するに**惡い日に事故が起るのでなく、事故のあつた日は惡い日**であると言へるのである。

現場監督　といふ名稱は吾々技術者には不適當な名前である、工事の請負といふ事が設計者の意志即ち圖面、仕様並に設計者の有する人格を其のまゝ表現する様に努力せらるゝものとせば、洵に理想的であるが今の處では到底望まれない。よし工事の請負の形式が實費精算の如き理想的のものとなりても設計者の意志を其のまゝ施工し表現せしむることは六ケ敷きことである。謂はんや現今の如く工事請負なるものが、曾に金額の競爭となりて設計者の意志を忖度するがごとき事は先づ第二、或は第三義と考へられ、又他方施主

に於ても或者は請負者が見込違ひをして、豫想以上に安く入札せんことを希ふが如きものが無いとは斷言出來難き狀況にある。斯界の現場に働く現場係員なる者は全くつらい職業ではある。然し乍ら現今の第一流請負者に於ては其の從業員の人格、敎養が向上して居るから無暗な競爭は行はれなくなつた。

さて監督者といふ名稱は何時頃から用ひられたか知らないが、惟ふに之れは官僚式の響きを持つて居る樣である。

恐らく不合理なる競爭入札に依つて取られた請負工事を現場施工に當りて、軌道に上せんが爲めに努力せしむるが爲め現場監督者の必要を認むるのではなからうか。

建築工事の理想は實費精算にある（此の名稱に誤解なきを望む、凡てを直營の如く施工する方針を指す）之れが請負の形式を採るや否やは別として、どこまでも設計者の意志通りの材料を用ひ、又設計者の意志通りに施工せしむることが理想であらねばならぬ。之れには實費精算以外には求むることが出來ない。此の場合設計者の代表者となる者は現場の技師であつて、それは即ち**工事指導者**であらねばならない。然るに現今一般に現場監督なる者の中には工事の實際を知らず、究めず、又材料の性質を知らずして只無暗に形式に趨り或は極端に放任して工事の成り行きを慢然とみるのみにして、指導精神の薄弱なる者あるは建築工事制度の弊より來て居る現象と思はれる。之れを更に誇張して言へば、其の與へられたる名稱が監督なるが爲めに監督さへすればよいといふ考へからアル種の監督を爲す。從つて請負者側の代人も監督が斯々であるから之れ位の處でお茶を濁して置こうといふ氣配が感ぜられる樣である。尤も凡てが斯ふいふ狀態であると言ふのでない、少くとも斯くの如き傾向が見えるのは心元ない。

現場の仕事の一半は事務、會計であり他の一半は工事の指導である。前者は事務者により、後者は專ら技術者によつて指導せらるべきである。施主側を代表する技師は請負者側の代人を指導し、更に請負者側の代人は其の意を繼承して專ら諸職を指導すべきである。此の**指導精神**は其者をして常々施工に關し或は材料に對して研究を怠らざることゝなり、己の立場を常に明らかにするに至るであらう。茲に於て筆者は此の監督といふ名稱を、**工事指導者**と改稱したい、そして指導者の自覺を持たせたい、（本項は新大阪ホテルの現場に就て述べたのでは無い、誤解なき樣に申添ふ）（以上　10—2—22）

新大阪ホテルの家具裝飾に就て

長谷部鋭吉

新大阪ホテルの家具裝飾の意匠及監督を御引受しましたが、他人の設計に成る建築の家具裝飾をやるのは、私としてはまづ初めてと云つて宜しい様な次第で、自分でやつた建築の場合よりも、餘程氣骨の折れる仕事であることを知りました。建築との調和も餘程考へてやつたつもりですが、出來上つてから隨分氣に入らぬ點も多く遺憾に思つて居る次第ですが、豫算や時日にも縛られてやり直しも出來ずあきらめて居る様な有様です。

家具の大體の配置は、ホテル經營者側からの註文もあつて、配置圖に示されてある様に決定しました。ホテルの家具の取扱は、非常に亂暴なものであるのが普通だと聞いて居りますので、堅牢を主とし取扱に便なる様に心懸けました。又椅子張下地のスプリングの留め方等は、將來狂ひを生ぜざる様特に念を入れて堅固にしました。

一般寢室の調度品の品別個數價格の標準は御參考にもなるかと思ひますので次に揭げます

シングルベツドルーム

品名	個數	價格(圓)
センターテーブル	1	20
ナイトテーブル	1	22
書机	1	20
化粧臺	1	75
服タンス	1	130
トランク臺	1	16
スツール	1	12
小椅子	1	14
安樂椅子	1	100
壁付鏡	1	60
敷物	1組	230
ベツドステツド及スプリング	1組	115
同上附屬品	1	100
電燈	1	40
電氣スタンド	1	9
寢臺電氣プラツケツト	1	17
窓掛	1ケ所	95
	合計	1075

ダブルベツドルーム

品名	個數	價格(圓)
センターテーブル	1	20
ナイトテーブル	1	22
書机	1	20
化粧臺	1	75
服タンス	1	165
トランク臺	1	16
スツール	1	12
小椅子	1	14
安樂椅子	1	100
肘掛椅子	1	45
壁付鏡	1	60
敷物	1	310
ベツドステツド及スプリング	1組	230
同上附屬品	1組	200
シアンデリア	2	135
電氣スタンド	1	9
寢臺ブラツケツト	2	34
窓掛	2ヶ所	190
	合計	1658

パーラー

品名	個數	價格(圓)
丸卓子	1	22
脇卓子	1	20
書机	1	20
飾棚	1	80
小椅子	2	28
肘掛椅子	1	45
安樂椅子	1	100
長椅子	1	210
敷物	1	310
電氣スタンド	1	9
窓掛	1ヶ所	95
	合計	939

家具の用材はホテル廣間廻り及貴賓室等はウオルナツトを用ひ、其他は樺材を主とし、倉庫其他下級品に楢等を用ひました。製作所は日本樂器、內外木材工藝、富士工藝、大丸、高島屋、大阪清水、東京清水、石川匠務所等でありますす　尙鋼鐵家具もグリル、テイーパーラー等に用ひました。

敷物はホテル廣間、貴賓室、會館廣間等は天津及北京の純支那製で、其他は內地製の支那風の織方のものとしました。製作所は赤山、佐野、三越、大丸、柳田、川島、高島屋等

であります。

窓掛及椅子張裂地は全部川島織物所に命じ、意匠織方を示して新らしく織らせました。

電燈器具は眞鍮製ホワイトブロンズ又は銀の鍍金仕上とし、シエードは島田製を指定し、カツトグラスは島田と岩城との製作としました。請負者は大阪電氣、島田、池本、菱美等であります。

塗師はキルク粉撒ペンキ仕上、布張ペンキ仕上、模様置ペンキ仕上、コンビネーション仕上等の混用で壁天井を仕上げ、又ラツカー仕上で羽目類を仕上げ又床板は色付ワツクス仕上としまして、主として龜谷に命じて施工せしめました。

何分室數が多い爲、各般に亘り種類と數量が多いので古賀鄕實君、相馬了一君、河盛益太郎君、笹川愼一君、其他二三氏に夫々分擔して助力して戴いた次第です。

尙油繪額は京阪神の畫家を主とし、東京方面のも加へ少壯の方に御願して描いて戴きました。寢室内には江戸時代の版畫を主として風景のものを撰んで揭げました。ホテル廣間の壁掛は末吉船と和蘭船とを綴織で現はしたもので、川島織物所の製作に成るものであります。

次に相馬君の書かれた說明と感想を揭げます。

ホテル側玄關より入りて肅ましき縹色の敷物上を抜け廣間の一隅毛深き大椅子の一に腰を降せば、淡紅色の大理石周壁に和かに調和された錆コバルト色の大敷物に目は自ら落ち行き、その中央の3枚には古き大阪城が表はされてゐるに氣付く。城は白、土、鼠色を主調とし古松等を配ひたり。凡そこのホテルにはふさはしくも意義ある意匠といふべし。他にも同色にて力強き交線の織り出せるもあり、毛足の長短にて模様面に凹凸を作りたるも線の切り込みに止め地質の向上に依り更に耐久及觸感上を考ふる方可ならん北京製なり。これ等の上に配置されし高雅なるウオルナツトの多種多様の家具の中、椅子張地は總じて色彩淡く地質は柔に工風され、鼠、銀灰色、クリーム色等を主とし、所々强調の爲暗朱、橙、深縹、白茶、銀色等を使用し、模様も直線的で從來の所謂模様的のものを避け、絹、人絹、綿、毛、銀糸等種々異る纖維を以て厚薄、粗密の觸感をも考慮せられたり例せば

1. 蒸栗色、毛長約7分長短及尨犬の如き捲毛ある人絹シール、銀線、朱線、黃線を所々に入れたるものは長椅子、安樂椅子及び大楕圓椅子に使用。
1. 銀灰色、土色、淡紫色、銀等にて地異り市松風に織りたる錦地長腰掛等に使用。
1. 深縹色に茶、銀にて土俗風なる草花模様、ある斜子地、小椅子、肱掛等に使用、此の縹色は沈み過ぎて暗く美しき海色とすべかりしものとす。
1. 銀鼠色を主とし所々にコバルト、朱、銀の格子を入れたる畦織のものは安樂椅子、肱掛に使用、淡コバルト色は暗く廣き場内には効果少し。

1. 油色地に暗朱、橙、白茶、紺の粗なる格子を入れたる斜子織、安樂、肱掛に使用。

1. 4基の大柱下に脊高き別製の椅子には手織のシートを使用單に花模様なれども後考すれば土地に因める花等を撰ぶべかりし、絹毛の交織なり。

窓掛　窓掛地は橙色にて毛斜子織、人絹及毛にて金、銀色の幾何的模様を附し總體銀灰色に落付きたる内部の諸調度に穩かなる生氣を與へたり、レース引上げ式日除（毛織）紅梅色のちりちり等もこの中に含まる。

壁　壁仕上げは漆喰の上にコルク撒き底に銀を潜める櫻鼠色ペンキ仕上げ大膽なる紡垂形、雲の意なる模様を銀にて浮べたり、凡て調子は靜なる此の室の目的の爲に茫洋としてつかみ所なきが如き線色彩を以て構成されし故に壁間の額縁織の壁掛、銀製花壺、電燈類及生花の如何に床しく引立つかを知る。

因みに額類は

婦人像	（小出　楢重筆）	1
難波橋風景	（齋藤　與里筆）	1
風景	（野口彌太郎筆）	1
水彩風景小品	（川上　大二筆）	2
綴織壁掛	（川島甚兵衛製）	2
風景	（國枝　金三）	1

2階ホテル側ギヤラリー　この廻廊には濃赤の緞通を通路敷として淡藍色に銀を配せる裂地張りの長椅子、肱掛け、小卓、花臺等を配して讀書室、テイールーム、貴賓寢室及其のホール會館側よりの交路に充つ、銀梨地に叩きたる天井よりは樋形の長き電燈、階下古城敷物の心に向て垂下せり。

2階會館、ホテル、取合せのホール　低き雛壇風の床には濃紅の緞通銀鼠色に銀縞柑子色、青磁色の格子模様裂地にて張り包める長椅子、安樂椅子を配す、織物の地質は絹節糸使用畦織なり。大食堂見降しの鐵格子入り窓には鬱金色に銀横段ある手織のレース、會館との間仕切扉には櫻鼠に銀の段ある紗をちりちりに取付たり。

2階貴賓室側ホール　敷物は灰コバルト色を主色とし船、波、草、其の他をボーダに取巻く少しく賑かなるもの天津製緞通地質好きものなり、椅子張りは階下のホールに類するものゝ外、朱、オーカー、コバルトを組み入れたる風通織のものあり、窓掛地は絹糸を以て色は紅樺色に白茶、紺等のだん銀糸を所々に入れて手織風に織上ぐ、天井壁は階下ホールに同じ。

額　風景	（川上大二筆）	1
同	（鍋井克之筆）	1

2階讀書室　大阪市街を意匠せる敷物（北京製）藍色に白茶、オーカーの色調に鼠と卵

色のダングラ格子裂地張書記椅子、小豆鼠、銀の配色せる裂地張大椅子濃色に媚茶、銀等の茶系統の窓掛地、材料は毛糸にて畝織風に織られ高雅なる家具と相俟ちて落付きたる讀書室を作る。

額　水彩　（川上大二筆）　2

テイルーム　鋼鐵製ホワイトブロンズ色付の近代式輕快なる籐張テイセツト類配置し卓子の天板には朱と銀のベークライト塗り分け、グレーメーブルの衝立赤暗き朱、白、茄子紺色にて朱子織の輕き花模様を飛ばしたる窓掛、クリーム地に赤格子縞のマドラスレース等は對岸の讀書室とは忽然と變りたるも更に素朴なる組織として白に黑、黑に黃、銀、赤2色位に配色されし方此の室の爲に適宜なりしならん。

額　婦人像　（小磯良平筆）　1

以上階下廣間階上諸ホール讀書室等はいづれも同一の壁仕上、大理石、天井、仕上等にて統一されたるアイデアの許に各自獨特の形而を生かさんとせり。

會館側廣間　この廣間はホテル側の廣間と全く異れり、長州オニツクの周壁、天井はコルク撒きに青磁朱、銀、ペンキのコンビネーションにて全體には青く仕上げ、大なる3枚の天津製床敷はボンペイ朱色に舞樂面、樂器、花、船の見える風景等を織り込み隅々に配置されたる白き尨毛の大椅子類にて構成されたる色調は狹き北入口及小窓より漏れくる北光線のみの陰鬱さを全く忘れしむ。

額　風景　（國枝金三筆）　1

1階常食堂　2階を打抜く銀色の大天井を受けた4基の石柱は（矢橋50號）の鶯糞色に高きオーク材ベニア張のパネル、家具等も同一色調に塗られ、床は更に濃くセピア色をなす、天井小壁は布張りの上に銀塗、高窓の欄間、オーケストラボツクスの手摺金物サツシュも同じ銀色なり。

窓掛は濃きプルシヤンブルーの階調に少量の樺黃、銀等を配したるものこれ等多量なる靜止色に對し椅子張りは飽く迄赤く底銀の毛ワナ織はこの土耳古赤を出すに適質なりき、卓被の純白に花天井の送風口底色は柑子黃、中間のカツトグラス大シヤンデリアには金色を含み、これ等靜と動との對照は食堂として色彩上愉快なる交錯をなし若し東南面にこの室ありせば高窓より落ち込む朝の陽影と共に更に豐かなる饗を得ん。

額　靜物　（中村研一筆）　1

同　（中野和高筆）　1

特別食堂　小なるこの室は其の用途の爲に纏りて而して更に高雅、ボーダーを張りつけたる粗布の壁地はオチバ色のペンキ塗に銀を浮かせ支那の古陶の肌を偲ばしむ、天井燈及ブラケツトはカツトグラス加工、古橙色縞織のビロードの椅子張り花色又はコバルトの窓

掛敷物等も華かなる中に品を失はず。

額　風　景　（小山敬三筆）　1
同　（川口軌外筆）　1
靜　物　（鍋井克之筆）　1

グリル食堂　館内にて最も所謂近代調を盛りたる所、天井、梁、半柱等極めて大つかみの味を見せ乍ら、腰羽目、火口、壁龕等に柔かき種々なるいたづらさを嵌入せる室、粗布の腰張りには草花、生物等多種形而をステンシルし、家具はパイプ製卓子天板ベークライト塗り分け、銀箔型押しの革張椅子、明るきこの室の窓は濃藍色の紋紗に黄色の日除を重ねたるカーテンを垂れ外部よりの透視をさく、濃藍色を透す黄色は室を陰氣になす、この失敗を幾分取戻す爲に目隠しのちりちりは華麗なる黄橙色のレースを用ふ、室狭き爲これ等の近代色調引立たざる憾なしとせず。

額　婦人像　（東郷青兒筆）　1
風　景　（野間仁根筆）　1

2階宴會場　壁地材ベニア張パネルはウオルナツト色、床は幾分明るきオーク色、低き天井は灰クリーム色一色に仕上ぐ、窓掛は金銀色の大段人絹綾織、レースはレモン色、抜き紗、食卓用椅子には白茶銀入ビロード濃藍濃緋の縞織ビロードをつけ休憩用椅子には兎茶色のモール糸織込みたる裂地を椅子に張る縹色緞通を敷く。

客の都合に依り室内を區分する様間仕切の取外し得るものを設けたり。

2階小宴會場3　1. 淡青色の壁紙張の室は天井うす卵色カーテンはコバルトグリン、銀色の喰違ひ段。

2. 薄茶色の壁紙の室は茶、セピア、銀、天井は白茶。

3. 朱色の壁紙のものには濃緋色に銀いづれも毛畝織なり。

額　裸婦像　（藤田嗣治筆）

婦人美容室　壁は銀灰色、椅子張りも肉色のベロア、窓掛も朱、銀等にて明るき近代調なり。

3階宴會場　粗布張りの壁油色、銀のペンキ仕上げ、窓掛裂地は朱色花模様ある風通織椅子張り等も大略2階宴會場に同じ。

3階儀式室　金色を底に透したる紺青色の紋紗を壁に張り小壁は木屑撒き銀鼠に仕上げ窓掛は白き毛長のシールに銀の節糸を段々に織り込みたり椅子張りは白茶絹、ビロード、床全面を敷き込みたる蘇芳色の緞通は色調少しく華かならば和風素朴作りのこの室を一入引立たせたるならん。

4階大休憩室　壁はコルク撒き灰青色塗りの上に銀色を叩きたるもの天井梁も灰色なり

敷物は茶色とし椅子張りには錆びたる朱のチンコール織、窓掛地はスペイン風の青、赤、銀色調で斜線を描けるもの 2～3 階の室よりも稍天井高く家具倉庫の如き感を危く免れたり。

5階大宴會場　5～6兩階を抜きたる會場はグレーに整美さる大銀盤上、吹上る光の噴水を巡りて踊る楽人の立像を配せる大シヤンデリア數箇是等の背景をなす天井は俗に（瓶のぞき）といふ青鼠の濃淡を以て彩られ大梁壁6階ギヤラリー廻りはグレー・ハンチ彫刻には銀の拭ひ取りを施す、高き窓廻りパネルは滿洲クルミ材をグレーメープル色に仕上げ、床は青みのあるセピア、窓には赤き緞帳を懸く、濃朱色に鼠色チンコールにて鷲と芦の意を織り出し所々ベロア等にてアツプルケーを施し、銀の透し金物を一文字とす、事後考ふれば濃朱及鼠チンコールは周圍のグレーに對し高き窓際の激しき外光の爲に暗き影を生じ明るさ華かさを殺ぐ朱或はカーネーションピンクに銀色に光りたる人絹手織又はビロード類の配合とせば可なりしならん。

通例500名多きは 1,000 名を着席せしむる椅子は階下と同じく白茶色に銀、赤と青縞の高雅に又力強きビロードを以て張られ6階ギヤラリーの手摺子金物は銀色、笠木は古金色に塗らる。

仔細に見るときは古典的なる室内構造様式と明快なる近代的裝備調度はこゝ顯著に對立をなし相俟ちて融合の美に迄至らざる様に思へて惜しゝ。

2·3·4·5·6·7階階段廣間及休憩室　一様にグレー天井壁仕上げ赤絨氈を敷き椅子を二三配す、7 階の廣間は屋上出入口なれば銅鐵製籐家具セツトなり、窓には朱色、銀色の明るきカーテンを裝ふ、休憩室は窓には快きコバルト色の毛及人絹製のカーテン、椅子は宴會室に同じ。

額　　水彩小品　　（川上大二筆）

2階特別寢室（以下ホテル寢室に付）　中央廣間を挟みて東西に分かれたる2組の寢室の中東方の室は空色鼠、青、藍銀等に壁紙、窓掛、椅子張、ベツドカヴー、敷物等凡て落付きたれども力を入れ過ぎて重々しき感じあり、裂地類は絹ビロード敷物は天津製なり。

天井燈は小豆色と白茶の絹を6角形の笠に張り合はしナイトテーブル上の電燈はセード黄色のレース、柄は紺地に蒔繪を施す、西側の寢室はこの儘にて色調は珊瑚朱色に統一さる。

化粧室　壁は肌色の壁紙カーテンも洗朱敷物は樺色に花模様明るき白と緋色の格子ビロードを張れるカウチ1脚化粧机スツール各1脚あり木材はグレーメープル。

次室　壁紙は玉蜀黍色にして中央の卓を圍める椅子類は黄橡色に銀の模様を底に表はせるビロードに包まれ窓掛は黄色に小鳥を銀に浮き出せる井筒織なり。

敷物はクリーム色に朱、セルリアンブルー黒等の入りたる賑はしきものなれども少し落

付を欠く、西側の次室も調度凡て同一にて窓掛の色は古き朱色、椅子張りは縹色なり會議用として長卓及茶色に金線の交へたるものを同用椅子張りとして用ひたり。

額　風景　（石井　柏亭筆）
　　同　（梅原龍三郎筆）
　　同　（南　薫造筆）
　　同　（安井曾太郎筆）

3階客用寝室 1例　南に面せる室、壁は笠木以下はヘシアン張りに土色のペンキ塗り朱色の輕快なる線條をステンシルス、この仕上げはペンキ職の相等苦心を要せしものなり。

敷物はバルカン風花模様、色は黒コバルト、グレー等を主色とし、窓掛はコバルトブルー及黄色の濃淡にて材料は絹、綿の節糸なり、寝臺掛はグレーコバルトの花模様、地質は緻密なる畦織にて絹、綿交織、椅子張りは朽葉色及濃赤のチンコール、糸織化粧用椅子張りも同質にて溫かき銀錆色なり。

織物の染料は媒染劑を使用し、いづれも日光に良く耐ゆる様注意し特に寝臺カバーは洗濯の點をも考へ細き强き纖維を以て織られたり、鎧式通風日除を取付く中央燈のセードは玉蜀黍色なり。トランク臺は縞模様の丈夫なる帆布をとぢつけたり。

各階寝室に就き總論　すれば各階共調度類同一なれども色調等變化あるものなり、3階中廊下側の室内の壁はグレーコバルト、北側の室はレモン色地に朱線カーテンは大部分同一なり。

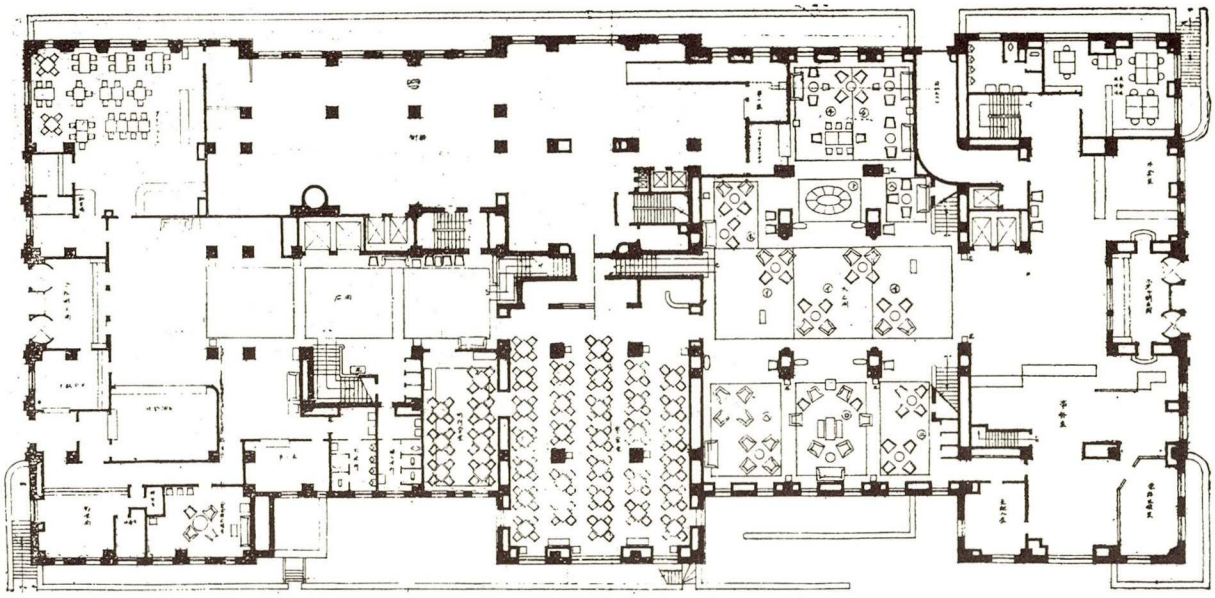
4階壁は薄茶にローズ色及銀の立線窓掛はオルトローズに銀色の花模様あるもの敷物は瓶のぞき色地に土耳古赤の花模様電燈セードは珊瑚色。

5階梅鼠色に銀或は黄オリーブ等にて細き菱線を表はせる壁に窓掛は藍地に金の水玉模様あるもの敷物は4階に同じ電燈セードは白茶と鳶茶色。

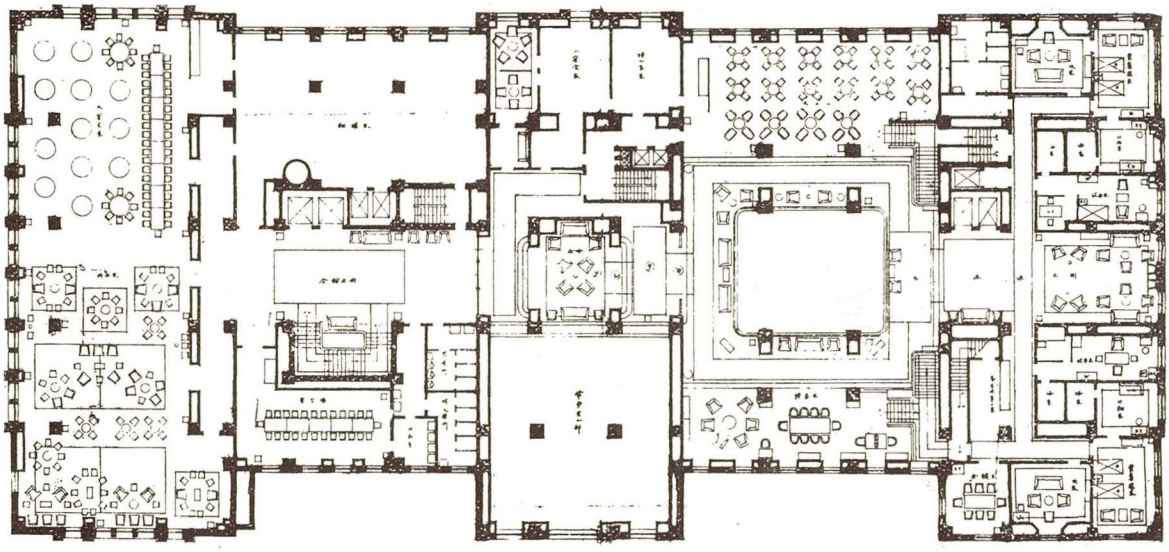
6階壁は鼠茶地にコバルト朱或は銀にて線模様を表はしカーテンは黄色を主としたる毛織朱色と白茶の電燈セード。

7階壁は朱がゝりたる茶地に紫、茶等の線模様、窓掛はオリーブと鼠銀の花模様人絹を主とす、敷物は水色がゝりたるブルー小花を散したるもの電燈セードは萠黄色と薄灰色。

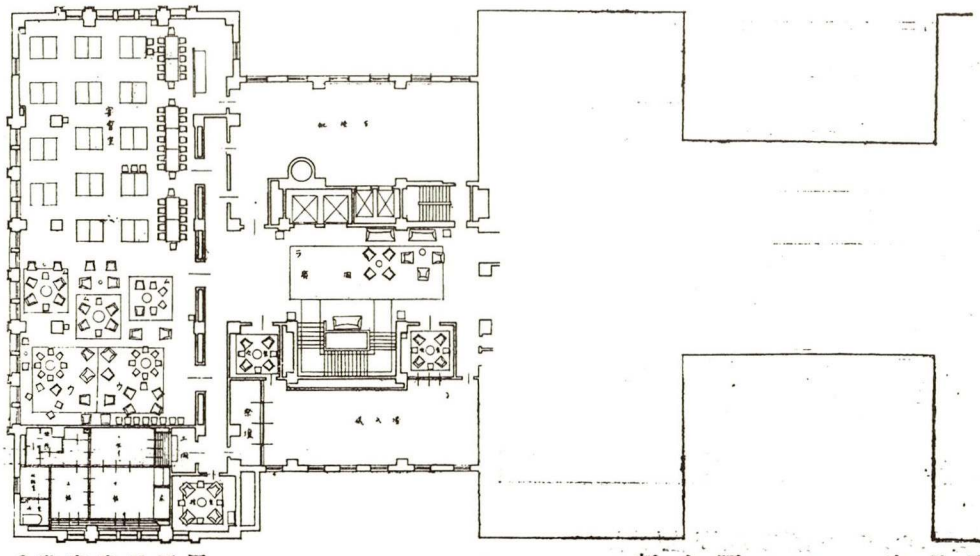
8階灰色に銀線にて花、鳥、蝶等を飛ばせたる壁にカーテンは落付きたる緋色の花模様敷物は淺黄なり、電燈セードは橙色と淡き苔色の配合なり、以上は大略なれども各階共室に依りカーテン及壁は必要上變化を設け又壁は模様を省き各色を混彩し銀色等をも叩きて所謂コンビネーションに仕上げしものも多し。200餘の室なれば窓掛、敷物、壁、電燈、寝臺カヴー等各種の色彩の集りは時に思はぬ好調に惠まれしものもあり、又不結果なるも數多し、皆思ひて至らず偶然なり。



1階家具配置圖

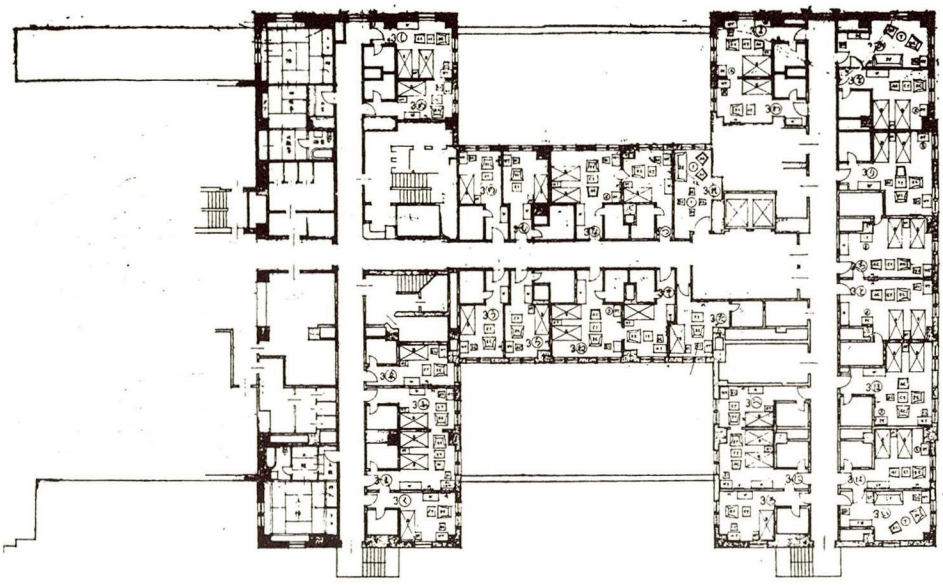


2階家具配置圖

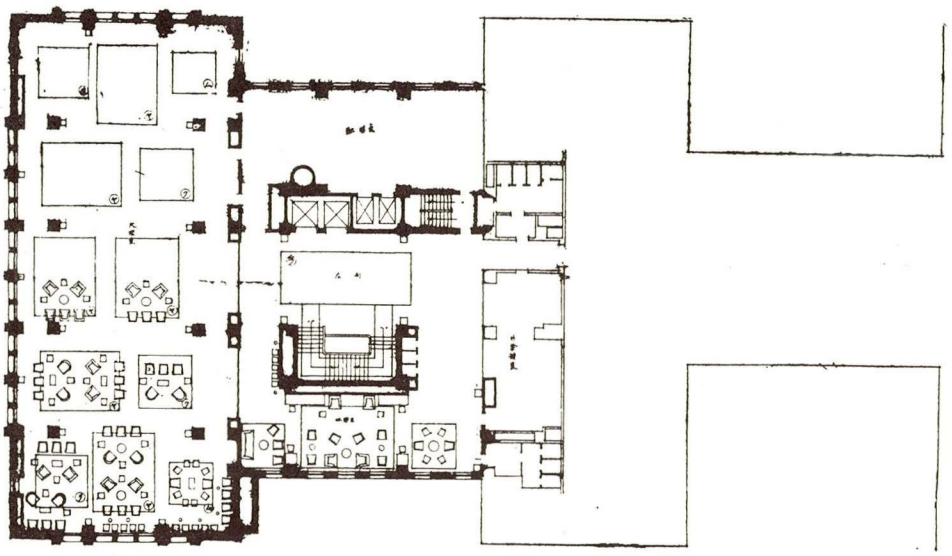


3階宴室平面圖

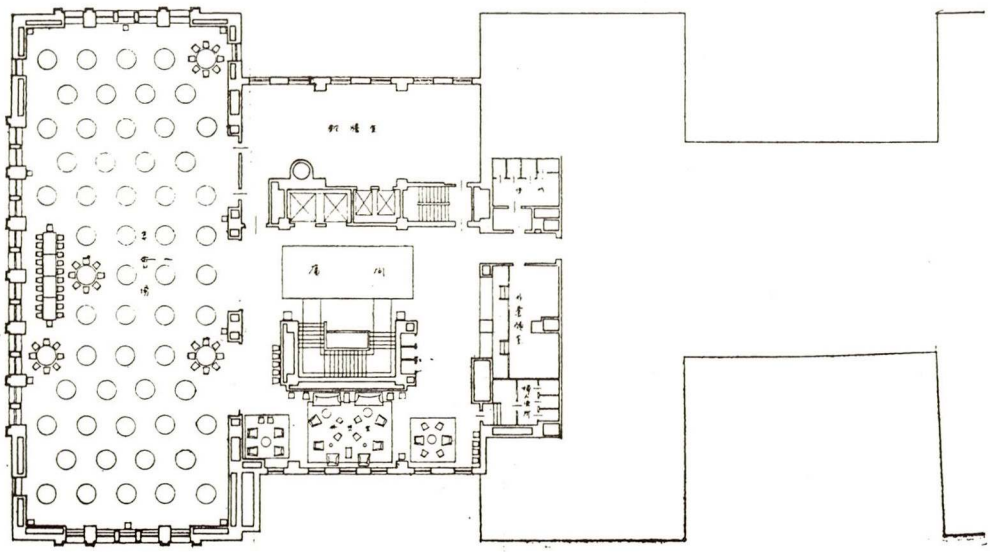
新大阪ホテル家具配置圖



會館側 3 階家具配置圖

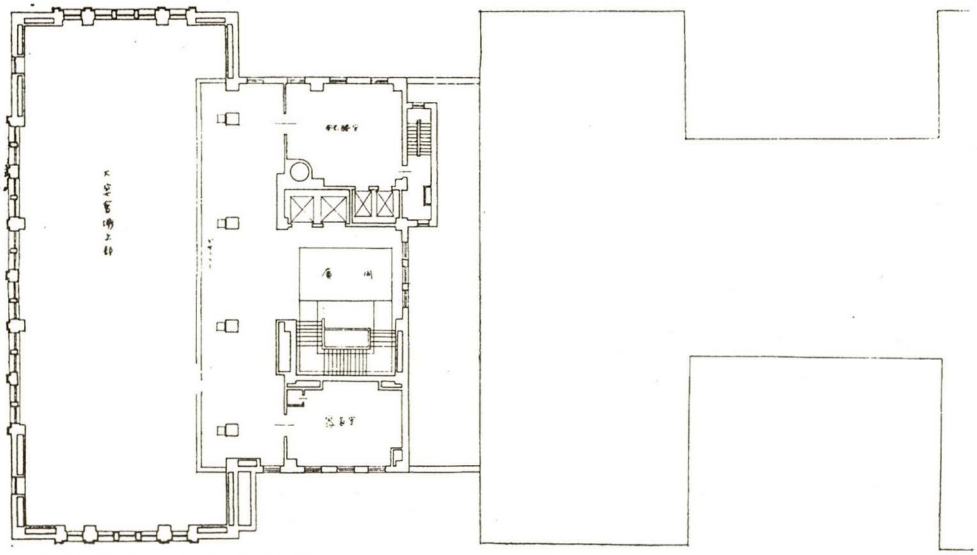


會館側 4 階家具配置圖

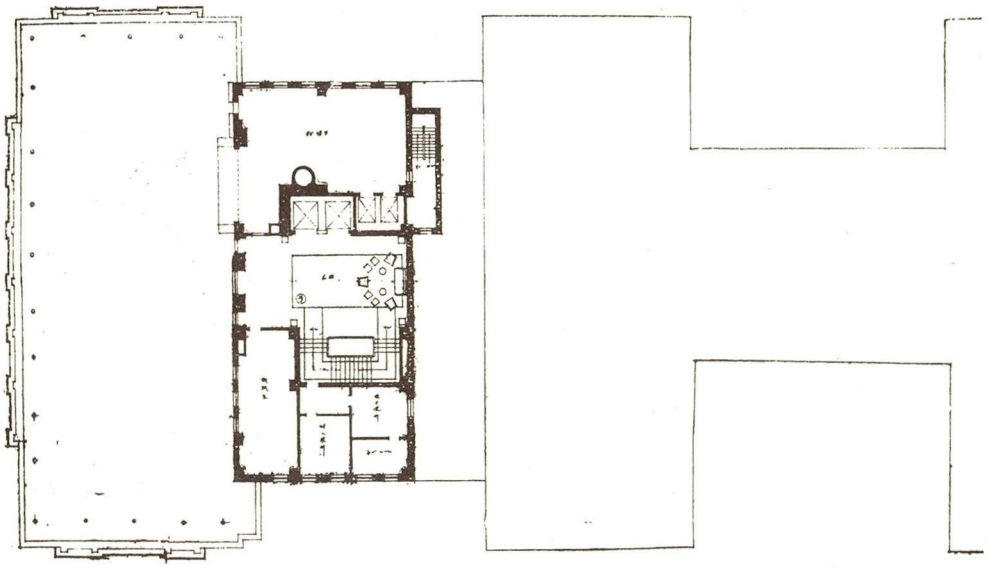


會館側 5 階家具配置圖

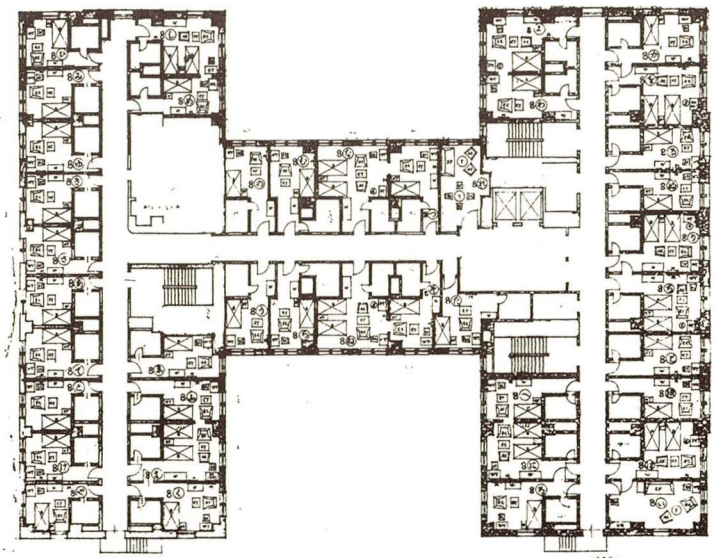
III 50　新大阪ホテル家具配置圖



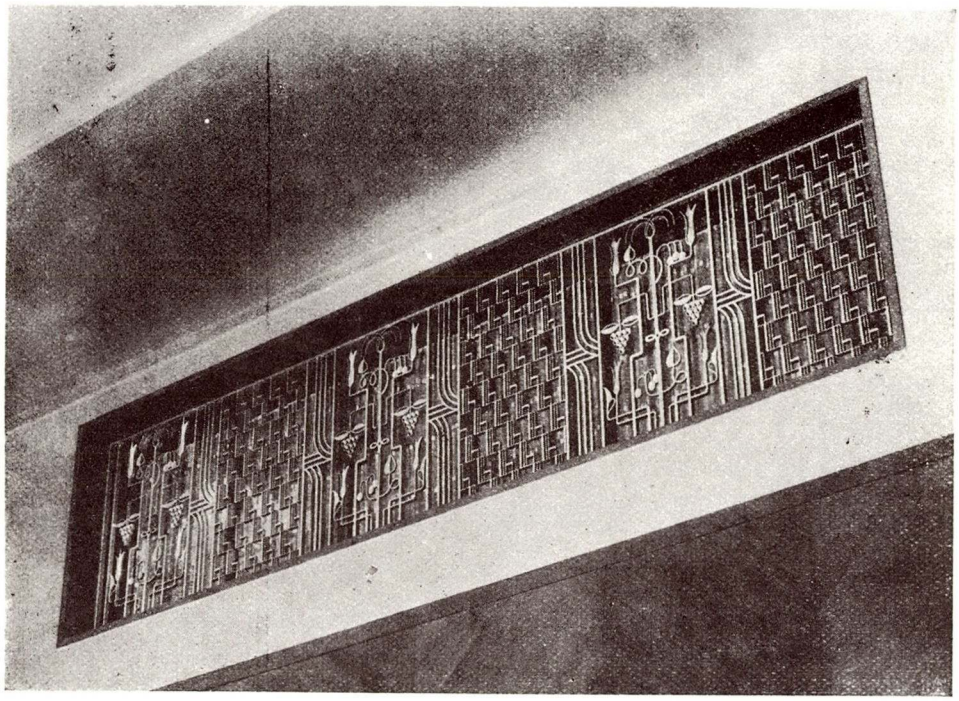
會館側6階家具配置圖



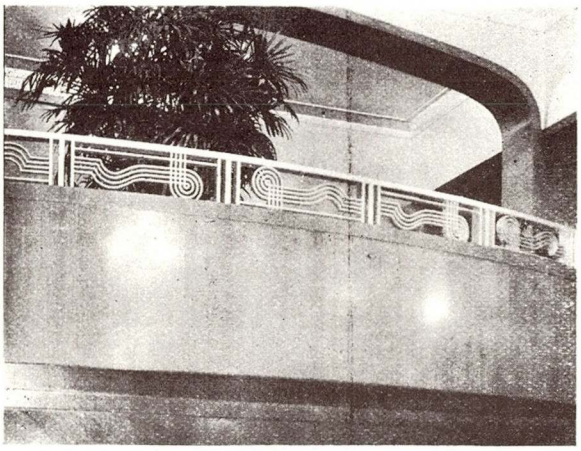
會館側7階家具配置圖



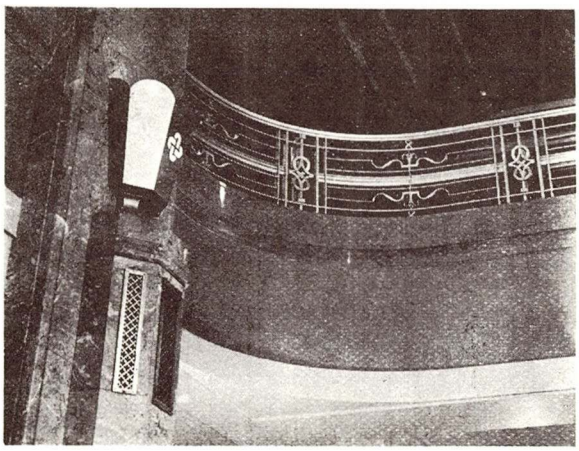
8階寢室平面圖



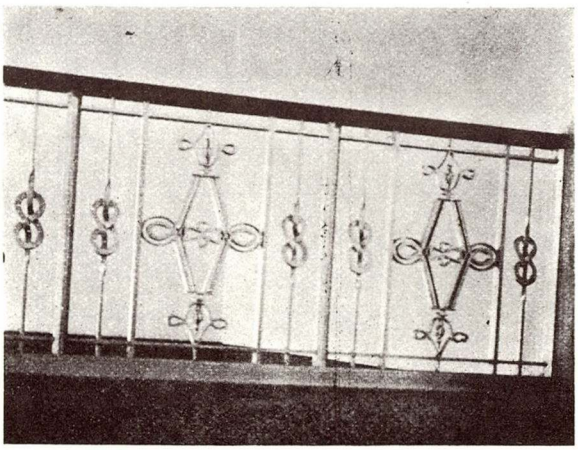
常食堂上部グリル



常食堂バンド前手摺

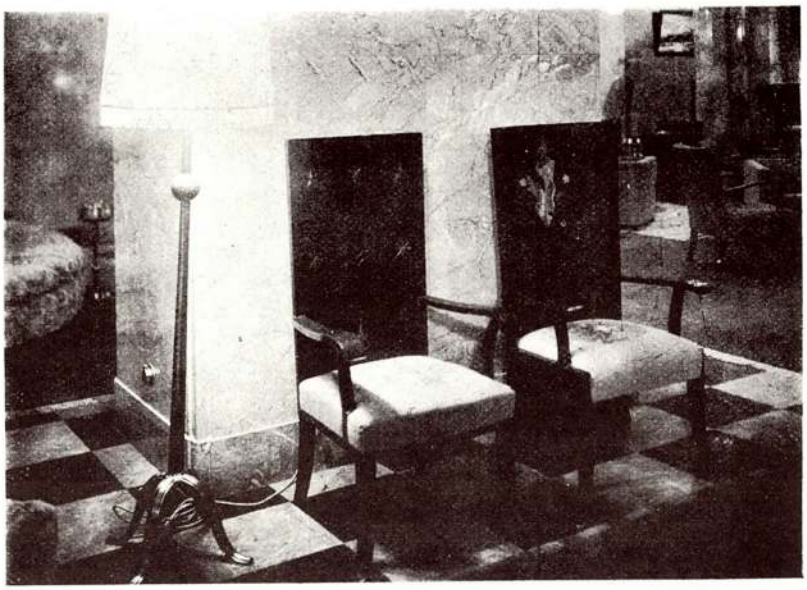


ロツビー上部ギヤラリー手摺



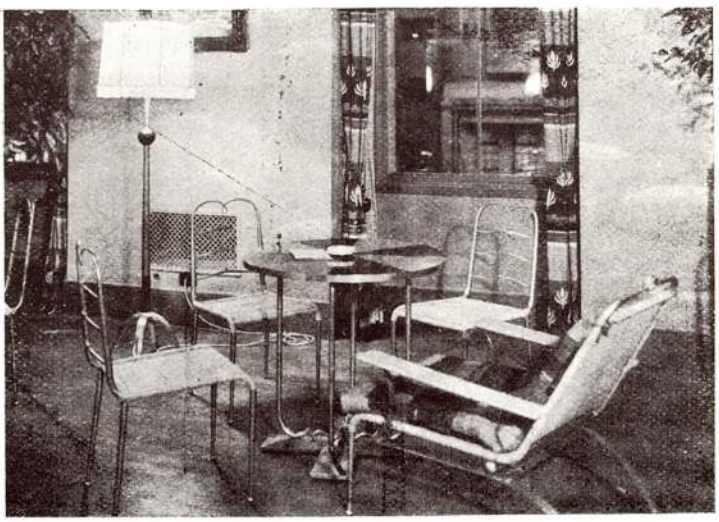
大宴會場ギャラリー手摺

1 階ホテル大廣間

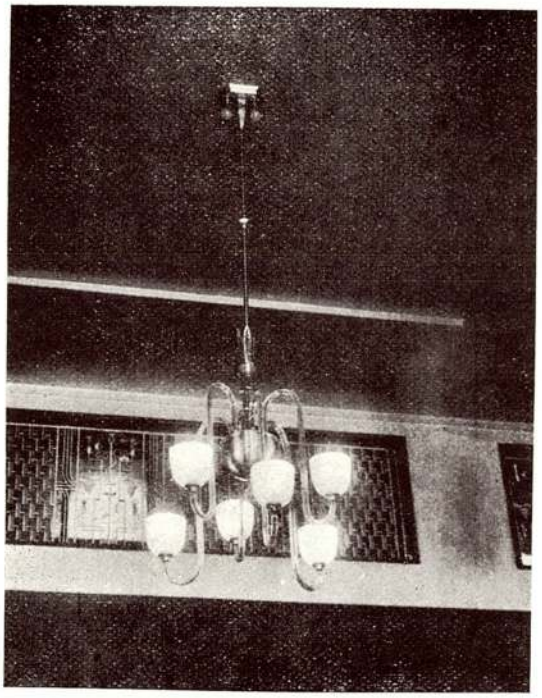


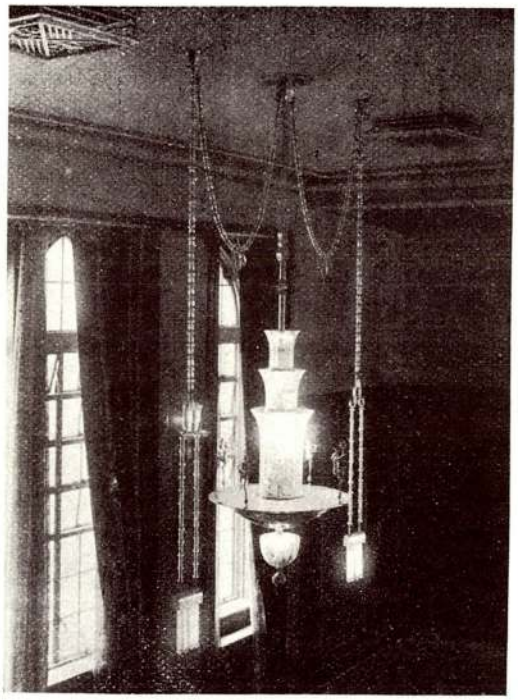
會館廣間



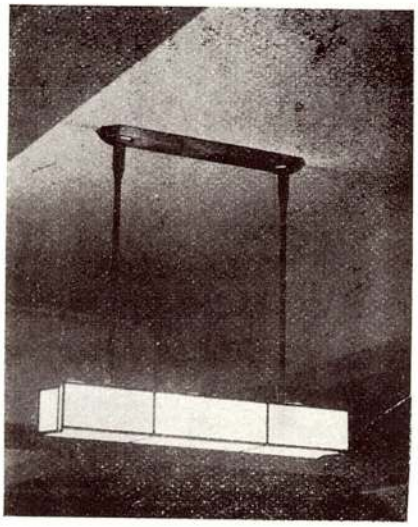


6 階 廣 間

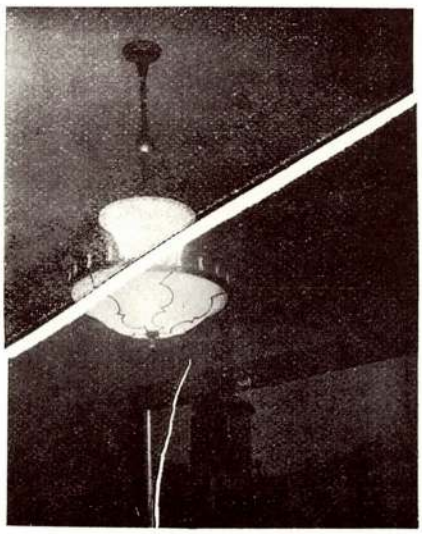




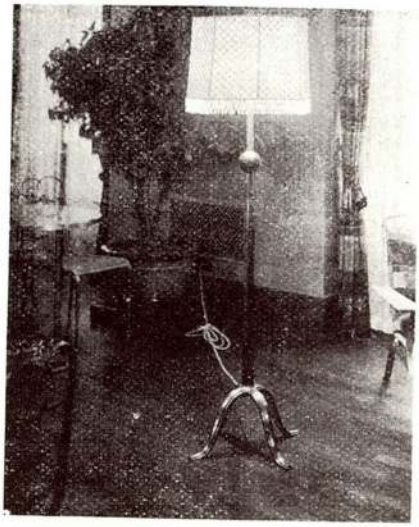




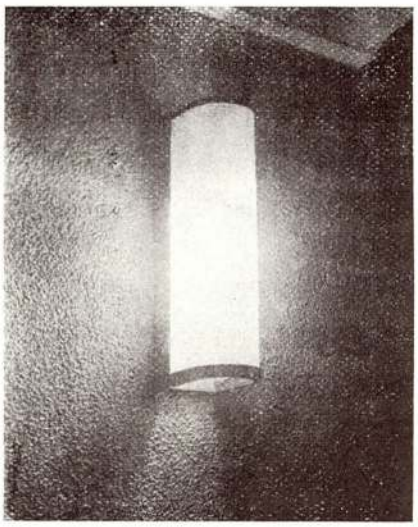


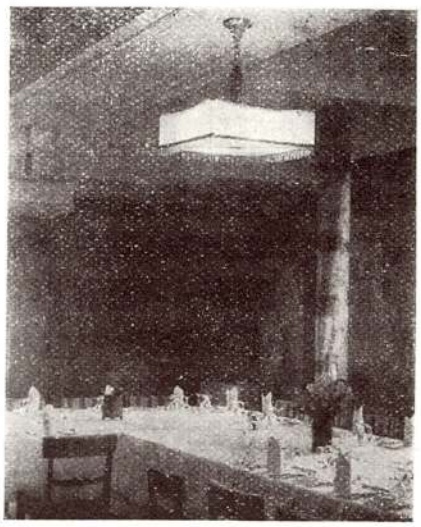


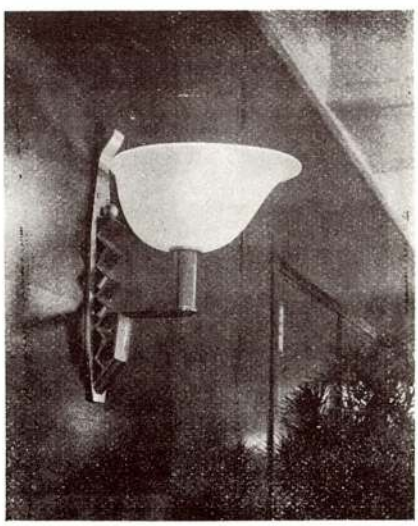
111 54　新大阪ホテルの照明器具

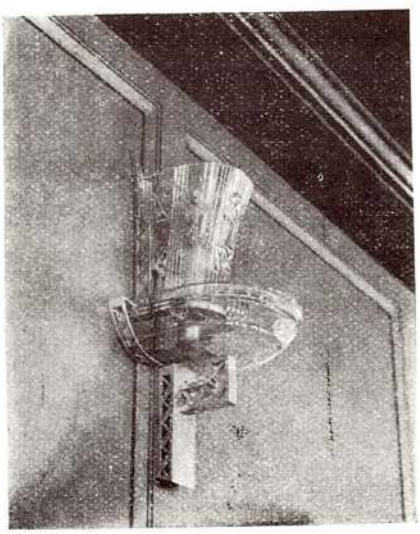


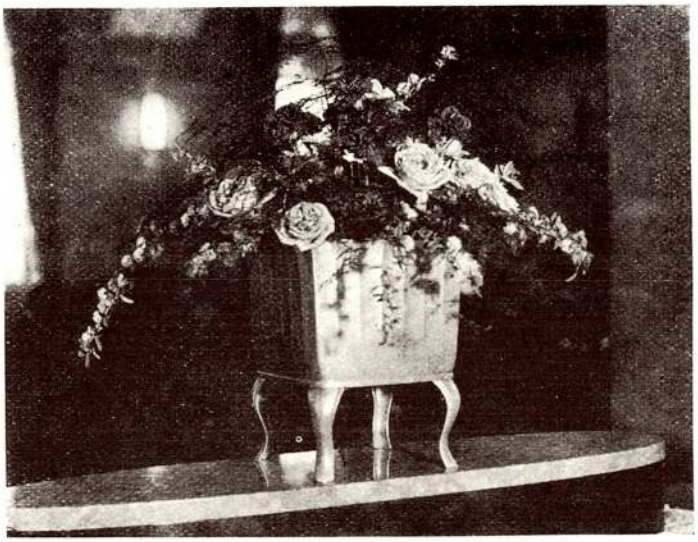


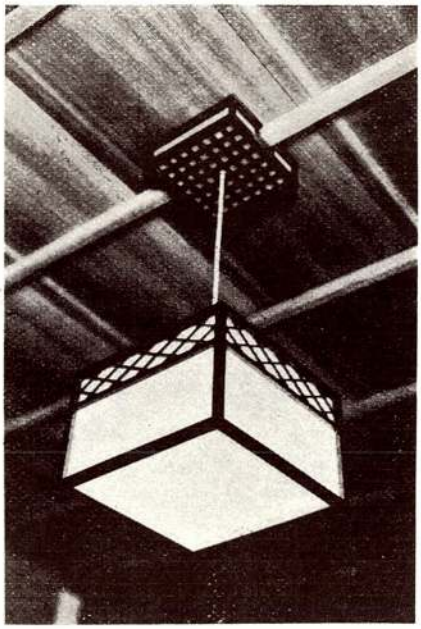
















新大阪ホテルの装飾意匠について

笹川慎一

新大阪ホテルの装飾意匠について何か一稿物せよとの御依頼を受けましたが、私がこの建築に關係したのはすでに設計の方針の大略も決まつて只仕上げを御手傳ひしたゞけで今更事あらためて兎や角書き連ねる何物も無いのであります。

只ホテルの外觀の意匠について大阪が水の都であるとの事で、南歐の水都ベニスのゴシツク風を取り入れた事は誠に時代錯誤の下らぬシヤレの様に思はれてなりません。

諸々の大先輩をさしおいて、こんな口幅たい事をいふのも、おろかな事ですが現今の我が大日本帝國産業の大都、大阪市の情勢はそんな一時代のローマンチシズムに低調すべきでなく、もつと新進且つ健全な行き方を以てこの建築の姿を決定すべきであつたのではなかつたでせうか、それは單なる若輩どもの理想といふものであると云はれゝばそれ迄の事ですが、私の知つて居る範圍で心ある建築家の多くはほとんどこの言を繰り返へさぬものは無かつたのであります。

然し、事すでにその様式に從つて進行しつゝある以上、この建築が只單なる表面的ゴシツクに終らぬ様、猶このゴシツクアイディアを無理のない程度に近代化する事に努めねばならぬといふ事。

これはこの完成をあづかつた人々の誰でもが期せずして考へて居た焦點であつたのであります。

其結果の如何は當事者どもの云々すべき問題でなく、心ある批判者の聲を待つのみでありますが、只ホテル建築なるものが總ての方面から非常に複雜、且つ多難なものである爲めに、よくよく深い理解を持つた批判者でない限り不用意な批判は下し得ぬものであるといふ事を當事者の立場から言明しておきます。

猶又其裝飾意匠に至つては、人は好き好き、誹るも好き好き、實におかめ八目なのであります。

只單に私一個人としての建築を眺め廻る時、失敗の數々のみが心に泌みて、來るべき次の良策を苦む心はおそらく多くの設計者の心理と變らぬものだと信じ且つ未來を深く戒めたいと思つて居ります。

新大阪ホテル家具裝飾を擔當して

古賀鄕實

私が新大阪ホテルの家具裝飾工事を擔當して豫算を作つたのが昭和8年6月であつたが家具、窓掛、敷物、電燈器具其他關係工事費を含む總工費實に60萬圓に垂々とし、直接取扱つた設計圖數約500種製作員數1萬點に近く、大なるものは家具に於て洋服タンス、各倉庫棚類を始めとして、小なるは、客室ステーショナリボツクス宴會用名札に到る迄大小無數到底是等のものを一々吟味說明する事は只今不可能であり、又特殊のものを除き趣味的形狀又は色調等は改めて論する迄もなく一見分明の事であり、又技術者により種々異なるもの故是等の所感は述べ度くないが、只以上の如き種々雜多な設計により製作完成迄には、經營者側との接涉に於て普通技術者の思もよらぬ問題或は少なからず藝術的自尊心を傷ける樣な要求を受ける事極めて多く、而も夫等の事柄が後日に到つて成程と窃かに感心する樣な場合が多いのは、ホテルと云ふ營業夫自體各機關に於て頗る生々と活動して居る關係上當然の事では有るけれ共、殊に此の營業に於ては其家具又は裝飾工事等に於ても設計製作に當り生きたものを作らねばならぬ譯で、此の意味に於て技術者は隔意なきホテル側關係者又は係の意見を聞き是を技術的胃の腑にて完全に咀嚼して計畫に當らなければならぬ義務を感するのである。新大阪ホテル完成に當り家具裝飾に於ても見る人により種々の意見もある事と思ふけれ共、其間技術以外に人知れぬ苦勞をなめて來た事を聊か記憶を辿り申上げて見たい。以下記す事は、以上の意味に於ける收穫の一部である。但し、電燈器具、窓掛工事は直接監督をしなかつたので是等に就ての記述を省く。

ホテルの機能を大別して

1. ホテル側
1. 會館側

の二種とする事が出來る。云ふ迄もなくホテル側は、宿泊を目的とする人の爲めの設備、會館側は宴會又は催し物を目的とする人に對する營業である。先づホテル側より述べ度い

此記事としてホテル側の包含する主なる室は

一階廣間、常食堂、特別食堂、二階廣間、同廻廊、貴賓室、同次室、同化粧室、テイルーム、讀書室、一般寢室、バーラー、應接室等である。

一階廣間用家具は特殊材料を除き仕上材、サーカシヤンウオールを用ひ種類數量は大略下の通りである。

第壹階廣間

長　椅　子	13個
安樂椅子	30〃
肘掛椅子	50〃
小　椅　子	35〃
楕圓大椅子	1〃
ハイバックチエア	10〃
卓　　子	32〃
花　　臺	22〃
煙　草　臺	15〃

以上の內、安樂、肘掛、小椅子で115人之に長椅子及隋圓形大椅子に掛ける人を約35人と見て、150人分の設備となる是に、二階廣間、廻廊の分、安樂25個、肘掛椅子10個、長椅子8個の使用人員を約50人と見て、約200名の休憩が出來るのであるが、以上は室の性質上、主として宿泊客、同訪問者等の休憩、談話に使用されるのである。然るに、當ホテルのベツトルームは、總計203室、收容人員、最大270人餘となる、此外食事客の人員を考慮し少なく共宿泊客數の3分の2以上の椅子を廣間に用意せねばならぬ、以上、1～2階廣間收容人員約200としたのは此理由による。

此に長椅子に就て一言したい。廣間使用のものは見付6尺5寸としたので相當の人3人は樂に腰掛け得るけれ共友人知己なればよいが、全然知らぬ人は中々行儀よく一緒に掛けて呉れないのと夜半等は從業員の體のよいベツドとなる事があり、重い爲めに掃除等の際移動不便等と云ふ營業上の缺點があるので餘り喜ばれない。只室の體裁上最少限に用意したに過ぎない。常食堂、特別食堂家具は大してお話する程の事もないが、椅子は弱くならぬ限り出來得る丈け輕くする事が必要である。肘掛椅子は高さを增し奥行を淺くし、肘を稍低く短かくせねば食事に不都合なのと卓子の下に押込む事が出來ない。モタレも餘り高過ぎるとサーヴイスの邪魔となる。サイドボード、には重いナイフ、フオーク類を入れるので抽斗の引手は撚戻りなき方法で頑丈なものを取付けねばならぬ。

貴賓室、には特記する事がない。讀書室は書籍を讀むと云ふより、手紙を書く人の方が多い。此意味に於て、ライチング・テーブルは特に留意せねばならぬ。テイールームには清洒なる特殊パイプ椅子を用ひ籐張りとした、冬季は「クツシヨン」を取付け夏季は之を除けば便利である。甲板には耐熱塗料「グリプトン」を使用したものである。

次に寢室家具に就て述べ度い。寢室には特殊のものを除き、1人室と2人室とに大別するが大體當ホテルに使用せる家具の種類は次の通りである。

寢室家具

家具種類	ダブルルーム	シングルルーム
センターテーブル	1個	1個
ナイトテーブル	1〃	1〃
書　　机	1〃	1〃

化粧机	1〃	1〃
洋服タンス(大)	1〃	—
同　(小)	—	1〃
トランク臺	1〃	1〃
スツール	1〃	1〃
小椅子	1〃	1〃
安樂椅子	1〃	1〃
肘掛椅子	1〃	—
姿見鏡	1〃	1〃
敷物	1〃	1〃
ベッド	2〃	1〃

上記の内、シングル・ルームの小なるものには化粧机を用ひず從つて、之に要するスツールのない室もある。洋服タンス、大型は外法間口5尺、奥行1尺9寸、高さ6尺5寸とし小型は間口4尺としたけれ共室により3尺5寸位のものを今一種位必要と思ふ。ナイトテーブルの甲板、巾1尺3寸、長さ1尺7寸、高さ2尺としたのは特に研究した最小限の寸法である。他は特筆すべきものはないが、只姿見鏡に就て一寸注意すべき事がある。是は壁に取付けた、巾2尺、高さ6尺（床より）のものであるが取付位置に就て特に注意すべき事は、入口より鏡の見える場合其反射により寝臺が絶對見えぬ様な位置に置かねばならぬ事である。尙化粧机の位置も其反射法角を成る可く避け廊下より直接化粧姿の見えるのは最も禁物である。配置に際して、先づ「ベツド」の位置を定め、鏡の位置、化粧机の位置を研究して他のものを適當に按配する事が肝要である。尙又ベツドに臥して其寝姿が鏡に映つるのも絶對に避けねばならぬ。鏡は其位置宜しきを得れば室を明るく廣き感じを與へて大變効果的のものであるが是を誤り取付くれば、日光を反射したり電燈がキラツいたりして非常に不愉快な落付かない感じを與へるもので、其配置は「ベツドルーム」中最も注意すべきものなのである。

費用は家具、敷物、窓掛、電燈器具、寝臺附屬品共全部で一室當り「シングルルーム」1千圓程度、「ダブルルーム」1千5百圓程度である。

其外寝室附屬のパーラー、應接室が少しあるけれ共家具裝飾として特に申上げる程のものはない。

次に會館側の家具設計に就て獲た事を少しばかり申上げたい。

會館側の含む室は大體次の通りである。

一階廣間、二階より七階迄のエレベーターロビー。

グリル・ルーム、二、三、五階宴會場、二、三、四階各待合室、日本室、三階儀式室等である。

宴會には必ず休憩室の設備があるので、一階廣間を始め各階廣間共家具としては僅かばかりを配したに過ぎぬので大して申上げる事もない。グリルは目先をかへる爲めにパイプ

使用の家具とした。テーブルにはテーブルクロスをかけぬ方が面白いので其儘使用出來る様に特殊耐熱塗料の「グリブトン」を使用した。

次に宴會用としての家具に就て總括的に申述べよう。先づ宴會として最も重要な事は其人員關係である。當ホテル宴會場及待合室の席數の割合下の通りである。

第二階	待合室	130席	同	宴會場	230席
第三階	待合室	130席	同	宴會場	184席
第四階	待合室	315席			
第五階	休憩室	37席	同	大宴會場	486席

是によりて見れば、宴會場席數900に對し待合室席數612席で是も矢張り前者に對し後者は3分の2以上なければならぬのである。

宴會は云ふ迄もなく毎日種々雜多なものを引受けるので其忙閑、大小絶え間ないのである、從つて使用する家具に就ては以下示す様な條件を具備せねばならぬ。

1. 椅子、卓子共短時間に配置をするので極めて堅牢にし而も出來る丈け輕くせねばならぬ。
1. 食卓は甲板の反り狂ひのない様に注意し、其緣は正確に削り角を立てる事之はテーブル、クロスを掛けた時非常に奇麗に見えるのである、尙卓子は必ず折り疊みとする事。
1. 椅子の凭れは床より「シート」迄の高さより稍低くして片付けの際反對に重ねる事が出來る様にするのである。

   當ホテルの分は上記寸法は勿論「シキ」の前部の框を廢し金物にて連結して、特に前「アホリ」として製作したので掛心地よく殊に長時間の宴會には疲れを輕くする事が出來るのである。
1. 掃除及配置を急ぐ爲め卓子、椅子共脚部には必ず辷り金物を付すべき事。
1. 宴會席數以上の大宴會ある場合常備の椅子不足する場合待合用の小椅子を用ひ得る様小椅子の高さを宴會用のものと同樣にして置く必要がある、張材料も成る可く似よつたものに越した事はない。

會館側の家具設備に就ては大體以上の如きものであるが、宴會場に使用する卓子は小椅子900個に付二、三、五階宴會場全部にて

徑	4尺8寸	丸卓子	28個
3尺×5尺		長方卓子	176個
徑	5尺	半圓卓子	10個
徑	3尺	同	5個

である。半圓卓子は長方卓子を連續したる場合の兩端に使用するものである。

當ホテルには長方卓子に重きを置いて居るが大體之は東京式と云つてよい、大阪地方は丸卓子を本位とする方が喜ばれる様である。4尺8寸丸卓子は8人分であるけれ共徑6尺として10人分のものを設備すれば大阪では尚一層結構である。

食卓、椅子共各階食堂へ絶えず融通するので其材料及仕上げは全然同一とせねばならぬ事は言を俟たない。

書き來つて顧れば、何だか取止めない下手なホテル講義の様なものになつてしまつたけれ共實際圖面を見ても實物を見ても一寸氣のつかぬ事が多いので、新大阪ホテルの家具に就て書いたと云ふより、こんな具合で兎にも角にも同ホテルの家具設計に當つたものと思つて戴きたいのである。

此外以上述べたより以上大切と思はれるのは、特殊事務家具、及雜家具殊に地下大倉庫の各種棚類である、裝飾的のものは早くいへばどうでもよい様なもので、あるけれ共、種々の酒類や鑵詰類を始め無數の食料品を入れる棚、箱類、リネン關係の棚、箱類、仕事台等は實用關係にて、些細の融通も利かない、非常な重いものを入れるもの等木柄、材料、製作方法等に就て帝國ホテル其他へ幾度か實地見學研究をしたもので聊か書添へ御參考に供し度いのであるけれ共餘白なき爲め筆者の甚だ遺憾とする處である。

新大阪ホテル　一階中央ホール



新大阪ホテルの構造及强度計算

竹　内　政　治

新大阪ホテルの構造計算概要を要　致されたるも、本來該構造設計は現大阪府營繕課長川口先輩の手になるものであり、小生は當時全く其の一助手として仕事に關係致したるに過ぎず、都合により小生が代筆する事になり簡單に概說する次第である。

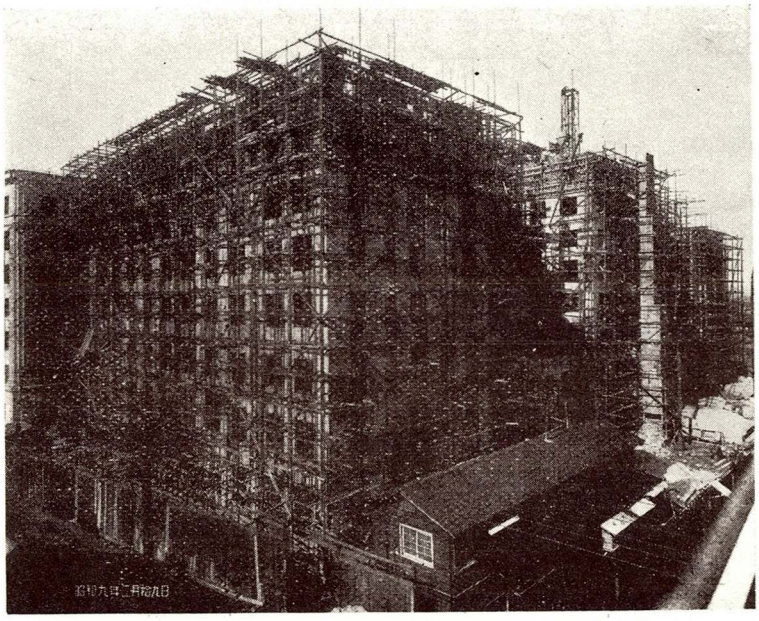
新大阪ホテルは御承知の通り大大阪の文化施設として有數の大營造であり、是が設計内容に於ても幾多當事者の研鑽を重ねられたるものであり、加之ホテルと稱する類の建築があらゆる建築に比し、諸機能に於ける有機的結合牽聯を最も要求される事は論を俟たぬ譯である。則ち構造主體に於ても一切附帶設備の諸機能に背馳せず充分合理的構法を適用する必要あり、當時に於ては柱相互の配置、梁の架設法等に細心の注意を要した次第である竣工せる現在に於て尙不都合の點あらば研究未だしの非難は甘んじて受ける心算であるが當初に於ては全く最善の努力を拂つた事を認められたい。

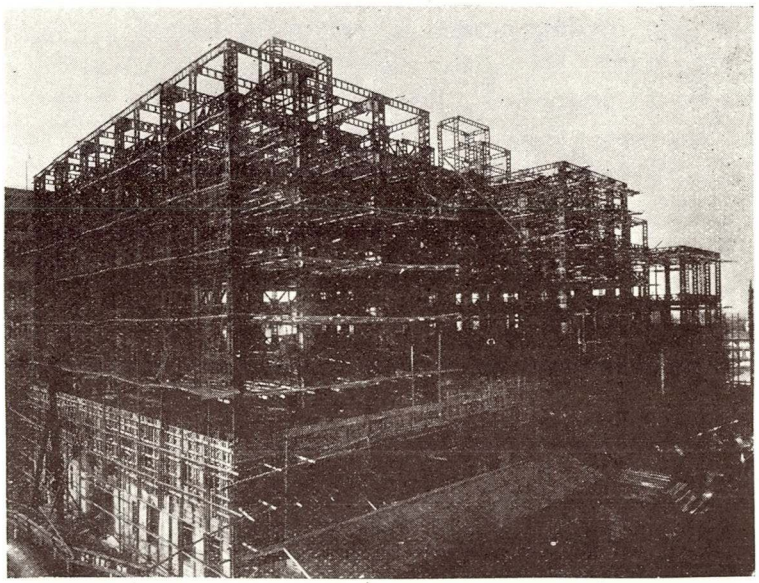
就中最も苦しんだのは煖冷房ダクトの横走又は立上り配置に對し是を如何に梁又は柱に抱き込み又は馴ませるかの點であり、爲に架構法には多々考慮を要したのであつて、健全なる人體が胃腸の所在を忘れると同樣健全なる建築は如上の各機能がその所在を露骨に示さずして機能全からしむべきを期したのである。因て該構造設計は「ビーム・プラン」「スケレツトン・アウトライン」の完成により先づ仕事の過半を了したもので以後の計算法に至つては敢て論ずる程の難しい事はやつて居らぬ積りである。則ち「スロープ・デフレクション」法により架構解法を逐次に行つた次第である。

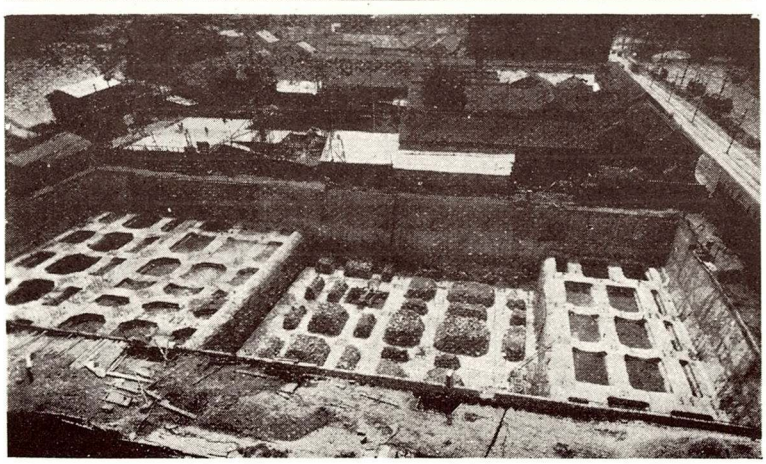
尤もその解法の内容に到つては川口氏獨得の「プロセス」を用ひられたる事を特筆する次第であるが、その說明は只今は御免蒙りたい。

構造概要　建築平面は東西 36.4 米、南北 80.02 米、地盤面周圍には 1.8 米の空濠を廻らす、北側は地下一階共七階にして中央は地下二階共十階建、南側は地下一階共九階建の三大「ブロツク」よりなる、第一階外壁眞線内面積 2,725.666 平方米、第一地階擁壁眞線内面積 3,115.48 平方米である。主體は鐵骨鐵筋コンクリート造、震度 0.1 の耐震耐火構造である。鐵骨は鋲鋲に因ると雖も要所に於て計算外に電氣熔接補强をなす。鐵骨の加工並に熔接加工は三菱及川崎造船所の施工に因るが故に豫想外の好成績を收め得たと聞いて居る。基礎は第一第二地階を廻つて「ベタ」基礎地行となし、柱下を中心に杭長24米及20米、末口25糎の米松杭打として耐荷力25噸となした。是は50噸の載荷累積試驗四週間に於て沈下量約 1.5 糎止りなるを認め、其の半分25噸を以て安全耐荷力と確認したのである。

「ベタ」基礎より連續して擁壁を立上げ一切外防水仕舞となして充分水壓に耐えしむる方針をとる、第二地階の兩翼には埋殺「ラルゼン」I_a 型矢板攻めとして是を夫々第一地階下「コンクリート」製「アンカー・プレート」と「タイロツド」を以て繫結す、基礎繫梁はその主要なる梁通りに於て鐵骨枕梁を鐵筋に代替せしめ以て大なる負曲能率に耐えしむるも







のとす。

尙上部鐵骨柱は殆ど Box 型、等脚L八枚組を以てし梁も同斷等脚 L Box 型として柱梁の仕上見付は同巾となる如く計畫した。

尙餘談であるが杭は一切「マキナンテリー」杭打機 9—B 型、又は油谷 B II 型複動式により一日二臺乃至三臺運轉別圖の如き工程により杭打を爲し、大體打止沈下量により算定された耐荷力は30噸內外であつた「コンクリート」工事に就ては、基礎は「イナンデータ」使用、上部主體に於ては「ワーセクリータ」を使用特に上部「コンクリート」に於ては水セメント比並に「ウヲーカビリテイー」の點に考慮を拂ひ、先づ規定 45瓩/糎² 以上の强度を得たのである。構造計算は單にその一例のみを示して繁雜を避けたので、計算の順序としては可及的系統的に處理する事に勉めたのである各荷重の假定は次の如くである。次に水平荷重を算定し各架構の横力分布係數を定め、各架構に就き解法をなして後各部材斷面の決定に移つたのである。以下その斷片を記す事により大體の傾向を示すに止めたい。

荷重算定規準

a. 各床荷重

各床ノ動荷重及靜荷重及地震ニ依ル荷重ハ次ノ標準ニ從ヒタリ

地震ノ震度ハ 0.1 トスルモノトス.

床荷重表

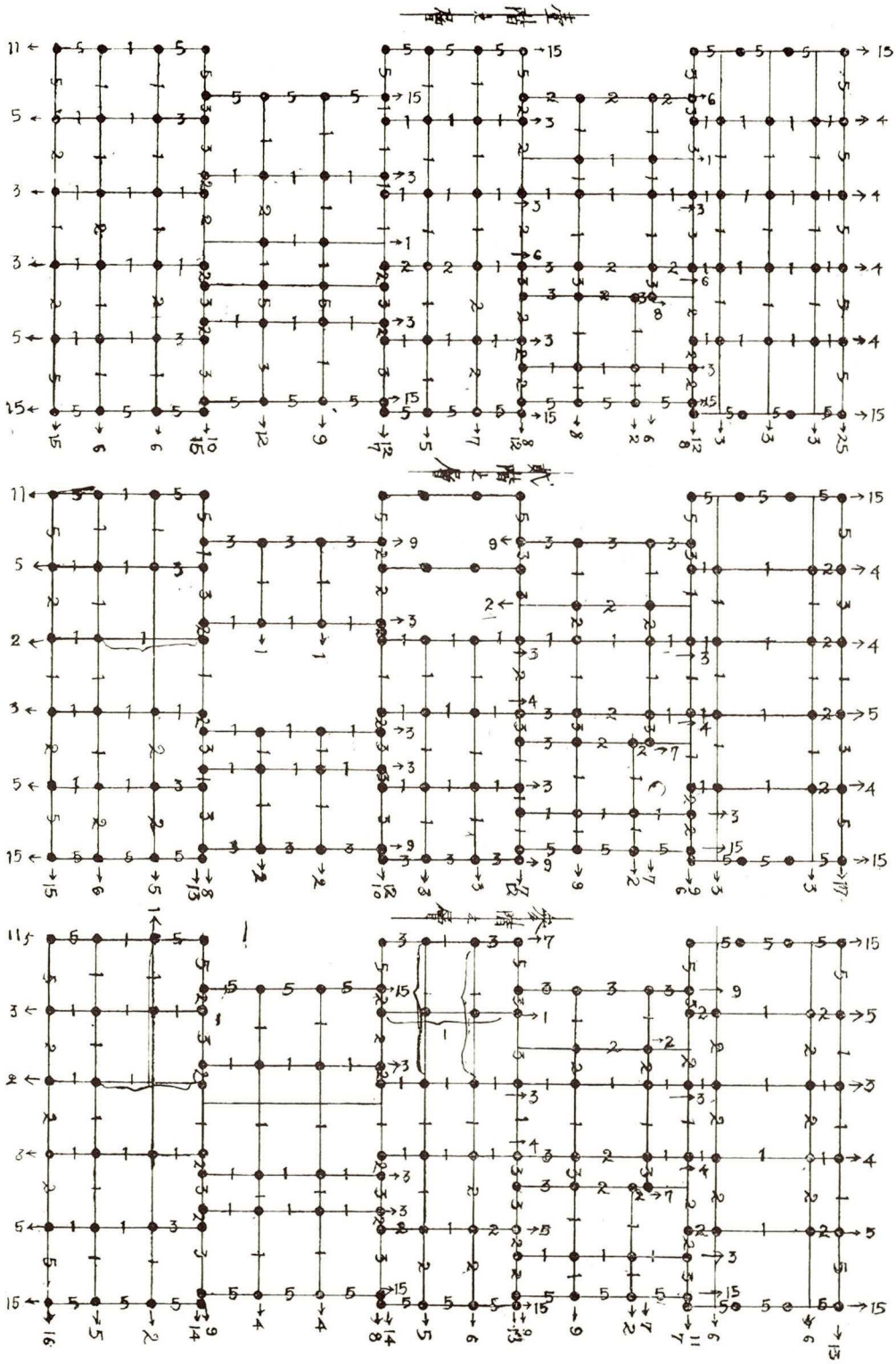
用途別	垂直荷重ニ對シ						地震荷重計算ニ對シ		
	床版 (自重 345 kg/m²)			小梁	大梁	柱	床ノ一m²ノ面積ニ就キ		
	動荷重 kg/m²	仕上ゲ kg/m²	計 kg/m²	kg/m²床	kg/m²床	kg/m²床	動荷重 kg	靜荷重 kg	計 kg/m²
旅館客室	300	100	750	720	790	830	150	630	780
人出入ノ多キ室	150	150	650	640	720	780	80	670	750
事務室	370	100	820	790	850	880	190	620	810
一階事務室	〃	50	770	740	800	860	190	570	760
広間廊下等	500	150	1.000	950	1.000	1.020	250	670	920
宴会場等	500	100	950	900	1.050	1.080	500	620	1.120
各作業室	750	50	1.150	1.080	1.100	1.120	500	570	1.070
電気室等	750	50	1.150	1.080	1.100	1.120	750	570	1.320
倉庫等	1.250	50	1.650	1.550	1.600	1.650	1.250	570	1.820
タンク室	2.000	50	2.400	2.200	2.300	2.400	2.000	620	2.620

備考　上記ハ各床面積一平方米ニ就イテノ荷重ヲ示ス

市街地建築物法施行規則第百五條第三項ノ規定ハ之ヲ參照シタリ

各架構水平荷重ノ算定　計算例ハ柱 C_{16} 及 C_{16} ヘ通リ架構ニ就テ示ス

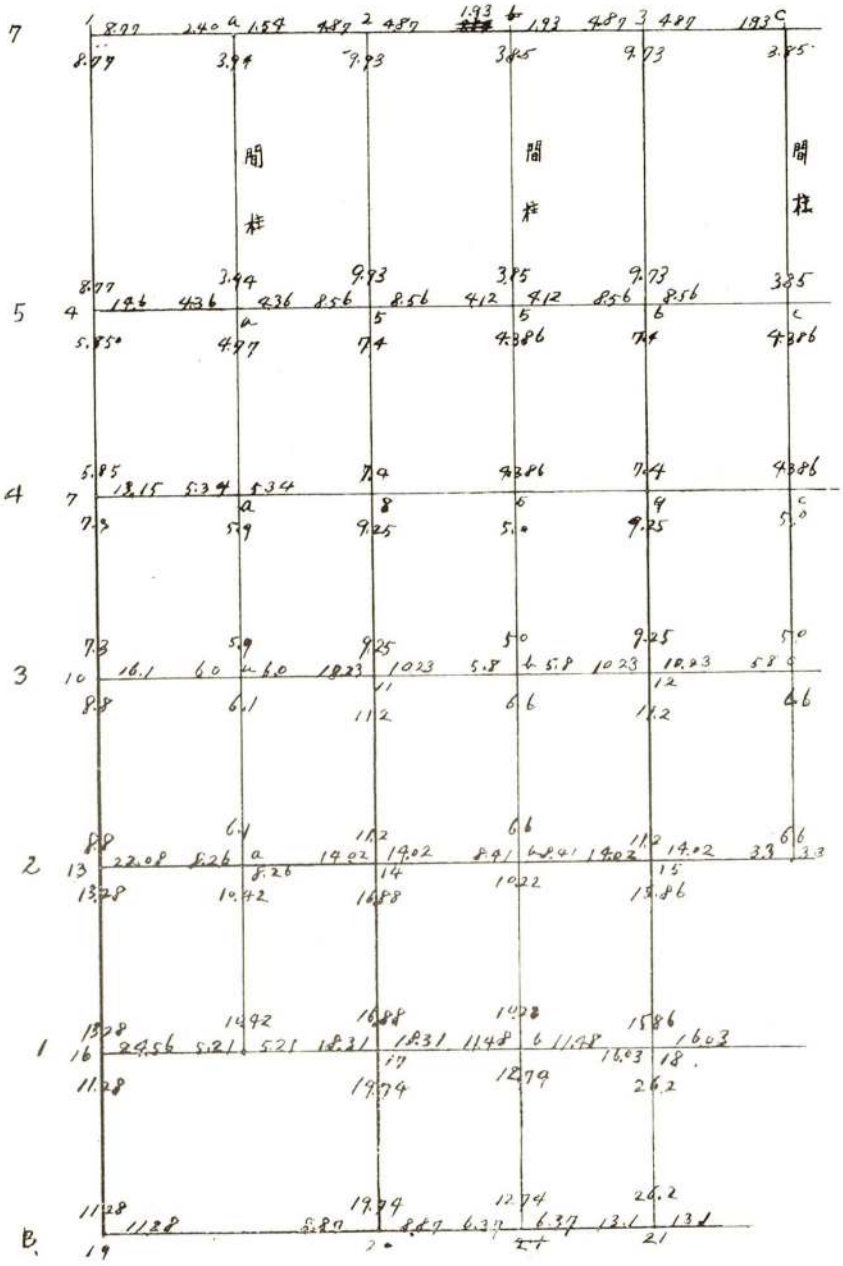
Floor	全水平荷重	イ－イ方向		1－1方向		架構16,－16,ノ水平荷重	F階ノ階高
		分布係數	單位架構P	分布係數	單位架構P		
R	62.20 ton	39	1.60 ton	40	1.54 ton	29.3 ton	3.30 m
8	83.47	39	2.14 ton	40	2.10	40.0	3.15
7	82.88	39	2.13	40	2.07	39.3	3.15
6	83.06	39	2.12	40	2.08	39.8	3.30
5	84.34	39	2.16	40	2.11	40.0	3.30
4	84.74	39	2.17	40	2.11	40.0	3.80
3	81.51	39	2.09	37	2.20	35.2	3.80
2	84.57	41	2.00	39	2.17	32.7	4.40
1	92.21	41	2.19	42	2.20	33.0	3.60



仮定地力分布系数

第3行架橫解法

Moment due to Horizontal load. (unit. ton.m).

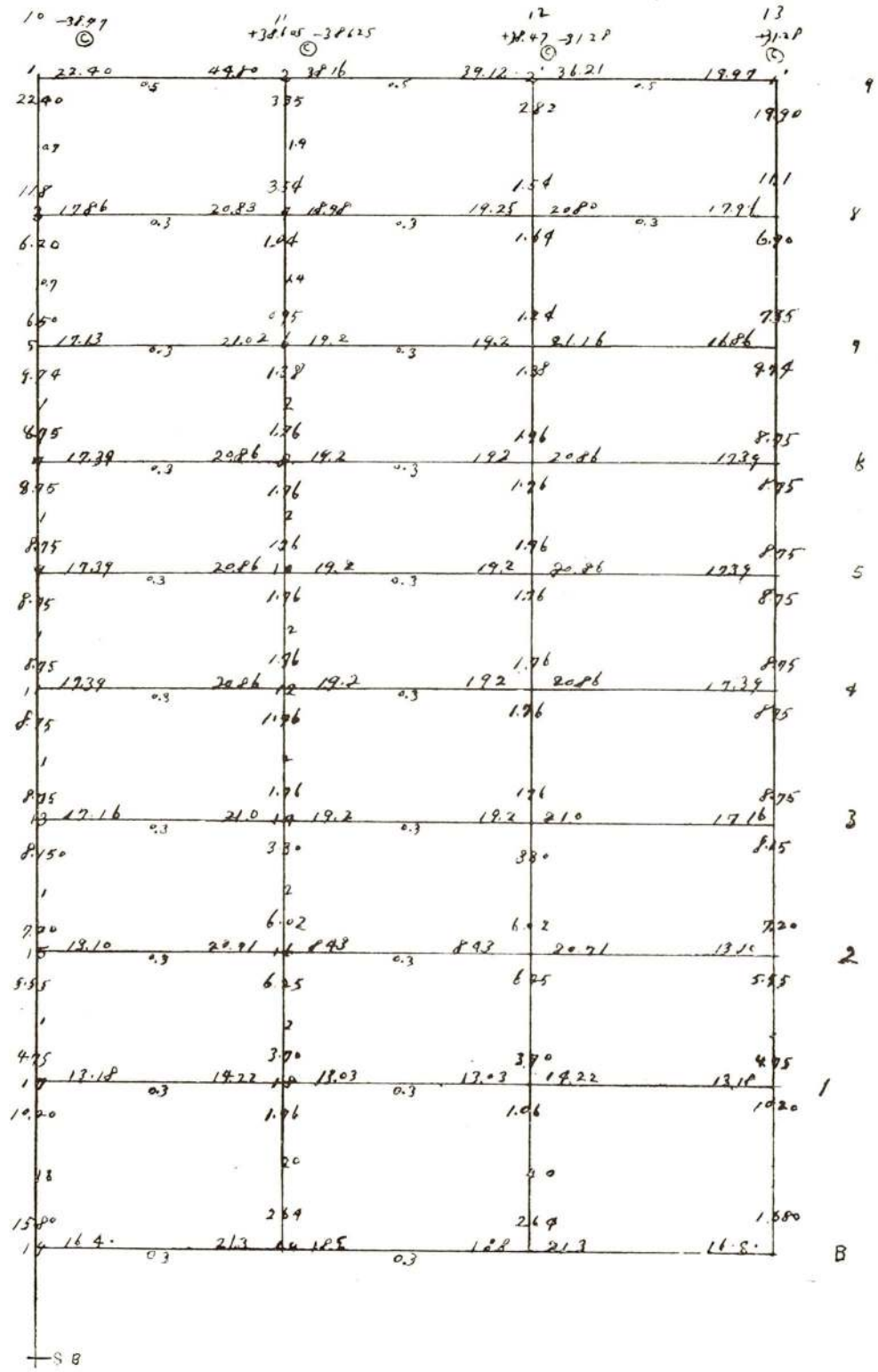


α_1	+0.705
α_a	-0.026
α_2	+0.545
α_b	+0.027
α_3	+0.545
α_c	+0.027
u_7	+6.5
α_4	0.625
α_d	0.103
α_5	0.368
α_e	0.138
α_6	0.368
α_f	0.138
u_5	4.80

α_{13}	-1.42
α_a	0.162
α_{14}	0.83
α_8	0.226
α_{15}	0.99
u_2	10.9

α_{16}	2.62
α_{17}	1.21
α_{18}	0.255
α_{28}	0.132
u_1	13.5

ハーハ通 10-13架構 Moment due to Vertical Load (unit Tm 単)



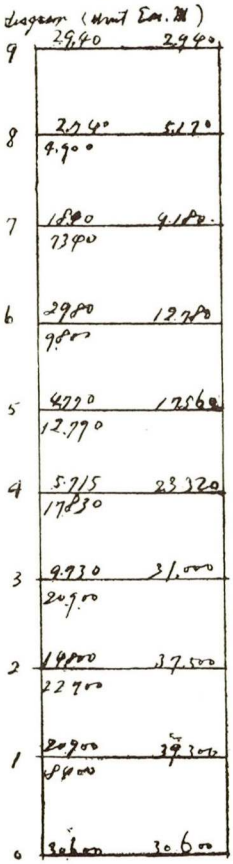
ハ一ハ通 10-13架横

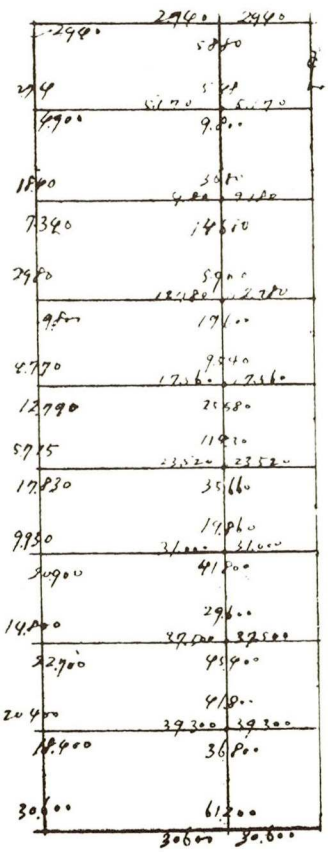
Moment due to Horizontal load

	J	ξ	δξ	Bx 1/2EK	α	βl 1/2EK	θ 1/2EK	Cn 1/2EK	C'n 1/2EK	δR 1/2EK	3R 1/2EK	
9	3.7	0.7	0.5	3.23		1970	-1970	3.23	4600	-27910	-13.960	9
8	3.2	0.7	0.3	10.00	0.230	5350	-5.800	6.767	9.65	-57.97	-28.740	8
7	3.5	1.0	0.3	17.00	0.212	8900	-10.140	10.333	10.32	-84.24	-42.120	7
6	3.8	1.0	0.3	25.00	0.286	17.6	-19.500	14.667	14.667	-116.442	-58.220	6
5	3.8	1.0	0.3	33.167	0.286	15.400	-19.525	18.50	16.500	-156.875	-78.440	5
4	3.8	1.0	0.3	46.167	0.286	21.000	-26.600	27.667	27.667	-211.267	105.630	4
3	3.8	1.0	0.3	62.334	0.286	27.000	-34.600	37.667	34.667	-263.567	-131.80	3
2	3.8	1.0	0.3	78.337	0.286	31.800	-41.700	43.667	43.667	-299.432	-149.700	2
1	4.0	1.0	0.3	99.339	0.286	31.70	-43.555	48.667	40.500	-272.43	-136.20	1
0	3.0	1.2	0.3	48.667	0.4	16.226	-32.626					

$$\delta R_n = 3\Theta_n + 3\Theta_{n-1} - \frac{C_n}{2E\sqrt{\xi_{n-1}}} = 3\Theta_n + 3\Theta_{n-1} - \frac{C_n'}{2EK}$$

Unit Rotam diagram (unit Exx.K)





柱断面決定例

柱 $C_{1,\ II\ 12}$

		ハ-ハ方向		イ-イ方向	
		M t/m m	p ton	M ton m	p ton
八階	V.L	3.35	54.80	34.4	54.80
	H.L	5.85	0	3.86	0.66
	Σ	9.20	54.80	38.26	55.46
七階	V.L	1.64	109.70	16.56	109.70
	H.L	9.80	0	6.30	2.86
	Σ	11.44	109.70	22.86	112.56
六階	V.L	1.76	105.60	18.50	165.60
	H.L	14.68	0	9.00	6.98
	Σ	16.44	165.60	27.50	172.58
五階	V.L	1.76	221.50	18.00	221.50
	H.L	19.60	0	12.80	12.82
	Σ	21.36	221.50	30.80	234.32
四階	V.L	1.76	278.40	17.20	278.40
	H.L	25.58	0	18.85	21.44
	Σ	27.34	278.40	36.05	309.88
三階	V.L	1.76	325.20	15.64	325.20
	H.L	35.66	0	31.20	30.84
	Σ	37.42	325.20	47.84	356.04
二階	V.L	6.02	384.10	11.20	384.10
	H.L	41.80	0	17.52	41.72
	Σ	47.82	384.10	28.72	415.82
一階	V.L	6.25	406.70	2.03	406.70
	H.L	45.4	0	15.70	53.32
	Σ	51.65	406.70	17.73	460.02
地階	V.L	2.64	439.80	3.64	439.00
	H.L	61.20	0	22.67	59.72
	Σ	63.84	439.80	26.31	498.72
基礎	V.L				
	H.L				
	Σ				

八階

8-130×130×12　$A = 276$　$W_{I-I} = 5540\ cm^3$

$$f_{I-I} = \frac{5546}{276} + \frac{38260000}{5540} = 200 + 690 = 890\ kg/cm^2$$

七階

6-130×130×12
14~22 mmφ　$A = 217.8\ cm^2$　$W_{II-II} = 4500\ cm^3$　$W_{I-I} = 3140\ cm^2$

$$f_{II-II} = \frac{109.70}{217.8} + \frac{1144000}{4500} = 505 + 254 = 759\ kg/cm^2$$

$$f_{I-I} = \frac{112.56}{217.8} + \frac{2058000}{3140} = 520 + 655 = 1175\ kg/cm^2$$

（ハ-ハ方向 Reduce）

六階

8-130×130×12
14~22 mmφ　$A = 276\ cm^2$　$W_{II-II} = 6020\ cm^3$　$W_{I-I} = 5580\ cm^3$

$$f_{II-II} = \frac{165600}{276} + \frac{1644000}{6020} = 600 + 273 = 873\ kg/cm^2$$

$$f_{I-I} = \frac{172580}{276} + \frac{2750000}{5580} = 625 + 475 = 1120\ kg/cm^2$$

五階

8-130×130×12
540×9~2枚
14~22 mmφ　$A = 399\ cm^2$　$W_{II-II} = 5950\ cm^3$　$W_{I-I} = 6500\ cm^3$

$$f_{II-II} = \frac{221500}{399} + \frac{2136000}{5950} = 532 + 358 = 890\ kg/cm^2$$

$$f_{I-I} = \frac{234320}{399} + \frac{3080000}{6500} = 590 + 475 = 1065\ kg/cm^2$$

四階

8-130×130×15
540×12~2枚
14~22 mmφ　$A = 459\ cm^2$　$W_{II-II} = 7300\ cm^3$　$W_{I-I} = 7340\ cm^3$

$$f_{II-II} = \frac{278400}{459} + \frac{2794000}{7300} = 610 + 375 = 985\ kg/cm^2$$

$$f_{I-I} = \frac{389880}{459} + \frac{3605000}{7340} = 675 + 490 = 1165\ kg/cm^2$$

三階

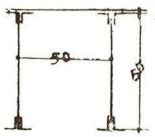
8-130×130×15
540×12~2枚
280×12~2枚
16~22 mmφ　$A = 515\ cm^2$　$W_{II-II} = 7850\ cm^3$　$W_{I-I} = 8400\ cm^3$

$$f_{II-II} = \frac{325200}{515} + \frac{3130000}{7850} = 630 + 400 = 1030\ kg/cm^2$$

$$f_{I-I} = \frac{356040}{515} + \frac{3820000}{8400} = 690 + 455 = 1155\ kg/cm^2$$

（ハ-ハ方向 Reduce）

地階及一階二階



8-130×130×15
770×12-1枚
540×12-2枚
280×12-2枚

$A = 637.2\ cm^2$　$W_{II-II} = 9850\ cm^3$　$W_{I-I} = 9450\ cm^3$

$$f_{II-II} = \frac{439800}{637.2} + \frac{4900000}{9850} = 690 + 500 = 1190\ kg/cm^2$$

$$f_{I-I} = \frac{498720}{637.2} + \frac{2120000}{9450} = 780 + 226 = 1100\ kg/cm^2$$

7. 各部材決定と応力算定　代表ハ重ナルモノヲ掲ケンソノ他ハ凡テ之等ニ準ジテ Dimensioning ヲ行ヘリ

柱 C₂ 11 12.

		1-1方向 M tonm	1-1方向 P ton	1-1方向 M tonm	1-1方向 P ton
八階	V.L.	4.50	48.60	4.80	48.60
	H.L.	5.85	0	1.08	0.28
	Σ	10.35	48.60	42.88	48.88
七階	V.L.	2.00	100.60	16.20	100.10
	H.L.	9.80	0	2.50	0.925
	Σ	11.80	100.60	18.70	101.03
六階	V.L.	2.00	153.60	21.00	153.60
	H.L.	14.68	0	4.32	2.1
	Σ	16.68	153.60	25.32	155.7
五階	V.L.	2.00	208.10	19.0	208.10
	H.L.	19.60	0	6.15	3.86
	Σ	21.60	208.10	25.15	211.96
四階	V.L.	2.00	262.60	20.7	262.60
	H.L.	25.58	0	9.0	6.24
	Σ	29.58	262.60	29.7	268.84
三階	V.L.	2.00	317.00	19.5	317.00
	H.L.	35.66	0	8.6	9.44
	Σ	37.66	317.00	28.1	326.44
二階	V.L.	3.00	375.60	15.12	375.60
	H.L.	41.80	0	20.80	9.64
	Σ	34.80	375.60	35.92	385.24
一階	V.L.	1.00	396.30	14.80	396.30
	H.L.	45.40	0	17.6	15.30
	Σ	46.40	396.30	32.40	411.60
地階	V.L.	1.00	429.40	23.76	429.40
	H.L.	61.20	0	21.72	18.83
	Σ	62.20	429.40	45.48	448.23
基礎	V.L.				
	H.L.				
	Σ				

八七階　8-130×130×12
22mmφ-14　下ニ全ジ

$f_{t-1} = \frac{4888}{276} + \frac{4288.000}{5580} = 17.7 + 77.0 = 94.7\ kg/cm^2$

六階　8-130×130×12
22mmφ-14

A=276 cm²
W_{t-1}=6020 cm³
W_{1-1}=5580 cm³

$f_{t-1} = \frac{153600}{276} + \frac{1668.000}{6020} = 555 + 277 = 832\ kg/cm^2$
$f_{1-1} = \frac{155.700}{276} + \frac{2532.000}{5580} = 565 + 455 = 1020\ kg/cm^2$

五階　8-130×130×12
540×9-2PL
22mmφ-14

A=399 cm²
W_{t-1}=5950 cm³
W_{1-1}=6500 cm³

$f_{t-1} = \frac{208.100}{399} + \frac{2160.000}{5950} = 525 + 364 = 889\ kg/cm^2$
$f_{1-1} = \frac{211960}{399} + \frac{2515.000}{6500} = 530 + 390 = 920\ kg/cm^2$

四階　下ニ全ジ

三階　8-130×130×15
540×12-2PL
22mmφ-14

A=459 cm²
W_{t-1}=7300 cm³
W_{1-1}=7340 cm³

→ハンチ迄 reduce
$f_{t-1} = \frac{317000}{459} + \frac{3140000}{7300} = 695 + 430 = 1125\ kg/cm^2$
$f_{1-1} = \frac{326440}{459} + \frac{2810.000}{7340} = 715 + 382 = 1097\ kg/cm^2$

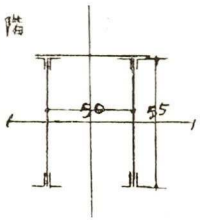
二階　8-130×130×15
540×12-2PL
280×9-2PL
22mmφ-14

A=515 cm²
W_{t-1}=7850 cm³
W_{1-1}=8400 cm³

$f_{t-1} = \frac{375.600}{515} + \frac{3480000}{7850} = 730 + 445 = 1175\ kg/cm^2$
$f_{1-1} = \frac{385740}{515} + \frac{3542.000}{8400} = 750 + 430 = 1180\ kg/cm^2$

一階　下ニ全ジ

地階



PL-1 130×130×15
770×12-1PL
540×12-2PL
280×9-2PL
14~22mmφ

A=625 cm²
W_{t-1}=9850 cm³
W_{1-1}=9400 cm³

→ハンチ迄 reduce
$f_{t-1} = \frac{42940}{625} + \frac{4965000}{9850} = 685 + 500 = 1185\ kg/cm^2$
→ハンチ迄 reduce
$f_{1-1} = \frac{44823}{625} + \frac{3625.000}{9400} = 715 + 385 = 1200\ kg/cm^2$
(着目ニ於ケル280×12mmJハ2PLトス)

梁断面決定例

大梁　屋根
B3ほにはI
（八幡製場屋根梁）

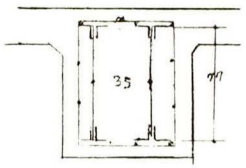
モーメント M tm

	端部M	025柱際	1.00m	2m	l/3=3.03m	4.30m	5.00m	2l/5=6.06m	中央
	VL	-89.00	-46.97	+10.18	63.18	83.08	101.48	129.18	148.78
	H.L	5.60	4.85	4.10	3.36	2.60	1.85	1.12	0
	Σ 1.10x	-94.60	-51.82	+14.28	66.54	85.68	103.33	130.30	148.78

剪力 S ton

	025柱際	1.00m	2.00m	l/3=3.03m	4.30m	5.00m	2l/5=6.06m	中央
	57.65	56.15	54.15	30.60	28.05	26.65	3.18	0
	.70	.70	.70	.70	.70	.70	.70	0.7
	58.15	56.85	54.85	31.30	28.75	27.35	3.88	0.7

中央



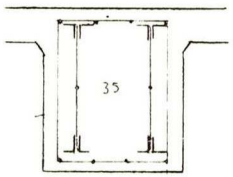
材
Z~130×130×12L
4M~28×12
8~19mmφ
ﾌｰﾌﾟ9mmφ~25cm@
t.p 190×12mm
各端3ヶ所 19mmφdia

断面率 = 13,100 cm³
M_R = 150,600 t·cm
安全ｹﾘ

$\bar{y}$ = 73.75 cm plate ﾊ 173cm

4~28×12ﾌﾅﾅﾄ
W = 7.260 t
M_R = 95.10 tm
ﾌﾗﾝｼﾞ増板ﾊ中央部 70cm ﾃﾞ使用スレバ安全ｹﾘ
端ﾖﾘ40cmﾉ所, moment -14.80 tcm
増板, rivet pﾊ $p = \frac{173 \times 2.1 \times 6 \times 4}{31.30} = 47.3$ cm 間ﾃ16cmﾄｶIBﾄｽ
ﾀｲﾌﾟﾚｰﾄ pitch
ｺﾝｸﾘｰﾄ抵抗ｶ60cmﾄｽﾚﾊﾞ Hoopﾅ f_s = 308 kg/cm
$p = \frac{3.420 \times 3 \times 2 \times 73.75}{56.68 - 73.75 \times 308} = 44.6$ cm
反 $p = \frac{3.42 \times 6 \times 73.75}{31.30 - 73.75 \times 308} = 18.3$ cm
両ﾌ端端附近ﾊ 40cm @ 以内
中央部附近 60cm 以内位ﾊ
50cm 以内ﾄｽ

端



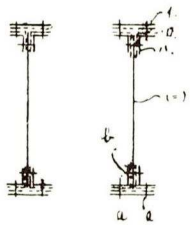
Z~130×130×12L
8~19mmφ
ﾌｰﾌﾟ9mmφ25cm@
t.p. rivet 仝上

$\bar{y}$ = 150 cm
M_R = 106 ﾄﾝ
断面率 = 11,820 cm³
M_R = 136.600 t·cm

鉄骨負担ﾓｰﾒﾝﾄ M = 84.00 t·cm

リベット ① 12本宛ﾄｽﾚﾊﾞ　応力 < $\sqrt{\left(\frac{8400}{112 \times 12 \times 2}\right)^2 + \left(\frac{58.35}{48}\right)^2} = 3.350^t$ 故ﾆ安全ｹﾘ
② 各列 19本宛ﾄｼﾃ, C = 400×6 = 2,400
其応力 = $\sqrt{\left(\frac{8400}{2400}\right)^2 + \left(\frac{5835}{114}\right)^2} = 3.460^t$ ｵｹ

中央部 joint

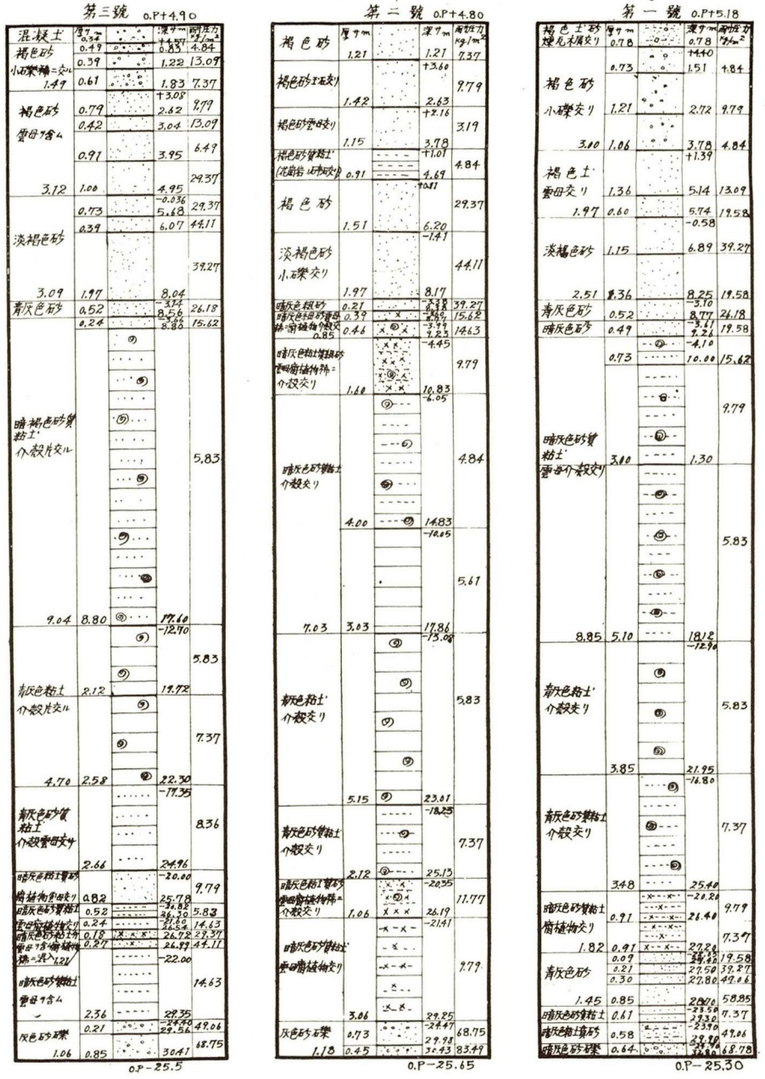


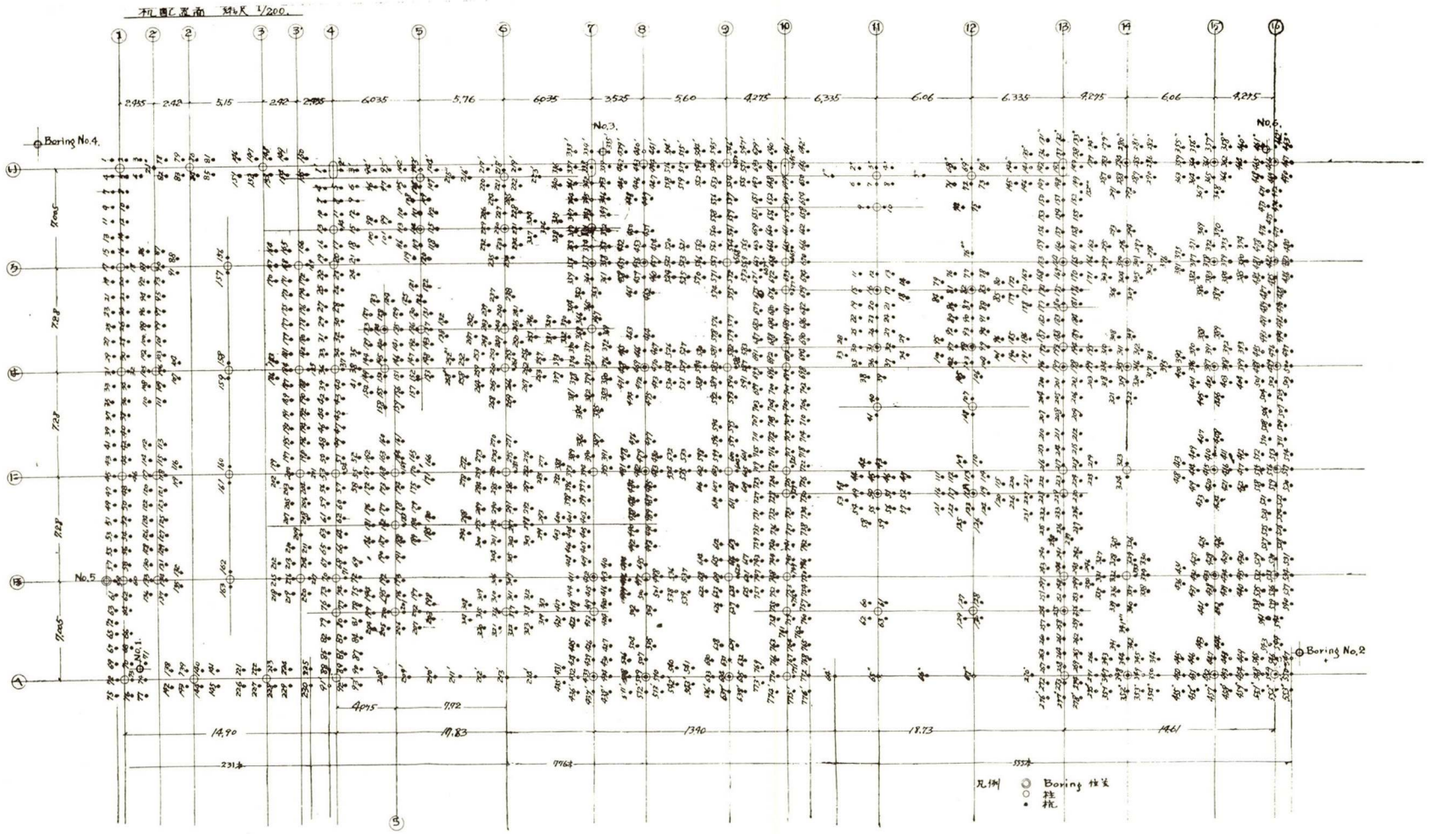
添接材
① 28×12ﾌ
② 11.5×12ﾌ
③ 11.5×12ﾌ
④ 76×12ﾌ

ﾌﾗﾝｼﾞ断面ﾃ
W = 1340 cm³
M_R = 154.50 t·cm
安全ｹﾘ

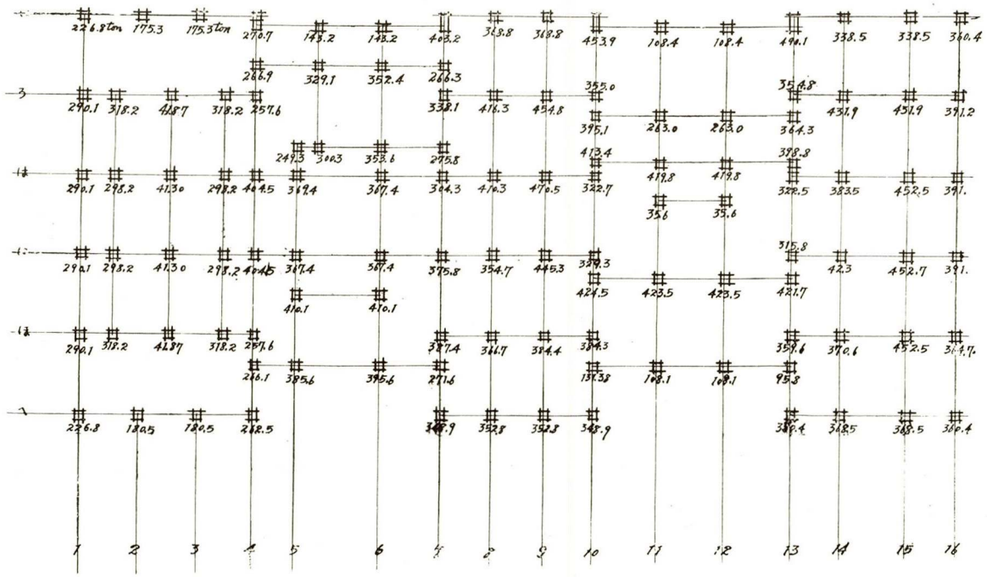
鉄骨負担ﾓｰﾒﾝﾄ
M = 139.20 t·m

ﾘﾍﾞｯﾄ　n = 11　L = 10
C = 4.358
ﾘﾍﾞｯﾄ応力 $p = \frac{139.20}{4358} = 32^t$
安全ｹﾘ

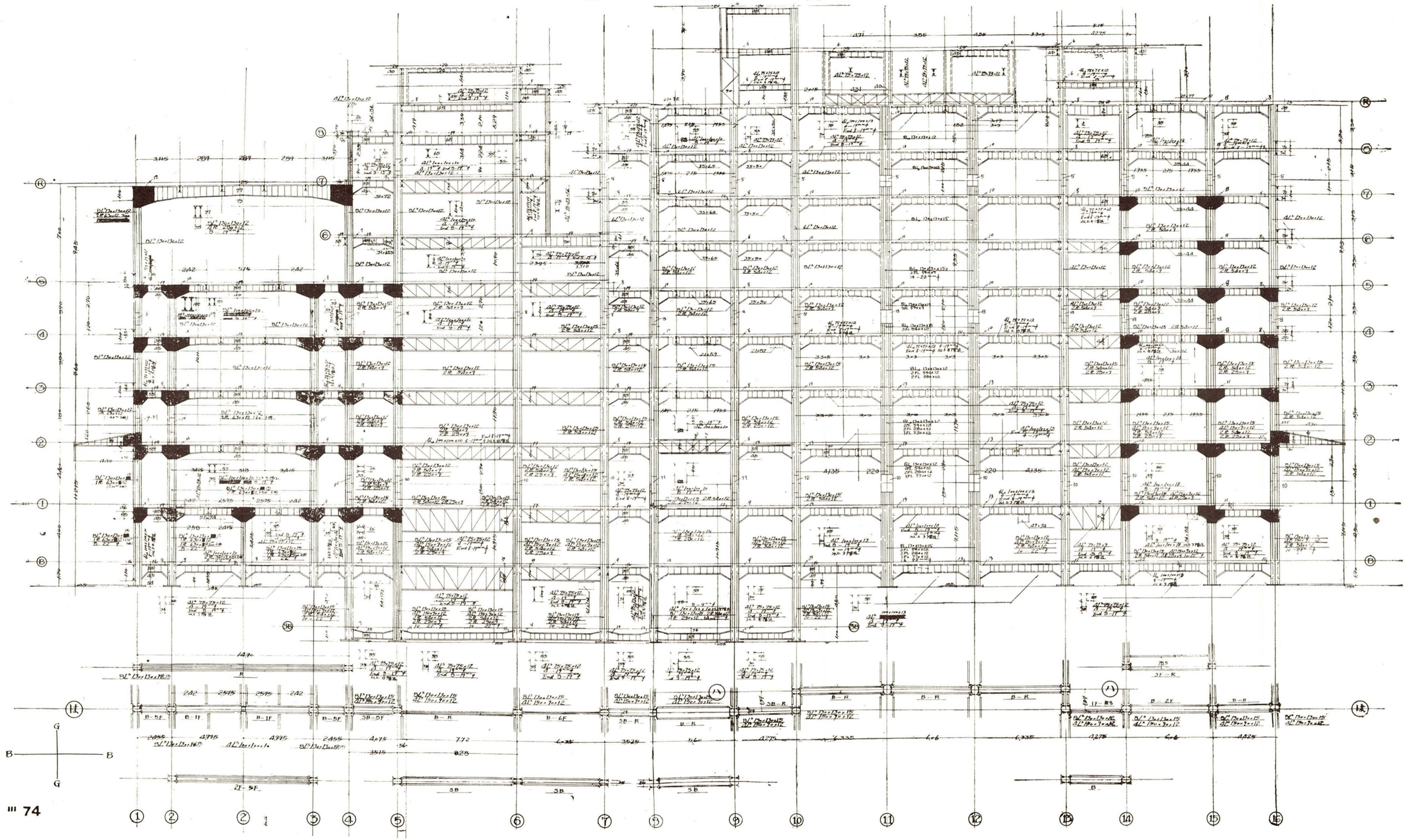

第三號 O.P+4.90
混凝土
褐色砂
小石粒交り
褐色砂
雲母ヲ含ム
淡褐色砂
青灰色砂
暗褐色砂質粘土
小殻片交ル
青灰色粘土
小殻片交ル
青灰色砂質粘土
小殻雲母交ル
暗灰色粘土質砂
暗灰色砂質粘土
雲母ヲ含ム
灰色砂礫
O.P−25.5
第二號 O.P+4.80
褐色砂
褐色砂工殻交り
褐色砂雲母交り
褐色砂質粘土
(流動指数 小殻交り)
褐色砂
淡褐色砂
小石粒交り
暗灰色粘土
暗灰色砂質粘土
雲母混粘土
小殻交り
暗灰色粘土
小殻交り
青灰色粘土
小殻交り
灰色砂礫
O.P−25.65
第一號 O.P+5.18
褐色土砂
腐朽木屑交り
褐色砂
小石粒交り
褐色土
雲母交り
淡褐色砂
青灰色砂
暗灰色砂
暗灰色砂質粘土
雲母小殻交り
青灰色粘土
小殻交り
青灰色砂質粘土
小殻交り
暗灰色粘土
腐植物交り
暗灰色砂質粘土
雲母混粘土
暗灰色砂礫
O.P−25.30


杭配置図 縮尺 1/200
Boring No.4
Boring No.2
No.5
No.3
No.1
見掛 Boring 位置
杭

基礎荷重一覧圖

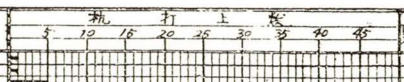

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

架　　構　　圖



杭打工程表 並杭打工出面

自昭和6年12月26日 至昭和7年5月31日



月日		杭番号	累計	杭打工	累計	備考
12	26	93'	13			
1	9	202'	2	18	31	
	10	92'-208'-211'	7	42	73	
	11	82'-91'	17	13	58	
	12	81'	18	13	71	
	13	73'-77'	25	18	89	
	14	226-227	28	17	106	
	15	73.74.76.	31	17	123	
	16	77 182-185 225.228 230	39	17	140	
	18	224-226 141.	44	10	150	
	19	64.68.70.71 138-140.405-408" 430" 435" 452" 66.	59	18	168	
	20	60.62 133 136 449"453" 530" 533" 536" 541"	67	19	187	
	21	535.537.539 542 544	73	13	200	
	22	45.47.48 546" 550" 552" 553"	81	18	218	
	23	72.	82	5	223	
	24	55.57.59 61.63.	87	17	240	
	25	45-49 51 53	98	18	258	
	26	38.39.54 56 589.589 591	101	11	269	
	27	28 122.130 405" 407" 545"	107	10	279	ハシマ改修ノ為ノ停止
	28	496" 537" 539" 543" 545"	112	16	295	旧ポルト改修ノ為ノ油谷ポルト装置
	29	528" 532" 535" 538" 539"	117	16	313	木揚ポイ取替
	30	522" 526" 528"	123	14	327	
	31	470" 513" 516" 517" 520" 521" 523"	130	14	341	
2	1	370" 455" 471" 472" 473"	136	15	353	ポルト改修ノ為ノ停止
	2	340" 470" 490" 500" 502" 503" 570"	142	11	364	
	3	27.494" 497" 500" 503" 505" 507"	150	13	377	
	4	21-26.29.379" 465" 467" 469" 478" 479" 499" 501" 502"	165	13	390	
	5	28.30-32 100 102.393 457"-459"	171	22	412	
	6	92-95 430" 435" 440"	181	17	429	
	7	101.103.105 387" 395"-455"-457"	191	16	445	
	8	12-15.17.19.20.101.27.275" 351"-353"	208	20	465	ハシマポルト復旧
	10	16.18.88-91 342" 346" 348" 350"	235	13	482	ハシマ取替
	12	33.35.37 165-263" 266" 267" 269" 393" 395"	236	18	500	波取替 キャリアウイング取替
	13	34.36.38-42 108.110.112.268 270" 272" 274" 276"-278"	255	20	520	傾斜取替 キャリアウイング取替
	14	109.111.113-115 47" 260" 265"	264	13	533	南下甲付ポルト 南側取替
	15	117.119.121 123-125" 265"	270	16	549	波取替 ハシマ取替 ヤット作業 南側甲付ポルト取替分ニ
	16	122.124.126 269" 270"	279	19	568	ハシマ並ニ外側取替 ケーブルウイング取付 ハシマ並ニ
	17	63.65.763"-768"	286	18	586	波取替
	18	120.235.432.437.438"	291	16	602	ウイング取付ケーブルヨリ取替
	19	118.121.123.125 511"-513" 630"-632" 635"	303	20	621	波取替 ブルール取替 モット付替
	21	127.129.131.132.137	307	20	641	
	22	106.113.115.117.120 566"-569" 590" 591"	321	19	660	波取替
	23	161-163.580"	321	12	672	波取替 ヤット取替ヘ ヤットヲ抜イテ打ツ停止
	24	192.194.196.198.200.582" 583" 628" 629"	331	10	682	波取替 ヤット取替ヘ ヤット3段キリ作業取替
	26	184.187.189.191.193.195.197 200 235"-237" 435"-439" 504" 505"	348	19	705	ヤット3段キ
	27	167.166.168.170.172.174.176.178.181.214" 423"-434"	365	18	723	波取替 ハシマ改修直シ
	28	156.158.160.162.164.166.168.170.172.174 180.182.185.189"-201" 204"-207" 273"	371	14	737	波取替
	29	132"-138" 203"	390	17	760	波取替ノ為メ中止
3	1	169 170 171 174 176 178" 179" 180" 183" 186" 188" 189"	402	12	772	
	2	166.168.170.172.174.176.178.180.182.184.186.188.190.192	415	13	785	
	3	19.22.124 126" 128" 132" 134" 136" 138" 140" 142" 144" 146" 148"	426	11	796	
	4	10.12.14.16.178" 182" 184" 186" 188" 190" 192" 194" 196"	440	14	810	
	5	11.17.130.131.132.134.161.182.184.187.188.192"	450	23	833	
	7	128.129.138.140.142.144.145.150.153.158"	462	23	856	
	8	123.125.127.129.131.133.135.137.139.141.143.145"	477	22	878	
	9	21.23.25" 27.29.31.33" 203" 205" 207" 209" 211" 213" 215"	488	24	902	
	10	101.103" 105" 107" 109" 111" 113" 115" 117" 119" 121" 123"	500	17	919	
	11	110.112.114.116.117.119.120.246" 248" 265"	510	21	940	
	12	99" 101"	514	8	948	
	13	100" 102" 226" 229" 232" 235" 253" 259" 264"	523	20	968	
	14	227" 230" 231" 233" 241" 245" 248" 249" 250" 251" 257"	536	14	982	
	15	223" 236" 238"-239" 246" 248" 249" 252" 254"	548	15	1004	
	16	229" 232" 235" 237" 239" 241" 243" 245"	556	12	1016	
	17	236"-238" 240" 242" 244" 246" 248" 250" 252" 254" 256" 258" 260"	566	14	1030	
	18	339"-341" 342" 345" 348" 446" 447" 470" 473"	576	14	1044	
	19	424" 425" 465" 469" 471" 472" 474" 475"	582	18	1062	雪気待チ
	21	526"-531" 540" 544" 548"	593	18	1080	
	22	579"	598	14	1108	
	23	333" 336" 380" 387" 478" 481"	604	22	1130	
	25	335"-340"	606	21	1151	
	26	341"-343" 345" 346"	611	19	1170	
	27	348" 467"-469" 472" 476" 477" 478"	619	19	1189	
	29	346" 342" 344" 347" 351" 354"	631	18	1207	
	29	351" 355" 357"	638	20	1227	
	30	333" 335" 353" 358" 460" 462"-469" 475"	636	11	1238	
4	1	359"-361" 472" 474" 477" 479"	642	13	1251	
	2	362"-364" 470" 471" 473"-475"-476"	652	14	1265	
	3	422" 425" 465" 467" 469"	657	13	1278	
	4	215"-219" 222" 461" 465" 468"	666	16	1294	
	5	97" 102"-104" 220" 221" 460" 464"	674	17	1311	
	6	97" 105"-107" 109" 355"-358" 362"	681	15	1326	
	7	1"-5" 96" 98" 358" 361" 363"-366"	687	18	1344	雨降ノ早仕引
	8	5"-9" 94" 370"-372" 385" 387"-389" 390" 391" 367" 368"	713	22	1366	
	9	133"-135" 137" 383" 385" 387" 389"	720	17	1383	
	10	131.140" 142" 144" 146" 181" 183"	727	17	1400	
	11	146 147 149 150 138" 141"-142" 146" 147"	737	22	1422	
	13	151"-155" 174" 180" 198"-152" 152" 291"	751	21	1443	
	14	3.6.21" 28" 30"-35" 1"-4" 68" 69" 71"-73"	771	22	1465	
	16	1.2.18.5.7 79" 81" 173" 639"-644"	781	15	1480	
	17	8-11.424"-426" 644" 649" 651"	793	15	1495	
	18	12.15.157.647" 648" 5945"-5947"	800	19	1514	
	19	557"	805	12	1526	
	20	532"-535" 548" 550" 552"-555" 557" 578" 602" 604"	821	17	1543	
	21	439"-441" 514"-517" 536" 538"-547" 600" 603" 606" 607" 608"	839	20	1563	
	22	606" 611"	847	15	1578	
	23	442"-446" 518" 519" 590" 601" 605" 609" 710" 711" 712" 715" 716"	867	5	1583	雨降ノ午仕引ク
	24	719" 722" 727" 731" 735"	875	23	1606	
	25	737" 738"	891	21	1627	
	26	717"-722" 186" 191"	913	25	1652	
	27	601" 625" 704"-708" 80" 85"-87" 122" 172" 173" 177" 178"	929	30	1682	
	29	611" 701" 703" 76"-78" 81"-83" 87"-88" 90"-91" 93" 95"	937	28	1710	
	30	612"-616" 622"-624" 622"-626" 629" 779" 780" 785" 791" 92"	977	26	1736	
		97"-99" 101"-103"				
		497"-498" 500"-503" 536" 539" 168" 174" 179" 182" 183" 187" 192"				
		196" 433"				
5	1	438" 494" 499" 193" 197" 200" 204" 205" 208" 448" 450" 452" 456"	997	12	1748	
	2	313.3191 446" 492" 169" 176" 177" 178" 180" 181" 183" 186" 188"	1027	30	1778	
		189" 190" 195" 196" 429" 432" 437" 484" 492"				
	3	448"-451" 311" 3091 360" 363" 184" 198" 202" 203" 206" 208" 209"	1062	26	1804	
		211" 212" 214" 215" 330" 332" 334" 336" 337" 429" 431" 434"				
	4	306"-312" 314" 318" 3035-307" 335" 336" 340" 202" 206" 213" 171"	1093	28	1832	
	5	386" 389" 390" 393" 3990" 397" 399" 402" 405" 176" 179"-299" 300" 101"	1098	28	1860	
	6	286" 287" 291"-293" 298" 299" 203" 396" 398" 299" 203" 396" 398"	1158	25	1885	
		400" 401" 403" 406" 406" 102" 187" 378" 381"-397" 324" 334" 396"				
	7	288" 285" 289" 294" 297" 304"-102" 306" 201" 405" 407"	1164	29	1914	
		308"-312" 318"-316" 318" 324" 3162				
	8	476" 477" 479" 480" 481"	1169	10	1924	
	9	270"-283" 287" 288" 291" 392" 295" 478" 481" 482" 488" 486"	1209	31	1955	
		180" 182" 177" 18" 21" 25" 27" 29" 12" 28" 31"				
	10	11" 16" 18" 20" 22" 23" 25" 26" 28" 30" 32" 33" 35" 36" 38" 41"	1238	29	1984	
		2477"-2479" 2391" 2395"				
	11	212.213.215 216 218 490"-706" 236"-246" 327"	1272	29	2013	
	12	209.206.208 211 219 250 258 217 58"-72" 674" 688"	1320	28	2041	
		232"-235" 223" 230" 332"-334"				
	14	198.202.201.205 207 209 210 39" 60" 82"-86" 53" 55" 1786.1798'	1369	27	2068	
		521"-523" 181"-183" 185"-187" 571" 202" 205" 133" 196" 801"-803"				
		805" 806"				
	15	25"-28" 61" 64" 54" 57" 158" 162" 220" 110"-113" 223" 227" 231" 397"	1404	26	2094	
		395" 400"				
	16	152.151"-155" 55"-57" 62" 63" 42"-47" 49" 50" 52" 54" 59" 120"-122"	1440	29	2123	
		124"-126" 128" 129" 130" 132" 134" 136" 138" 139" 140"				
	17	380" 468"-471" 532"-535" 98" 98" 534" 537" 154" 181"-186"	1461	31	2154	
		316" 317"				
	18	41"-43" 54"-57" 116" 117" 163" 64" 41" 1435.m" 208" 2158"	1491	27	2181	杭頭揃シ為メヤット撤去
	19	36" 40"-42" 344" 345" 347" 348"				
		348" 467"-469" 538"-541" 542" 116"-120" 167" 672" 678" 688"	1538	25	2206	
		205" 208" 36" 362" 364" 372"				
	21	65" 662"	1546	13	2219	
	25	98 18" 242" 77" 78"	1577	9	2228	
	26	82" 84" 87"-88" 91" 92" 93" 94"	1586	9	2237	

新大阪ホテル設備設計施工の跡を顧みて

甲斐原四郎

昭和4年12月大阪市に國際ホテルを建設すると云ふ其の目論見書に要する設備概要の豫算を頼まれ、續いて此の設計より昨年12月落成迄5ケ年間の日子を費しました。最初豫算を作つた時は物價の安い時でありましたが、途中金の輸出禁止になり俄かに物價が騰貴し爲めに豫算の金では如何ともする事が出來なくなり、舶來品は全部和製と變更し、尙節約の出來る所は極力節約したる設計に變へましたが、尙餘儀なく多大の追加豫算を致しました。此の間相當の苦心をしましたが、又關係者方々の御了解に依つて設計も根本的に覆すにも至らず、私の希望を實現させて戴いた事は感謝に堪えませんでした。

扨て設計に取りかゝりますと、第1に定めなければならぬ諸設備の容量に就ては、幸ひ私が10年間程帝國ホテルに奉職して居て同所及び東京會館に於いて實際取扱つての上の「データ」がありましたし、又系數等を定めるに就ては小規模乍ら實驗等もして見、之れに「モダーン」ホテルとして米國一流ホテルの「データ」を雜誌や本の上で拾ひ參酌して定めました。帝國ホテルを建てる時は外人の設計に依つたが爲めに、日本人とは生活樣式に於いて異なる處があり都合の惡い處があつたと思ひます。例へば水や湯は日本人の方が多く使用致します。幸ひ開業當日より客室宴會共に滿員の盛況にて諸設備に全負荷の「テスト」をする事が出來ましたが、假定や推察に誤つた點のなかつた事をひそかに喜んで居ります。

次に建築の「プラン」に就てホテルはサービスを賣る所と申してもよい所でありますからサービスの爲し易いやうにしなくてはなりません。ホテル建築の最も他のビルヂングとの特異性は此處にあるものと思ひます、然も之れは多く所謂「バツクサイド」にあります、舞臺裏がしつかりして居ぬと立派な芝居は出來ません、私は設備の受持ちであるが同時に主として此の方も見ました。第1料理材料はホテルの何處の入口から入つて來るか、何處で檢査し何處の倉庫に入れるか、又生な物ならば「ブツチヤー」とか魚場、野菜場に入れ「フィレー」として冷藏庫に入り料理場配膳室を經て客の前まで出る、其「コース」が整然となつて居らねばなりません。又從業員が何處から入つて來て「タイムキーパー」より更衣室洗面所を經て各自の職場に就き、又は寢室、食堂、グリル、宴會場より洗濯室、用度、倉庫等に通ずる「コース」、さては從業員食堂又は從業員休憩室への裏通り、此の道が便利よく又不都合のない樣に昇降機裏階段又は「オーダーシユート」とか「ダストシユート」「リネンシユート」の如きもので接がれて居らねばなりません。

従來のホテルにては此の最も大切な點が最も缺けて居た樣に私は思ひましたので、之れを理想に近い樣なものにするに建築設計者と共に大いに苦心研究を致し現在出來て居る樣なものを設計しました。實に此の方面には最も力を注ぎ多大の「スペース」を割愛し、設備としても亦各所に4臺の自働式人荷用昇降機と2臺の「ダムウエーター」を置き、打合せ用として館內專用の自働式電話又は「ニウマチツクキヤリヤ」等も設けました。尙直通用の「インターホン」も目下追加設置中にて尙一層の徹底を期し度いと思つて居ります、畢竟するに人爲的「サービス」を出來る限り機械力に移し、人件費と無駄を省き其の上に敏速確實にし度い爲めであります。之れと同時にお客樣の出入口と從業員 商 人の出入口が定められたる所以外には絶對的にない事であります　最も大切な事の一つであります。又料理場が從業員の通り拔けの道路になつたり、お客樣が「トランク」や洗濯物と一緒に昇降機に乘り合はされたりする不都合のない樣にしました。

此のホテルの「バツクサイド」の連絡が從來のホテルの夫れより良好であると云ふ事になりましたならば、私共の苦心がほんとに酬ひられたものと思つて居ります。扨て設備夫れ自身の設計に就て思ひ出すまゝを、順序もなく記述して見度いと思ひますが、色々設計者の顏の異つて居る樣に考へ方は人々に依つて異なるもので、新大阪ホテルの設備設計が絶對的に最良のものとは私自身思つて居りませんが、相當苦心をし又之れも考へ方の一つであると云ふ程度に御了解を願ひます。先づ煖房及び冷房に就て帝國ホテルは長い間電氣煖房をして居り、最近溫水煖房に變更しました。溫水煖房にしたのは建物の構造より强制循環をしなければならぬからであります、夫れ以外の理由はありません。

新大阪ホテルの設計に當り非常に經費のかゝり保守に困難な電氣煖房は問題になりませんでした。保守に困難と申しましたのは電熱は家庭と異り大袈裟に使ふものでは電流が多くなり、饋電線から「コード」に至る迄太くなり接續個所の過熱を常に心配して居らねばなりません。然し便利なものでありますから此の度は夏冬の移りかわり目とか、病人の場合とかに煖房を通して居らぬ時、客の要求に應じて臨時に小型のものを入れられる丈けの程度にして置きました。次ぎに溫水煖房に就て考へて見ましたが、第一設備費が高くなり、第2に客室には餘分の「スペース」がないので極力「ラヂエーター」を小型にしたい、第3客は終日房室に居るものでなく晝は留守の時の方が多いので、其の間經濟上「ボーイ」が「ラヂエーター」を止めておき、歸へつて來て「ヴアルブ」を開き短時間に煖める、此の點病院の病室とは異るものであります。斯う云ふ使用には溫水よりも蒸汽の方が都合が良い、第4溫風を作つたり洗濯や料理に如何しても蒸汽が必要である關係上、溫水罐丈けでは間に合はぬ、汽罐室に溫水煖房丈けの設備を別にしなくてはならぬ、蒸汽煖房ならば「レデユーシングヴアルブ」があれば夫れでよい「スペース」の關係もある、斯う云ふ譯で蒸汽煖房を採用しました。ホテル側は8階なので「ダウンフイード」とし、宴會場は

5 階迄でであるから「アツプフイード」にしました。次ぎに冷房裝置でありますが目論見豫算を作りました昭和4年頃は未だ冷房裝置は大いに贅澤なものと考へられて居ましたし又餘り方々にもやつて居りませんでしたが之れから建てる「モダーンホテル」には是非採用せねばならぬと思ひました。

扨て採用するとすれば何處を冷房するか、全館にては費用がかゝる、客室にするか宴會室とするか、又食堂「ロビー」等の「パブリツク」ホールにするか相當議論もありましたが、結局「ロビー」、食堂、グリル等の所謂「パブリツク」ホールにする事に致しました。後ちに客室の一部と宴會場にも擴張しましたが初めは上記の所丈けでありました。冷房用「コンプレツサー」は機械室の床面積の最も少なくて濟む東洋キヤリヤのターボ式のものを採用しました、衛生設備にはホテルとしての使命上の一つとして最も金をかけたつもりであります。例へば浴槽の如きも陶器製にしました、尙箱型をやめて「スリーパー」型とし、日本人の標準身長に依つて特製せしめたのは無駄な湯を節約する爲めであります。200 以上の浴槽の數になり毎日使用すると大きい費用の節減になります。又浴槽の製作を內地陶器會社に依頼するに就ては、出來榮えと納期に對し、何分初めての大量注文であつたので可成りの英斷を要しましたが、陶器會社も非常に奮發して呉れ豫期以上の結果を納めました。配管に就ては「ブラスパイプ」の事を考へましたが、費用の點で取り止めました、只給湯管で循環系統から離れた岐管となる所は全部銅管にしました、給湯管に鉛管は絶對的に避けました、給水管として用ふる際も嚴重な檢査を致しました、排便管は勿論鑄鐵管とし其異型管に對しても特に檢査を嚴しくしました、井戸水は便器の流し水と屋外撒水機械の冷却水以外には使用しませんでした、尙井水の色度を考へて便器に薄い色物の採用も考へましたが、白色が最も衛生的に感じられると云ふ見地から取り止めにしました、井水は檢査の結果鐵分が多いので氣曝槽にて「エーレーション」を行ひ、「サンドフイルター」で濾過して用ひて居ります、可成り惡質の水の樣に思ひましたが充分なる「エーレーション」に依つて支障なく使つて居ります。別に過マンガン酸加里の如き藥物は使用して居りません。屋內を走る送水管の音に對しては流水の速度を比較的少なくするとか、「チエツキヴアルブ」を全部「スモレンスキー型」にするとか、「タービン」喞筒も製作者に音の點を注意するとかして可成り氣をつけました。煖房用蒸汽の「スチームハンマー」と共に客室として使用の出來兼ねる所の、出來る事を惧れたからであります。換氣に就ては客室及其の浴室、宴會室の便所、料理場及配膳室、地下室、洗濯室と各系統分けにしましたが、特に地下室の換氣は充分にし洗濯室及電氣室には排氣の外に送氣もなす樣にしました。ホテル建物の如く地下室に小さな室が澤山出來るものでは、特に此の部分の換氣は充分にする必要があると思ひます。之れは從業員の能率に大きい關係があります。又厨房には排氣と共に新鮮な空氣を送りますと、夏期暑熱に苦しむ頃は特によいと思ひましたが、

排氣に故障のある時直ちに厨房内の氣壓が高くなり、食堂其の他隣接の個所に臭氣を出す惧れがあるので、外國にては送氣もなして居る所もあるが、此の所では上記の様な理由で排氣のみに止めました。大阪は年中南西風が強いので此の風壓を避ける爲めに、料理場を東側に取つたのも一つは臭氣を館内に擴散せしむる事を惧れたからであります。

汽罐には水管式を採用しました、之れは料理場、洗濯場等に於いて多量の蒸汽を放出せしめる爲め煖房にのみ使用する場合と異なり、常に新しい水を補給せねばならぬ。從つて罐内に「スケール」が溜まりますから、焔管式の様に掃除の爲し難いものではよくないからであります、又其の容量を定めるには冬期最も忙しい時三罐用ひ、通常二罐として一罐を豫備とし、又夏期閑散なる時は一罐にて足りる様に容量を定め、大體に於て常に殆ど全負荷に使用し輕い負荷狀態で使用せぬ様にした事は、汽罐を出來る限り能率よく働らかせ燃料の經濟を計るつもりであります。又汽罐の常用壓力は100封度でありますが、「スーパーヒーター」を附し30度蒸汽を過熱して居ります。「ドレーン」が非常に少なく現在使用して結果は頗る良いと思つて居ります。

尙100封度の蒸汽を 75, 30, 15, 5 と種々壓力を變へて、夫々最も適當な壓力の下に使用して居ります。燃料は重油を使用しました。之れは主として汽罐室が第2地階にあり、石炭を用ふる時は相當の廣さの石炭庫が必要であります、之れが地下室に取り得なかつたからでありますが、又一つには勿論取扱ひに重油の方が便利であるからでもあります。朝日新聞社との間の掘割に重油船を入れ、船より直接道路の下に埋設してあるパイプに依つて第2地階の油槽に入れる仕掛になつて居ります。

電氣設備としては市電より 3,300 ボルトにて受電して居ります、二回線あり、一回線は豫備であります、館内第1地階に中央變電室と屋上に、客室側と宴會室側と各々一個所の變電室を設け中央變電室より之等に高壓にて配電し、又遠方操作式にて操作し、中央變電室以外には常時看視人を置いて居りません。之れは高壓配電に依つて設備費を安くすると共に、第1地階の如き利用率の高い所に廣い「スペース」を取らない事と、故障を區分的にする爲めであります。停電用としては蓄電池と「ガソリンエンヂン」直結の發電機とを備へたき希望を有して居ります。蓄電池は發電するまでの間を持ち耐え得る丈けの容量にて、又「ガソリンエンヂン」にしたのは起動が容易である爲めであります。總べて停電の際自働式に切り換る様にしました。

照明用の「アウトレツト」は光源を大きくして其の數を少なくする事を、又「コンビニエントコンセント」としての「アウトレツト」は充分澤山に出す様に心掛けました。照明用の「アウトレツト」を少くしたのは保守上より、又「コンビニエントコンセント」を多くしたのは便利の上からであります。

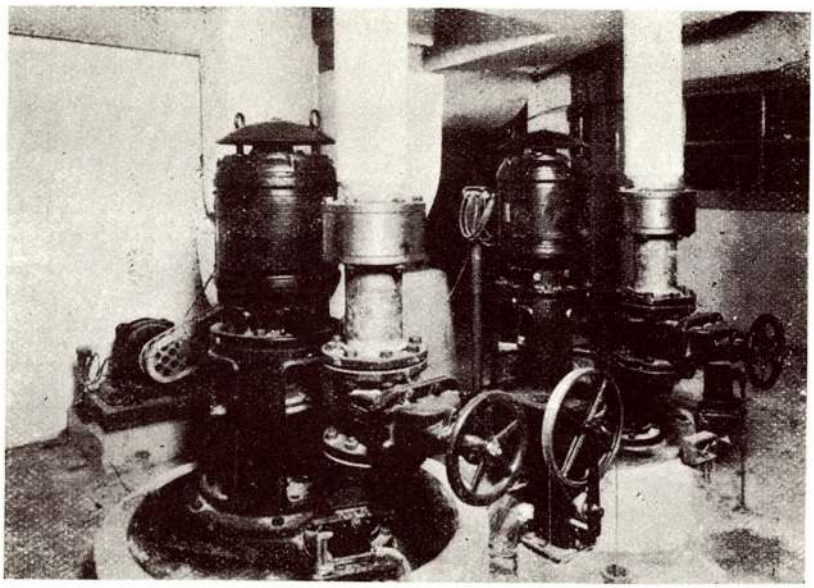
給仕呼出標示器、客の在不在の標示器等に新しく考案したものを使つて居りますが、好結果を得て居ります。

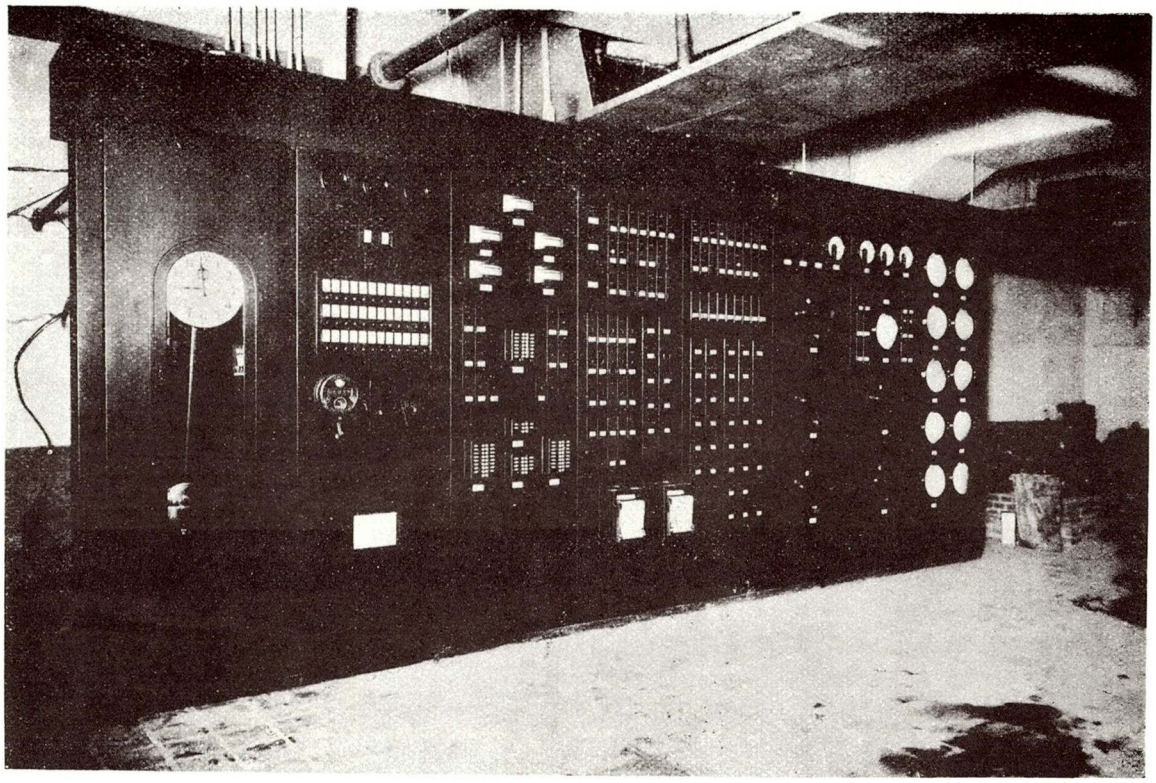
諸機械の故障標示遠方操作記錄計等を一列のボードに納め、衛生機械電氣を取纏めワンマンコントロールとする様に致しました。

之れに依つて非常に多數の看視人を省き、故障も未然に防ぎ猶經濟運轉に大いに役に立つて居ります。之れは出來上つて使用するまでは多少の疑懼を以て居りましたが、豫期以上の成功にて今後も此の方面には益々力を注ぎ度いと思つて居りますし、又將來出來る大きいビルデイングには此のワンマンコントローリングボードを必ず備へ、統制ある運轉と經濟運轉とに留意せられん事を希望致します。

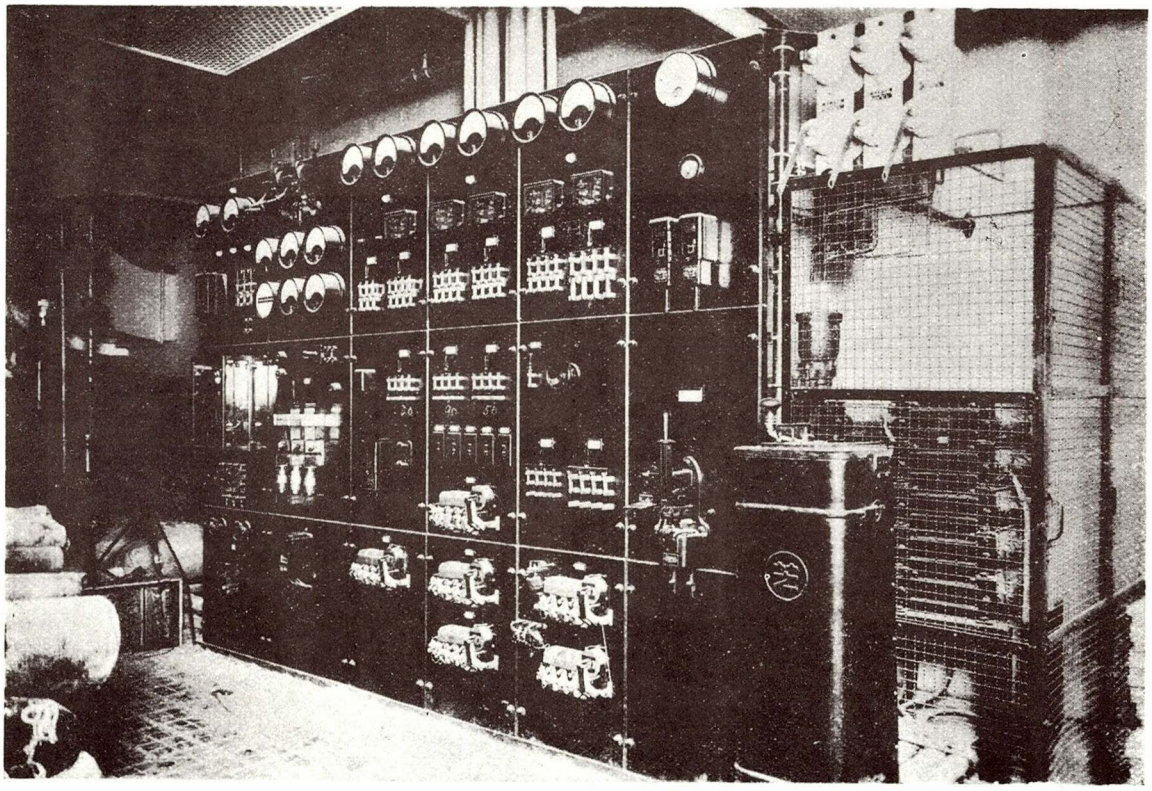
既にある建築に此のホテルと同樣の此の種ボードを設置する事を聞いて居ります。私としては心よいニユースと思つて居ります。猶本設備設計に於いては電氣、瓦斯、井水、市水、給湯、蒸汽等全部各係系統別にして各々計量器を以て計量し得らるゝ樣になつて居ります。原價計算を正確にすると共に營業上より無駄を省く目的であります。上に記述した處は主として設計に就ての心持ちの概略でありましたが、諸先輩の御指導、同僚諸氏の御協力に依つて幸ひ大過なく工事落成迄に立ち至りました事を深く感謝して筆を擱きます。

新大阪ホテル・排水ポンプ



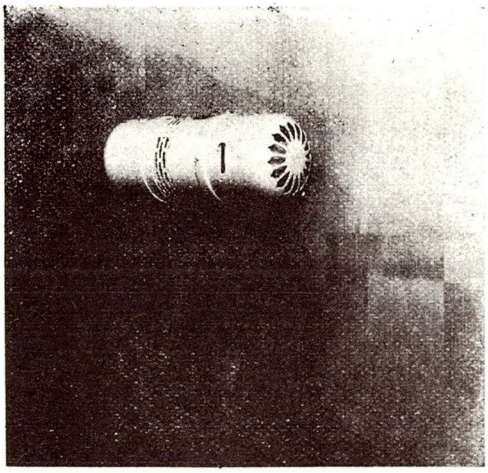


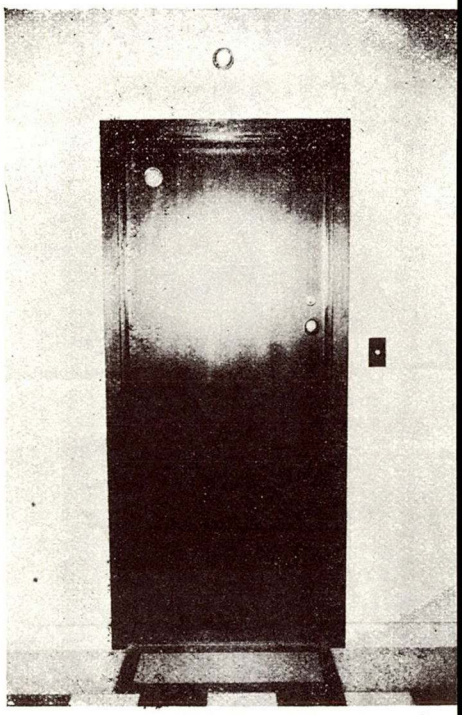
ワンマンコントローリングボード



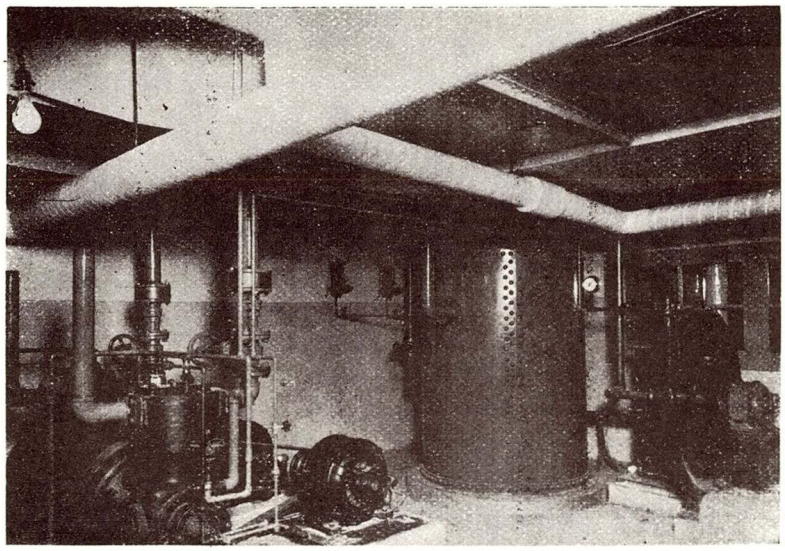
發電機・送風機・冷房機の操作盤

感温度器

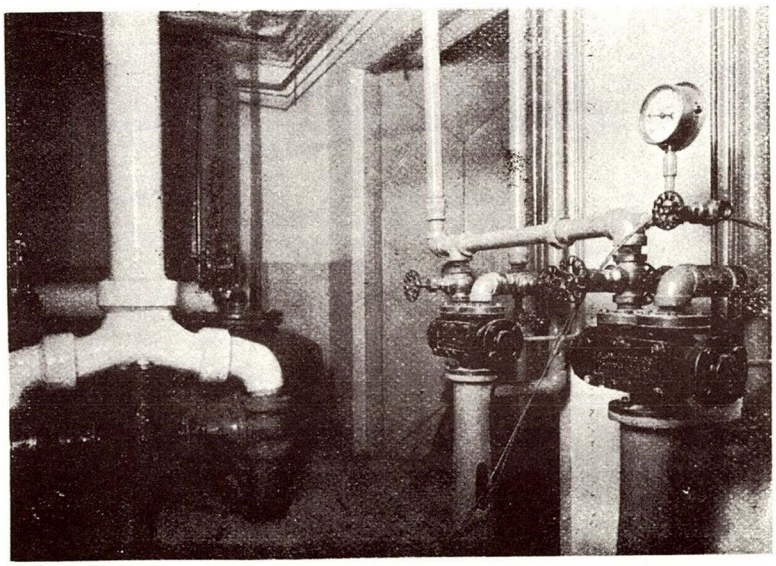




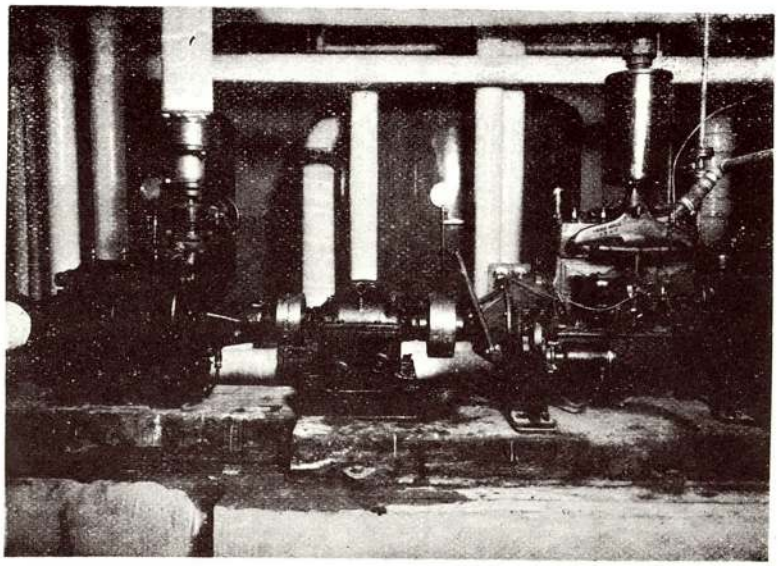
客室出入口の給仕呼出
裝置用標示器



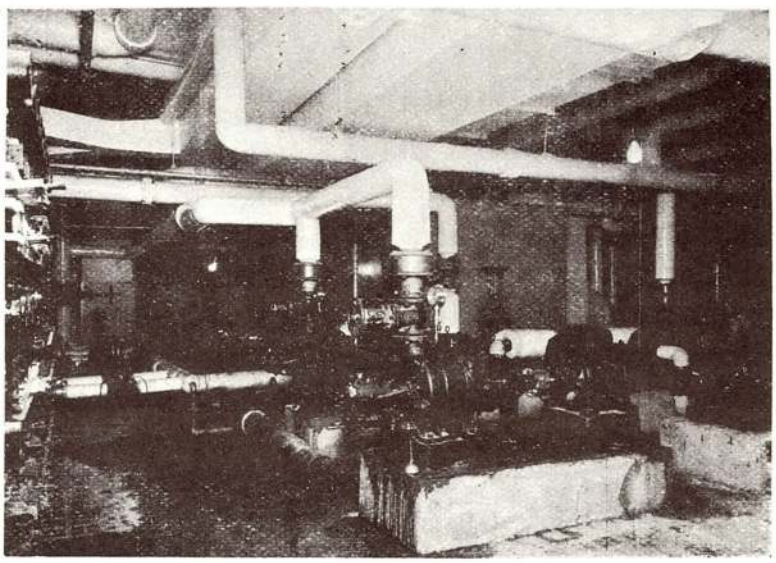
氣送裝置用ブロワーニユーマチツク エゼクターの空氣壓縮
機及そのタンク



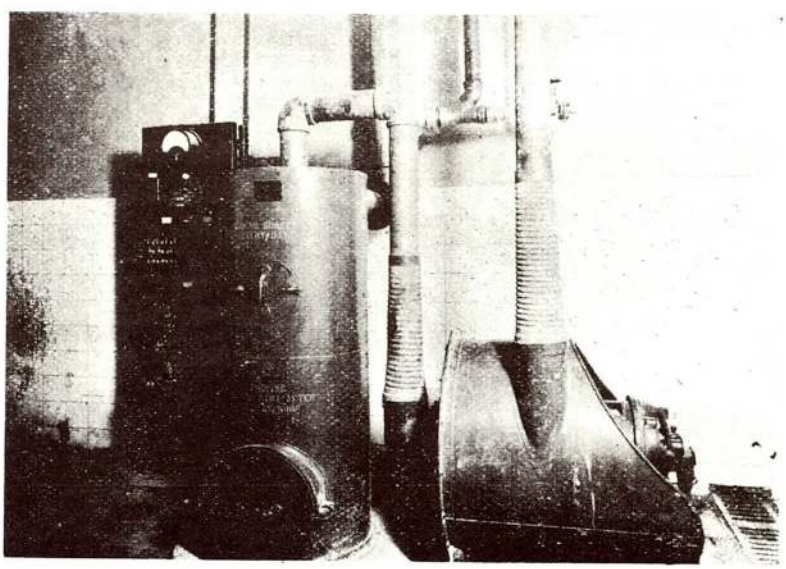
ニユーマチツク エゼクターとそのバルブ



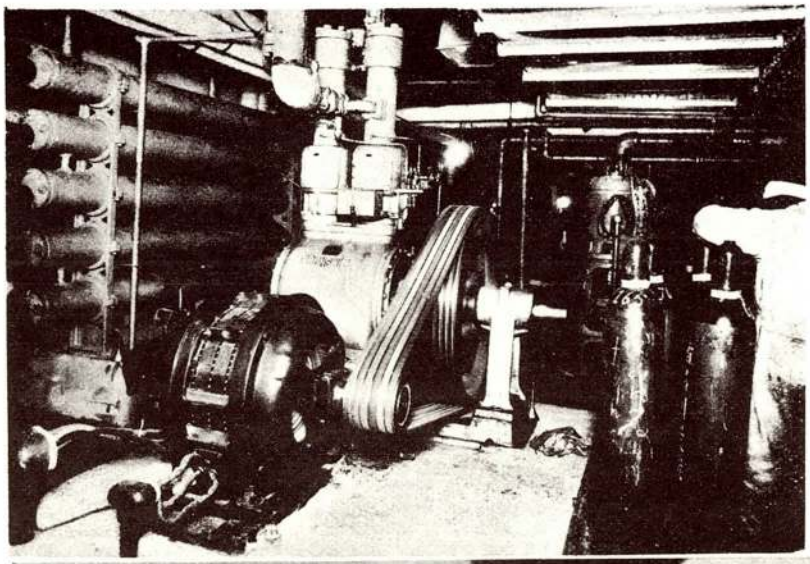
消火ポンプ及
其のエンヂン



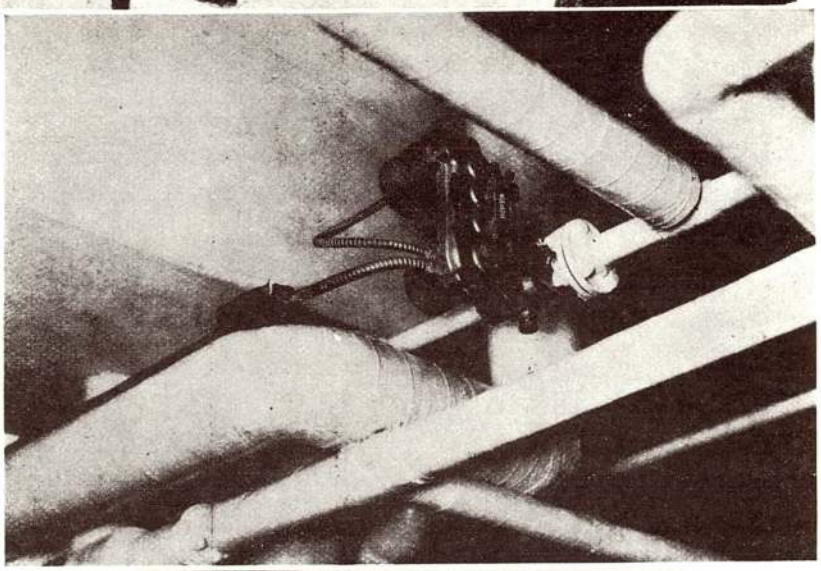
ポンプ室



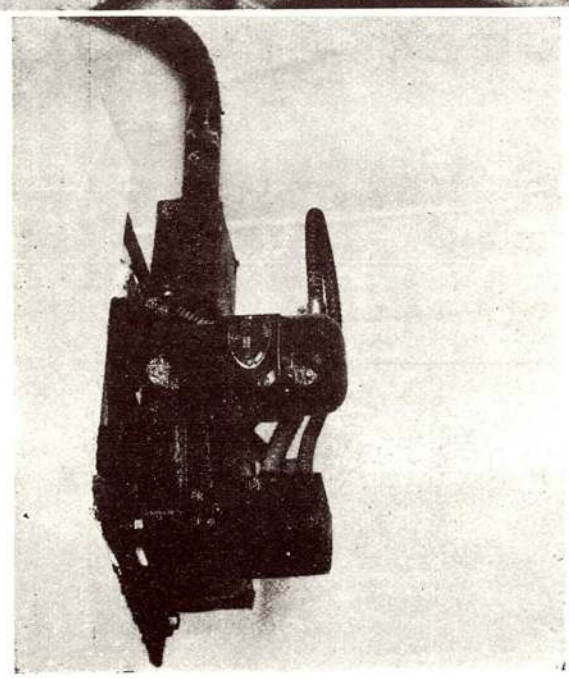
バキユーム
クリーナー



冷凍用
炭酸瓦斯壓縮機



モーターバルブ



モーターダンパー

新大阪ホテル設備概要と配管準備工作に就て

竹花末春

新大阪ホテル設計當時主體構造の圖面を纏めてゐた關係上、多少設備工事との間に交渉があつたので鐵骨現寸完成後建方が5階頃迄進んだ頃、急に設備工事掛補助として設備と建物との取合ひを主として擔當する様になりました。今迄にこの種の仕事に對する經驗なく殆んど白紙の狀態で事に臨んだので、一定した見識も意見もありませんが該建物の設備工事の大要と配管準備工作とも云ふべきコンクリート打以前迄の仕事を漫談的に述べて見たいと思ひます。先づ設備工事の概要から始めますが、設計最初の主旨及び用途上の効果等は甲斐原氏の論文を御參照下さい。

1. 電氣工事

イ、電力線ケーブル引込み及電話局線引込工事

ロ、電灯プラツグ、天井扇、電熱動力及私設電話配管配線工事

ハ、變電室、中央監視盤裝置、內外火災報知、電氣時計、非常用蓄電池、給仕呼出並自働車呼出信號、デノーテイング、私設電話交換並寫眞室裝置、及避雷針設備工事

以上工事の横走配管は在來と同様コンクリート床版內に隱蔽工事としました。コンヂツトチユーブ配管に際して、整然と配筋された鐵筋を亂さない様にアウトレツトボツクスに鑄鐵製の徑3吋高さ3½吋の圓筒型のボツクスを採用して、コンクリート床版上端にチユーブを配管しました。故に小梁或は大梁の上を横斷する時針金でチユーブをよく梁に結着して置けばコンクリート被覆上露出する處れはありません。立上り管は專用のパイプシヤフト內に露出配管なのですが、シヤフトの向きがプランニングの都合上變る事が間々あります。こんな場合天井の有効高を可及的に多く採らうとすると勢ひシヤープベンドに陷り易いのです。これが配線上最も困る問題なのでシヤフトは絕對に一直線に採るべきだと思ひます。ホテル建築の如く澤山の寢室を有する建物に於てはベツド、家具、鏡の配置が各室各様なので、「アウトレツト」の位置を適確に墨出ししてゆくには可成り澤山の圖面が必要となり繁雜を來しますが、施行に際して見易い様に圖面を整理するには圖面番號の付け方如何によつて割合簡單に纏めることが出來ます。

受電は市電本田變電所中央市場線及端建藏橋線より二回線を以て西側擁壁を貫通し、第

1 地階中央變電所へ交流 3,300 ヴオルト、60 サイクル、三相三線式にて受電し、こゝで主要電力を制禦配電するのです。又別に屋階に 2 個所の補助變電室を設け、之より附近の電灯電力に配給してゐます。配電方式は次の如くです。

高壓動力——交流 3,300ヴオルト三相三線式

低壓動力——交流　220ヴオルト三相三線式

電灯幹線——交流　220ヴオルト單相三線式

或は　交流　110ヴオルト單相二線式

豫備發電裝置としては「ガソリンエンジン」直結交流發電機を設置してあります。「ガソリンエンジン」は、出力80馬力、4 氣筒、廻轉數毎分 1,200 回、燃料消費料全負荷に於て 1 馬力 1 時間に付き 0.45 立で、交流發電機は横軸防濕型、廻轉界磁「ダンパーワインディング」付き三相三線式、出力 62.5 K.V.A. 極數 6、廻轉數毎分 1,200 回、電壓 110 ヴオルト、用波數60サイクル、力率80%のものです、猶ほ 3 馬力の起動機、12ヴオルト 150 A.H. の蓄電池、出力 14 K.W. 防濕型「コンシユテーテング」付直流勵磁機を併置してゐます。前記發電機には停電の際「ボーアホールポンプ」(15馬力)「サムピツトポンプ」(10馬力)の電源として三相60サイクル、220 ヴオルトの變壓器を設備してゐます。

次に設備設計者が最も力を注いだ中央監視盤の裝置を名前だけ列擧しておきます。

イ、電氣親時計（有極式直流24ヴオルト、一分飛式）

ロ、火災報知機

電鈴動作表示（全舘32ケ所）

ハ、溫度及濕度計

溫濕度計、ホテル側溫度計、冷藏庫用溫度計、會舘側溫度計、溫水用溫度計、感濕度計モーター操作、溫濕度計整流器操作。

ニ、電働機運轉及事故表示（二面）

電働機運轉表示、エレベーター事故表示及應答、モーター操作表示、モーターダンパー操作表示、ポンプ自働運轉表示、屋上變電室操作及表示、モーターバルブ操作及表示、ガソリン發電機操作。

ホ、蒸氣流量記錄計

サムピツト、厨房蒸氣流量計(30ポンド、15ポンド)、洗濯場蒸氣流量計、エレベター故障、警報電鈴、遠方操作手元控操作、モーター事故警報、自働起働モーター事故警報。

ヘ、水位計

氣曝槽、井水タンク、市水タンク、流量記錄計（厨房、各階パントリー、洗濯室、ホテル系統、會舘系統)、水位計操作（サムピツト、氣曝槽、井水、市水タンク)、ホテル系統蒸氣流量計、會舘系統蒸氣流量計、水位非常警報電鈴。

ト、壓力記錄計

瓦斯、ニューマチツクエゼクター、給湯壓力計、厨房壓力計(15ポンド)、ボイラー壓力計、厨房壓力計(30ポンド)、洗濯蒸氣壓力計(30ポンド、5ポンド)、ラヂエーター壓力計。

以上の8面が中央變電室の一部に設置してあります。

2. 給水工事

衛生器具の洗滌用水を除く外總て上水を用ひ、上水引込は南北兩道路に埋沒してある市水道本管6吋及5吋管より5吋及4吋管を分岐して西側敷地内に引込み、制水弁を經て2管を結んで5吋管とし、擁壁貫通後第2地階に立下げ、分離槽に導き15馬力電動機直結タービンポンプ(2臺内1臺は豫備)にて5吋揚水主管に依り屋階貯水槽に揚水し、給水主管8吋を再び第2地階に立下げ6吋及5吋の二管を分岐し、これ等を主管として各系統に分けて給水します。この外鑿井より15馬力電動機直結ボーアーホールポンプで氣曝兼貯水槽に揚水し、之より更に15馬力電動機直結タービンポンプ(2臺内1臺は豫備)にて濾過器を經て4吋揚水管にて屋階貯水槽に送り込み、これより6吋主管を取出し各分岐管より大小便器撒水栓其の他の雜用に給水します。猶市水井水兩給水本管を5吋バイパス管を以て連聯し、修理、故障等の際切替が出來る様にし平時はゲートバルブによつて區分してあります。

消火設備としては第2地階に消火專用の25馬力電動機及28馬力ガソリンエンジン直結タービンポンプを設置して、井水管より吸水し各階(平均1階毎に3ケ所)に設けた30ケ所の消火栓に接續し、ポンプ自動運轉は各消火栓内に設けたボタンスヰツチにより操作することが出來ます。又別に井水貯水槽より給水管を取出し、第1地階のスプリンクラー及各階消火栓に絶えず送水してあります。この外に消防ポンプに依る給水法として南北兩正面にサイヤミーズコンネクションを取付け市水、井水各主管に接續し非常の場合に備へました。

3. 給湯工事

第2地階に給湯用ヒータータンク6臺を設備し、屋上市水貯水槽より給水を受け汽罐へツダー減壓弁より約30ポンドの蒸汽を之に導きホテル及宴會場側は給湯華氏120度、厨房及パントリー關係は華氏150度とし、2管式强制循環法により各階設置の器具約650ケ所に給湯するものであります。

4. 給蒸汽工事

汽罐へツダー減壓弁より30ポンドの蒸汽を各パントリー、厨房及第1地階パン工場、從業員厨房に導くもの及び100ポンドの蒸汽を洗濯場内の各器具に供給するもので、各室に

至る蒸汽管には夫々モーターバルブを取付け、中央監視盤で調整することが出來ます。

5. 飲料冷却水設備

第2地階の冷凍機並冷却器より華氏45度の冷却水の供給を受け、½馬力電働機直結タービンポンプを以て強制式下向供給法により、ホテル客室66ケ所及給仕室6ケ所に絶えず飲料水を供給するものであります。

6. 眞空除塵工事

10馬力電働機直結チツクバキユームクリーナーを第2地階に設置し、全階115ケ所のインレツトノツズルより塵芥を吸引し、塵芥のみセパレーターで分離し、汚氣は煙突内に排氣します。容量は同時に6ケ所の掃除をなし得るものです。

7. 排水工事

1階以上各器具の排水は2管式配管法により排便は淨化槽に導き、一般排水は直接東側下水に放流するもので、第1地階以下の排便は第2地階設置の全能力毎分200ガロンのニューマチツクシユウエージエゼクターに導き、自働的に淨化槽に排出します。又一般排水は2ケ所のサムピツトに集め竪軸10馬力のポンプを2臺で自働的に屋外に排除します。

8. 蒸汽煖房工事

低壓眞空式蒸汽煖房裝置でアツプフイードとダウンフイード兩様を用ひました。汽罐は池田式ウオーターチユーブボイラーで多熱面積1,300平方呎、使用壓力100ポンド/平方吋、毎時蒸發量5,000ポンドの容量のもの3臺を設置し、燃料としては重油を使用し、點火には瓦斯を用ひてゐます。オイルバーナーはレイNo. 125動式調整型のものです。放熱器は日本標準型のものです。

9. 換氣工事

換氣裝置としては次の6系統に別れてゐます。

第1系統　ホテル浴室排氣。
第2系統　宴會場側便所排氣。
第3系統　厨房、配膳室排氣。
第4系統　第1第2地階各室排氣。
第5系統　洗濯工場排氣。
第6系統　洗濯工場及變電室送氣。

上記各系統の煽風機及電働機の容量を次に示します。

系　　統	煽風機番號	靜　壓　力	風量 13/m	電動機　HP
一	6	1″	9650	3.0
二	4	¾″	5000	3.0
三	8	½″	21910	7.5
四	11	⅞″	50730	20.0
五	4	1″	6000	3.0
六	4	¾″	6000	3.0

10. 冷藏設備

第2地階設置の炭酸瓦斯冷凍機（鹹水冷却）により冷却せられた冷鹹水を各階厨房及パントリー内の冷藏庫、冷藏函並にカウンター等の内部に配列せられた捲管内に循環せしむるもので、庫内の冷却保持は華氏 30°～40° であります。炭酸瓦斯壓縮機は竪型單働式 2 汽筒密閉型のもので、冷却溫度華氏70度、膨脹溫度華氏 5° で一晝夜13噸の冷却能力を持つてゐるものです。

冷鹹水供給の配管は腐蝕し易く、2～3 年に一度位取換えの必要があるので露出配管すべきだと思ひます。又保溫仕上外徑が非常に大きくなるものです。2 吋位のパイプで外徑 6 吋位になります。

11. 空氣調整裝置

本裝置は夏季外氣乾球溫度華氏95度濕球溫度華氏80度、冬季乾球溫度華氏28度の場合を假定し、これを夏季華氏80度濕度50パーセント、冬季華氏65度の調整空氣を各室に送風せんとするもので、會館側各階宴會場。第3・4・5階南側寢室。ホテル側常食堂及大廣間。グリル及1階會館側廣間。2 階貴賓室ウエザーマスターの5系統に別ち、各個に溫濕度調整裝置を有し各々適宜に空氣を調整することが出來ます。又主なる風道の分岐點にはモーターダンパーを取付け、中央監視盤にて遠方操作も可能であります。

冷凍機は 150 馬力の電動機をギヤーコンネクションして動力とし、一晝夜 130 噸の冷却能力を有するものです。

12. エレベーター

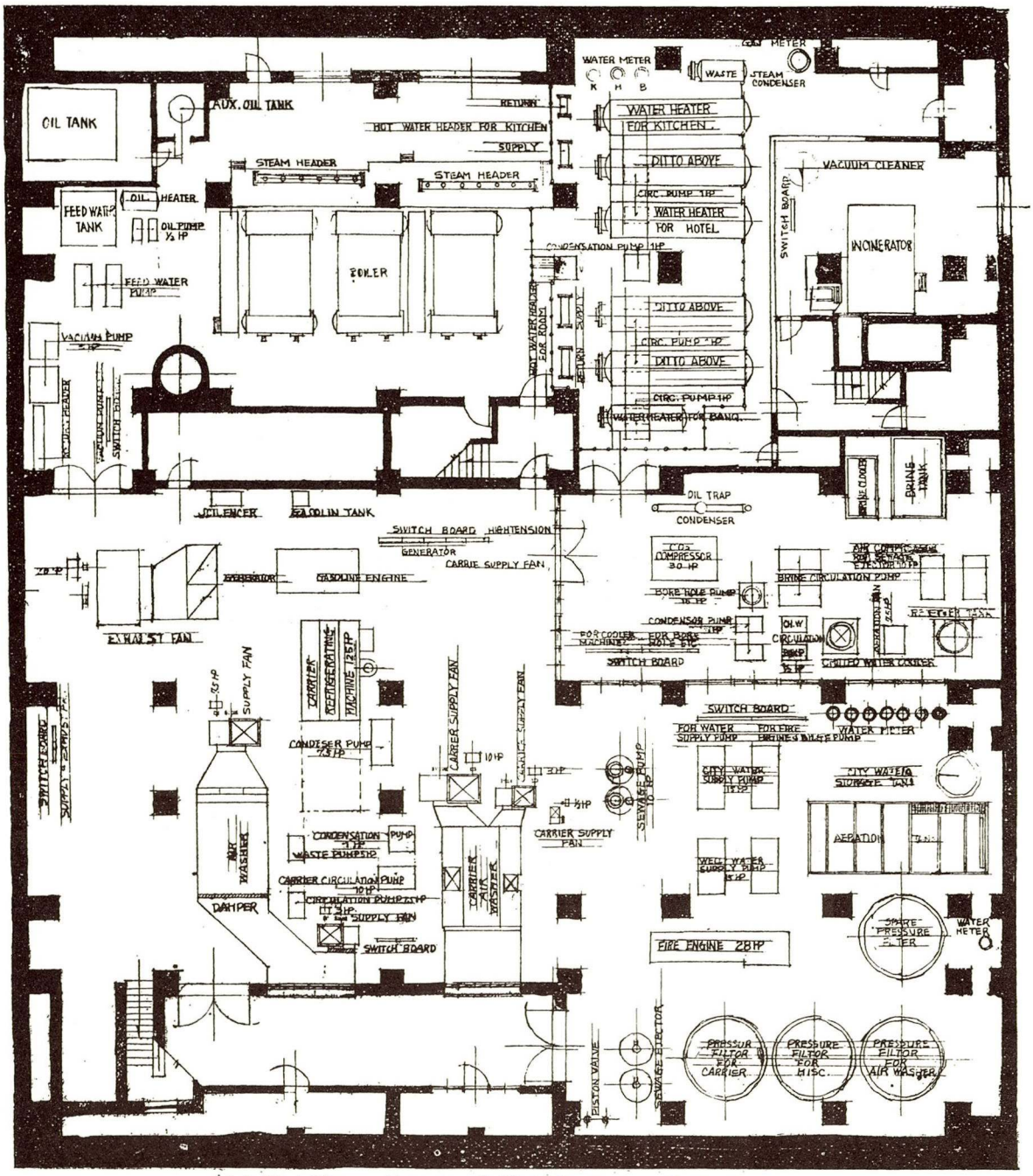
次表各種工事の配管は、第1階以上各階蒸汽煖房のパイプの一部を除き殆んど二重間仕切天井內或はパイプシヤフト內等に隱蔽工事としました、限られたスペイス內に施行上無理のない樣、又後日修理に便なる樣に配管せねばならないので各立上り管（風道、パイプを含む）のパイプシヤフトは各階20分の1縮尺でデザインの方と打合せつゝ各種配管を書き入れ、必要に應じてマンホール或はハンドホールを取付けたのですが、これが「デザイ

使用名	臺數	積載量 ポンド	速度 呎/毎分	型式種類
會館客用	2	2500	300	直流ギヤード型・バリエブル・ボルテージ・カースキツチ・インダクター・コントロール
會館人荷用	2	1300	200	交流マイクロ自働精密着床・全自働式
ホテル客用	2	2000	300	シングル・ラツプ・トラクシヨン・ギヤード型・ユニツト・マルチポルテージ・メイン・モーター・マイクロドライブカースキツチ・コントロール
ホテル人荷用	1	2000	150	シングル・ラツプ・トラクシヨン・ギヤード型・プツシユ・ボタン・コントロール
客室サービス人荷用	1	900	150	同上
サービス用ダムウエーター	2	220	140	押釦式電働ダムウエーター

ン」の方から目障りになり勝ちなのでオミツトされ易くなります。事實煖房パイプが隱蔽せられた場合、後日エキスパンジヨインドを點檢或は修理に便ならしめる様ハンドホールを取付けると可成の數に上るもので、部屋の美感上これを如何に取扱ふかと云ふ事は納りの上から困難な問題です。併しマンホール或はハンドホールは建物が出來上つて全機關が運轉を始めた場合、工事が大きければ大きい程施工當時嚴密に檢査されても多少の故障は免れないものですから、その時始めてマンホール或はハンドホールが役立つて來るのです。

又パイプシヤフトの大きさは修理に際して大人1人が入つて仕事を爲し得る最少限の餘地はほしいと思ひます。ホテル浴室のパイプシヤフトの大きさは正味、面積 1.53 m×.64 m 1.07 m×.64 m 1.065 m×.64 m .615 m×.64 m 等でこの中に5吋（排便管）4吋（排水管）3½吋（バキユームクリーナー）3吋（換氣管）2吋（露水排水管）1½吋(井水管）1½吋（市水管）1¼吋（給湯管）¾吋（冷却水）1¼吋 ½吋（蒸氣煖房管）等11本のパイプが入つてゐますからこれ等各管のフランジ、ソケツト或は保溫仕上り外徑、分岐管の取合ひを考へれば 1.53 m×.64 m のパイプシヤフトで丁度頃合だと思ひます。それにしても一方或は二方を煉瓦積みとして配管施工後に圍ひをなすべきです。換氣、空氣調整裝置の立上り風道も成る可くフリクションロスのない様にシヤフトの大小、或は他の配管との取合上原案の寸法を多少變更して各階20分の1詳細及斷面圖を作りました。

次にコンクリート打假枠工事以前の準備工作に就て自分の採つた道順を書いて見ます。先づ第2地階、こゝはホテルの大部分の機械が配置されてゐるので自然パイプ風道等縱横無盡に天井を這ふ譯で天井高も床から床迄 4.50 m でさして階高が高いとも思はれませんが有効高を成る可く高く取りたいと思ひまして各種配管の重り合ふところ或は交叉するところをチツエクして見ました。原設計 100 分の1の各種配管を1枚の圖面に50分の1縮尺で全部書き入れることは繁雜を增すのみで却つて解り難くなりますから、請負者の關係上給排水、給湯、給蒸汽、冷却水、眞空除塵の各工事を1枚の圖面に、蒸氣煖房、換氣工事を1枚、空氣調整裝置を1枚、電氣工事を1枚と都合4枚の圖面をトレーシングペーパーに



新大阪ホテル. 第二地階機械配置図　縮尺 1/100

50分の1縮尺で圖示させこれを4枚重ね合せて、配管の重り合ふところ又は交叉するところをチツエクして、不都合を發見したらば蒸汽管、給排水管、排便管、給湯管、バキユームクリーナーのパイプ等の勾配を必要とするものに占有權を與へ、次に空氣調整裝置のサプライ風道、次に同レターン風道、換氣風道の順々に電氣のパイプを最後として各々衝突點を譲り合させました。此の如くして大體チエツクが終れば同縮尺で斷面圖を、更に重要な個所は20分の1縮尺の圖面を作りました。各管の受け金物のインサートの位置或はコンクリート間仕切、梁等を貫通する位置は一般平面圖(1/100)に圖示し、詳細圖を50分の1縮尺で現して工事現場に送りました。第1地階は割合簡單だつたので50分の1縮尺で全工事の配管を圖示し前記の様な方法をとりました。インサート取付に際して工事別に符號を假枠へ墨書して置くとコンクリート打後假枠を取外した後コンクリート面に符號が綺麗に殘りますから配管施行に際して澤山のインサートを區別するには便利な方法だと思ひますが殘念ながら實行することが出來ませんでした。第3階以上は空氣調整及換氣の風道或は蒸汽煖房の横走管等天井高が低いので全部梁を貫通させました。又浴室のパイプシヤフトも設計の都合上大梁(ボツクス)の中間を縦貫通して居ります。かくの如く各種配管が床版間仕切、梁等を貫通する孔が1階平均150ケ所程ありましたが之等の位置は一般平面圖(1/100)に圖示し詳細に50分の1或は20分の1縮尺の圖面を作り工事係に提出しました。これ等の貫通孔はコンクリート打上り後殆んど全部インサートは少々「ラフ」だつたので80パーセント位役立つたことゝ思ひます。

瓦斯メーターは5年に一度宛必ず取換えの必要があります。大量の瓦斯供給を受けてゐる建物では「メーター」が大型のものになりこれを横に寢かして運搬することが出來ないものですから、搬出入に或は通路は高さ幅共相當に見込んでおくべきだと思ひます。

最後に空氣調整裝置に多少の設計變更がありまして圖面の訂正が出來て居りませんが大體の概念は得られると思ひますから挿入して置きます。

新大阪ホテル工事施工に就て

加藤誠二

今般日本建築協會々長より「建築と社會」3月號に新大阪ホテル特輯號を發刊するに際し、工事施工の感想を寄稿する樣との御通知に接し、誠に光榮に存じます。工事施工に關しましては殊更申上げる事も御座いませんので、簡單に其の感想なり御挨拶なりを申上ます。本工事の內、基礎工事は大林組の請負にて完了し、其の主體及仕上工事を、清水組に御下命に預りましたから、昭和8年3月工事着手より、昭和9年12月工事竣工迄は22ケ月の長期間で御座いましたので、自然其の間大小の「トラブル」も起きました樣に記憶致して居ります。然し幸にして、其の都度、市當局者並に新大阪ホテル臨時建設事務所員各位の、理解ある御指導と適宜の御鞭韃とによりまして、此處に「新大阪ホテル」の大工事を大過なく竣功せしめ得ました事を無上の光榮と存じますと同時に、當事者各位の御厚志に對し、滿腔の謝意を表する次第で御座います。特に工事中は四季を通じ、噪音と塵埃を立て或は交通障害等の御迷惑も相かけましたにも不拘、近隣の大阪朝日新聞社並に三信ビル當事者各位は諸種の御便宜と御後援を下さいました、又一般市民の方々にも附近御通行の際は心にもなく何かと御邪魔を致した事を深謝すると同時に深く御詫申上げます。

本建築の設立趣旨竝建物の設計內容等は旣に夫々公表になつてゐますので、改めて申上げる迄もないことゝ存じます。我々請負業者の職責は設計者、監督者の指圖に從ひ、與へられた期間に、一定の工事を完成せしめる事は勿論、其の一部ではありますけれども更に進んで注文主の御滿足を得る事は勿論の事、建造物の用途に依り拂はれたる設計者の苦心意志を解し、其の樹てられた技術を尊重し、以て其の建造物をして眞に面目躍如たらしめる事にあるのでありますと考へます。此の意味に於て私は施工の要點を經驗深き上長に稟議すると同時に工事關係の弊社員に對し、多言を要せず、實行を旨とし、常に其身を修め其の技を練り協力一致其の責任に應じ全精神を傾倒する樣夫々指導致して參りました。

次に私は本工事の擔當者と致しまして先づ直感致しました事は、本建築物は關西に於ける有數なる美術建築であつて、殊に其れは複雜なる設備を要する關係上、之れを大過なく仕上げる事は請負者として特別なる技倆と不斷の努力を要するは勿論、延いては此の工事の出來榮への結果に依り、一般社會の信用保持上至大の關係ある事と信じ、責任の重、且つ大なる事を第一に感じたのであります。本工事に於ける場合、主體工事に於ては强力なる下請者の撰定を爲し、以て工期の迅速及確守を期し、仕上工事も併せて其の道に於ける

權威ある店に依頼し、施工の萬全を期する方針を採りました。就ては鐵骨工事に於ては川崎造船所を煩はし、引續いて骨材納入者等も當初の主旨に基き決定を進めました。又仕上げ工事の方も大理石を矢橋大理石店に決定したるを始とし、自分としては何れも斯界に於ける絶大なる信用ある先を撰定なし、之等に配するに從來より永く當組工事に關係し、其の成績優秀なる職方を配し、施工陣營の堅固を期した積りであります。然る處本工事に關係せし材料店及職方各位は、店の眞意を充分に御了解下さつて、我社員と協力一致所期の目的に向つて驀進下さいました爲め、昭和9年3月15日全主體工事を終了致し、又仕上工事は同年12月末日豫定通り完成迄無事に引渡しの出來ました事を顧みまして、誠に欣快に存する次第であります。

建物の荷重及地下室の關係上建物周圍の鐵矢板拔を主體工事途中に着手致した爲めに、外部足代其他の假設物施工等は、主體工事に全能率を傾注致して居りました時期だけに最も苦心を致しました。又同時に新堀割河岸を通つてゐました遞信省氣送管の保護、養生とは全く主體工事中の癌で御座いましたが、總ての事は無事に圓滿に何等の危惧もなく終了しました事は誠に感謝の外御座いません。

內部造作仕上工事は主體工事進行に伴ひ監督者の指圖に依りまして順次着工致しました其等の結果は全く豫想以上の好成績を得ました事と確信致します。

更に內部設備工事關係者には、浴室貳百餘ケ所を始め衛生に、煖房に、換氣に、電氣に其他各工事共非常に複雜致して居りましたが、よく我々建築關係者と協力一致只工事完成の一念に向ひ努力を惜まれなかつた事を今更ながら感歎致して居ります。

要するに、之等は全く武田、竹腰兩幹部を初め設計、現場、庶務の各關係當事者の御人德の賜と存じます。

又工事中は關係諸職方にも非常な無理な御願ひも致しましたにも不拘、氣持よく各位の使命を全ふし下さいました事を此處に感謝致します。

土佐堀川の一角に聳へ立つ「新大阪ホテル」の永久に繁榮致します樣祈りつゝ失禮させて戴きます。

甚だ勝手な纏りのない事のみ申上げて誌面を汚しました事を恐縮致して居ります、何卒今後共何分の御教示の程御願ひ致します。

隨　　感

山　手　研　吾

今度日本建築協會々長より「建築と社會」3 月號は「新大阪ホテル」に關して特輯を致し度いから何か「新大阪ホテル工事施工」に就て執筆する様にとの御通知に接し誠に光榮に存じます。就きましては甚だ僭越では御座いますけれども、協會の御趣意御厚志に對し一寸御挨拶を述べさせて戴きます。

「新大阪ホテル」建設の趣旨並に起工より竣工迄の事業的經過は、既に御承知のこと丶存じます。又工事概要、設計要旨等の重要點は今日迄に、夫々各關係當事者諸彦より御發表になつて居りますし、本特輯號には更に詳細に記載してありますこと丶存じますので、私は極く簡單に隨感として御邪魔致します。

「新大阪ホテル」は「會館」と「ホテル」とに二分されて居りまして、「會館」は堂島川、「ホテル」は土佐堀川に面して居ります。「鐵骨鐵筋コンクリート」造の地下 2 層、地上 8 層建で延 6,489 坪餘を有する近代的高層建築であります。從つて外觀は東京の「帝國ホテル」や京都の「都ホテル」等に比べますと自然其の趣を異にして居ります。

基礎工事は既に完成致して居りましたので、現場作業と致しましては、先づ昭和 8 年 6 月下旬から鐵骨建方工事に着手致しました。地上の工事のみでしたから非常に順調に進捗致しまして、昭和 9 年 3 月上旬全主體工事を完了しました。土佐堀川筋に新設しました淨化槽は昭和 8 年 7 月中に外廓を整へ、東側に設備工事關係者の事務所を設置し、西側は假設材料の置場として利用致しました。只今では自動車置場と請願巡査詰所とに利用されて居ります建物內部仕上工事は、昭和 9 年 2 月から準備に掛り、同年10月に大體終了致しましたが、塗師其他二三工事の爲完成は12月中旬になりました。此の間 580 日餘の日數を要し、從業人員延約15萬人、一日平均 260 名の割になります。昨年 9 月21日の大暴風雨の際は大した被害もなく、又何等工程にも影響致しませんでしたが、丁度西側の外足代一部の解體が、9 月19日終了致して居りましたから助かりましたが、若し一、二日遲れて居ましたら相當の御迷惑をかけましたこと丶存じます。

現場施工と致しましては、內外共總體的に非常に苦心致しましたので、特に之と言つて摘出して御報告申し上げる事に苦心致します。只工事中私が特に感じました事は成る程「ホテル」建築と言ふものは、一般事務所建築とか、百貨店建築とか、劇場建築等と比較して極々微細な點に、注意をして行かなければならぬ、丁度立派な住宅を建築する時の様な氣持にならねばならぬと言ふ事で御座いました。例へば各階の厨房にしても、寢室、浴室

にしても又便所にしても總てが他建築に、見る事の出來ないものばかりで、最も常識的な最も數理的な施工方法を必要とするものばかりで御座いました。勿論此等は「ホテル」の生命の一つで御座いませう。設計者、監督者の御苦心は申す迄もなく、設備工事關係の方々もさぞ苦心された事と存じます。

市民待望の「新大阪ホテル」が此處に目出度く完成致しましてかくも今日多くの讃辭を受けて居りますのは、武田、竹腰兩幹部を初め當事者諸彦の御苦心、御努力の結果當然の事かは知りませんが、さぞかし皆々様も御滿足の事と存じます。

過去約2ケ年の間萬事に御鞭撻と御指導とを賜はりました武田、竹腰兩先生を初め三好技師、池田監督其他關係各位の御芳情に對し、現場員一同に代り滿腔の謝意を表する次第で御座います。お蔭様で先づ大過なく今日を迎へ得ました上に、現場施工技術者としては再び得難い非常に有益な經驗を得ました事は誠に望外の幸福で御座いました。又工事中直接間接御協力、御援助下さつた材料納入者の方々や諸職方各位に對し深甚の謝意を表します。

私は過去十數年來現場施工にばかり從事して參りました。その間私が常に考へて居りました品位と言ふ意味を今回特に强く感することが出來ました事は重ねての幸福と存じます人は申すに及ばず、世の凡ゆる物には確かに夫々の品位があります。特に人間の技で出來た總ての建築物には、最も顯著に現はれて居ります。

「上品な建物」「下品な建物」

私は工事中度々武田、長谷部、竹腰各先生に接し其の高潔な人格に感銘致しました。人間の品位と言ふものは容貌、地位、知識、或は衣裳等で價値付けられるものではないと、同様に、建築物の品位も亦建物の大小や、坪單價の多寡等に依つて、自由に與へられるものでは御座いません。即ち外に與へられるものではなく內に與へられて始めて品位を生むのであります。如何に設計者、監督者の技術が優れ、如何に多額の財貨を投じ、如何に天然の勝景に惠まれても、之を實施して行く現場技術者の精神が、空虛であつたならば其の結果は決して期待出來るものでは御座いません。此の重大な現場技術員としての、責任を感じて居ります私は今後共更に强く歩いて行き度いものと存じます。何卒此の機會に今後益々御指導御援助下さる様皆々様に御願ひ致します。甚だ纏りのない勝手な事ばかり申しまして恐縮致して居ります。（昭和10年2月20日記）

新大阪ホテルの厨房に就て

上田清一

今まで私も微力乍らも厨房の設備改善と申しました様な方面に多少趣味を持つてゐましたもので、此の度の新大阪ホテルの厨房設備に當りましては諸先輩の御後援によりまして此の工事を完成さす事を得たのであります。

厨房は我々生活上に一日として缺ぐ事の出來ない大切な食物の調理所として毎日間斷なく使用せられ、家庭におきましては家族、レストラント、倶樂部、ホテル、一般料理業に於いては公衆の保健に甚大の關係を有し、實に厨房は榮養の策源地でありますと共に衛生の本營であるのでありますが、我が國にありましては昔から台所は人に見すべきものではないと云ふ觀念からして、暗いジメジメとして氣持ち悪るく蜘蛛の巢だらけと云ふ様な極めて非衛生的なものが多い事は誠になげかはしいのであります。從て方位、構造の便、不便と同時に設備の良否は直ちに總てに影響する事は申上ぐるまでもない事と存じます。以上述べました様な事からして厨房の位置の如きも誠に重大問題でありますが、此の稿にては抜きと致しまして、先づ狹い場所に出來得る限り器具の完全さをまつて設備され、能率よく作業し得られる様に成さしむる事が何よりと肝腎なことではないかと存じます。當ホテルの厨房も決して廣いとは申上げられませんが、比較的好都合に器具の完全さと共に設備し得られた事は誠に喜ばしい事であると共に感謝致して居る次第であります。

何分にもホテル、宴會と兩様の商賣でありますもので、勿論主厨房のみにては手狹でありますが、宴會用としては其の爲めに各階配膳室を設けらてますので此の部分をも小調理所として使用し得られてゐる事は非常に好結果を納めてゐる様に考へられます。以下私の思ふまゝを列擧して御批判を仰ぐと共に御教示賜り度ふ御座ゐます。

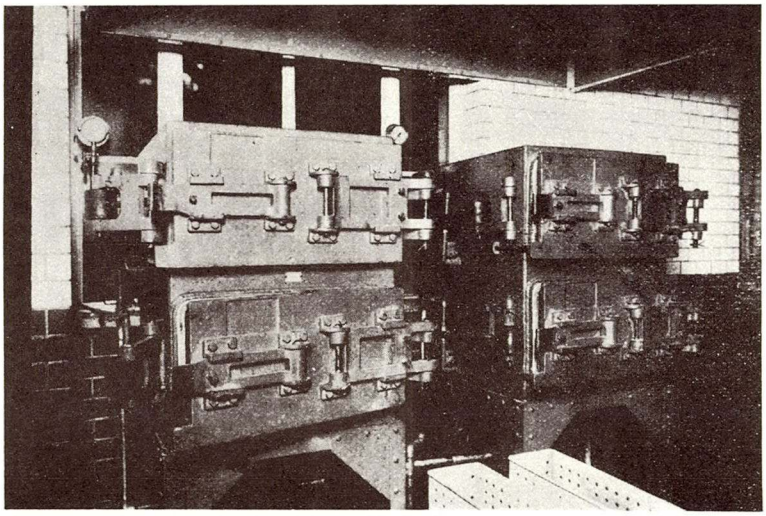
厨房設備に先きだちまして最も重要な役目を演じてゐるものは冷藏設備ではないかと存じます。之れは地下一階に大冷藏庫として設けられ內部を準備室、鳥肉類、魚類、ガールマンヂエ、果物等の五區分に致しまして、受け入所より受け入れた品物に應じまして夫れ夫れ冷藏すると共に、溫度の調節を充分に得られる様に配備致しました事は何よりと良好の成績を擧げてゐるのであります。此の冷藏庫を中心としまして鳥肉類を調理するブツチヤー魚類の調理場を設けてあります。主なる器具としてはミートチヨツパー・フードチヨツパー等であります。之れ等は殊に溫氣を嫌ふ事は申上ぐるまでもないので地階に設けられてゐる事は實に結果が宜しい様に考へられます。主厨房にありましては色々の部に分割されてますと共に、備品も相當に數が多いので一つ一つ明細に申上ぐる事は出來ませんが各部の配置によりまして順次申述べて見たひと存じます。私共俗に「コーヒ」パントリー

と申して居ますが、此の部分では「コーヒ」、紅茶、トースター、アイスクリーム、果物のサービスに適する様に設備致しまして、器具としては「メチル」使用の小型冷凍機に依る「アイスクリームキヤビネツト」を初め「ブライン」式の小冷藏函、瓦斯湯沸器、電熱の「トースター」「コーヒミル」(コーヒ粉碎機)等を主なるものとして備へておきました主調理場には5尺×10尺の大きさの石炭レンヂ及び小型瓦斯レンヂを配備しまして、食堂用調理と共に宴會用の物も大體此の部分で調理し得られる様に考へて見ました。

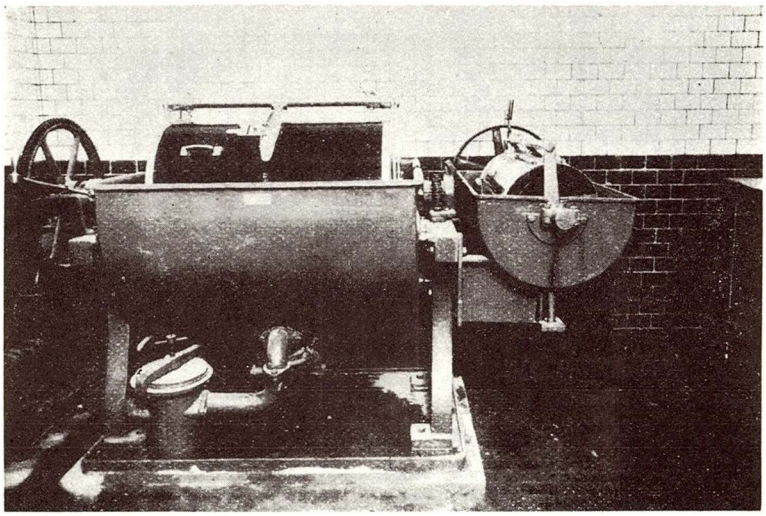
此の部に附隨しまして「スープ」專門用の蒸汽に依る二重釜式の「スタツクケツトル」2臺、其外豫備として瓦斯七輪の大型のもの1臺、海老野菜類蒸し用として蒸器に依つて蒸す處の「スティーマー」2臺、七面鳥等を蒸し燒きする處の電熱應用の「ローストオーブン」1臺、「ビフテキ」用として瓦斯「ブロイラー」2臺を設備致しました。此の外野菜類の冷物を主として調理する「オードブル」を配しまして、此の部分には前面硝子張り扉を有する冷藏函を設備致しまして、製品を貯藏すると共に順序正しく出し入れし得る構造として考へて見ましたが誠に好結果を得てゐる様に思はれます。其の外「パン」菓子工場がありまして粉煉機、パン切り機、「アイスクリーム」製造機、「ベーカオーブン」等を設備しまして「パン」「アイスクリーム」「ケーキ」類一切を造れる様に致してあります又ホテル獨特としてグリル食堂を設けまして、お客様の御注文に應じまして其の場所で直ちに調理して供せられる様に、一品料理用として瓦斯ブロツシユ(別名串燒器)、「チヤーコールブロイラー」瓦斯レンヂ等を設備しまして賞味して頂き度い様に考へて見ましたが之れも一寸面白いものゝ様に存じられます。其の他洗場につきましては各部分的には勿論小型の「流し」を設け、鍋類の如き大きいものについては「ポツトシンク」として鍋洗場を設備し食堂宴會に使用しました食器、銀器類の洗場として、皿洗機、「タハラマシーン」(銀器研機)等を設備しまして、數時間にして數百人分の食器類を僅かの人手間にて洗滌し得られる事は東京の帝國ホテルと當ホテルのみとして充分に食器洗滌の能力を擧げてゐるのであります。本厨房設備におきまして特に申上げて御參考にでも成りますればと存じます事に就て二三お話して見たいと思ひます。私共今まで東京の帝國ホテルにゐましたが帝國ホテルの厨房設備には機械器具類は多く舶來品を使用してますので破損等の場合は誠に手古すつてゐた事や其の他「スティームテーブル」皿溫器、流し類は總べて銅板、鐵板等を使用して製作してありますもので、綠靑或は鐵錆を時折り生じて不衛生的になり勝ちでありますので、大切な時間を徒費する様な始末でありましたが、當ホテルにおきましては機械器具類の殆どは和製品を使用して舶來品に劣らず其の能力を擧げると共に、前記銅板鐵板類の如きものは一切使用を止めまして此れに代るに「ステンレススチール」(サビナイハガネ)を以て「スティームテーブル」皿溫器、流し「ウオークテーブル」「カウンター」等を製作して見ましたが實に見ばへもよく其の上掃除等も極く簡單にして誠に衛生的である事であります。給水・給湯・排水・換氣設備にありましては建築當初より充分に考慮して頂いて居たもので何等不便を感ずる事なく嬉々として働いてゐる事は實に喜ばしい次第であります。



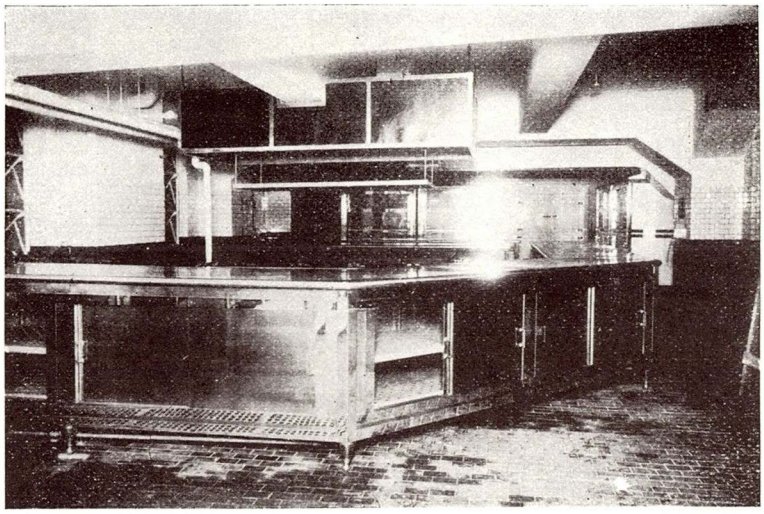
厨房の一部
サラダパントリー



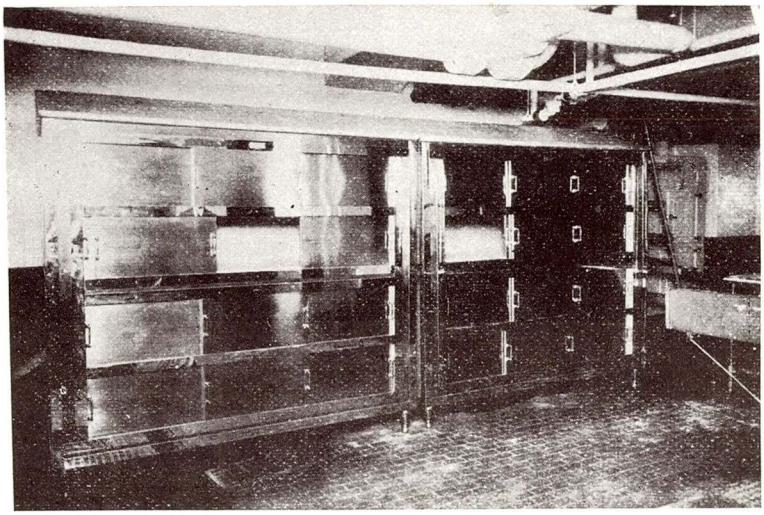
厨房用
スチーマー



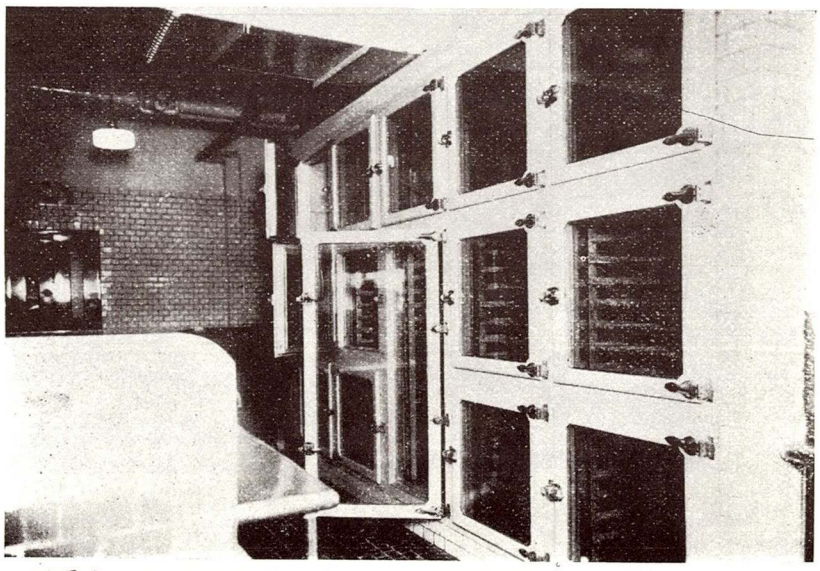
厨房用
タハラマシン
(銀器磨機)



五階パントリーの一部



厨房内ウオーマー（ステインレス製）



厨房内オウドウブルパントリーの冷藏庫

新大阪ホテル衛生設備

須賀藤五郎

新大阪ホテルは近代的設備に於て東洋一と誇る丈ありまして其の衛生工事設備は様式に於ても亦使用材料に於ても最も斬新にして従前のものと不斷其の趣を異にしております。幸ひ本工事は弊社へ御下命の榮に浴しましたに就ては其施工に當つても絶えず發達し、伸び行く「建築」の歩みに對して一歩も遅れざらん爲にありと凡ゆる點に細心の注意と努力を拂ひましたのと又工事監督各位の御鞭撻により幸に大過なく竣工したことを深く感謝しております。

衛生設備工事は昭和8年12月に着工しまして以來約9,500人の從業員と約367,000圓の工費を要し、昨9年12月に竣成いたしました。以下極く簡單に此の設備概要を述べることゝします。

1. 上水給水設備

衛生器具の洗滌用水を除く外全部上水が供給されております。上水引込本管は部分的斷水を考慮しまして北側及び南側道路埋設の市水道本管より分岐し之を一本に取纏めて第二地階の市水道受水槽に導き二臺の上水揚水喞筒にて加壓して塔屋設置の上水貯槽に揚水しまして、之より下降本管を取出し第二地階機械室に立下げ茲に於て下記系統に分ちまして夫々に量水器を設備して各階の器具約660箇所に給水することゝなつております。

A.	ホテル一般給水用	5″
B.	厨房、配膳室及びパン工場給水用	4″
C.	宴會場側一般給水用	3″
D.	宴會場、給湯用給水	2″
E.	ホテル側給湯用給水	4″
F.	厨房、配膳室、パン工場給湯用給水	3″

2. 井水給水設備

第二地階機械室に掘鑿せる鑿井より「ボアーホール・ポンプ」を以て先づ氣曝兼貯水槽に揚水しまして之より更に揚水喞筒により二臺の雜水專用急速濾過機に送水し除鐵せる後塔屋の井水貯槽に揚水して之より大便器、小便器、撒水栓其の他の雜用水栓約275箇所に給水しております。又冷房用には上記雜用とは別箇に二臺の急速濾過器を設備し、コンデ

ンサーに送水する様になつてゐます。

上水貯槽、井水貯槽及び氣曝槽には夫々「ハイウオーターアラーム」「ロウウオーター・アラーム」及び「レモート・ウオーター・レベル・インヂケーター」を取附け何れも第一地階「コントロールセンター」に於て絶えず揚水、不測の故障及び貯水水位を識り得る裝置が施してあると同時に又電働機が運轉中であるか或は停止して居るかをも判る様になつて居ます、更に又上水喞筒及井水喞筒の使用水量が激增しまして貯槽の水位が「ローウオーターライン」以下になりますと二臺同時に喞筒が自働運轉して急速に必要の水位に迄歸し得る裝置になつて居ります。

後記の排水喞筒に對しても之と同様に地階の排水量の激增します場合には同時運轉裝置になつて居りまして、此「ワン・マン・コントロールセンター」と云ふ事に非常に意を用ひられております。

3. 消火設備

第二地階機械室に電働機及び「エンヂン」直結消火喞筒を設置し井水管より吸水し各階設置の30箇所の消火栓に送水する裝置でありまして消火喞筒の自働運轉は各消火栓箱内に設けられたる「ボタンスヰツチ」により操作せしむる様になつております。又屋外よりの非常送水用として玄關に「サイヤミース・コネクション」を備へ消防喞筒よりも亦送水し得る事となつてゐます。尙ほ第一地階の「バゲージ・ルーム」には前記消火設備とは別箇に「スプリンクラー」が設けてあります。

4. 給湯設備

汽罐室に給湯用「タンク・ヒーター」6臺を設備し高壓蒸汽罐より高壓蒸汽の供給を受けホテル側及び宴會場關係は給湯溫度華氏120度厨房及び配膳室關係は華氏150度に加熱しまして、二管式强制循環法により各階の給湯栓約650箇所に供給されております。配管は大體

A. ホテル側及第一地階一般雜用給湯用
B. 宴會場關係給湯用
C. 厨房及配膳室關係給湯用

の三系統に分つてあります。

5. 給蒸汽設備

各階配膳室、厨房及び地階パン工場に約30封度/毎平方吋地階洗濯場内の各器具に毎平方吋100封度の高壓蒸汽を供給します。又此の蒸汽は何れも高壓蒸汽罐より導いておりまして、[各室に至る蒸汽管には夫々「モーターバルブ」を取附け第二地階「コントロール・

センター」で操作せしめるものであります。

6. 飲料用冷却水給水設備

冷却水はホテル側客室66箇所及び給仕室6箇所に絶えず飲料用冷却水を供給せしめる設備でありまして第二地階機械室に冷凍機並に冷却器を設置し強制式下向供給法により給水します。従來の水を口にしながら氣味悪き微溫の不快もなく必ず使用者の賞讃を博することゝ考へられます。

7. 眞空掃除設備

各階に115箇所の「インレツト・バルブ」を設け「バキユーム・クリーナー」にて塵芥を吸引して塵芥のみは「セパレーター」に於て分離し汚氣のみを煙突に排氣せしむる様になつてゐます。ホテルの如き絨氈等の多い所では能率の點掃除の完全なること等より最も適宜の設備であると考えます。

8. 塵芥燒却設備

ホテル内各階の「ダスト」全部を燒却するものでありまして耐火煉瓦を以て築造し鐵骨にて堅固に補強してあります。

排水設備

一階以上の各器具排水は二管式配管方法により排便關係は土佐堀川畔に設置の汚水淨化槽に導き又一般排水は直接下水に放流することゝなつております。第一地階以下の排便は第二地階設置の「ニユウマテツク・シユウエージ・エゼクター」に導き自働的に前記汚水淨化槽に排出せしめ、又一般排水は二箇所の排水「ピツト」に集め三臺の排水喞筒により屋外に排除しております。排水「ピツト」には何れも「ハイ・ウオター・アラーム」を取附け不期の故障並に起動及び停止を「コントロール・センター」にて識別する様になつてゐます。

9. 汚水淨化槽

淨化槽は南側道路を距てた土佐堀川畔に約2,000人分の淨化機能を有するものを設けまして、汚水が各槽を順次に通過する間に腐敗並に酸化作用を受けて完全に淨化して、排水ピツトに入り鹽素滅菌設備により殺菌作用を施したる上同所吸上の排水ポンプにより土佐堀川に導いております。

10. 本工事に使用せる主なる機器類喞筒類

本喞筒類は荏原製作所製、電働機は三菱電機株式會社製にて又電働機制禦盤は何れも明

電舍製品を用ひました。尙ほ容量及び數量等は下記の通りであります。

1. ボアーホールポンプ 1臺

揚水量	10,000石/日
全揚程	75呎
口　徑	5吋
廻轉數每分	1720
馬　力	15 HP

2. 上水、井水揚水喞筒 4臺

	上水喞筒	井水喞筒
揚水量/每分	32立方呎	20立方呎
全揚程	140呎	170呎
口　徑	4吋	3吋
段　數	2	3
廻轉數	1750	1750
馬　力	15 HP	15 HP
臺　數	2臺	2臺

3. 消　火　喞　筒 1臺

本喞筒は「ガソリン・エンヂン」及び電動機直結型でありまして「エンヂン」は「ギヤーカツプリング」を用ひ「スピードアツプ」せしめる裝置となつております。

揚水量/每分	33立方呎
全揚程	200呎
口　徑	4吋
段　數	3
廻轉數	1720
馬　力	25 HP

4. 給湯循還喞筒

	ホテル用	厨房用	宴會場用
揚水量/每分	8立方呎	8立方呎	4立方呎
全揚程	30呎	30呎	20呎
口　徑	2吋	2吋	1½吋
廻轉數	1750	1750	1750
馬　力	1 HP	1 HP	½ HP
臺　數	2臺	2臺	2臺

5. 冷却水循還喞筒

揚水量/毎分	4立方呎
全揚程	20呎
口　徑	$1\frac{1}{2}$吋
廻轉數	1750
馬　力	$\frac{1}{2}$ HP
臺　數	2臺

6. コンデンセーションポンプ　1臺

揚水量/毎分	2.7立方呎
全揚程	15封度/毎平方吋
口　徑	$1\frac{1}{2}$吋
廻轉數	1750
レシーバー容量	4立方呎
馬　力	$\frac{1}{2}$ HP

7. 排　水　喞　筒　5臺

本喞筒は何れも竪軸電動機直結『ナンクロツグ」型であります。

揚水量/毎分	52立方呎	20立方呎	25立方呎
全揚程	40呎	40呎	15呎
口　徑	5吋	3吋	3吋
廻轉數	1150	1750	1710
馬　力	10 HP	5 HP	2 HP
臺　數	2臺	1臺	2臺

8. ガソリンエンヂン　1臺

消火喞筒直結用でありまして「エンヂン」は米國「ウオーケシヤーモーター」會社製電氣起動裝置附であります。

汽　筒	$3\frac{3}{8}$吋×$4\frac{3}{4}$吋
廻轉數	1200
馬　力	28 HP

9. 急速濾過器

氣曝槽に於て先づ氣曝作用を行はしめたる後本濾過器を通すもので米國「パターソン」會社型壓力式竪型急速濾過器であります。

	冷房用	雜水用
徑	8.5呎	8.0呎
高	9.0呎	9.0呎
濾過量/毎日	9600石	9100石

臺　數	2臺	2臺
ターボブロワー		1臺

氣曝槽送風用にして荏原製作所製電動機調帶掛ターボ型送風機の下記容量のものであります。

送風量/毎分	100立方呎
壓　力	5封度/毎平方吋
廻轉數/毎分	4500
馬　力	10 HP

眞空掃除機　1臺

米國「スペンサー・タービン・クリーナー」會社製にて「ダスト・セパレーター」を附屬しております。

同時使用量	6箇所
廻轉數/毎分	3600
馬　力	10 HP

エゼクター　1臺

第一地階以下の排便を自働的に汚水槽に揚水する機能を有するものにて米國「ヨーマンブラザース」會社製「ニユウマテツク・ジユウプレツクス・シユウエーヂエゼクター」であります。

揚水量/毎分	27立方呎
全揚程	40呎
空氣壓搾機	2臺

本機は前記「エゼクター」送氣用にて自働的に二臺交互運轉する裝置となつております尙ほ本機は日立製作所製

氣筒	7½吋×6吋
ストローク	4½吋
デスプレースメント	55立方呎/毎分
最大壓力	80封度/毎平方吋
馬　力	10 HP

水槽類

1. 給湯用タンクヒーター　6臺

米國「パタソン・ケリー」會社型に準據し製作せしものにて何れも自働溫度調節弁を備

へております。

徑	4.0呎	3.0呎
長	15.0呎	8.0呎
臺數	5臺	1臺

2. 給水加熱器 1臺

徑 2.5呎 長 5.0呎

3. 上水、井水槽 2臺

	井水	上水
巾	8.0呎	10.0呎
長	12.0呎	12.0呎
高	6.0呎	6.0呎

4. 氣曝槽 1臺

巾	8.0呎
長	20.0呎
高	7.0呎

5. 受水槽及び氣曝槽 2臺

	受水槽	空氣槽
徑	4.0呎	3.5呎
高	6.0呎	8.5呎

衛生器具

陶器類は東洋陶器株式會社製熔化素地一等品を用ひまして、之等に取附くる水栓其他の附屬器具は凡て須賀商會特製品の「クローム」鍍金のものを使用しました、尙ほ「フラツシユ」弁はニート商會製「ニート・フラツシユ・バルプ」を附しました。

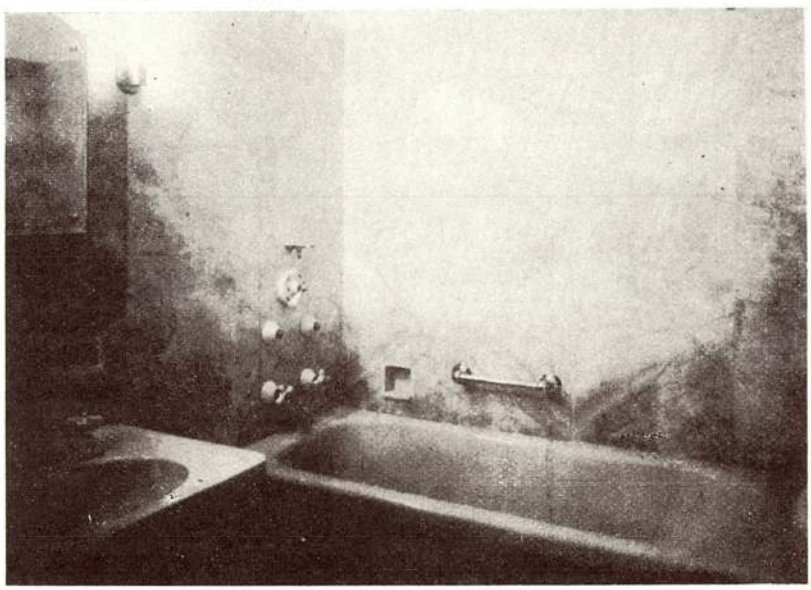
本工事に用ひました衛生陶器の數量は大體下記の通りでありますが殊に國産「バス」の斯くも多數採用された事は新記錄であります。

洋風浴槽	BH-19	11箇
	BH-20	146箇
	BH-24	48箇
洋風大便器	C-38	177箇
	C-50	12箇
	C-73	44箇
和風大便器	C-I	5箇
	C-7I	27箇

洗面器	L-302	5箇
	L-303	2箇
	L-114	32箇
	L-106	206箇
	L-69	2箇
	L-15	7箇
	L-1	14箇
	L-10	15箇
竪型小便器	U-25	32箇
壁掛小便器	U-40	7箇
	U-19	6箇
スロツプシンク	SK-18	1箇
	SK-22	12箇
水呑器	S-40	2箇
痰吐器	A-4	12箇
石鹸入	S-19	205箇
	S-22	207箇

以上

新大阪ホテル　特別室バス





〃新大阪ホテル〃の建築を語る夕

（五十音順）

飯高達夫	（清水組大阪支店長）	川口一二	（構造計算擔當）
甲斐原四郎	（設備設計擔當）	加藤誠二	（清水組大阪支店次長）
古宇田實	（ホテル建築委員）	武田五一	（ホテル工事主幹）
竹腰健造	（ホテル工事副主幹）	波江悌夫	（前大阪市建築課長）
三好貫一	（ホテル工事現場主任）	吉本政次郎	（清水組ホテル現場主任）

岡田孝男　桐本楠雅　新名種夫
島田良馨　三浦尙史

昭和10年2月17日
於　新大阪ホテル

岡田　それでは御挨拶致します。今晩お忙がしい處をお出でを願つて、これからこのホテルについて皆様のお話をお伺ひすることにしましたのは、それを速記しまして雜誌に載せる豫定で御座います。お集りを願つた方々はホテルに御關係の方が多う御座います。皆様に判り切つたやうなことでも實際ホテルを見ない讀者が讀みますと興味があると思ひますから、さやうなことでも一つ讀者の爲にお話下さつた方が宜う御座います。初めにホテルはどういふ風にして設立されましたか、それからお願ひしたいと思ひます。此方は馴れませぬので、武田先生に司會をお願ひした方が話がうまく行くと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

武田　一體云ふと司會者が云ふのは變なんですけれども、最初の起りを一寸申上げて見るのも無駄ぢやないと思ひます、この中で最初の起りを御承知の方は恐らくなからうと思ふんですが一體云ふとこれは市の第二助役の瀧山君が居られると一番よく判ると思ひます、併し今日はその方がお出になりませぬし、その當時に波江君が建築課長をして居られまして、大阪市で一番波江君がこれに參與して居られたのぢやないかと思ふんです、この工事が初まる時に轉任されましたけれども、最初の所謂雲煙模糊の間の事情は波江君がよく知つて居られるので、私が一寸申上げますけれども、細いことは波江君にお援け願ひたいと思ひます。元々この話は古いのでありまして、昭和3年の春頃と思つて居りますが、實は關市長の話にこの大阪にホテルがないので困る、何かホテルのやうなものを造らなければならぬが、恰度昭和9年の秋に赤十字萬國大會が東京で開かれる、その連中が大阪に來て泊るので、大阪のホテルは貧弱なので何とかしてその機會を利用してホテルを建へたいといふやうな話があり、一寸下相談があつたのです。どうしたらいゝんだらうといふ様なお話でありまして、ぼんやりしたことでありましたけれども多少話合をしたことがある、その當時力石知事が來られて、知事さんにも話たんでせう、知事さんが無論惡からう筈はないので賛成されたらしいんですけれども、關君と力石知事やで理窟を云つても金がない、市にも金がないし何とも仕方がない、事業は金があつても經營するものがなければ出來ない、それに對する經營者をこしらへやうといふので、大阪倶樂部だつたと思ふんですが、あそこで湯川さんに會はれたんです、住友の湯川さんに話をした處が一寸乘つて來られたんです、實は併し乍ら湯川さんといふお方は非常に硬い方でなかなかうんと云はれない、算盤を彈いてどうも儲りさうもないが殆ど利害を離れて、それじややつて見やうと湯川さんが云はれたのが、昭和3年の末頃だと思つて居ります。それからは割合に着々と進んだんですけれども、湯川さんとしても一寸資本主の側として多少不安であつたんだらうと思ふんです、その内東京の大倉さんとの方も話が出來、大倉さんは帝國ホテルをやつて居られるので、ホテルといふものに對しての經驗を有つて居られた。相談した處が、宜しからうといふので大倉さんも同意されて、大倉、湯川、力石、關かういつたやうな人達のトラストが出來た譯で、それからは着々と話が進んだ、その結果金が必要といふので350萬圓の低利資金を借りて、それで計畫を進めるといふことになつて來たんです。さういふことで、波江君の方からも詳しく話して頂きたいと思ふんですが、愈々ホテル建設の事が具體化し、低利資金も借りられるし、萬事本當の話になつたのは昭和5年の夏の頃で市會で議決されたのは昭和5年の春だつたと思ひますが、大阪の市會で350萬圓の低利資金を借入れるといふことに議決された、その時にはもう原案を作つて出されましたね、さうでせう波江君、原案はその時ですね。

波江　出たやうに思ふんです、私はこのホテルには關係があるやうですけれども實はないんです、それで低利資金を借りられる草案を庶務部長と第二助役が作つて居られて、二三質問があつたやうに覺えて居りますけれども、その草案の内容は知りませぬ、さうしてつまり東京の方に出して居られる内に昭和5年の春2月頃だつたと思ひますがね、1月だつたか2月だつたか低利資金が愈々借りられるといふことがはつきりして來て、それでは實はかういふ案があるんだといふ事で初めて聞いた譯で、その當時にホテル事業でありますから、ホテルに經驗の深い人に相談しなければならぬといふので帝國ホテルの犬丸さんに萬事相談したといふことを承り

ました。

武田　その原案によつて、單價當りで出された豫算なんです、それも無事市會を通過しまして愈々設計にかゝらうとしたのが昭和5年です。設計をやる時に關君と犬丸君とは高等商業で同窓だし、且犬丸君はホテルに經驗が深いから、犬丸君に經營をやらせやうと言ふ譯だつた、ホテルのプランは特に營業上の關係もあるから大體犬丸君にやつて貰へと賴まれて、その案が出來て來たのが、昭和5年の春頃だつたと思ひます。その案に從つてそれから愈々建築をどうしたらいゝかといふ問題になつて來た、その時に實は外部から非常な運動で新聞にも種々書かれるし、市長も非常に困られて、どうだらうやれやうかといふ話がありまして、實は相談を受けました、私はその時に一寸考へたんですが、どうもこいつを東京にやることは面白くない、斷然市營がよからう、市役所に建築課があるんだからといふので、他の方の建築家は斥けて愈々市の方でやるといふことになつたわけです。それでつまり波江君の處に行つたんだらうと思ふんです、處で、やるにしても市長の考へとしては實は市の方でやれるかといふ話があつたからそれは無論やれる、立派な人が揃つて居るから結構やれますと申上げて及ばず乍ら私も多少助けて上げませう、結構出來ますといつた、市長も多少市のことも考へたと見えまして、それぢや顧問といふものを作らう、諮問機關を作つて實際の仕事は市の方でやる、かういふことでホテル建築委員會といふものを作つたのが、片岡君とそれから住友の方の日高君、長谷部君、僕それから市の方の島君、それに帝國ホテルの犬丸君……

波江　古宇田さんも入つて居ります。

武田　古宇田君、さういふ連中が寄つて、それで内部でどんどんやつたんです、その時に建築課では富士岡君、川口君その他皆寄つて、仕事は非常に進んだんです、大體6年の春頃には大體設計が出來たんです、一通りは何時でも着手出來るやうになつて居りました、處が僕が昭和6年5月から11月まで大學の出張で洋行したんです、洋行をした幸にヨーロッパを廻つて來るから見て來やう、若し工事が待てるものならゆつくりしたらどうだらう、かういふことで、さういつた處が市の方でも未だ金の借入れが完了してなかつたんでせう、資金の方の關係が完全に準備出來なかつたやうなことで、實行は暫く待たうといふやうなことで、私が歸つて來るまで出さなかつた、併しその間に基礎工事丈は出來て居つたものですからそれは6年9月でしたか、その時は大林がとつて工事をやりました、私が11月に歸つて來た時には基礎工事も段々出來て居りました、それから上の工事の方の圖面も出來上りましたが、多少そこは變へなければならぬ所もあつて、變更したんです、變更は實は少し越權でしたけれども殆ど僕の意見でやつた處が東京の方の犬丸君の方で非常な不平がある、一體營業は俺の方でやるんで、市の方が勝手に設計してやられたつて俺の方では商賣は出來ぬといふ譯その時には波江君は辭任して居られませぬ、さうして富士岡君が代つて建築課長となつて居られて、その下に設計主任として伊藤君、その伊藤君に度々東京に行つてその方面と折衝をして貰つたが中々うまく行かなかつたそれから甲斐原君が東京で初めからやつて居られたので度々行つて貰つてうまく話をつけて呉れましたが、そんなことには構はずにどんどん設計の方は進んで行つたんです、さうして纏めて、餘り歲を延ばすことも出來ないからといふので、愈々入札にすることになりましたが相場の變動なんかでごてごてしまして、昭和7年でしたかの12月に第1回の入札、その時には豫算超過でなかなか決らないで、とうとう昭和8年2月に愈々清水組の大喬發で愈々工事着手といふことになつたんです。さうかうしてゐる中に住友の方でも計畫の方を進めて戴き、代表者として竹腰君が入つた、竹腰君はホテルの方の犬丸君の關係の方を大部分圓滿に纏めて戴いて、それから計畫は非常に順調に行つたんです。その爲に設計變更は大變なものでその爲に現場に居られた三好君は大變御迷惑で、恐らくこれ位面倒臭い工事はなかつたらうと思ひます。併し工事が初められてからは非常なフルスピードで昭和9年の終頃に完成したんです、ですから主體工事にかゝりましてから1年半位です、これ丈大きなものを1年半で完成されたといふこと

はこれは一のレコードだと思ひますが、而もそれが初めの設計通りではない、途中で變更々々があつて、さうしてまア出來たといふのは餘程宜く出來たと思つて居ります。その間の竹腰さんの方のお骨折なり三好君の方なんか大變だつたんです、その間市長は實はこの工事の進行については心配をされて、種々な相談もして居りましたが、まア干渉がましいことも云はず、兎も角最後まで默つて居られた、今年の1月10日の落成式に機嫌よく喜んで式に見えられたんですけれども、間もなく病につかれてとうとう亡くなつてしまつたんですが、本人としては滿足して死んだだらうと思ひます。そんな譯で、このホテルが出來た譯なんです。甲斐原君も初めから設備の方で非常に働いて戴いて、東京と大阪の間の楔になつて可なりお骨が折れたんですが非常に皆協力して、恐らく殆んど協力でこのホテルが出來たのも、全く皆樣の犧牲的精神に依るものだと思ふんです。又その間清水組の方も大變だつたらうと思ひますけれども、これもまア異狀なく市の方でも感謝狀を出したさうですが、無論感謝に値するものと思ひます。經緯はそんなものなんです、東京の代表は犬丸君ですけれども、併し犬丸君の設計、建築技術的のことは高橋貞太郎君がやつて居りました、要するにそれは何です、住友、大倉と市との三位一體でやつたことになります。そのほか工事が始つて出來上るまでに面白い經緯はあつたんですが、さういふ細いことは皆樣關係者一同よく御承知ですから私は略しませう。新名君も途中から入つて來られて御迷惑であつたらうと思ひますが……

岡田　竹腰さんは途中からですか。

武田　途中からです、初めは東畑謙三君、古賀鄕實君の2人が意匠の方を、構造の方は川口君がやつて居つた、さうして設備その他は初めは市でやつて居つたんです、甲斐原君も途中だつたね。

甲斐原　私が話を初めて聞きましたのは昭和4年の暮で御座いましたが、一つ大阪にかういふホテル——その時は國際ホテルと申して居りました。國際ホテルを建たいといふやうな話を聞きました。それで豫算を樹てねばならぬ、設備の方の豫算を一つやつて頂きたいといふやうな話で、昭和4年の暮に聞きましたけれども、種々のことで忙がしかつたものですから、本當にかゝりましたのは5年1月の終頃でした。

武田　つまり市の方で設備設計をする時甲斐原君が始終經營者側を代表して居られたんだ。

波江　それは昭和5年の終ですよ、1年違ひです、さうして實際に完成されたのは6年の初

甲斐原　私の實際かゝりましたのは7年です、途中が大變長い間抜けて居りましたんです。

新名　計畫には初から御關係でせう。

甲斐原　私は直接ではありませぬが、諮問機關としまして……

武田　申殘しましたが、最初市の方では建築課でやるといふことで初めたんですが、途中で市の方の建築課の方でやると手續上非常に五月繩いことがある、例へばそれこそ數十の印をとらなければ一つの仕事が決らない、これぢやいかんといふので、島君の方で特別の機關を作ることになつて、土木部直屬のホテル建築何とかね

三好　建築事務所です。

武田　事務所か、それを作つて、そこで大阪市の方の建築課とは緣が切れた、その時に市を代表する爲に新名君に入つて貰つたんです、あの時は波江君御承知でせうか。

波江　私は3月に辭めたんですけれども、ホテルには殆ど關係して居ないんです。只これ丈の仕事になると初から臨時建築部のやうな形でやられた方が如何にも順調に行つたやうに思ふ、それ丈は大變惜しかつたやうに思ふ、それで最後に參加された竹腰さんが非常にお骨折だつたらうと思ひます、殊に民間の資本家も入つて、市丈の仕事ではない、民間と協力しての仕事だから臨時建築部の形で、さうして竹腰さんのやうな方が早く參加されたらもつと順調に進展して行つたやうに思ひます、それ丈は如何にも遺憾だと思ひます。組織について。

武田　住友を代表するのが日高君だつたから、その時から竹腰君が代表して居られればよかつたが、日高君が途中で辭められたものだから。

岡田　計畫されたのはどういふ目的でされたん

で……

武田　その目的は大阪に代表的のホテルはあつても、大阪ホテル、堂ビルホテルなどは東京の人や外國の人が來て非常に遺憾だといふて居つたんです、大阪のやうな堂々たる都市にあんなものがホテルかといふ譯で皆困つて居つたんです、そこでどうしても大阪を代表するやうな大きなホテルが要るといふので、それでまアやることになつたんで、それで觀光ホテルなんて云ひ出したのは新聞社で、初めから觀光ホテルなんてそんな意味でこしらへたものではない、つまり大阪のシチーホテルといふ譯だから普通の觀光とかさういふ意味ぢやない、市に於ける代表的のホテルといふ譯で、特殊の目的は有つて居ないと思ひます。ビヂネスホテルでもなければ觀光ホテルでもない、何でも御座れといふホテルなんですけれど、犬丸君の考で、ホテル丈では到底經營が六ケ敷い、これはホテルと饗宴場兩方を兼營することによつて初めて經濟が保てるといふので、半分はホテル、半分は饗宴場といふことになつたんです、それについては各階にキツチエンをとらなければならぬ、あの甲子園ホテルなんかでもホテル丈では赤字なんですけれども饗宴場でやつと息をつないで居る譯です。こゝでも饗宴場の方がこんなに繁昌する大成功なんでせう。扨主體工事になつてからずつと初から終まで關係して居られたのは三好君だらう三好君の苦心談を一つ。

竹腰　三好君も基礎工事が出來上る頃からで、武田さんは終始一貫でせう。

武田　僕丈です、兎に角くつついて居つたのは古宇田君も初から關係があつたですけれども遠くから番をして居たので。

古宇田　全くその通り埋草です、番犬みたやうなものです。

波江　設計設備構造の方を川口君が關係して居られる時分の話はありませぬか一寸構造上一番大事な處ですが。

武田　かういふことがあつた、構造を川口君にやつて頂きまして、すつかり出來た、處が途中で東京の方の犬丸君が構造が丈夫過る、その爲に經費が餘計にかゝる、もつと輕い構造にして貰ひたい、かういふことを云つて來た、ホテルといふものはさう最初の經費に餘計使はれては困る、つまりかういふ意向なんです、そこで川口君が實はあの時現場に來て貰つて、朝日クラブでしたかね、あの時來られたのは竹内君だつたかね。

波江　竹内君だつたらう川口君の意志を有つて

桐本　川口さんが辭められてからです。

武田　竹内君だつたと思ふ、朝日ビルで東京の連中と一緒になつて話した處が、話して見れば何でもないんです、それでそのまゝ目出度く納まつて、設計は原案通りでやるといふことで濟んだんです。

三浦　川口さんのおやりになつたのは原案通りですか。

川口　原案通りやりました、設計のはじめ一つ面白いことがありました、公孫樹がありましてね、それに崇られるといふので。

波江　どの邊にあつたかな。

川口　倉庫みたやうなものがあつたでせう、あの塀の外に枝を出して居りました、恰度築港の方で貰へぬかといつて來て無事にホテルの平面が出來たんですが。

武田　遞信省の氣送管があつたね、あれで基礎工事が進めなかつた、取つて呉れといつても遞信省のことでなかなかやつて呉れないし、こつちでは動かせないし困つた。

川口　公孫樹は初めは伐つてしまふ心算で居つたんです、處が公園課の方でもあれ丈大きいものを惜しいといふんです、恰度何處かにあつたのを城内に移した處が娘が下敷になつて死んだといふことで、僕に川口君死ぬぞといふんです（笑聲）

波江　その公孫樹を何處に移した。

新名　市岡の方でしたかね。

波江　城内のがそれだらう。

川口　城内のは違ひます、君死ぬぞといふので推原さんもあれは惜しいといふので移轉したんです。

波江　古い樹だ。

川口　崇りがあるだらうから祀つたらとかう申上げたが。

武田　伐らなければ家が建たないでせう。

川口　一寸ひつこめればよかつたんです、一應

その積りで進んだことは進んだんです。

新名　それが相當崇つたさうです、湯川さんが死なれる……

波江　あれは騒ぎがなければそんなことは云ひはしないが、そこから云出したんだぜ。

川口　大分脅かされたもんです、あの時は。

武田　ホテル現場へは三好君が最初から行つて貰つて、竹内君が途中から、後から附添つて貰つたんだつた。

三好　餘り澤山あるからごちやごちやになつて

三浦　素人に歡迎されさうな面白い話を。

三好　恰度私は商科大學の方の第三期工事を持ちまして、入札に忙がしかつた時で、その時分は何でも物價騰貴の最中で、それが漸く纏つた處へ富士岡さんが君ホテルの方に行つて貰はなければならぬ、かういふ話、全く寝耳に水だつたんですけれども、その話があつてホテル工事場に來て見ると大分基礎工事が遲れて居る、もう10ケ月といふに殆ど倍位かゝつて居ります、これは急がなければならぬと思つて兩方かけ持でしたが、その時分は本當にキリキリ舞をしました、さうして犬丸さんの話では主體は來年の2月、即ち昭和8年ですが2月の紀元節ですかあの日までに纏めて恰度吉日に入札しやうといふことで、さうするともう4ケ月あるかなしです、豫算を調べて見るといふと大分開がある、それが少しぢやない、それで私の方も困つてしまつた、圖面通りにやるといふことはとても六ケ敷い、どつちにしたものだらうといふので、兎も角圖面通りにして若し出來ない時には追加豫算が出來ない場合には豫算會議をして貰ふことにしたんです、犬丸さん邊りは、一流のホテルだから金の要ることは仕方がない、かういふ話で、恰度入札の落ちたのが180何萬圓のが、最低の清水組との開が2千圓でしたか3千圓でしたか、極く僅かで落ちることになつた、處がその時恰度鐵材は暴騰、品不足といふので、清水組としても大分困つたらしい、清水組に落ちたのが3月の中頃でしたが、實際の仕事が始まつたのは7月の中頃でした、で最初犬丸さんの方では赤十字大會には是非間に合はして呉れと呉々も云はれた、さうすると3月からやつて、翌年の10月が既に大會、如何なる犠牲でも拂つてやつて呉れ、かういふ話で、やれませぬといふことはとても出來ない、それでは出來る丈のことをしませう、そして或一部分をやつて一部分を使つて頂いて、又後は使ひながらやつてもよろしいと思ひまして、それで第一に清水に交渉したのは、これ丈急ぐ仕事だから人間を揃へて呉れと言ふので、清水の方で工事主任の吉本現場主任の山手この二人に會つてそれから加藤君及支店長にも來て貰つて、兎に角必死になつてやつて貰ひたい、それには何よりも俺達の最も信頼の出來る人を君等の方で集めて呉れ、多少君の方で犠牲を拂つても、他の工事から引抜いてでも信用の出來る人を集めて呉れと呉々も頼んだ、それで支店長も加藤君もその意を呑込んで呉れて、清水組も實際いゝものを寄來して呉れた、私の方も武田先生にもお願ひし、第一役所のあの繁雜な處ではとてもこの工事を切抜けることは出來ない、設計變更に對して相當面倒な手續が要る、一つを變更する爲には2週間も3週間もといふ日時を要する、それで武田先生にお願して、役所の設計變更手續を簡略にしてやりたい、そして市の現場の方にも出來る丈眞面目な人達を集めたんです、處が、大體工事監督の數といふものは10萬圓に對して1人位の監督が欲しいんです、さうすると 180 萬、200 萬近いと15～16人欲しい、所がその時分に私達の頂いたのは7～8人位しか居らぬ、それで清水組には出來る丈け一流の下請にやらして呉れと頼んだ、それで清水の方も鐵骨は川崎造船所、三菱造船所に注文した譯です、そして漸く7月15日に初めて柱が建つた譯なんです、工事は急がない無理な仕事はしないやうにして出來る丈手順よくしやう、それには材料邊りも2ケ月目に要る材料は4ケ月前に注文しろ、さすれば若し材料を檢査していけないといふ點を變へて間に合ふ、かういふやうな具合に材料、それから仕事の全部の工程に對して不斷清水組と密接な折衝を保つて行つた譯なんです、それからといふものは仕事がどんどん進んで行つたんですけれども種々の設計が東京邊りの、竹腰さん邊りの御指導によつて多少そこに前の計畫より違つた爲に多少狂ひましたけれども、今年の8月15日といふ期限が、その年の12月末といふまでに延

ざた丈で大過なくこの工事を終つたといふことは、實際武田先生や竹腰さん邊りの御指導宜しきを得たことと思つて厚く感謝して居る譯であります。

武田　實際設計變更といふものは實に大變厄介なものです。

川口　庶務との掛合はうるさいものです。

武田　變更手續簡略のことなども市長の方から庶務課長の方に天降つたものだからよかつたが下からあれが上つて行つたんではうまく行かない、あゝ出來たのは非常に幸福だつたと思つて居るんですがね。

武田　甲斐原君は初から設計をやられて途中で全體の變更をしたんでせう、あの經緯を何か。

甲斐原　初からといふお話でありますが、昭和4年の暮に犬丸さんから漠然たる目論見の豫算のやうなもので別に實行豫算のやうなものではなく只何坪だから幾らになるか、水道は幾らになるのか、まアさういつたやうな極く漠然たる目論見を求められましたので、私の見積では全部で約90萬圓だつたと思つて居ります、それをこしらへて今犬丸さんの方に出しましたのが昭和5年の3月か4月位だつたらうと思ひます、その前に市役所方でプランを立てゝ頂く事について、設備の方として後藤君が二三度東京の方にも來られて、かうしたらどうかといふやうなプランについても、初めの内は漠然たるものでした、それを犬丸さんの横つちよの處に私が居りまして、强いて聞かれますと我々もかうした方が宜くは御座いますまいかといふやうなことを帝國ホテルで、約10年間キーパーをやつて居りまして常に私の苦心しました處丈をかういふ具合にすると後でかういふ樣に具合が惡いからといふやうな事で參考になる程度にお話をした心算で居ります、さうかうする中に昭和6年或は昭和7年の正月過位でせう、犬丸さんからもう少し具體的のプランを立てゝ見たらどうかといふやうなお話がありまして、それからは具體的に考へました、そして算盤を入れて見ました處が、なかなかどうも90萬圓では上りさうもない、おまけに金輸出禁止になりまして、非常に物價が上つて來る豫想がついて居りますので、どうしても少し豫算を增さないととんでもないことになるが、といふやうなことを考へて、それから又見直しまして、100 萬圓以上も入れなければならぬといふことを犬丸さんにお話ししました、そこで犬丸さんのお供をしまして7年3月位でせう此方の方に參りまして市の方々にお目にかゝりまして、豫算を立替へないと初めの豫算ぢやいかんのぢやないんですかといふやうな話をしたことを記憶して居りますが、その席に武田先生お出ではなかつたやうに思つて居りますが、さうしてそのまゝ東京の方に私は歸つて參りましたが、間もなく犬丸さんが君向うの方に行つて少し具體的にやつて見たらとこういふ樣なお話、それから大倉さんの直接命令を受けて私は此方の方に參りました、それは7年の4月でありました、それから役所に勤めることになつたわけです。市の方では後藤君は煖房冷藏の方を衛生の方は新熊君がやつて居りました、それから電氣の方に適當な人間がないから君に誰か一つ電氣の方の人間を入れてやつて貰ひたい、かういふやうな話を承りまして、伊藤圭二さんの事務所に勤めて居りました永田君をこつちに來て貰ふことになり、私は全體的の相談に乘つて居りました、その間私は主として長い間ホテルのバックサイドの方ばかりやつて居りましたから、市の伊藤君の諮問機關として、入口はどつちにつけたらいゝだらう、階段はどうつけたらよからう、扉の開き方はどつちがいゝかといふやうなことを桐本君邊りと一緒に研究をしまして、一階、二階邊り、それから一階の食堂とかいふやうな本當の裏の方ばかりのプランについて御相談して居りましたんです、その中に建築の方も入札が出來まして、建築の方が遲れると設備の方も非常にやり難くなるからといふので、非常にこれを急がしましたけれどもなかなかそれが金の都合やその他で設備の方の入札を出しましたのが7月、8月の終り頃で請負が決定しましたのは9月位で、その頃にはもう竹腰さんもお見えになつて居られました。今一寸冷房のお話がありましたが、冷房はホテルにはどうしてもやらなければいかんだらうといふやうな話が出ましたが、初め冷房の話が出た頃にはまだ一般的には餘り冷房はやつて居らなかつたかと思ひますが、何だかどうも贅澤なも

のをやつて居る氣分がしました、併し何れにしてもこれはやらなければいかぬ、やるといふことになると、全館をやるといふと大變な費用だから、それを何處にやつたらいゝかといふことについて意見を申上げた、ホテルを經營する一部の人は金が取れない處に冷房をやつても仕樣がないから金の取れるまア宴會場の方、といふ話もありましたけれども、結局パブリックホール、喫茶室といふやうな經つた處に冷房裝置をすることになりましてその工事が進んで大分出來ましてから寢室にも冷房をやらなければ、或は又宴會の方にも、暑い時分に宴會をするにどうも暑くてかなはないと、かういふやうなお話がありましたが、それには種々變更しなければならぬ、機械も大きくしなければならぬといふやうなことになりますが、その機械を大きくすることはそれは大した問題ではありませんが、ダクトをずつと入れて行くといふことはなかなか建築の方で六ケ敷いことなんで、そのことにつきましては竹腰さんに大分骨を折つて頂きました、私は命令に從つてやつた丈で、ダクトの變更は殆んど竹腰さんにやつて頂きました、客室も宴會の方もそれが爲に冷房が出來たんですが將來に大變いゝんぢやなからうかと考へて居ります。設計の方につきまして大體方針は種々ありましたけれども、その個々については又時間があつたら申上げます。

三浦　ドアの開ですが、大抵内開ですね。

甲斐原　それは廊下の方に開けますと通つて居る人に當りますから。

三浦　便所も中の方ですが、大抵の人は今まで押して出るやうな習慣があるものですから、つい今も兵隊さんが來て居りまして、うんと押して居りました、あんなことはどうでせう。

甲斐原　中の方に開くのがいゝんぢやないかと思ひます。

三浦　寢室のドアの把手も高いと思ひますが

甲斐原　あれは把手が高いんでないんでして、鍵穴が高いのです、把手と別々に離して出來ないことはないと思ひますが、鍵穴と把手と一緒になつて居りますから、鍵を小さい穴に入れなければならぬ、それで目の高さよりも低くならない處にすることになつたので、そんな必要のないものは皆必要の高さになつて居ります。

三浦　寢室のは馬鹿に高いやうでしたけれども

武田　あれは帝國ホテル式で、ライト式です、僕は高い方がいゝと思ひますが、西洋人に對する高さですから、日本人には一寸女なんかには高過ぎます。

三浦　鍵には恰度いゝんですかね。

武田　このホテルの設計には特に犬丸さんが設備といふものはホテルに非常に大切だから、建築の設計は變更してもやつて貰ひたい、かういふことを吳々も云はれたんです。

新名　竹腰さん何か。

武田　竹腰君は途中から入つて來てうまく納める爲にやられたんで、その苦心談を一つやつて貰ひたい。

竹腰　今武田さんからホテル内部についてのお話があつたんですけれども、私はその當時住友に建築課長をして居つて、このホテルの工事については武田さんの立場から見られたのと、私が中から見て居つたのと少し事情が違ふやうに思ひます、さういふ點を少し話したいと思ひます。それは何時の頃かはつきり記憶はないのですが、住友合資會社の新らしい企業を取扱ふ商工課長から、實はかういふ計畫がある、ホテルの計畫なんですが、その圖面はこれだ大體の目論見書はこれだ、これが大體建築費だが妥當なものであるかどうか見て呉れ、かういふ話であつた、それを見ますといふと圖面は確か大倉組の土浦君の書いた原案でありました。

甲斐原　左樣で御座います一番最初は私の方でやつて居りました、土浦さんです。

竹腰　それから建築の方と設備の方と合せて250萬圓、坪當り單價350圓、その頃は比較的物價の下つて居つた時代ですから、これは計畫としては適當なものだと思ふ、これなら行けると返事をしました。經營の方の目論見書がついて居りました、これは併し見ましたけれども、私共これは初から想像して居つたのと餘程違ふ例へば宴會で非常に儲かる、花屋で儲かるその利益を計上してあるのが莫大な額であります、それから室の數、室の上り高の利益といふもの

は非常に少い、併しこの方は私は判らぬから一つ適當にお考へ願ひたいとかういつてやつた、それが私が初めてホテルについて、かういふ計畫であるといふことを聞きました初でした、それから、その後になつて、愈々大藏省の低利資金を借入をする、その目論見によつて350萬圓、それで平面圖がついて、確かエレベーションも附いて居りました、かういふ計畫であるんだ、まア參考に見ろといふ程度でした、そのプランは即ちこの現在のプランの計畫の一端です、その後に私のこのホテルについて聞いたことは、初め商工會議所で大阪ホテルを建てるといふ計畫をして居つた、處が、その當時は大藏省の低利資金を借りて建てるといふことではなくして、大阪の有力な人が集つて金を出合つて建築をするといふことであつたんです、處が、それが出來ない、その次に府で建るといふ計畫、處が府ではどうも思ふやうに行かない、知事は始終代る、中心人物が始終變るので具合が悪い、矢張り市に移した方がいゝといふので、それに市では關市長を初め瀧山助役が非常に熱心になられて、それで住友さんの方に經營のことをやれといふことを頻りに言つて來られた、先刻も武田さんのお話のあつた大阪倶樂部で云々といふのはその時のことだらうと思ひます、湯川さんはやつて見やうといふ考であつたらしいですが、住友の重役全部、住友ではさういふことはどうしてもやつちやいけないといふ意向を有つて居つた、ホテル事業といふものは特殊の事業で、住友ではホテルは經驗がない、まアさういふものに手出をするといふことはいけないと、非常な反對があつた、それで湯川さんもそれに連れられて一時手を引いて居られた、それから關市長は住友は駄目だといふことで、それでは大倉さんが帝國ホテルをやつて居られる、大倉さんの方にお願ひしやうといふので東京に行つて帝國ホテルの犬丸さんにも話し、大倉さんにも犬丸さんを通じて話されたらうと思ふんです處が、その時の話に大倉さんのお話は帝國ホテルを經營して居るからといつて、大倉さんが大阪に行つてホテル經營をやるといつてもそれはとても出來ない、で、これは住友さんやら大阪の財界の有力者が皆して力を借して呉れるならば一肌ぬがうといふことを大倉さんが傳へられた、そこで、その當時湯川さんが上京された時に帝國ホテルに泊つて居られた時、犬丸さんも頻りに湯川さんを說いたらしい一方大阪市の方でも湯川さんに勸めて居られたんですが、そこで湯川さんは自分自身ではやつて見てもいゝと思はれても住友さんの方で餘り乘氣にならないさうかうして居る内に湯川さんが住友を辭められた、辭めて商賣人になられて、さうして貴族院議員になられた、その時湯川さんが又東京に行つて帝國ホテルに泊つて居られる時に犬丸さんが又頻りに勸められた、それぢや一つ湯川さんが自分でやつて見やうといふ氣になられた、さうして湯川さんが此方に歸つて見へて、元住友に居られた方で退職して居られたやうな方を使はれて一肌脫がう市の爲に、併し住友丈ではいけない、大阪の人全部でなければいけないからといふので、三井、三菱その他、今このホテルの重役をして居られる方々を湯川さんが說かれたものと思ふ、今日では株數から云ふと住友さんが大變澤山有つて居られるんですが、三井、三菱、大倉さんは殆ど同じ位の株數を有つて居られる、その4軒が大株主で、その他にそれよりも少いけれども相當の株を有つて頂いてやられた、さうかうして居る内に、仄かに設計の獲得運動について種々のデマが飛んで居つたんですけれども、その日その日の仕事に逐はれてよくそれに興味を持つといふことが私は出來なかつた、大體に於てプランは高橋君が作る、エレベーションも高橋君で出來て居つたと思つて居ります、それは非常に簡單なもので、それだつたら250萬圓で當時私も出來ると思ひました、處が餘り設計獲得運動がひどくなつて來たので湯川さんがその時に工作部長をして居られた日高さんにどうしたらよからうといふことを相談に來られた、日高さんが當時私に話されたのではありませんですが、大體これは數人の人を選んで設計競技をして、さうして設計擔任者になる人をこしらへる、それから工事は市でやる、その擔任者になる人が市の建築課の人の助力を賴んで市で工事をする、かういふ案を湯川さんにお答へしやうと思ふがどうだらうと話した處が、それは結構な案だらうと思ふとお答へしたんです、その後は日高さんが直接湯川さんにお話をされたんですが、日高さんはその案を持つ

て湯川さんへ行かれた處が、それは非常にいゝそれぢやさういふことにしやうといふことで、確か關市長に話された、處が其の後日高さんから暫く話がありませんでしたが、ずつと後になつて設計競技といふものはいつもいゝ結果を來さない、それであれは止めにされたんだ、プランニングは高橋君の案を使ふ、エレベーションは武田さんのをやつて居られるといふことである、武田さんの方でやられる、それで落付いたんだといふかういふ話を私は聞いた、そこで話はぷつゝと切れる。それから暫くしてこれは昭和7年の確か8月頃かと思つたんですが、之亦商工課の方から私に圖面と豫算とを持つて來られて、それは鐵骨と鐵筋、主體工事丈の部分でこれ丈を先づ見積りに出すんだ、この圖面で妥當であるかどうか一寸目を通して呉れ、かういふ話私はそれを見ましたのですが、どうも私の見當では是は此豫算では出來ない、惟ふに15萬圓から20萬圓を超過するでせう、かうお答へしたんです、それは第一鐵骨の噸數が市役所の拾つてあるものは少いやうに思つた、それから大體の骨組の强さから打算して見ますとどうもこの金では出來さうもないと思つたんですが、その入札の結果はやはり25萬圓か高かつたさうです結局15萬圓位負けられたらしいですが、結局不調に終つたさうです。それから私は又ぴつたり緣が切れてしまつて何も聞かなかつたんですが8年3月か4月頃と思ひますが、基礎工事が略完成に近づいて、それから主體工事は清水組さんの請負が決定した、その時に或基礎工事の上に何か出來事がある、それを東京の方から詳細にホテル會社の方から云ふて來られる、それで私に相談があつたんですけれども、どうも現場を見ない事だし私は分らぬ、かういつてお斷りをしたんですが、まア大體その時に初めて三好君を知つたんですが、樣子を聞いて見ると大したことではないやうです、それで、それなら大したことはないでせうとホテル會社にお答をした處が、そのことを又ホテル會社の方から市役所の工事囑託である、又ホテル會社の囑託である犬丸さんに通じて居られた、犬丸さんの方にはそれとは異る報告が種々行つてゐるらしい、尙一度よく調べて呉れといふやうな話、三好君に更にお願ひしたんですけれども大したことはない、それで又そのことを東京に云つてやつてそれで數度往復したらしいんです、結局終ひにホテル會社が相手にならぬものですから、犬丸さんから工事を中止して呉れとかういふ話が出たこゝでホテル會社としても吃驚してしまつて、眞劍に君何とかして呉れとこう言ふ話です、その時實は私或人にどうしたもんだらうといふことを相談した、その先輩から種々注意されて居たのでホテルの方には始終體よくお斷りをして居つたんです、當時私はまだ住友に居つた時分是非行つてどうかせいといふことで斷り切れずそれから初めて關係するやうになつたんです、それ以後は武田さんは從來通り主幹になつて居られる、私は副主幹、當時種々手續上五月蠅いことがあるだらうと言ふので簡略の爲に大阪市臨時ホテル建設事務所といふものが出來て、所長に土木部長がなつて居られた、それからその直接工事に携つて居る人の間にも種々と經緯があつたやうですから、この際極めて圓滿なる人格を有つて居られると萬人が認めて居つた新名君に來て貰ふといふことで新名君が入つて來られた、私と新名君は殆ど同時にこのホテル事業に關係しました、それからは工事が順調に進んで、先刻武田さんからお話があつたやうに1ケ年6ケ月でこゝまで來たのでありますが、先刻もお話のあつたやうに設計變更といふものは市としては非常に面倒なことであつたらうと思ふんです、この面倒なことを全部三好君にやつて貰つたんです、その件數が二百何件かでしたね、この設計變更をしたのは武田さんのお話では殆んど犬丸氏の註文の樣なお話があつたんですけれども、それは犬丸君の爲に餘りに酷であつて、殆ど全部は私が責任を負ふべきものであるんですが、これは徒らに好んで變更をした譯でもないんであります、その原因と云ひますと、それは犬丸さんの方からも種々註文もありました、犬丸さんの云ふことで私はなる丈いゝことは聞いて上げたいと思つて、さうしてその首肯され得ること、又その當時變更すれば出來得ることでやれることはやり度いと思つたんです、其爲に約2～3萬圓、3～4萬圓の金が要つたんです、それからその以前の種々のことの後始末をするなり、それから他の方の工事をやつて變る等のことがあつて土木部長自身が第一に設計變更を

したそれが抑々設計變更の皮切で、それは島さんがやられた課です。その後始末の金が約3～4萬圓かかつたと思ひます。で結局茲に6～7萬の金がどうしても要る、それを市の方に聞いて見ると豫備金は一つもない、全體として、設備工事を入れると約350～360萬圓、400萬圓近い工事に豫備金がないでは出來ない、又途中で種々のことでホテルのことだから要ることがあるだらうから10萬圓の金はどうしても先づ浮かしてかゝらなければならぬ、10萬圓の金を浮かすのに既に設計も出來て居る、主體工事の請負人も決つて居る、除いてしまふものは一もない、除くといふと後に代りが要る、結局約15～6萬、20萬近い金を一時變更しなければならぬ、それであつちから少し削り、こつちから少し削りで殆んどそれに近い金を出して結局辻褄を合はせることにしたんですが、その約10萬圓の金を出すのが設計變更の主なる部分を占めて居る、その合計が200何件になつた課です、これが主なる設計變更の原因で、結局金の辻褄を合せるといふ爲に、それからも一つ先刻もお話があつた全館冷房といふことがある、それが甚だ不幸なことであつたんですが昭和8年の夏といふものは非常に暑い夏でした、それで食事に大阪倶樂部にその當時よく行つて居つたのですが、大阪倶樂部で種々の人の話にホテルの室にも、ベツトルームにも夫からバンケツトルームにも冷房がないやうなホテルはそれは駄目だぞといふやうなことを大阪倶樂部で私等も屢々聞いたものです、又ホテルの常務の加賀覺次郎さんからも頻りに云はれた、それに一番強い主唱者といふのは村山長擧さんだつたんです、成程あつたらいゝに違ひない、それで今から出來るだらうかといふことを加賀さんが云はれるんですが、それは出來ぬこともないけれども非常に困難なことだとお答をしたんです、それが爲にどれ位金が要るかといふ話ですが、結局これ位要るだらうといふことで、まアそれ位だつたら是非やつて呉れんかといふことで、これが爲どれ丈苦心をしたか判らないです、併し甲斐原君も先程お話があつたやうに將來の爲に非常にホテルの經營上有利になるだらうと思ふんですが犬丸さんはこれには反對のやうでした、丁度鐵骨構造がヘビーウエイトの計算によつてある、これが却つて幸になつたもので加賀さんがこのホテルを全館冷房にといふので、而も工事を進め乍らやれと云はれた時、若しこの重鐵骨法でやつてなかつたらそれは出來なかつたんです、幸に三好君などの努力、新名君などまア甚だ不愉快であつだらうと思ふんですが、幸に最後まで忍んで來て下さつた、大過なく最後のゴールに入ることが出來たんです。私は飜つて見ますると云ふと、ホテル建築工事といふものは種々の意味で建築界並に社會に種々な教訓を與へるんぢやないかと思ふんですが、一二感じるのはホテルでも何でもでありますが、建物を建てやうとする人が建築の技術者に對して全幅の信頼を有つて居るといふことは非常に大事なことでそれからもう一つは人の和といふことが大事、それからもう一つは建築の技術の主腦者が非常に統制力を有つて居る、統率力を有つて居るといふことが大きな建物には非常に大事であるといふことの教訓を與へて居るんぢやないかと感じるんです。

武田　設計變更をした主な理由は全館冷房もですが、もう一つ窓のことがある。ベツトルームの窓はシングルウインドーでやることになつて運んで居つたが設計を請負に出してしまつてから、これはダブルでなければいかぬといふことになつたそれが設計變更の一つの大きな原因です。

竹腰　變更の面倒臭い手續は全部三好君がやつて呉れたのであつて、餘程面倒だつたらうと思ふんですが。

武田　清水組はどうです、一つ腹藏のない處を隨分御面倒だつたでせうね、濟んだことは構やしませんから。

三好　吉本君と山手君は神經衰弱になつたんです、頭が痛いといつて。

武田　吉本君は最初うまく行けるかなと大分心配して居られたことを聞いたが。

竹腰　殆ど最後に近くなつた時に三好君から70何圓とかしか豫算が殘つて居ないといふことを云はれて、もう少し餘計したかつた處もあつたんですが、何も彼も切詰めて最後まで來たんですが、最近精算して見ると2萬7千圓殘つたさうで、そんなことなればもう少し餘計したかつ

たと思ふんです。

三好　早く來ればいゝんですが、工事をやつて居る内に支辨する處もあるし、材料を入れて居る處もあるし、ごつちやになつてしまつて精算して居る暇がない、工事の方で暇がないもんですから一つの仕事に對して三つも四つもダブつてしまつたんです。

岡田　外觀は大體はじめから今の調子でしたか

武田　初めはテラコツタで凝つたものだつたが段々時勢が變つて來てこんなのでいゝといふ風になつて來たものだから、現在のやうなシンプルなものになつた。さうして兩翼なんかももつと飾付があつたんですけれどもこれは長谷部君の意見もあつて、僕も大變結構だと思つてシンプルなものにしてしまつた、元のデザインとは違ふ。

三浦　原案はどういふことで。

武田　原案は委員が持寄つて、六つばかり出來たんです、古宇田君、片岡君、日高君などの連中が集つてそこで審査をしたんですが東京の犬丸案として出されたものが二つあり、それが高橋君のエレメントなんです、合計で確か六つありましてね、その中を選つて僕等の奴がよからうといふやうなことで進んだ譯です、懸賞といふ話もその前にあつたんですが、矢張3萬圓位かゝりますし、3萬圓も金が要るんならどうも商賣をして居る建物にしては大變つらいからといふ話であつた。

岡田　先生、外國のホテルを見て來られましてこゝのホテルとどういふ處が違つて居りますか

武田　僕は餘り違はぬと思ひます。

竹腰　私はこのホテルについて感心する處が澤山あると思ひます、それは工事自身については無論當時の責任者だから云ひませぬが、計畫について優れた處がある、それは主に經營者の立場から經營し易い、今までのホテルは經營がどうしても引合はぬ、營業上成立ぬといふ處を成立つやうにされたといふ處に非常にいゝ處がある、それはこのホテルの特長といふものはつまり旅館と料理業を一つに合した帝國ホテルでも今の建物では旅館をやつて居られるといふに過ぎないので別に東京會館といふ料理業をやつて居るが、違つたキツチンでやつて居られる、旅館の方ではこれは餘り儲る性質のものではなからうと思ひます、金のかゝつて居る割に。併し料理業は割合に儲るものぢやなからうかと思ひます、前と後に喰つつけた、さうして料理場を一にした、かういふ處に殆ど世界に一つよりない特長を有つて居る、これは高橋君の案か、犬丸さんの案か知りませぬけれどもいゝと思ひます。日本でも田舍に行きますと旅館兼料理業といふのがあるのですが、都會にはそれがない、許されない、許されたのは田舍式の取扱を受けたものでせうね。

武田　よく許したものだね。

甲斐原　東京は竹腰さんのお話も御座いましたですが、帝國ホテルでは昔から旅館と料理を一緒にやつて居ります、その後に東京會館が帝國ホテル經營の以前、株式會社東京會館の時に上の三階の方を寢室にしやうといふ計畫がありましたが、とうとう許可になりませんでした、尤もそれは帝國劇場と地下道が喰つついて居るといふのが原因だつたと思ひます、帝國ホテルは只昔からさういふ既得權を有つて居るといふので許された、併しこの大阪で新大阪ホテルが料理業とホテルと一緒に許したといふことはこれはどういふ理由か存じませぬが、それは經營上大變結構なことゝ思ひます、それから又今一寸お話の御座いましたバツクサイドの方、これは帝國ホテルが矢つ張り料理業を兼營して居りますから、それで私共長い間トレイニングでキツチンの方とかいふこともそれで覺えた譯です。

武田　このホテルの特色はもう一つキツチンを各階に有つて居る、こんなホテルは何處に行つてもありますまい、世界中、一寸考へるとキツチンが廣過ぎて非常に不經濟のやうに思ふんですが、犬丸君が自分の經驗で出されたので、なければならぬものでせう。

竹腰　併し實際に今年の新年宴會の時など非常に客が多かつた、あゝいふ場合にはあれがなかつたら丸でいけなかつたらしい、矢つ張り犬丸案はよかつたことを裏書して居ります。

武田　これは確かにいゝと思ふ。

甲斐原　パンツリーをこんなに廣くしたのは、帝國ホテルのバンケツトホールにはパントリーが兩側に置いてある、あれなんか具合が惡い、

兩方に置いてあつて眞中が切れて居る、お客の居る處の後の方に衝立を立てゝ、その衝立の後でがちやがちや音がして居るといふので非常に具合が惡かつた、その後東京會館が出來ましてから、東京會館はパンツリーを非常に廣くとりました、あれで大變具合がよろしくなつた、それからパンツリーのエリアは私が東京に居りました關係上から決めましたんです、矢つ張り充分なサービスをするにはあれ丈のスペースが絶對的に必要のやうに思ひます。

武田　ベツドルームも限界なしに便所とバスが付いて居る、これも世界で恐らくありませんねこんなのはアメリカの最良のホテルに行つてもこゝ程皆ついて居る處はない、僕は何時も云ひますが、住宅關係で三つのものが完備すれば、後は少し位惡くつても我慢出來る、それが根本的に恵まれて居る。

竹腰　その他に小さいことをいふと、經濟的に引合はぬものはどんどん止めて、丸で引合ふものばつかりやられて居ります、といふやり方です、それはよくこゝに人が見に來てビリヤードがない、ホテルでビリヤードがないと惡いといふ人もあるらしいですが、一面の眞理は含んで居りませうけれども、ビリヤード程儲からぬものはないらしい。

甲斐原　東京會館で經營して居りまして、東京會館にはビリヤードをやつて居ります、これは絶對的に引合はない、東京で經驗しましたものを此方にもつて來ましたので、その意味で大阪のこのホテルは帝國ホテルが試驗臺になつて、それは大變な得になつただらうと思ひます。

岡田　ホテルで冷房をやつて居るのは。

甲斐原　日本ではこゝ丈で御座います。

武田　他處でもないでせう、世界中でも冷房をやつて居るのは、併し日本が冷房は一番進んで居るやうですね、何處でも、矢つ張り氣候が暑いからでせうね。割合パブリックスペースが狹いですし。

甲斐原　それは今申しましたやうにパブリックホールは金がとれませぬ。

武田　これは私もいゝと思ふ、外國では緣もゆかりもないものがこれに坐り込んで實に困るんです、出て呉れといふ譯に行かぬ、お客樣かも知れませぬ、又人を尋ねて來て居るのかも知れぬ、全く廣い爲に來る、その中でひどいのは賭博をしたり種々なことをして仕樣がない、こゝらではそんなことをやる餘地がない、暑いから一寸入つて休むといふことも出來ない、この程度が今日ではよろしい、適するんぢやないかと思ひますがね。

岡田　外國では人が訪ねて來た時に寢室に入れるんですか。

武田　決して入れないです。

岡田　さういふ廣い處に行くんですか。

武田　日本ぢやまだ全部寢室に入れないといふ譯に行かぬでせう。

甲斐原　あれは何とか社會的にさういふ習慣にしたいと非常に希望するんで御座いますが、室にお客を連込みますとお茶を持つて來い、まアすぐ日本ぢやお茶を持つて來いと云はれますがこのお茶も矢つ張り下から持つて行かなければならぬ、絨緞を穢すとか或はお茶をこぼしたりなんかしまして、多くの人を要する、それから家具もどうしても殖へて來ます、疊ですとまア坐つても、座蒲團がなくても坐つていゝですけれども、どうも洋式では腰をかける、立つて居る譯にゆきませぬし、椅子が要る、或はベツドに腰をかけるといふやうなことにもなるし、腰をかけると一寸高くて非常に具合が惡い、椅子を持つて來いといふやうなことになります、又椅子もその爲に澤山要るといふことになります

武田　風紀問題もそれによつて起つて來ますねそれからも一つ室を綺麗にしなければならぬ、ベツドルームはそれが大變で、只若し寢る丈ならさう綺麗にする必要もないです、こゝなんか皆その爲に綺麗にして居ります、模樣を變へたりして、それでベツドルームをサロン見たやうな形にしなければ納まらない。

甲斐原　廣さも充分廣く出來て居ります。

武田　今そこまで行かないのもこれから20年も經つて後に出來るホテルは又違ふものになりませう、きつと。

三浦　何か清水組の方で工事施工のことで。

飯高　清水組としましてはお蔭樣で先生方や皆樣方のお引立御指導によりまして大過なく出來上りましたことは非常に面目を施しました、殊

に先達落成式に當りましては市長さんから前例のない又今後もないといふやうなお話で感謝狀も頂戴致しましたことは非常に光榮と致して居ります。先生の只今お話の設計變更につきましては現場としましては相當の苦心もあつたので御座いますが、只今の竹腰先生のお話で一寸思出しましたが昭和7年の9月で御座いましたか第1回の鐵骨及主體工事で御座いますが、當時確か74萬か5萬と思ひますが、私共が最低で落札しましたが、豫算超過の爲4回か5回です、加藤君4回でしたかね、5回であつたかに續け樣に2日間に亘つて入札が執行されまして幸に何時もトツプを切つて居りましたが、とうとう仕舞に71萬5千圓といふことになつてしまひまして、それで豫算超過で打切りになりましたがその時に確か竹腰先生のお話の通り總噸數は覺はありませぬが、鐵筋鐵骨共市から明示された噸數より私の方の調が多かつたので御座いまして、大分噸數も違ふものですから、その後大分經ちましてからですが、同業者の方に、お互に考違があつてもならぬが、どんなものだらうといふことを問合せて見たこともありました。そんな經過もあつて、改めて今度全體の工事として携つて感謝狀も頂戴したやうな譯でして、その後の苦心は加藤君なり吉本君が直接何して居りますので。

加藤　鐵骨、鐵筋のあれが大變違ふ、その結果が豫算がとてもない、鐵骨の材料は私の方で買つて與へる、仕事の製作の方をやらせるといふことにして、川崎造船所で結局頼みました。それから鐵筋も市の方の調よりは多く實際使ひましたのは千五十噸、設計變更になつたのを除きましてそれ丈增しました。それから仕事の方につきまして、現場の方は吉本君に頼みまして、全體的のことをやつて貰ひました。それについて氣付いたことを申上げたいと思ひます、あれが全體の工事として入札されましたのは2月の下旬であつたと思ひますが、手前共の方ではその當時國際ホテルと云つて居りましたが、この仕事は所謂關西に於ける有數な仕事である、是非萬難を排して仕事を入手したいといふ非常な熱を有つて、從つて入札されましたが、結果に於て手前の方が最低でありましたですが、その際も豫算超過、約4回ばかり超過でしたが常にトツプを切つて居りましたが、確か4回目かに矢張り、もうついて來る人がなくなつて、最後に結局自分共一人でやりましたが、幸に初志の目的を達することが出來まして入手したんですが、可なり數字上に於ては無理をしたものですから、その後の實際に當つては可なりの苦心をすると同時にこの關西の大建築を施工するといふ實際の衝に當つて居るものとしましては、仕事が決つた時相當責任を感じました、それに現場の三好さんからも種々の御注意もありましたのですが、我々の方としましては相當の準備をしてやりましたですが、この工事は清水組の名譽にかけても必ず立派に仕上げたいといふ考でやりましたので餘り今種々のことを申上げても何ですから結果に於て一つよく御覽下さるやうにといふことを申上げて置きたいと思ひます、それから現場の專屬の主任又は現場の夫々の係等の詮衡につきましても店内で比較的優秀と認められるやうな人を專任しまして任命されたやうに考へて居ります、大體の仕事の緩急に應じて多少の增減はありましたですが、大體は二十二三人の人を配しまして、それを夫々仕事の順序と、性質に應じて係を決めまして、尙計畫等については現場主任の吉本君、山手君といふやうな同志とよく半ケ月ばかり工事の施工計畫について種々と案を立てまして、毎日夜の10時か11時頃まで施工の實際といふことについての案を練つて居りました、請負者としての施工の計畫案が大體出來まして、それを圖にとり表に表はしまして市の方の御承認を得まして、その内には工程表も入つて居ります、それから現場の係員の陣容も整へまして、仕事に實際に着手するやうになつてからは時々私も現場に參りまして、店員に仕事の重大性のことを話しまして、監督者の方の御指導と相俟つて、我々の方は誠心誠意その命に從ひ、又店の立てたる計畫に從つて仕事に從事するやうにといふことを繰返してやりました。一番最初の鐵骨工事に於きましては、先程申しましたやうに鐵骨の噸數もそれが爲に我々の調よりも尙更に鐵骨業者の調が多かつた、結局種々の研究をした結果、鐵材を自分の方で直接買つて鐵骨を支給するといふ方

針にしたんです、當時恰度鐵材が暴騰時代でありまして、而もこの鐵筋と兩方で 4,100 噸もの鐵材を買付け、又工事の進行に應じて補給するといふことについては可なりの苦心を致しました、鐵骨工事の方は最初川崎造船所丈で之を註文する考で居つたんですが、全體の工程を見て會館側とホテルと大體に於て分けて三菱造船所にはホテル側、川崎の方には會館側と注文を致しました、幸に川崎造船所も三菱の方も非常に研究と興味を以て非常な努力をして頂きました併しこの工事は基礎工事を大林さんがやられて手前の方は主體工事以上で御座いますので、仕事を頂いてすぐ鐵骨を建てるといふことも出來ない、準備期間として製作期間の約4ケ月といふものを置きました、私の方は準備には直ぐかゝりましたが、併しそれが恰度幸ひとなりまして、その間に基礎工事のセンターを調べる、又は柱の位置を調べる、又圖面の研究をするといふことが出來ました、最初の4ケ月の準備期間といふものは種々のつまり研究的調査事業が完全に出來ました、鐵骨を建てかけたのは4月の初旬だつたと思ひます、それからは順調に仕事が進行しまして、混凝土の仕事にも引續いてかゝりました、混凝土の數量は 2,000 坪、鐵骨を建て乍ら下から混凝土にする、工程の關係でさういふことになりますし、同時に荷重の關係で圍りのシートパイルは拔かねばならぬ、それを或處まで工程を進めて行かなければならぬといふやうなことでありました、爲に構造施工上に苦心を致しました、同時に一番心配しましたのは先程武田先生が一寸お話になりました遞信省の氣送管が恰度途中にあります、何でも遞信省の方の御注意がありまして、あれをもし破損すると1分間に 800 圓の損害をとれらる、一寸それを1時間も若し破損すると何萬圓といふ金になるやうに伺ひました4 萬8千圓ですか、話を聞いた丈で我々は青くなつて來ました、可なり激しい競爭をして頂いて而もこれで萬事いゝ仕事をしたいと考へて居る際にどうもあれを一寸でも破損して1分間 800 圓もとられるといふやうなことになりますと修繕するのに矢つ張り1時間位はかゝる、さうすると4萬圓も5萬圓もとられるといふことになる、實はそれで青くなつて、若しさういふことが萬一あつた場合には困りますから本店の諒解を得て置かなければいかぬ、その當時心配して居ることが實現するやうなことも間々あつたものですから、只今ですと笑話ですけれども非常に心配致しました、それで早くあれを何處か他の方にやつて貰ふやうに交渉しろといふことをその當時數回現場のものに催促をしまして居つたんですが、向うの都合でなかなかあれを退けない、鐵骨を上げる時に、又は材料を積んだ時に崩れたりすると勢ひ毀損する、さうするとえらいことになるといふことで工事中は非常な脅威を感じて居つた、幸に何らの事故もなく、まア今日では笑話になつたわけですが、その内に構造工事を終へまして漸く棟を乘せました、その他にも大分注意してやりました心算ですが、工事に面した方は事務所なんかに使つて居りますから勢ひ他の材料が來た時なんか道路の方に出る、あれも市の規定の3尺丈は公然と借地願をして借りたんですけれども、到底3尺の規定を置く譯に行かぬものですから、私は直接は知りませぬが、電話で聞いたんですが、交通の巡査に工事中可なり注意を再三再四に亘つて頂いて、1回位罰金をとられたといふやうなことです、さういふことについて、特にホテル建築については材料が多いものですから普通の建築場でもさういふことは有勝ちのことですが、特にさういふことについて苦い經驗を得ました、それと自分共注意はしましたが、工事中近隣のお方に迷惑をかけ又交通のお方にも相當御迷惑をかけたと思つて居りますが、大體に於てこのホテルが市のものであるといふ御諒解のもとに從つてそれからは穩かに支障なくお蔭樣で通過することが出來ました、鐵骨の工事の準備期間中には竹腰先生に呼ばれて種々施工上の御注意も詳細に亘つてお伺ひしましたし、我々の決心もその節御報告もしまして御諒解を得まして、その後構造工事も無事に終了しまして仕上工事にかゝりました、先程先生からお話の工事變更、設計變更については我々の方はさういふ種々の關係をちつとも知らぬものですから、次々にと設計變更があります、最初は工事を急ぐやうな關係で以て、材料を早く、手配を早くしないといかんといふ關係で注文を夫々して居りました、それが無效になるので、中には注文したものも斷らなければならぬ

註文書は發行して居ります、種々損害をして行かなければならぬといふやうなことで大變材料屋の方へも迷惑をかけるといふやうなことで苦い經驗を得ました、併しそれも店との從來の關係のある取引先ですから苦心はしましたが中には全然御無理を願ひましたのも間々ありました大體に於て大過なく進行して行きました、さうして期限の方は最初9年8月15日でしたが、これは設計變更などからでも亦仕事を嚴密に實際工程を以てやりますといふと出來ないことなんで竹腰先生のお計ひで12月末日までに仕上げるといふことになりまして、幸に日限を頂きまして、仕上工事に於ては相當分擔するものゝ詮衡について苦心しましたが、何れも關西で優秀のホテル建築であるといふことを承知して、又清水組が非常に重大に考へて居るといふことをよく諒解して非常によく働いて呉れましてこれ丈の大工事が12月末日までに大過なく仕上りました、それは一に我々を指導して下さつた監督者及ホテル會社の人、武田先生及竹腰先生のお蔭によるものと今日深く感謝して居ります、最後に數量の話が出ませぬでしたから參考に調べましたものを一寸申上げます、施工者側としての立場ᵹものですが、建坪863坪2合、延坪6,490坪、軒高ホテル側29米68、會館側24米5、寢室數201室、その他貴賓室及附屬室合計 4、鐵骨が3,500噸、鐵筋1,050噸、混凝土2,400坪、其他180坪、外裝タイル2,274坪、煉瓦52萬、フローリングブロック 1,500坪、主體工事より仕上工事までの日數(基礎工事は別)720日その間作業した手前共の關係總人員15萬人、鐵骨その他下請へが現場以外に又附帶工事の方にもそれ位の人員は働いて居りますから、恐らく全體としてはこの倍以上になつて居りませう、手前の方の請負金額184萬6千圓、工事變更になりましてからも大して差がありませぬ、190萬圓と思つて居ります。

竹腰　變更によつて2萬7千圓か減つて居る。

飯高　我々の方も實は變更當時は青寫眞代が270～280圓宛要りました、餘りかゝり過ぎるので現場の方に文句を云つたんですが、それはどういふ譯でかゝるかといふと結局變更をする爲その變更の圖面を市の方に出さなければならぬ手續上からそんなことに……

岡田　ではこれ位でありがとう御座いました。

本號執筆者紹介 (五十音順)

池田宮彦	名古屋高等工業學校建築科卒業、株式會社長谷部竹腰建築事務所技師
上田清一	新大阪ホテル囑託
片岡安	工學博士、東大建築學科卒、本會々長
甲斐原四郎	大阪市囑託、新大阪ホテル囑託
加藤誠二	清水組大阪支店次長
古賀鄕實	京都高等工藝學校卒、株式會社長谷部竹腰建築事務所技師
笹川愼一	早大建築學科卒、株式會社長谷部竹腰建築事務所技師
新名種夫	京大建築學科卒、大阪市技師
須賀藤五郎	株式會社須賀商會社長
竹腰健造	東大建築學科卒、株式會社長谷部竹腰建築事務所常務取締役
竹内政治	東大建築學科卒、大阪市技師
竹花末春	大阪市建築課
長谷部鋭吉	東大建築學科卒、株式會社長谷部竹腰建築事務所常務取締役
富士岡重一	東大建築學科卒、大阪市建築課長
三好貫一	早大建築學科卒、大阪市技師
山手研吾	東京高等工業學校卒、清水組大阪支店技師



正面外觀



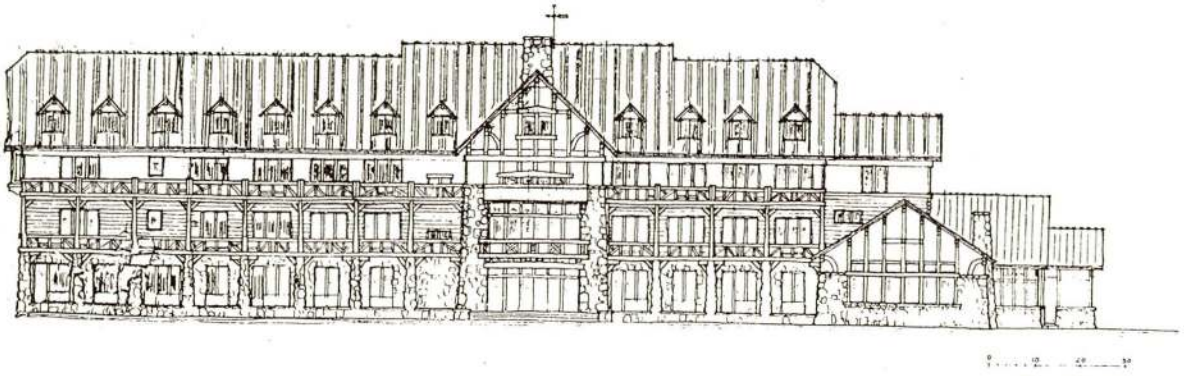
北側食堂厨房廻り外觀



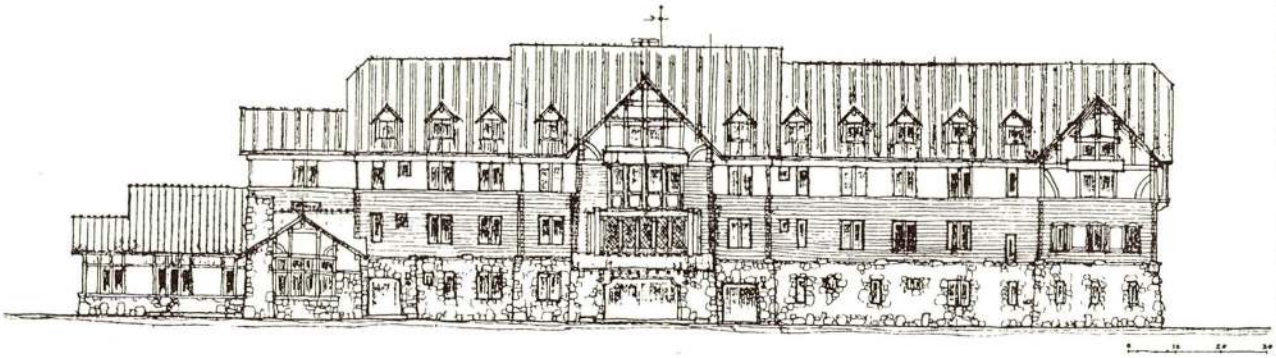
外　觀

上高地ホテル

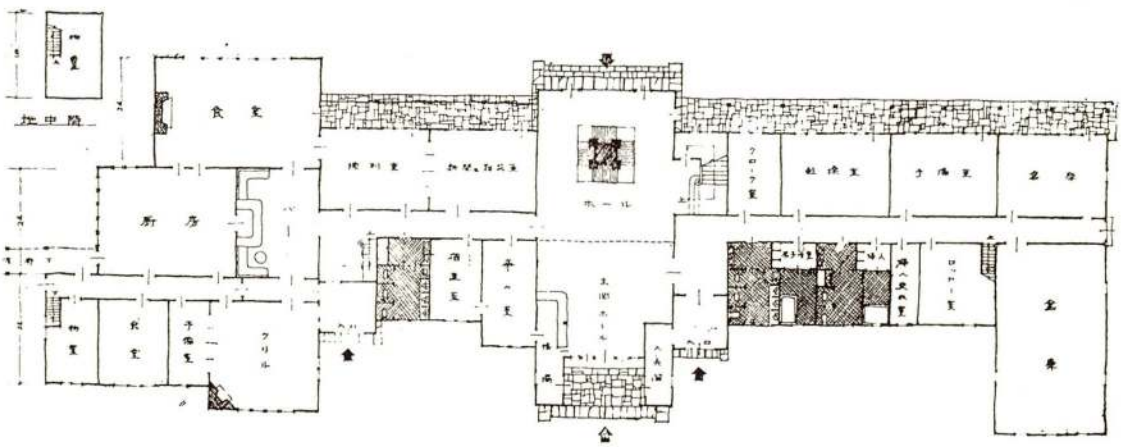
設計　高橋貞太郎組
施工　大倉



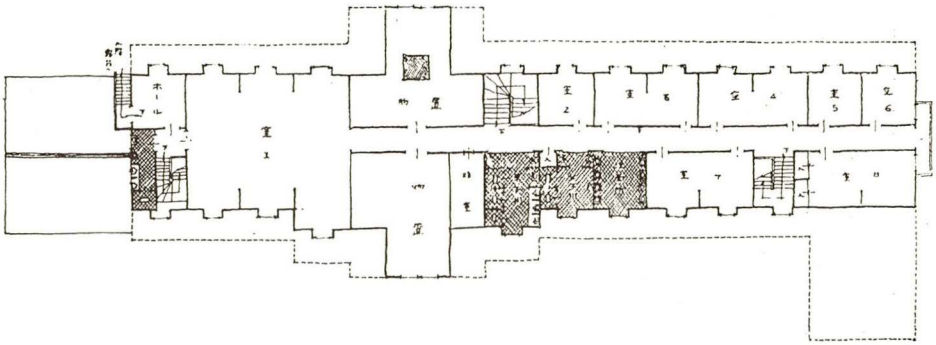
背面圖



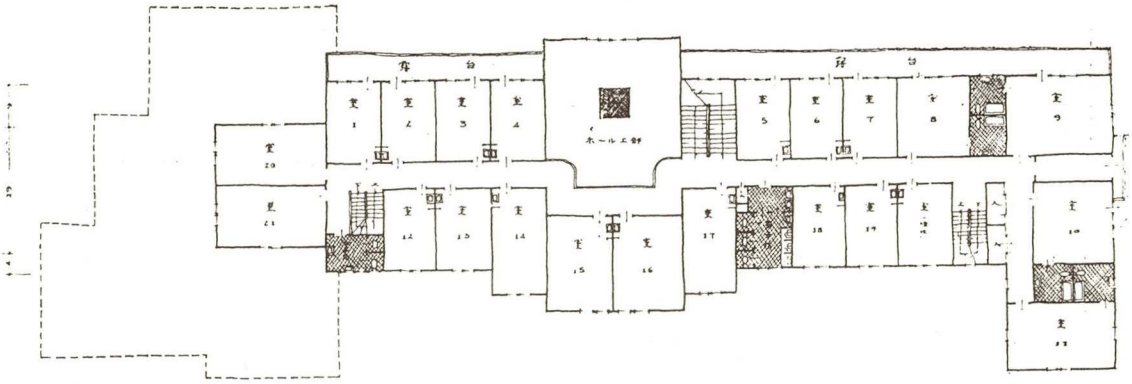
正面圖



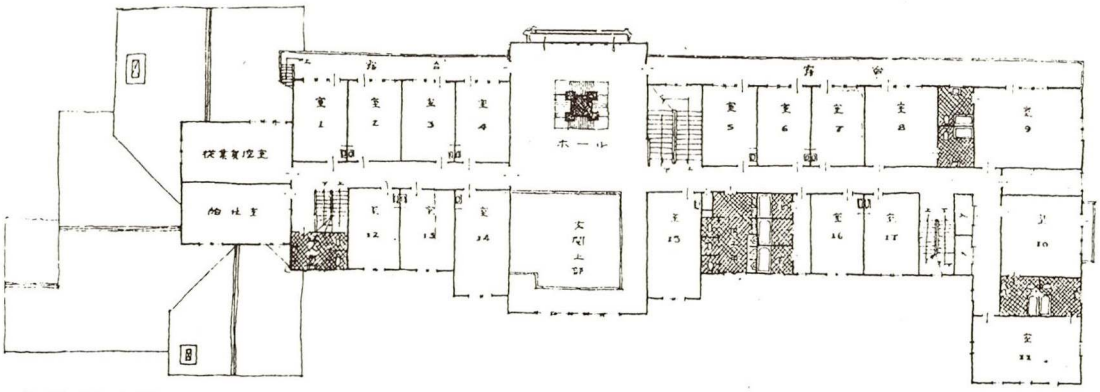
1階平面圖



屋階平面圖



3 階 平 面 圖



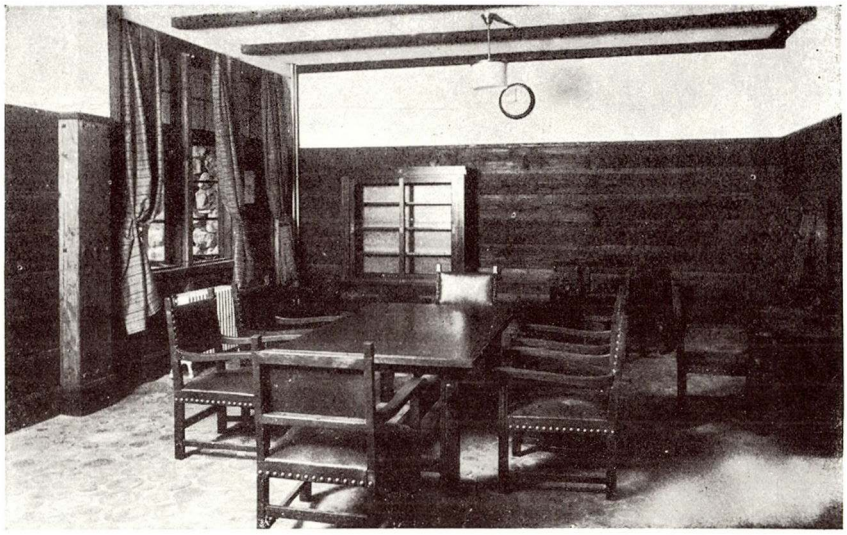
2 階 平 面 圖



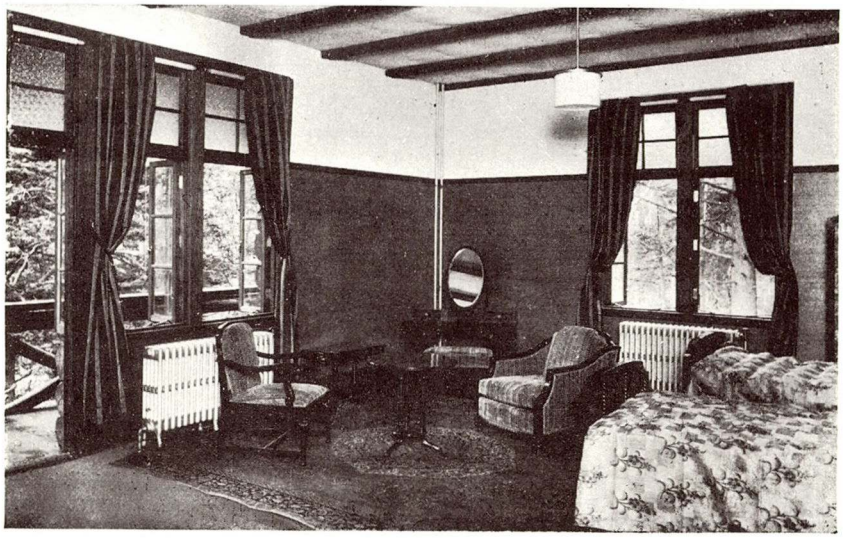
1 階玄關ホール吹抜天井



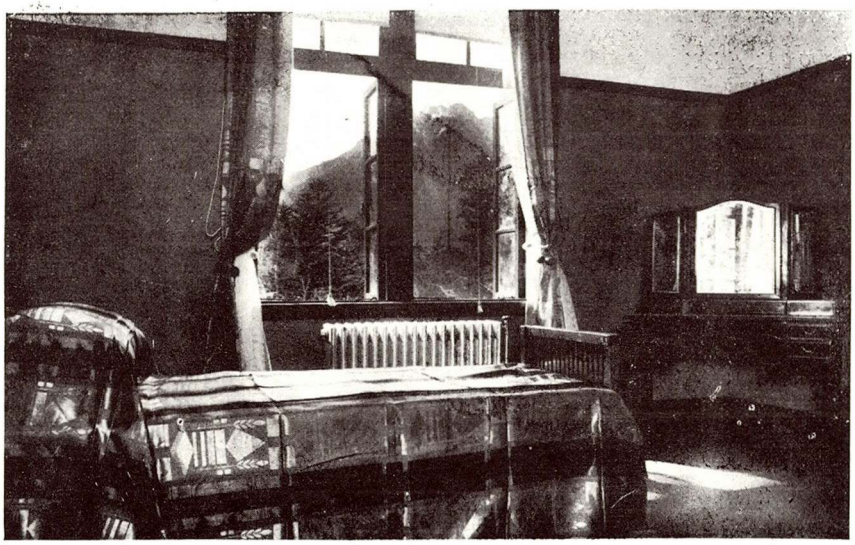
1 階中央ホール爐式ストーブ



新聞雜誌室



客　　室



一般客室

上高地ホテル

設計施工　高橋大工

鉄骨　太郎組　倉貞

上高地ホテル新築工事概要

位　置　長野縣南安曇郡安曇村上高地
梓川畔中之瀬キヤンプ指定地より約90間南方に寄り玄關前面に六百山、霞澤岳そびえ三本槍溪谷の眞下に位置す。北側露臺よりは右方(東北)に穗高連峰左方(西方)に燒岳の噴煙を指呼の內に望む。大正池畔より約20丁5米副の道路を新設自動車によらば松本驛より2時間30分にしてホテル玄關に到着す。

敷　地　1,107.00 坪

延　坪	地中階	5.35 坪
	1　階	344.16 坪
	2　階	235.47 坪
	3　階	231.16 坪
	屋　階	157.50 坪
附屬家	63.42 坪	
	地中階	21.00 坪
	1　階	42.42 坪
階　數	地上3階	(屋階つき)
軒　高	37尺	
棟　高	63尺	

客室數　46室　(內バス附8室)

構　造　木　造

外　裝　1階腰廻り、テレース獨立柱、煙突等の自然石貼りは霞澤岳、溪澤より流出せる火山岩及花崗石を採取し粗屋に貼り立つ。
2階廻りは唐松末口8寸丸太を校倉風に組合せアマニ油を塗布せり。
3階廻りは板張りペンキ塗り仕上とす。

內　裝
(イ) 1階　中央玄關、及左右玄關、床は自然石敷きホール、新聞雜誌室、陳列室、食堂バー、グリール、各室、廊下廻り床は徑5寸より8寸杉丸太(クレヲソート浸透)小口丈5寸をモルタル仕上とす、右各室の壁面は漆喰組面仕上げ天井腰廻り等は何れも化粧梁、柱野角、丸太等取り合せ木目洗ひ出しオイルステイン仕上げ。新聞雜誌室、陳列室は小壁、天井共セロテツクス水製塗料仕上げ。ホール中央ストーブは鐵筋コンクリート自然石貼り大爐式四方焚口とす。

(ロ) 2階中央ホール化粧梁天井3階迄吹き抜き、板張りペンキ塗り、壁は漆喰組面仕上げ柱腰羽目廻り木目洗ひ出しオイルステイン仕上床は樽板ストーブは鐵筋コンクリート自然石貼り上部唐松丸太校倉風木に飾り鋲打ち。
2.3階各室は床樽板、壁紙張り小壁、天井はセロテツクス水製塗料仕上防音の爲め間仕切り壁內に「オガクズ」を充塡す。

(ハ) 屋階各室は床杉板張り壁天井共總てセロテツクス水製塗料仕上、一部に暗室を置く

消　火　各階及屋外2ケ所に消火栓を設け要所に消火器を設備す。

給　水　湧泉を導き飮料其他の雜用に使用す。尙要所に溫湯を供給す。

煖　房　强制循還式溫水煖房にして罐は重油焚2基を使用し1基は低壓汽罐とし給湯用に使用す。

衞　生　便所は水洗式とし汚水淨化槽を經て浸込槽に滲透せしむ。

電　氣　高壓にて受電し之を變壓して各所に配給す。共電式電話交換設備、電鈴設備、電氣時計設備をなす。

工　程　施　工　昭和8年5月1日
竣　工　昭和8年9月30日

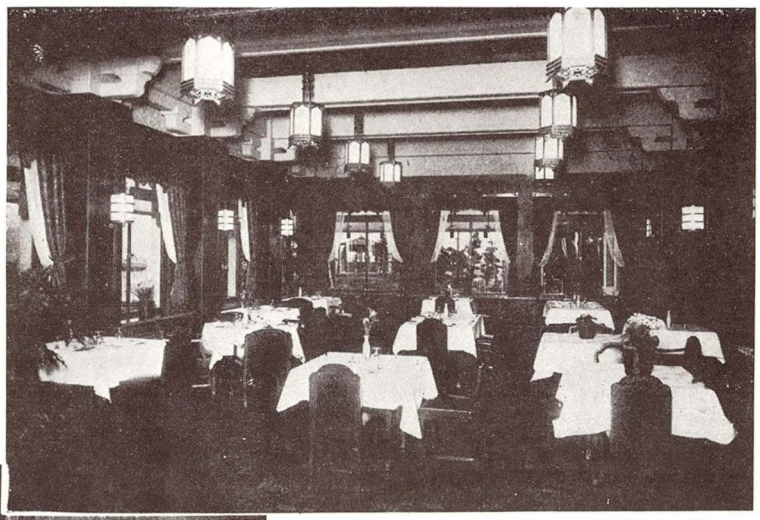
建築主　長野縣

設計監督　高橋貞太郎

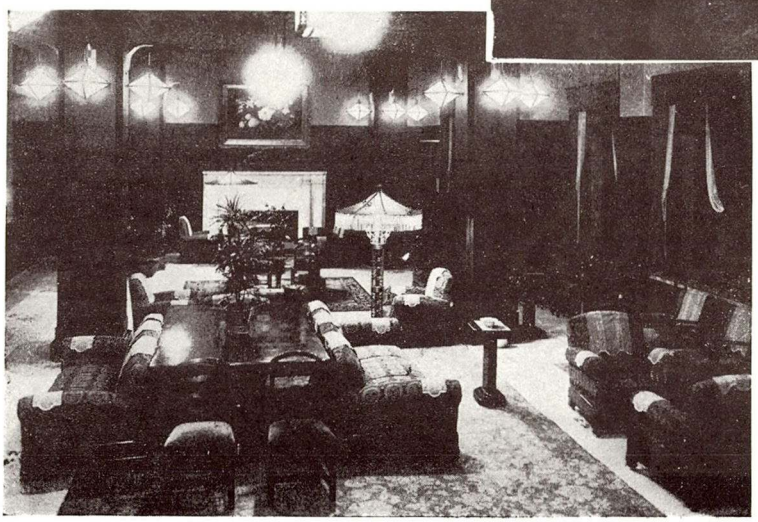
施　工　帝國ホテル直營(大倉組擔當)



全　　景



3階食堂



1階ホール

蒲郡ホテル

所組　事務所
建築　野村
設計　久野
施工　大林



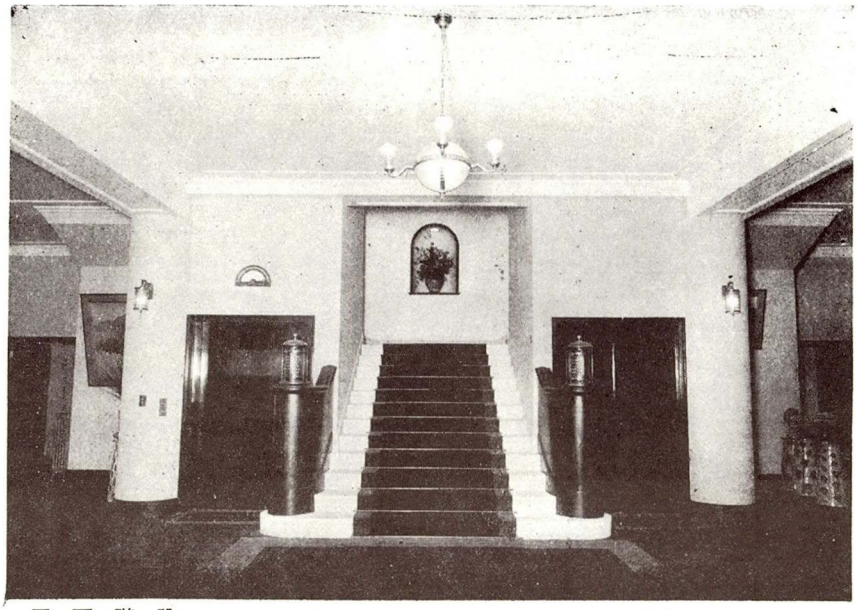
全　　景



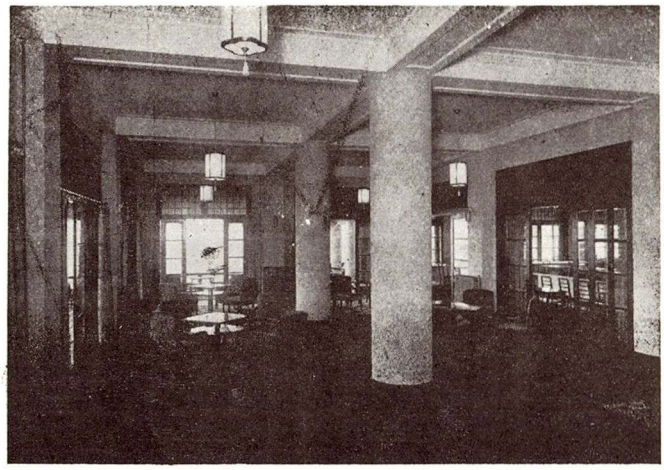
全　　景

III 132　株式會社琵琶湖ホテル

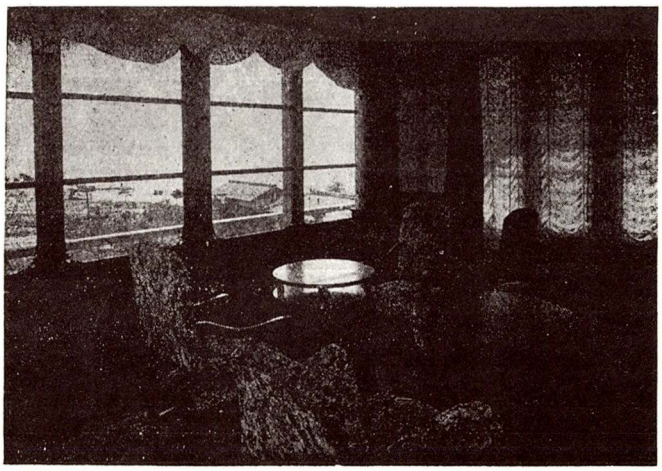
設計　岡田捷五郎
施工　合資會社清水組



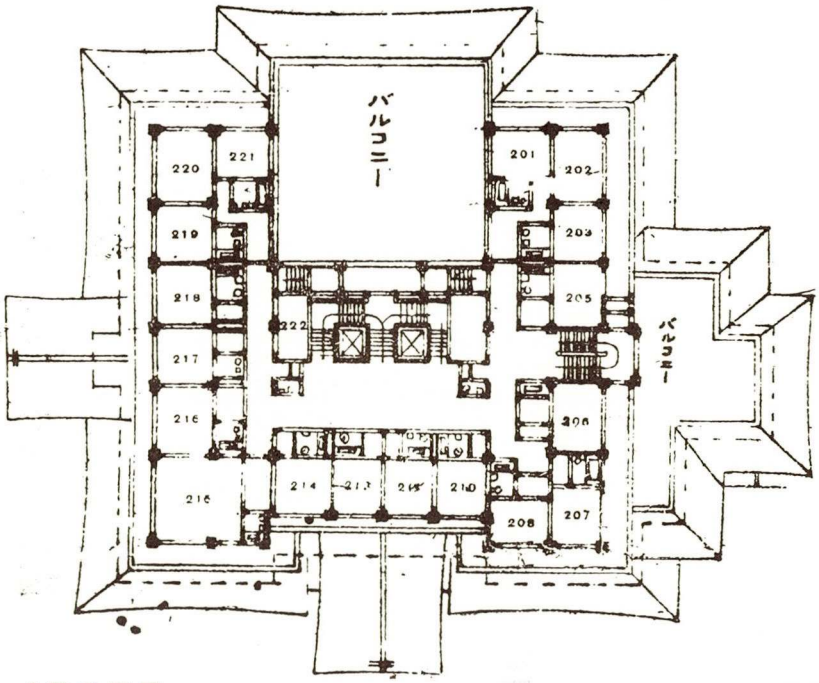
正面階段



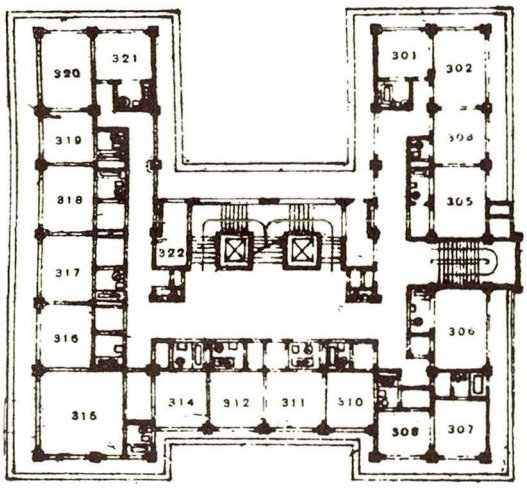
ラウンジ及大食堂



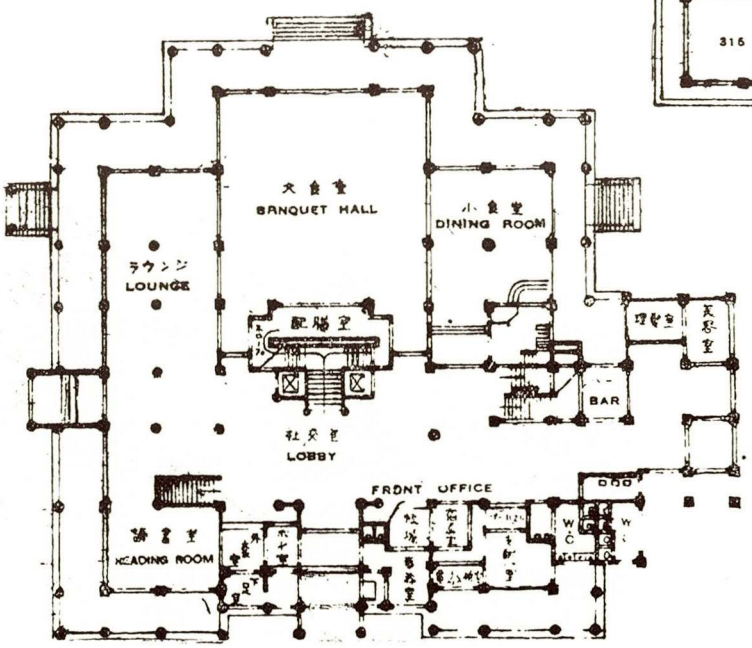
貴賓室



2階平面圖



3階平面圖

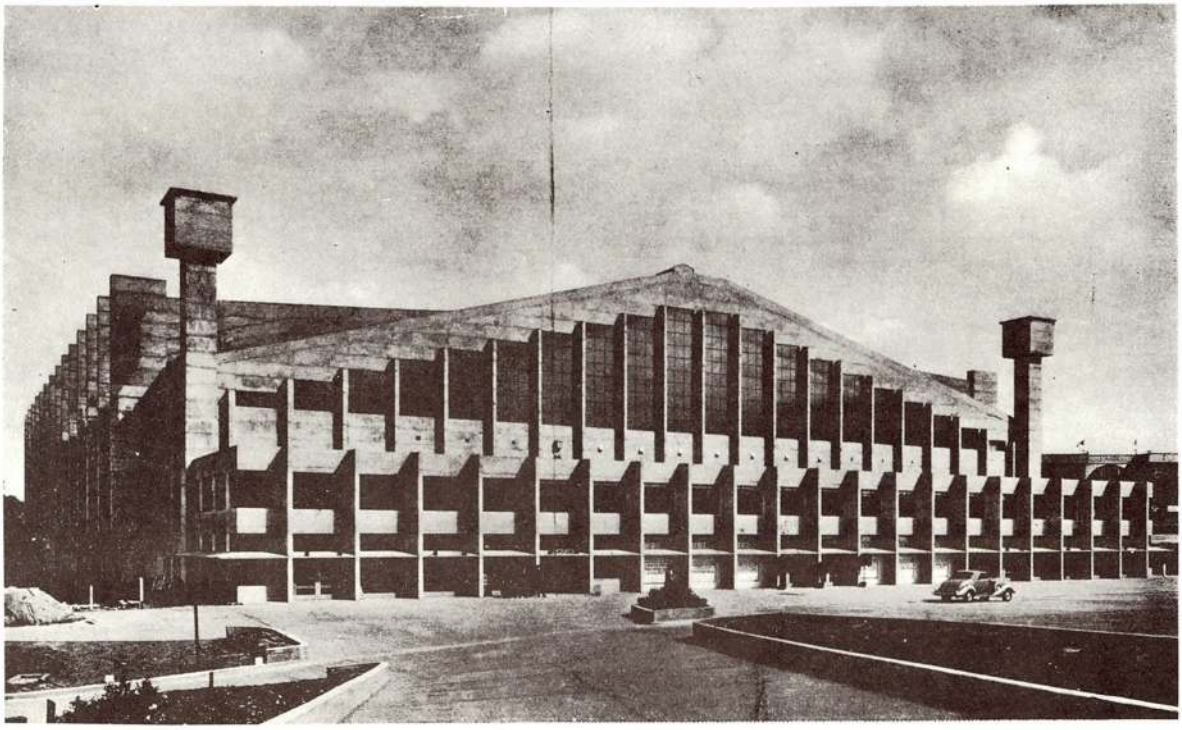


1階平面圖

株式會社琵琶湖ホテル

位　置	滋賀縣大津市錦織町
敷　坪	4,928坪外に市有地3,5坪
建　坪	359.25坪
延坪數	1,369.56坪
建物階數	3階總地階付
建築高さ	軒桁上迄42尺、棟上迄61尺
建築樣式	和風入母屋造りにして桃山時代の手法を加味す
建築構造	鐵筋コンクリート造り小屋本骨鋼板葺き仕上とす

設計　岡田信一郎
施工　合資會社清水組



正 面 圖

觀衆 100,000 名を收容するエムパイア運動競技場の附近に、新しく竣成した室內運動競技場で、種々な運動競技に利用されるが、主として水上競技並にアイス・スケートに充當される。競技場の建物 128m×73m にして面積約 9,300 平方米。

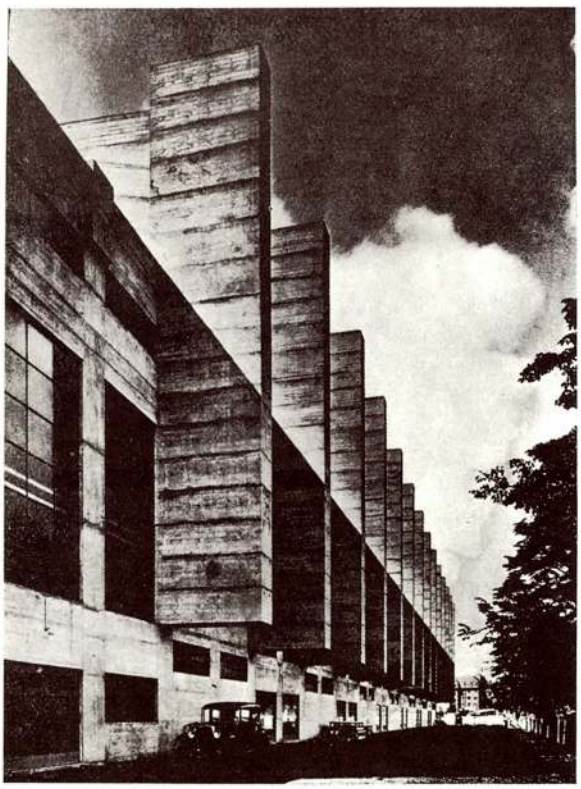
プ　ー　ル	60m×18m
アイス・スケート場	60m×26m
其他の競技場として	90m×26m

が用意されてゐる。

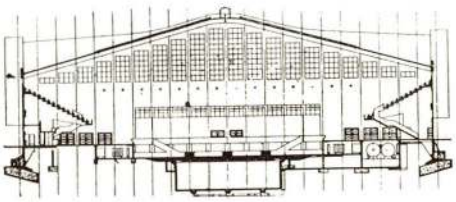
以前は池であつた所へ建築したもので、池底は建物の地階に當る。

鐵筋混凝土造にして、觀覽席 4,500人、臨時席を加へると12,500人收容し得る。

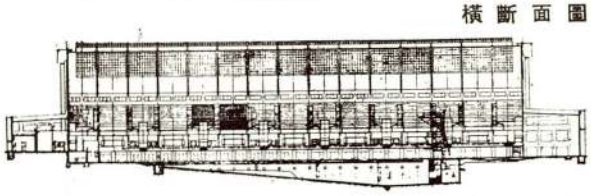
(L'Architecte 誌より　中西六郎)



側 面 圖



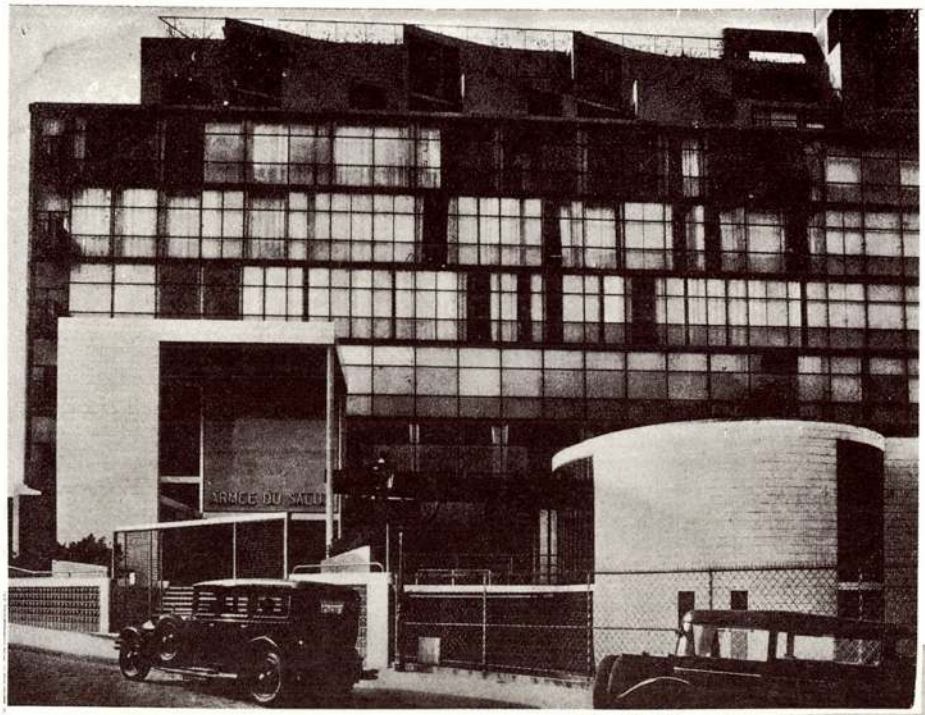
横 斷 面 圖



縱 斷 面 圖

(イギリス)　ウエンブレー室內運動競技場

建築家　Sir Owen Williams



正面圖

巴里の救世軍本部は次の二部分より構成されてゐる——

(1) 救世軍の社會的奉仕事業部及び本部の一般的な施設

(2) 巾 75m 高 35m の硝子の面から成る11階建の宿舍

宿舍は切半して、東館は男子部、西館は女子部となし

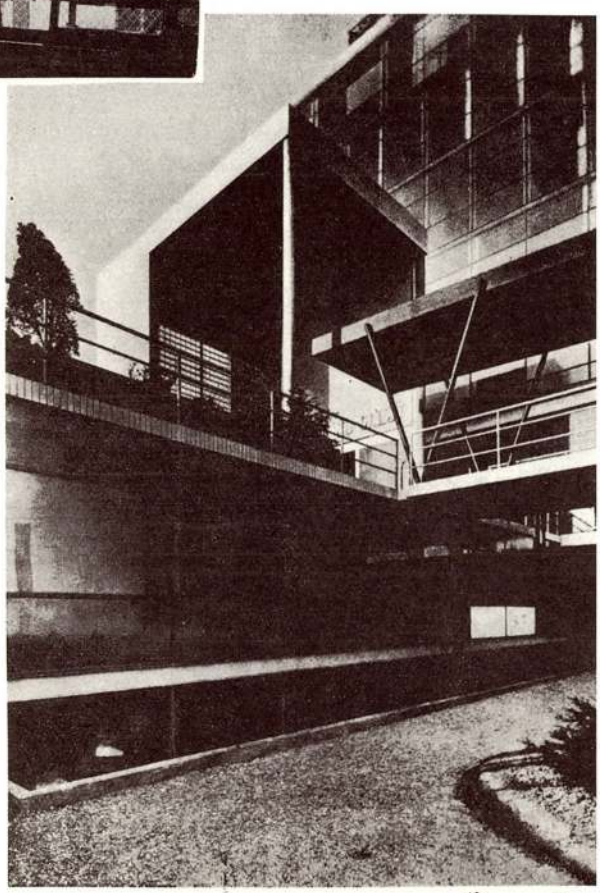
男子部	246 寢臺
女子部	153 〃
母子部	98 〃

を用意し、救濟事業としての無料寢臺以外は、男女共に一人につき2フラン、男子の一人部屋8フラン、母子部屋5フラン、子供の寄宿料一週 50 フランを徵收してゐる。

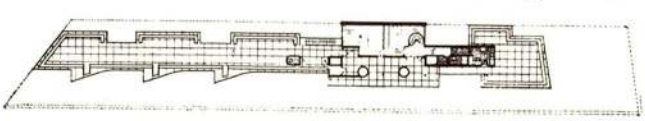
(L'Architecte 誌より 中西六郎)



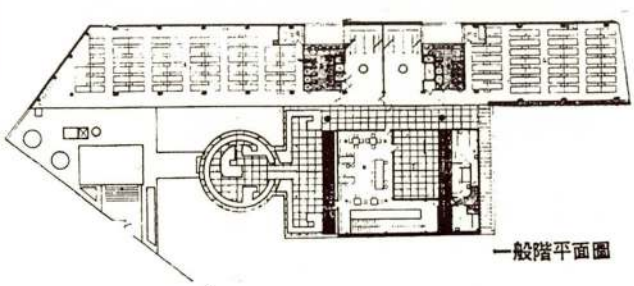
入口



前庭



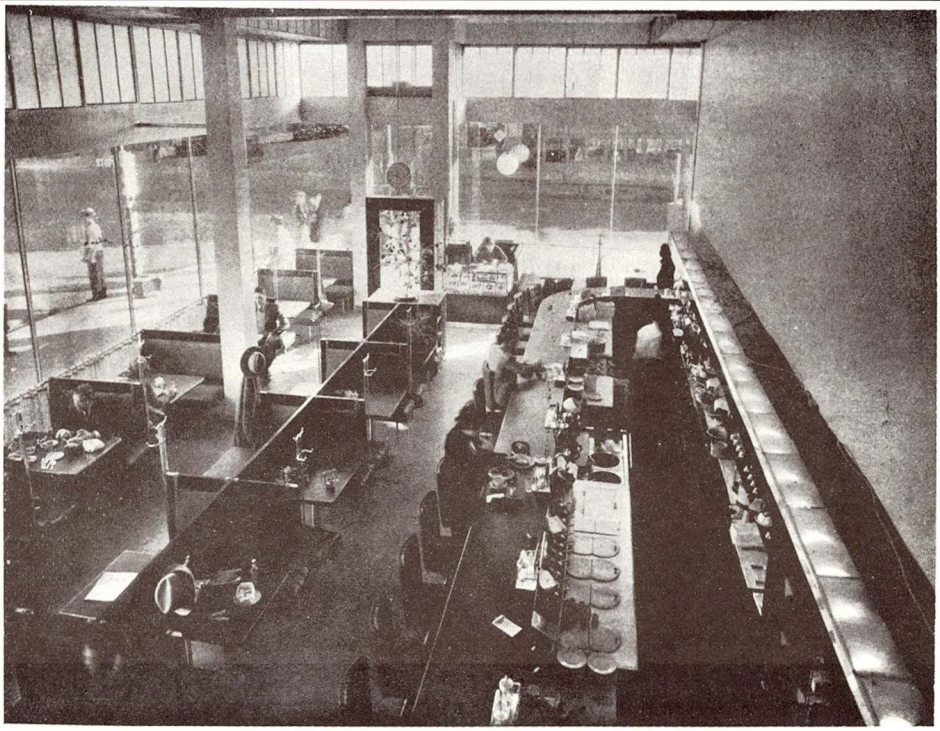
最上階平面圖



一般階平面圖

(フランス) 巴里の救世軍本部

建築家 Le Corbusier 及 P. Jeannert



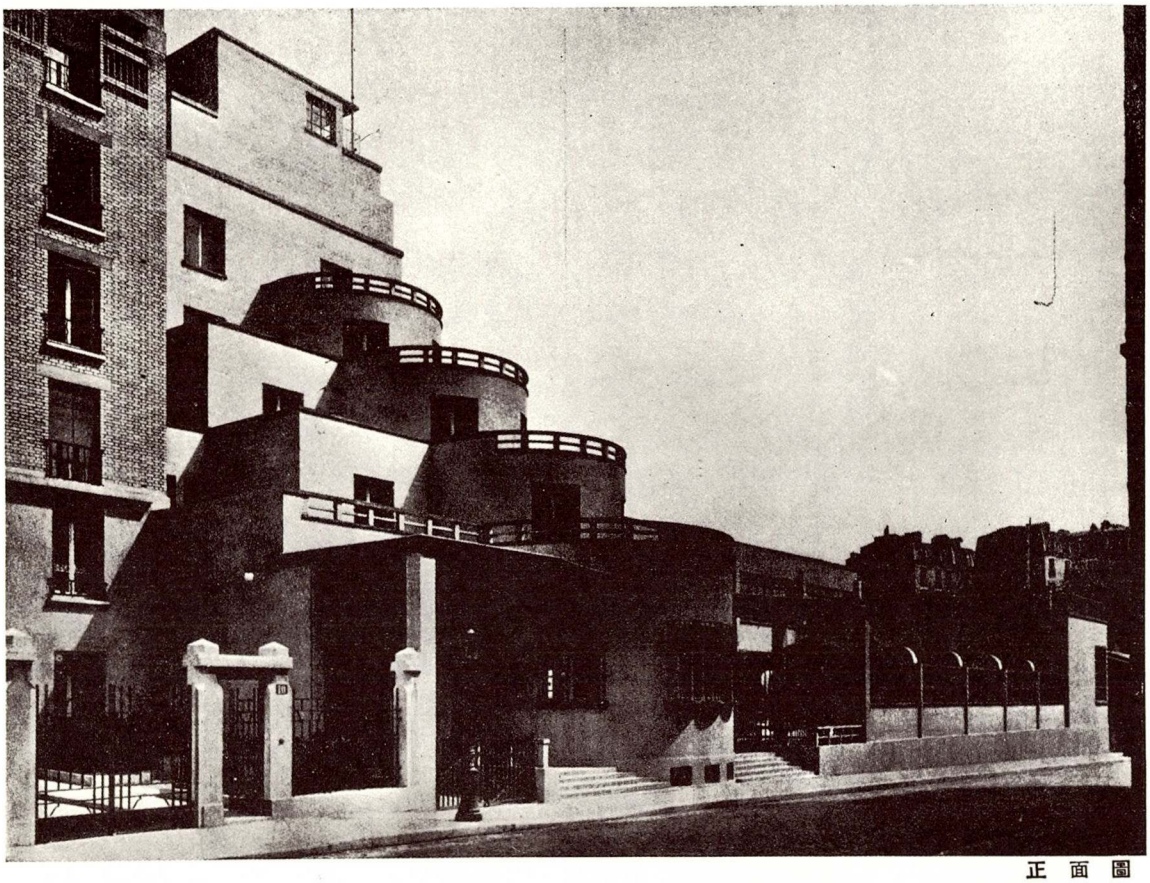
レストラン内部

ユニバーサル社アドビル
の一階にあるレストラン



入口外観

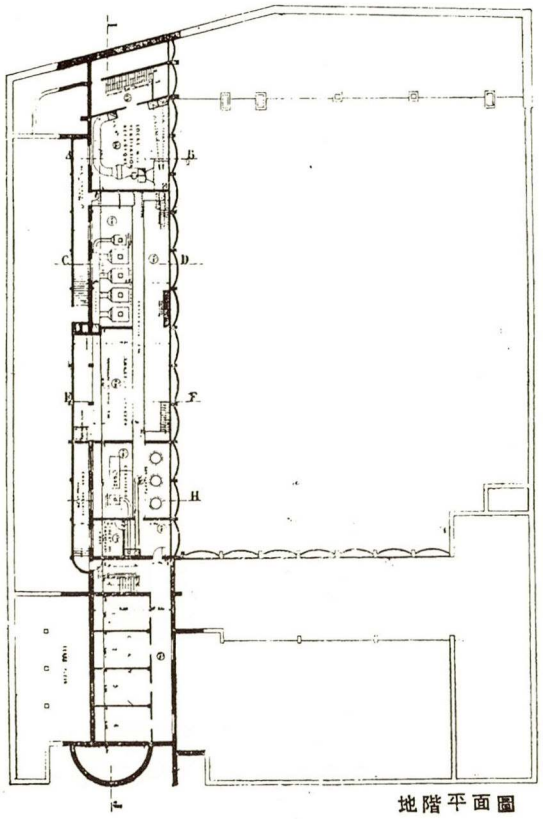
（アメリカ） Coco Tree Restaurant, Hollywood　　建築家　R.J. Neutra



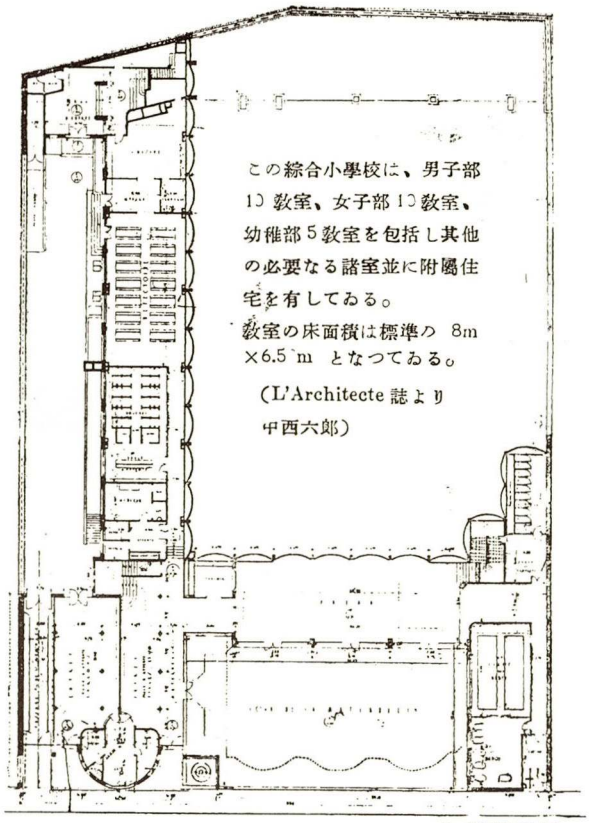
正面圖



校庭よりの姿圖

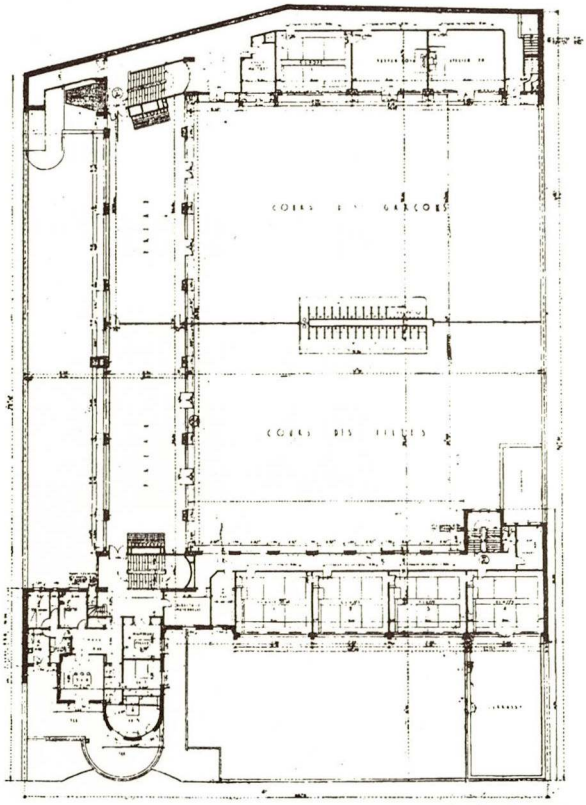


地階平面圖

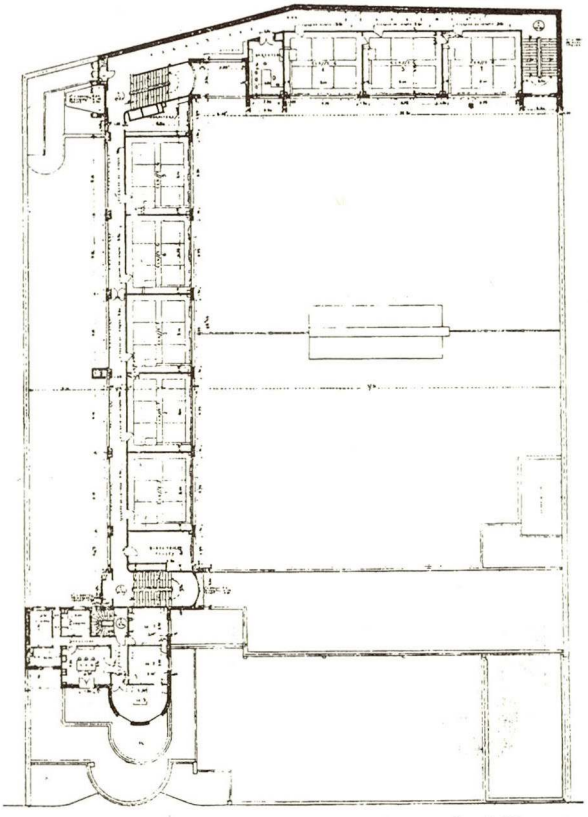


この綜合小學校は、男子部10教室、女子部10教室、幼稚部5教室を包括し其他の必要なる諸室並に附屬住宅を有してゐる。
教室の床面積は標準の 8m ×6.5 m となつてゐる。
(L'Architecte 誌より
中西六郎)

1 階平面圖



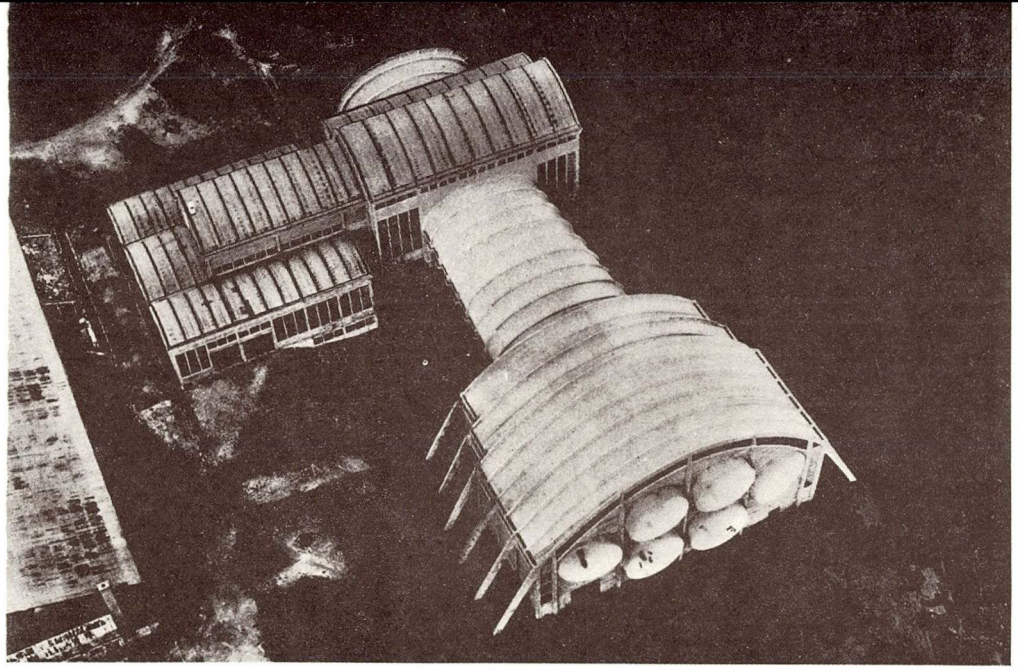
2 階平面圖



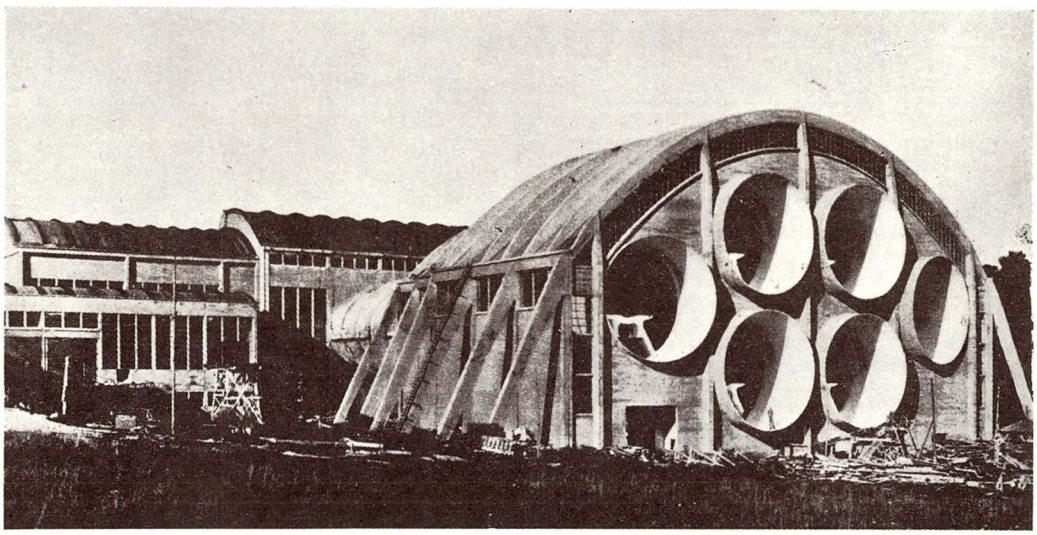
3 階平面圖

(フランス) 巴里キユス街の新築綜合小學校

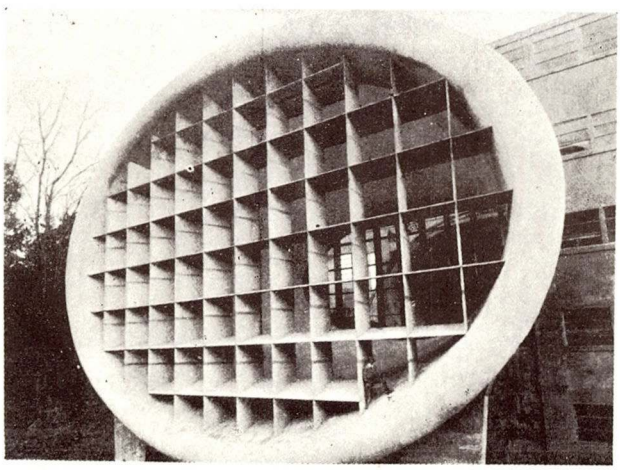
建築家 R. Expert



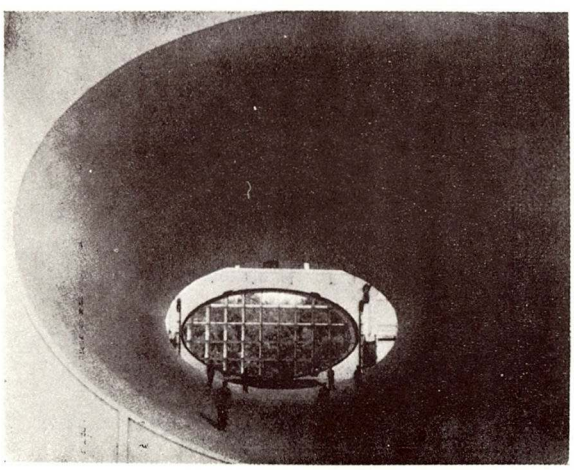
起風室鳥瞰圖



起風室外觀



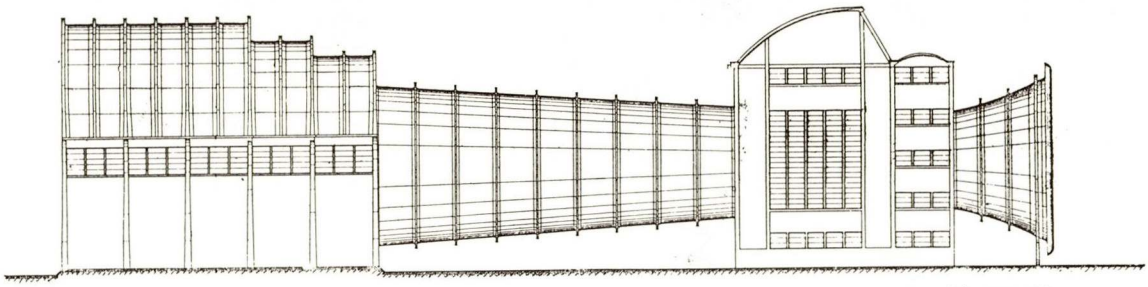
吸入口



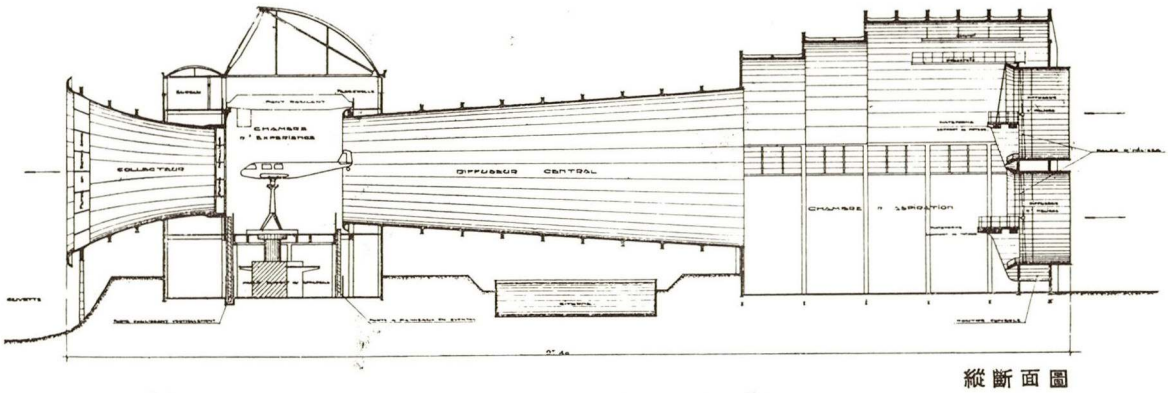
風洞內部

III 140 （フランス）飛行機實驗所

設計並に施工　Entreprises Limousin



側面圖



縱斷面圖

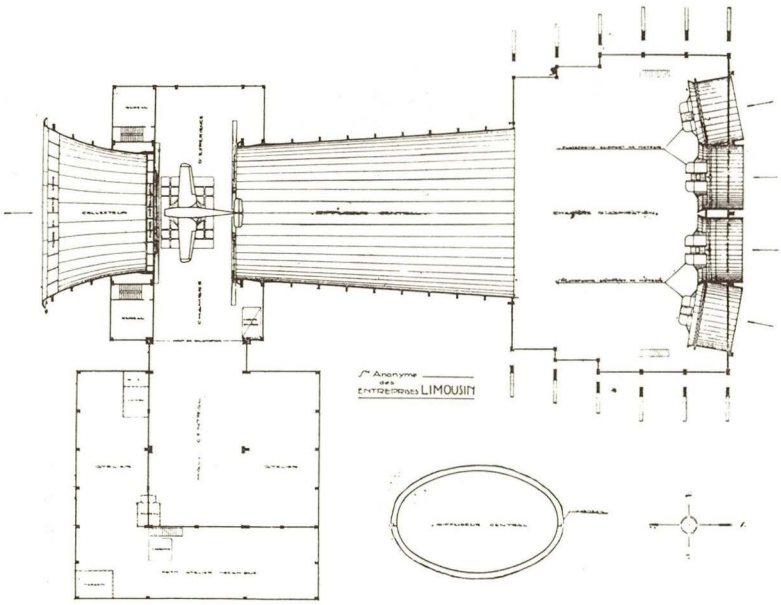
フランス航空技術局はシヤレー・ムードンの中央航空研究所内に實物の飛行機の試驗を目的とする一大風洞の創設を企劃し 1932 年 4 月に一切の計畫が完了したので其計畫に從ひ、その大風洞の設計並に施工を募集した結果、技術的にも經濟的にも優秀と認められリムーザン施工會社が其任務を擔當することになつた。この大風洞は延長 93.50m に渉つて時速 180km の氣流を發生せしむることを要求してゐる。

風洞の一端の吸入口は

長軸 24.80m
短軸 16.80m } の楕圓形

にして格子狀をなしてゐる他端の起風室には直徑 8.50 m の六個の圓筒があつて夫々に煽風機と 1,000 馬力のモーターが設備されモーターの活動により煽風機が廻轉して吸入口から風洞へと起風する裝置になつてゐる

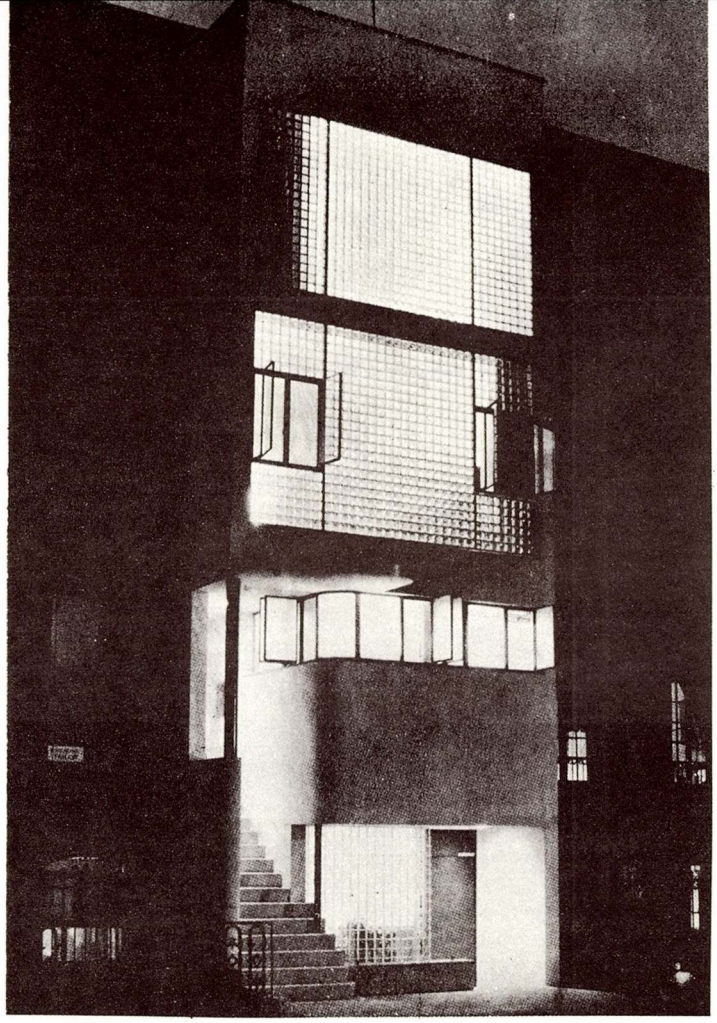
(L'Architecte 誌より 中西六郎)



平面圖

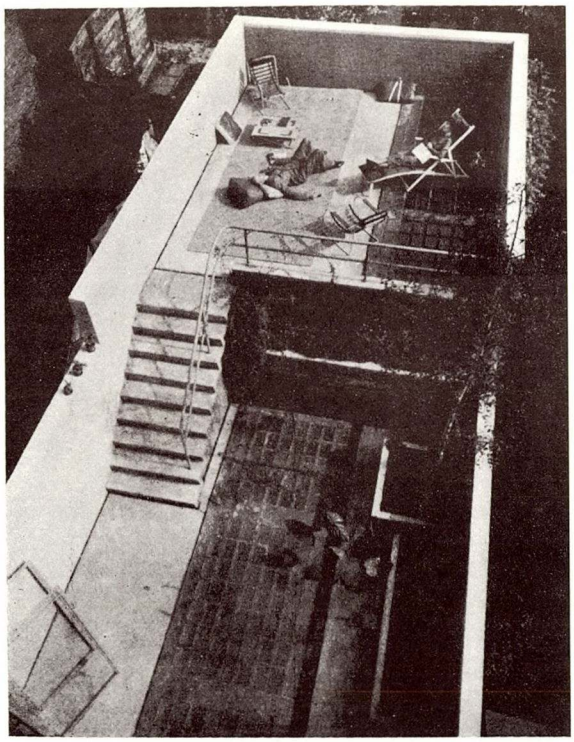
新様式の住宅の多數は主として郊外住宅として發達したものであるが、これは、新しく取扱はれた市街地住宅の1例である。建築家の住宅であり、仕事場を1階に住居を2階以上に設けて、「仕事の爲に階段を下りる」— 樂に仕事場へ行くと言ふことを主眼として計畫されて居る外壁に主としてプリズムグラスを用ひ窓を小さくしたのは採光を害することなく外界の影響をなるべく少くする爲である。全然窓を持たない4階の居間は完全な空氣調整裝置が施されて居る。屋上は露臺に利用されると同時に、デツキグラスを敷詰めて狹い中庭の窓に依るよりも完全に採光の目的を達して居る。寢室の窓が曲線狀に突出されたのは能ふ限り多量の日照と眺望とを得る爲である。全體として、生活の諸問題がこの建築家の住宅に於て何の程度まで合理的に解決せられて居るかが興味ある點である。

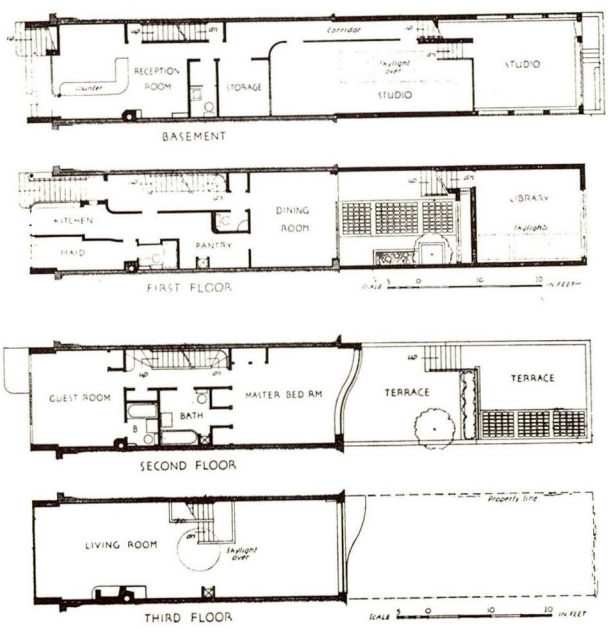
(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



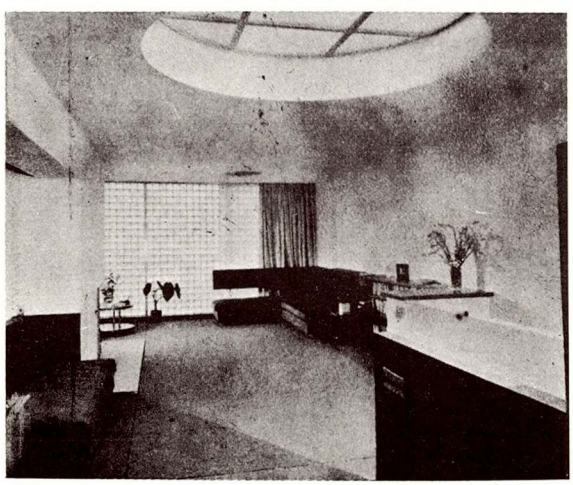
外觀夜景

屋上露臺





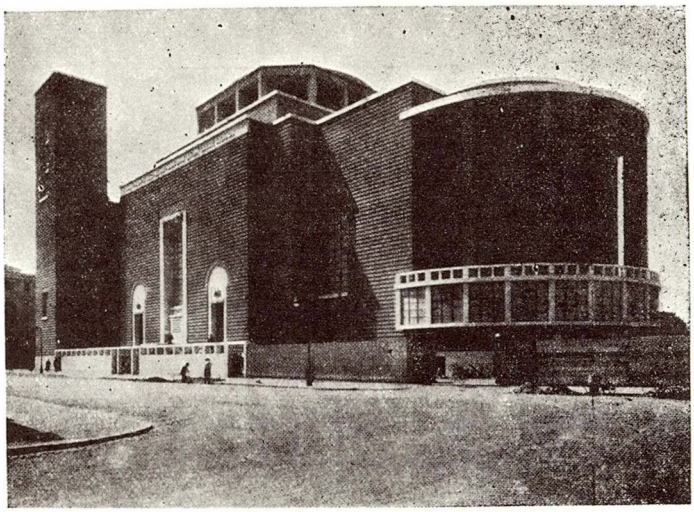
各階平面圖



居　間

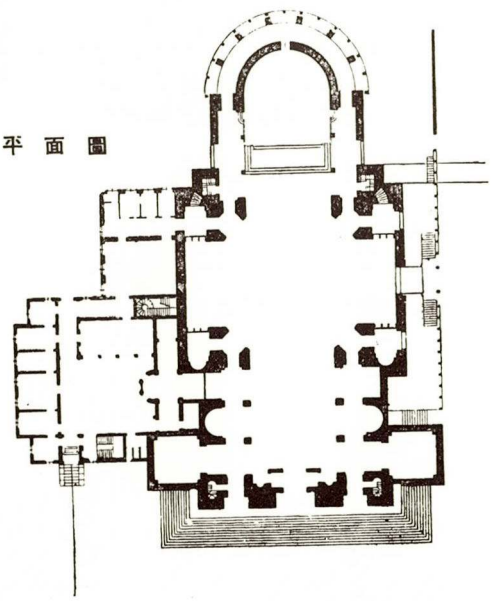


正　面



背　面

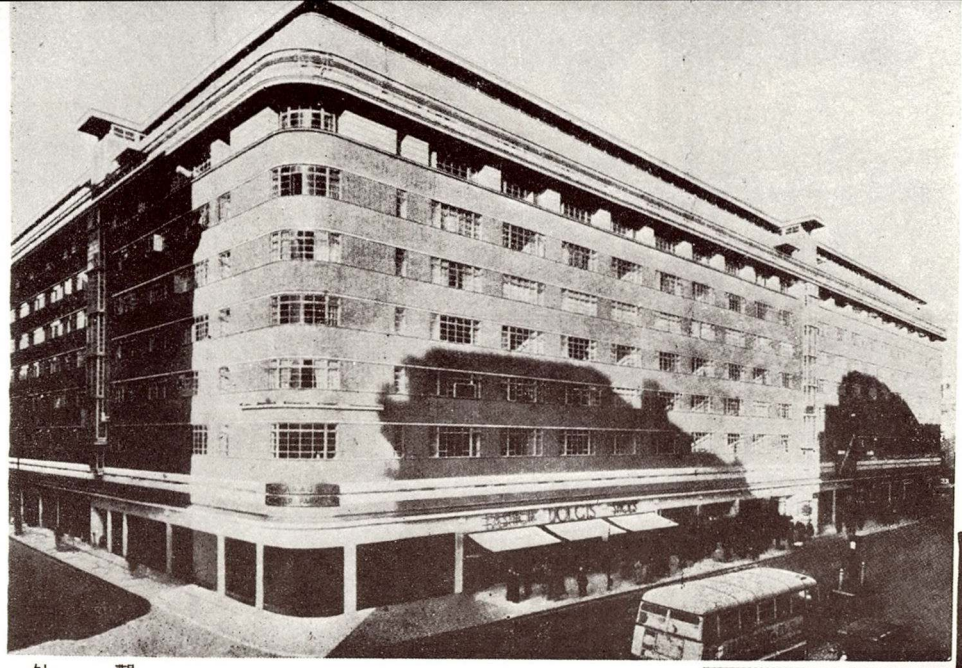
平面圖



古典の都ローマにもこの新しいカソリツク教會堂が出來た。プランは流石に古の踏襲である。

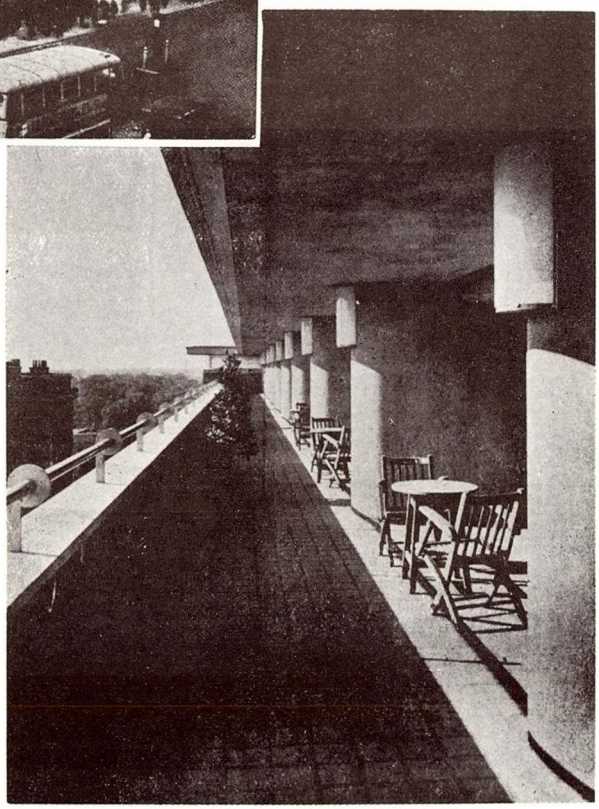
（Bankunst und Städtebau 誌より　岡田孝男）

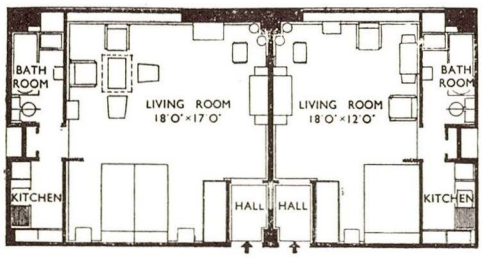
（イタリー）　ローマのクリストケーニツヒ教會堂　　建築家　Marcello Piacentini

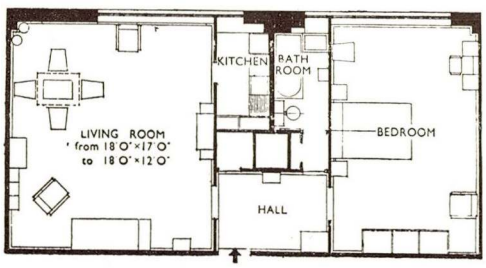


外　　觀

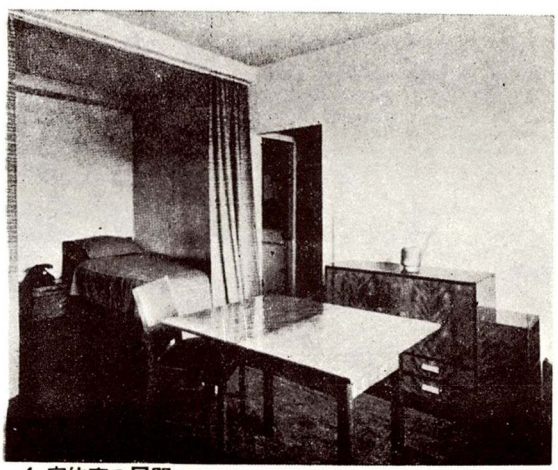
第8階ハイドパークに面した側のテラスでその延長 100 尺



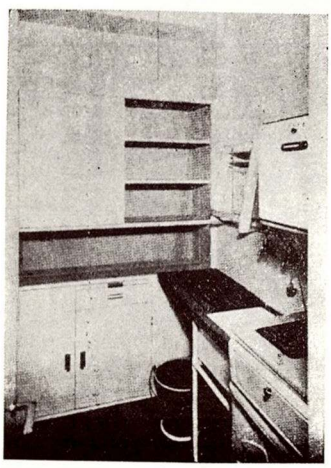




標準型平面



1 室住宅の居間



同左臺所

敷地 60,000 平方尺、建物 6～6.5 百萬立方尺の大ビルディングで、建築家は大量生産の精神に基いて標準型住宅の決定に苦心し、種々實驗の結果平面圖及下圖の如きものを決定し、此の18尺×17尺の單位が全部で650ある。1 階は主としてレストラン、バー、理髪店等の店舗に充て、さながら1小都市の觀を呈してゐる。

（Architectural Review 誌より　本多正道）

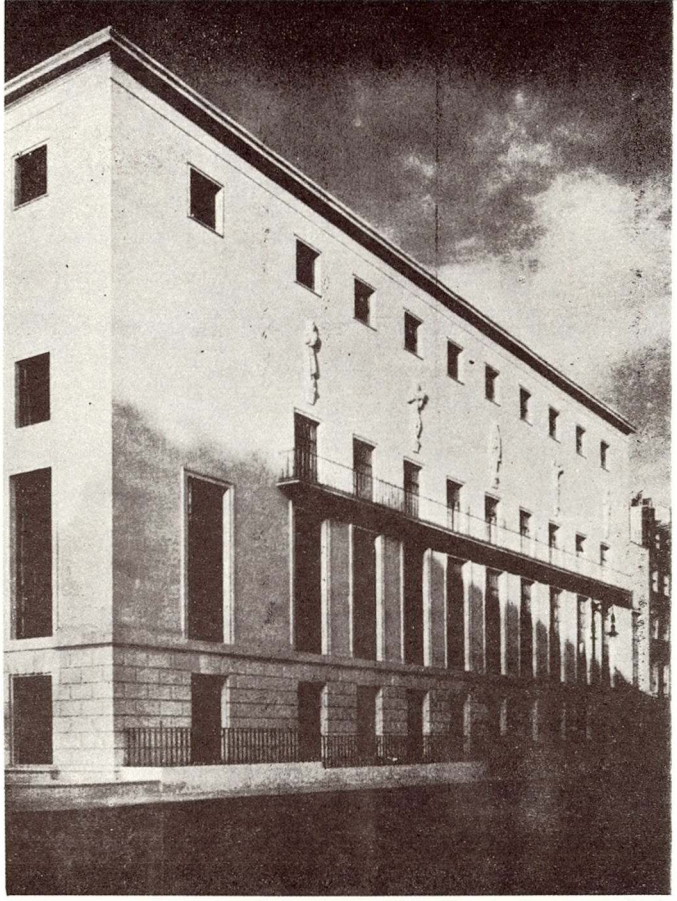
144　（イギリス）集合住宅 "Mount Royal"

建築家　Sir John Burnet

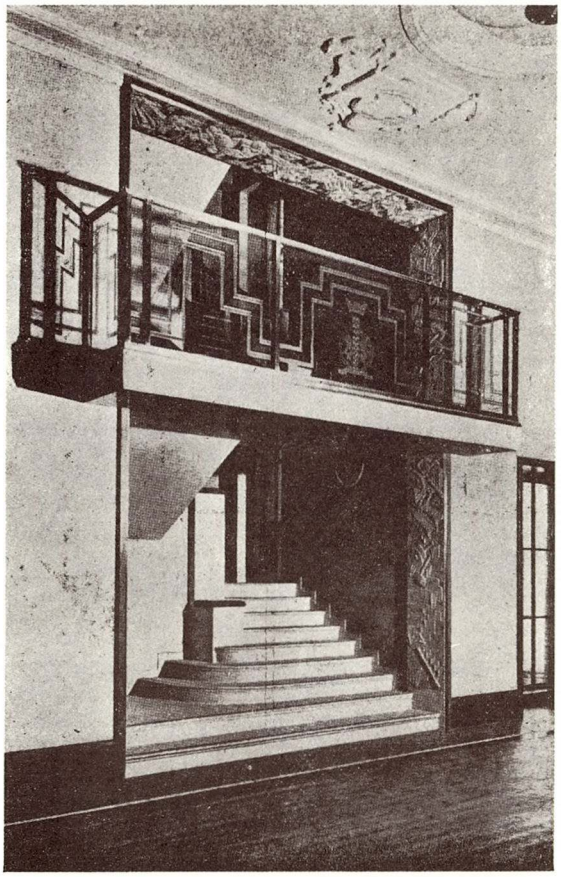


Henry Florence 記念ホール

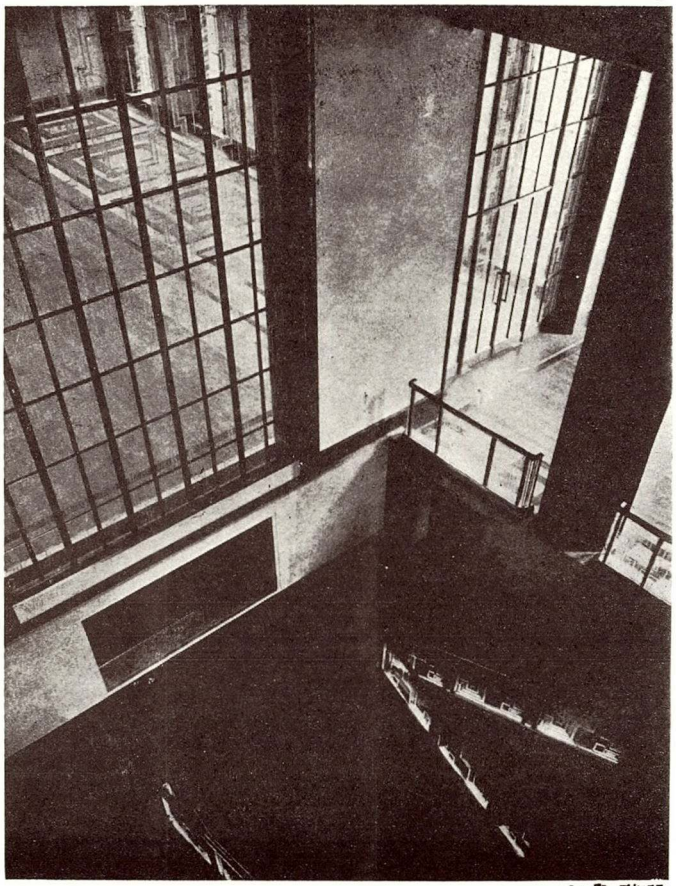
側面階段



Wev Mouth 街に面した外観



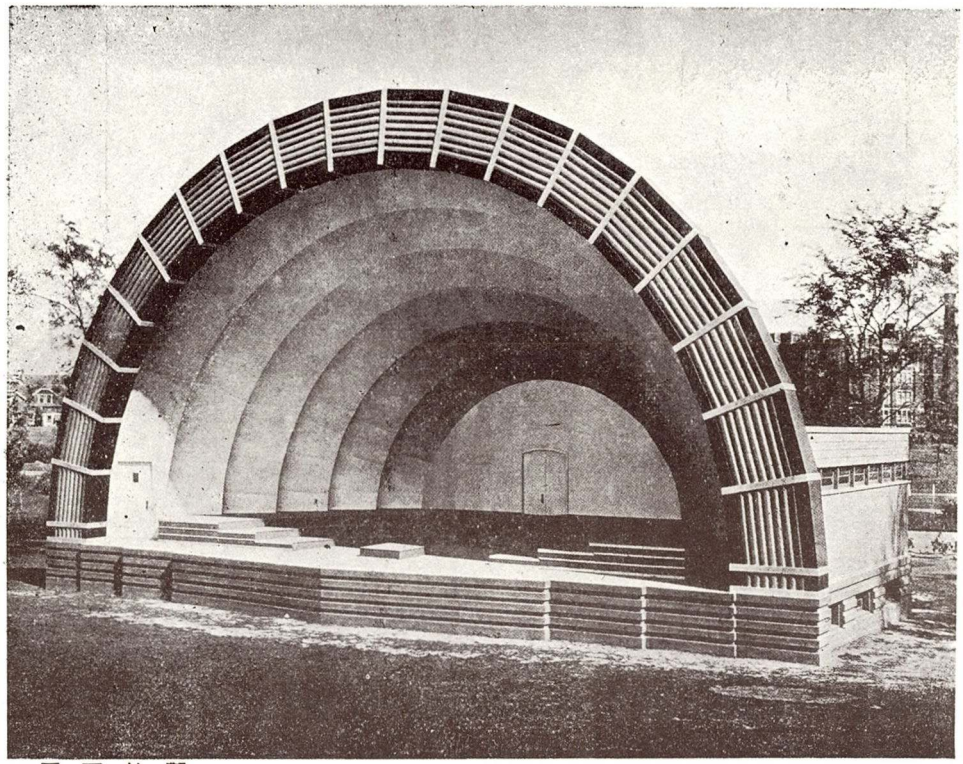
1932 年 5 月に行はれた懸賞の 1 等當選案によつて新築されたもので、昨年 11 月 8 日英國皇帝、皇后の臺臨を仰いで盛大な開館式が行はれた。
(Architetural Review 誌より　本多正道)



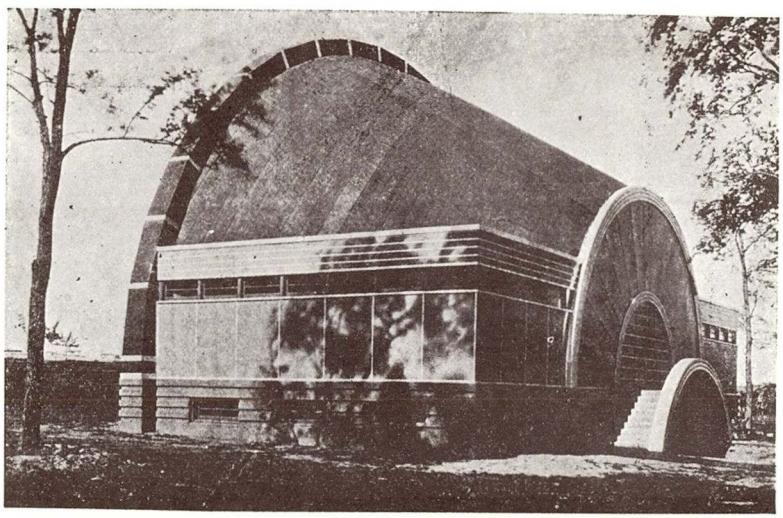
中央階段

(イギリス) R. I. B. A. ビルヂング

建築家　Grey Wornum



正面外觀



背面外觀

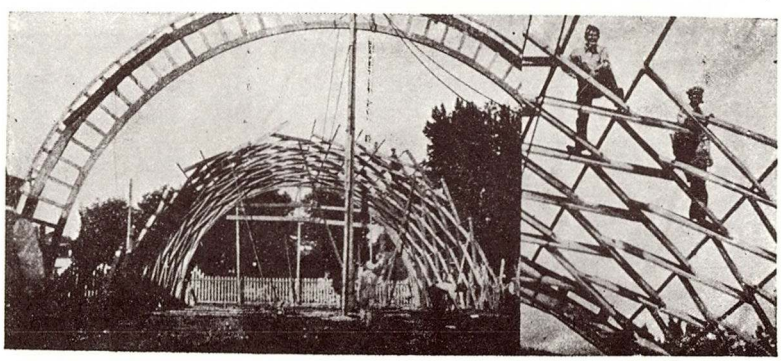
大體に於てホリウツドやシカゴの音樂堂と同型のデザインであるが幾分規模が小さいのと使用材料とが異つて居る。數百呎離れた高臺に向つて緩かに傾斜した半圓形の自然のアムフイシヤターの中央部に建てられて居る。音樂堂は約 100 人の演奏者と 300 人の合唱團とを容れ得る。聽衆は 30,000 人以上大丈夫であらう。

構造は挿圖の如き木骨のアーチ。基礎は鐵筋コンクリート構造で、地下室はベンチやその他の公園用の諸道具の倉庫となつて居る。

內部の各隻の部分には照明が仕込まれ、音樂堂內部を照すと同時に反射に依つて數百尺先の聽衆席まで明るくなる樣になつて居る。

色は、內部は銀、外部は淡青色に銀と黑とを配す。正面のアーチは輪廓は黑、中央は青、バンドは銀である。

(Architectural Record 誌より 新名種夫)



骨組構造

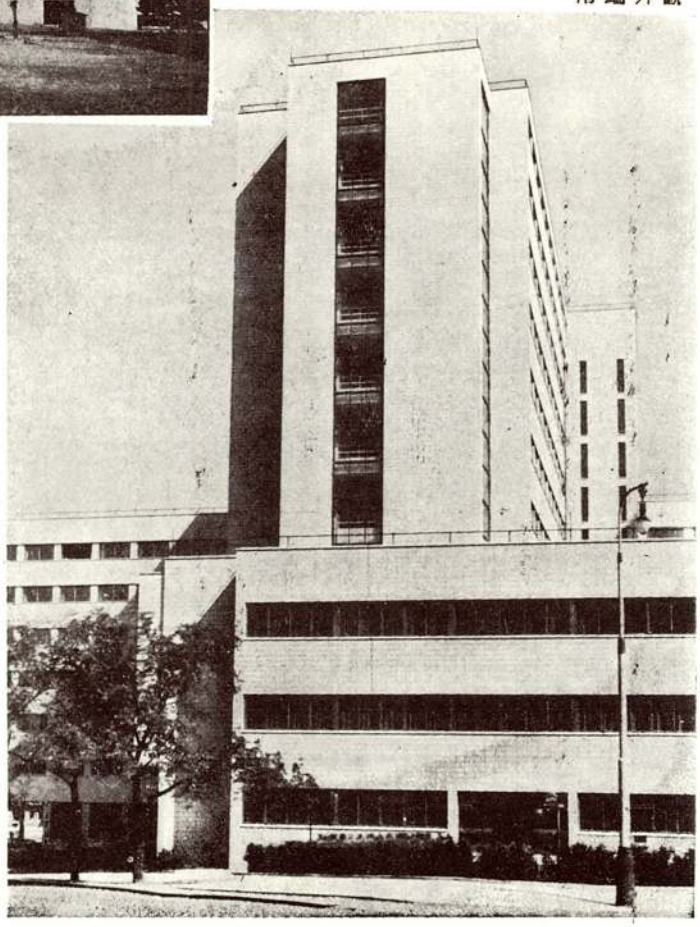


西北隅外觀



外　　觀

南端外觀

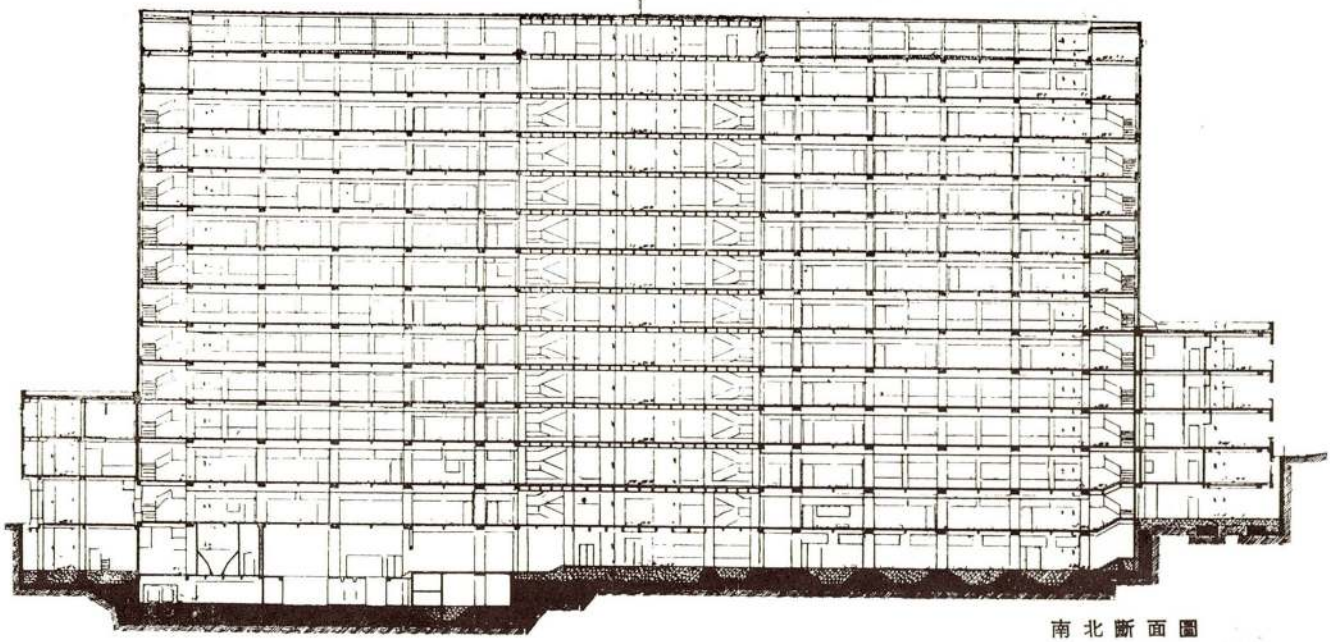


設計は 1929 年の指名懸賞當選案によるもので、1932 年 4 月着工、1934 年 2 月落成、容積 150,000 立方米、中央十字形の部分には 600 の事務室を有する行政部、400 人を收容し得る講堂、二つの委員會室等あり、北の建物は三階建で商店、事務室、貸住宅があり、之に平行な南側の建物は使用人住宅である。鐵筋コンクリート造で、低い部分が 9 階、高い方は 14 階、十字形の交叉點には 2 つの主要階段、4 つのエレベーター、リフト等あり四つの端にも各々階段がある。當初の計畫では□字形のプランであつたが、之を十字形としたために交通の便は非常によくなり、最端部まで僅か 35m しかない。

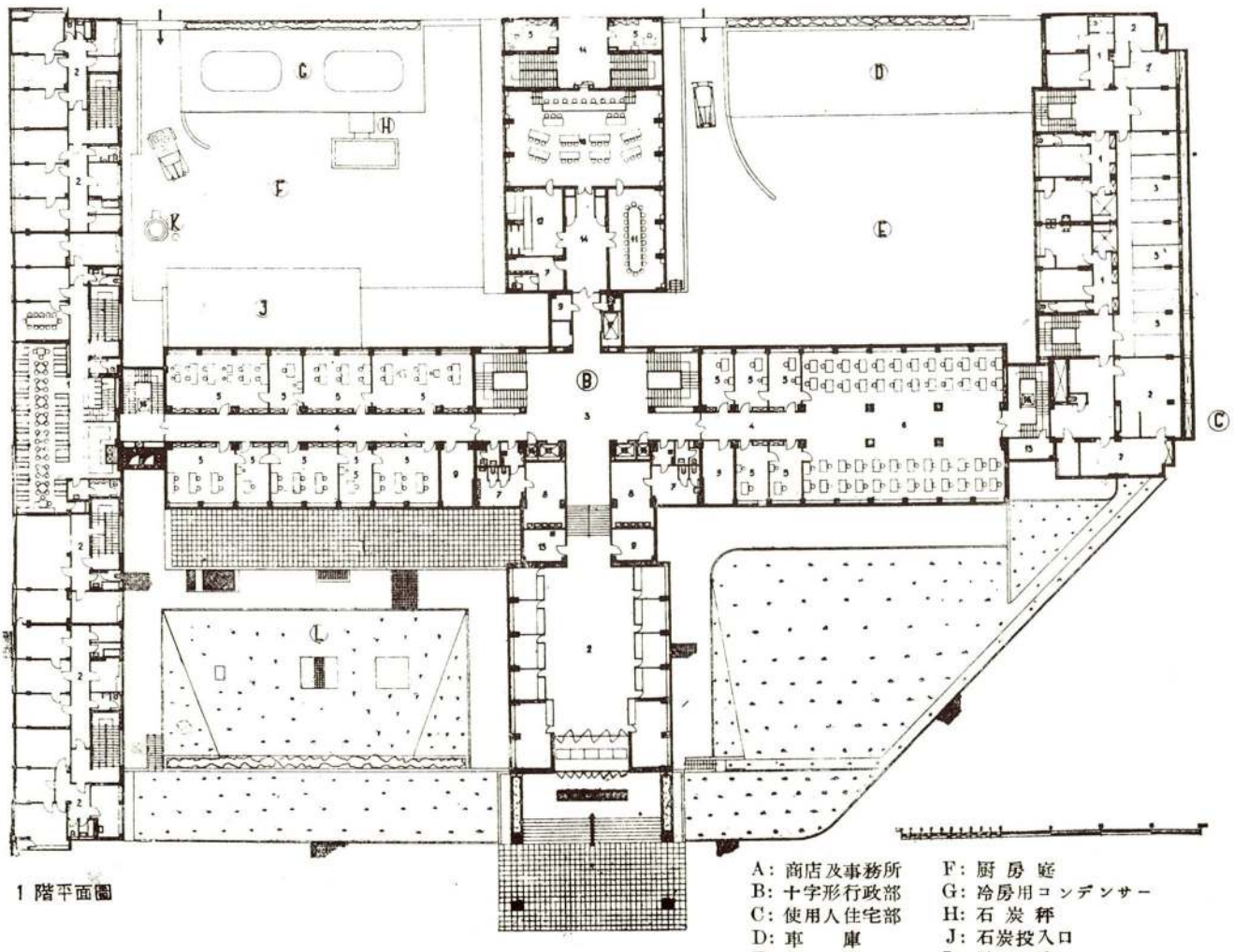
換氣、冷房、煖房共キヤリアー式を用ひ、1 時間 4～5 回換氣される。昨夏外氣溫が 36°C の時も室內は 24°C を保つてゐた。全建築費 8,000,000 マーク。

（Modern Bauformen 誌より　本多正道）

（チエツコ）プラーグの恩給局　建築家　Josef Havlíček 及 KarelHonzik



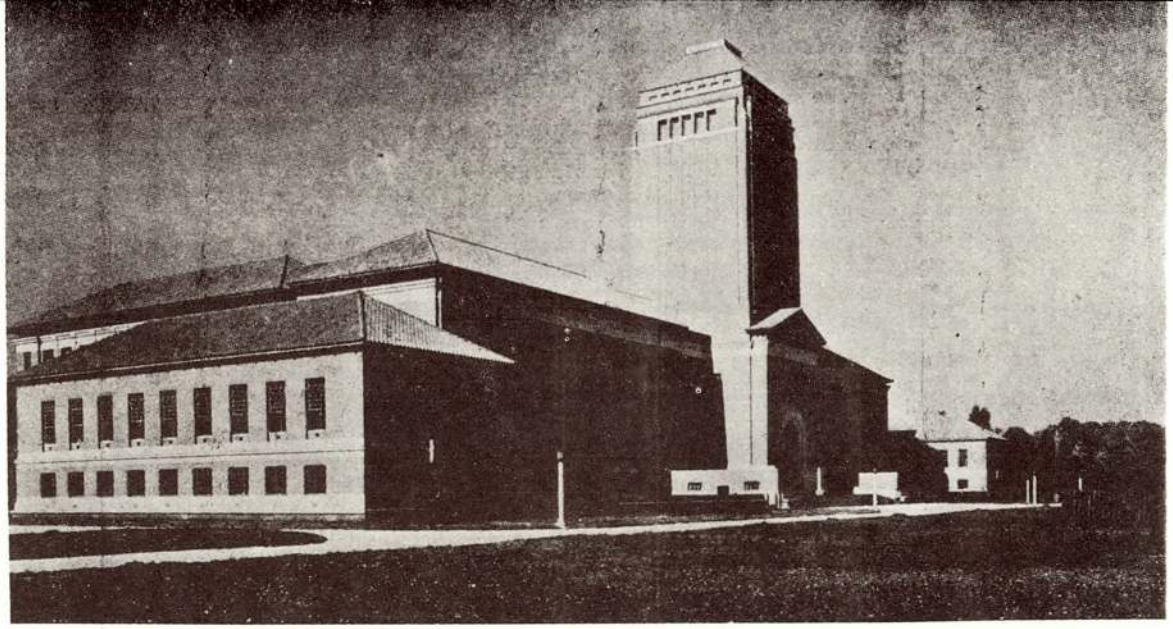
南北断面圖



1 階平面圖

A: 商店及事務所
B: 十字形行政部
C: 使用人住宅部
D: 車　　庫
E: 車　　庭
F: 厨 房 庭
G: 冷房用コンデンサー
H: 石 炭 秤
J: 石炭投入口
L: 貯 水 池

III 148　（チエツコ）ブラーグの思給局　建築家 Josef Havlicek 及 Karel Honzik

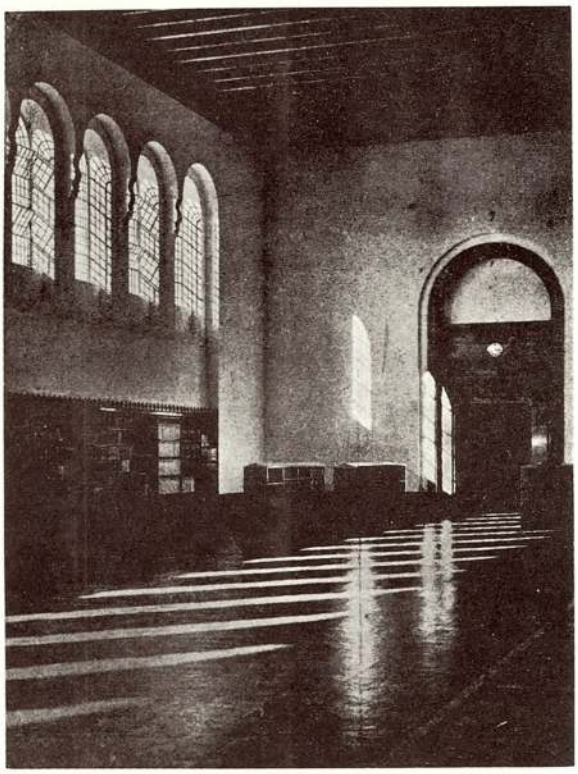


正面外觀　中央の塔は周圍の建築より更に 90尺高く地上 160 尺である。外壁煉瓦、屋根イタリアンタイル張

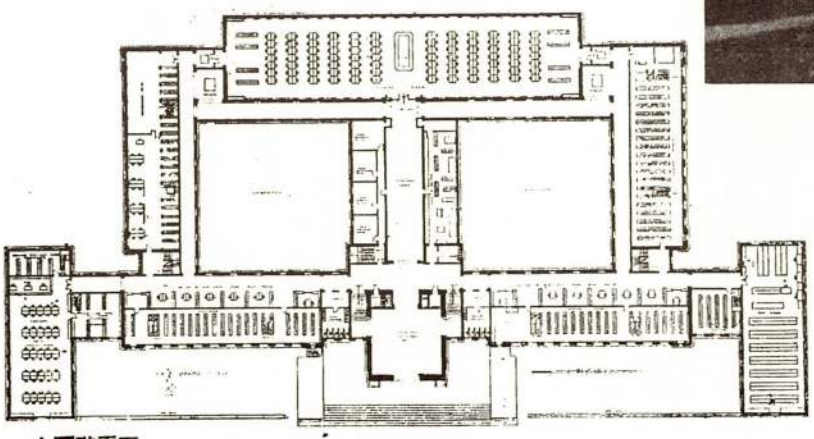
昨夏完成した此新圖書館は"Open access" システムと稱し、讀者が直接書庫の間をうろつき、1日中そこで讀書するのであつて、そのために充分な光線が必要であり、又窓越しに青葉をながめ得る事も必要である。從つて書庫は幅の狹い事を要し、又圖書館の大部分が七階建の書庫を以て占められてゐる所以である。1階には受付、カタログ分類室、印刷室作業室等あり。鐵骨、煉瓦及鐵筋コンクリート造、內部床リノリウム敷書架の眞々間隔 6 尺、書庫には 60 W の電燈が全部で 3,000 箇設備されてゐる。

兎も角此の廣大にして完備した大圖書館と大大阪の持つ圖書館を比較する時、越えがたい大きな懸隔にそゞろさびしさを禁じ得ないものがある

(Architectural Review 誌より
本多正道)

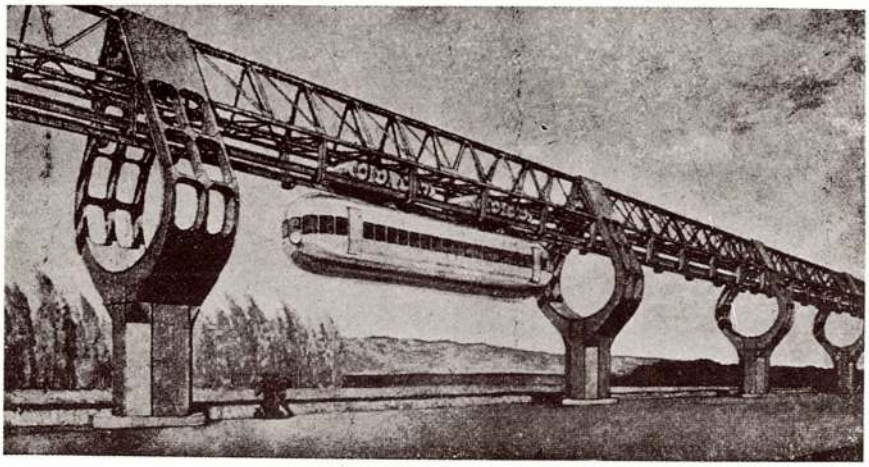


讀書室
長 193 尺幅 43 尺天井高 33 尺、床ゴムタイル、光線は上方からとり又各机にランプを備ふ。



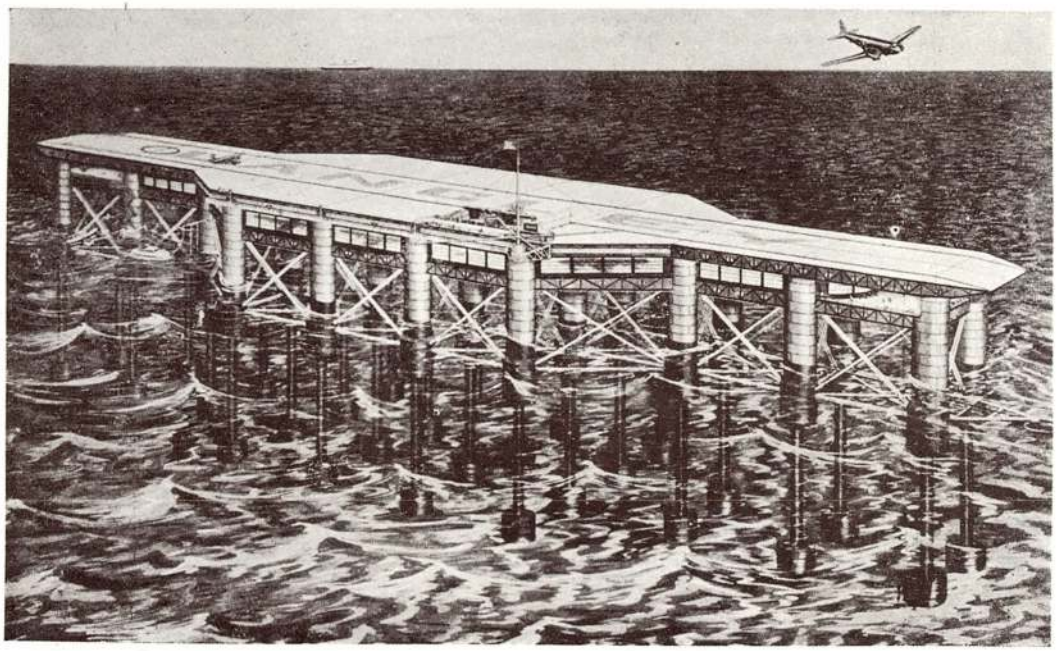
主要階平面

(イギリス) ケンブリツヂ大學圖書館

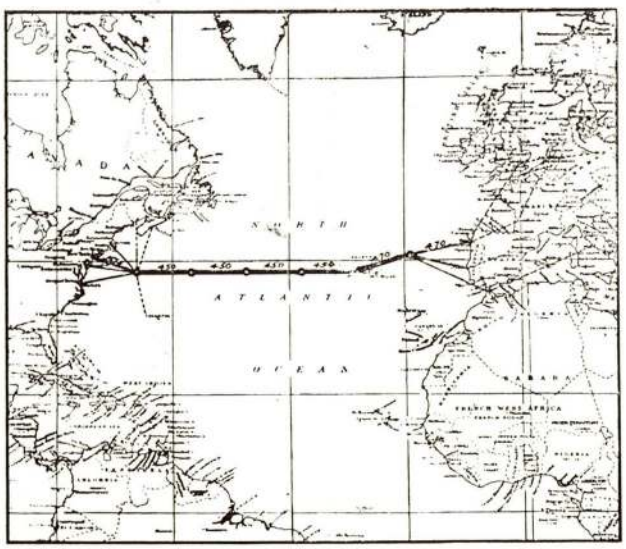


安全時速 100 哩、圖は Golden Gate Bridge 設計の主任技師に依つて描かれたパースペクチブである

第 1 配 景 圖



第 2 配 景 圖



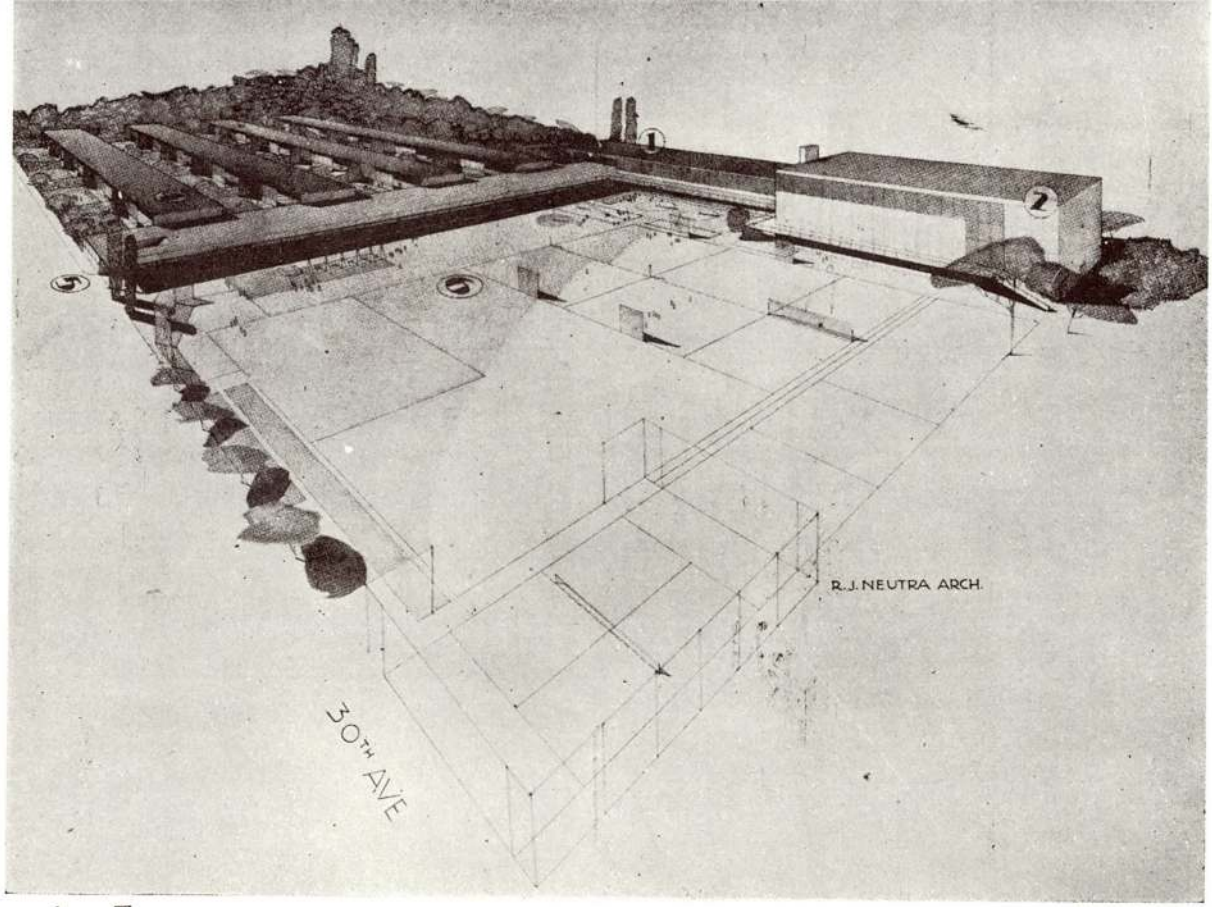
アメリカとヨーロッパ大陸とを繋ぐ航空路開設の爲に、約 30,000,000 弗の公債に依つて 1 年程前に計畫せられた海洋飛行場の設計案である。

甲板の長さ 1,225 呎、幅中央部にて 300 呎端部にて 150 呎、北大西洋のアメリカ、ヨーロッパ間に 5 箇所建設の計畫であつた。現在考案中のものは、更に大きな、更に積載量の多い飛行機が安全に發着出來る樣に更に長さの長いものであると言ふ。

(Architectural Record 誌より 新名種夫)

第 3 配 置 圖

第 1 圖 San Francisco に於て工事中の空中列車
第 2 圖
第 3 圖 } Edward R. Armstrong 設計の海洋飛行場



鳥瞰圖

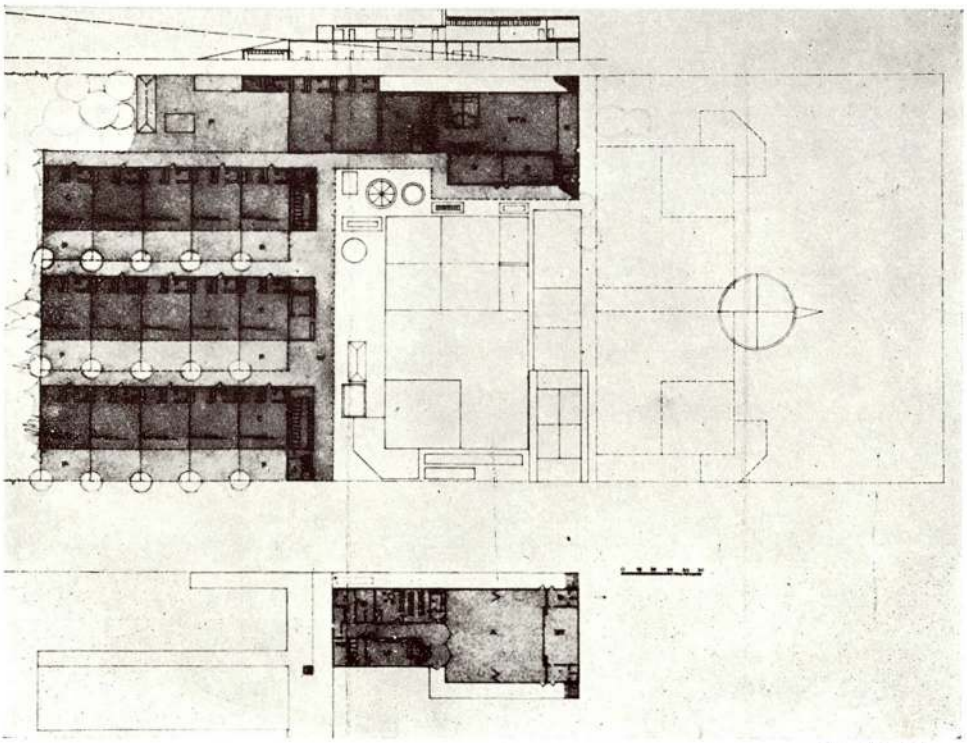
上　圖

1. 本館 31 番街より直接 2 階に通ずる入口を有す。
2. 集會場及父兄教師懇談室。
3. 屋外遊戲場を有する幼稚園
4. 屋外教場を有する校舍
5. 30 番街の 1 階入口
6. 各種の運動器具を備へた運動場。

右　圖

サンフランシスコのロートン通に面した敷地に對して計畫せられた小學校の標準設計案の 1 例である。

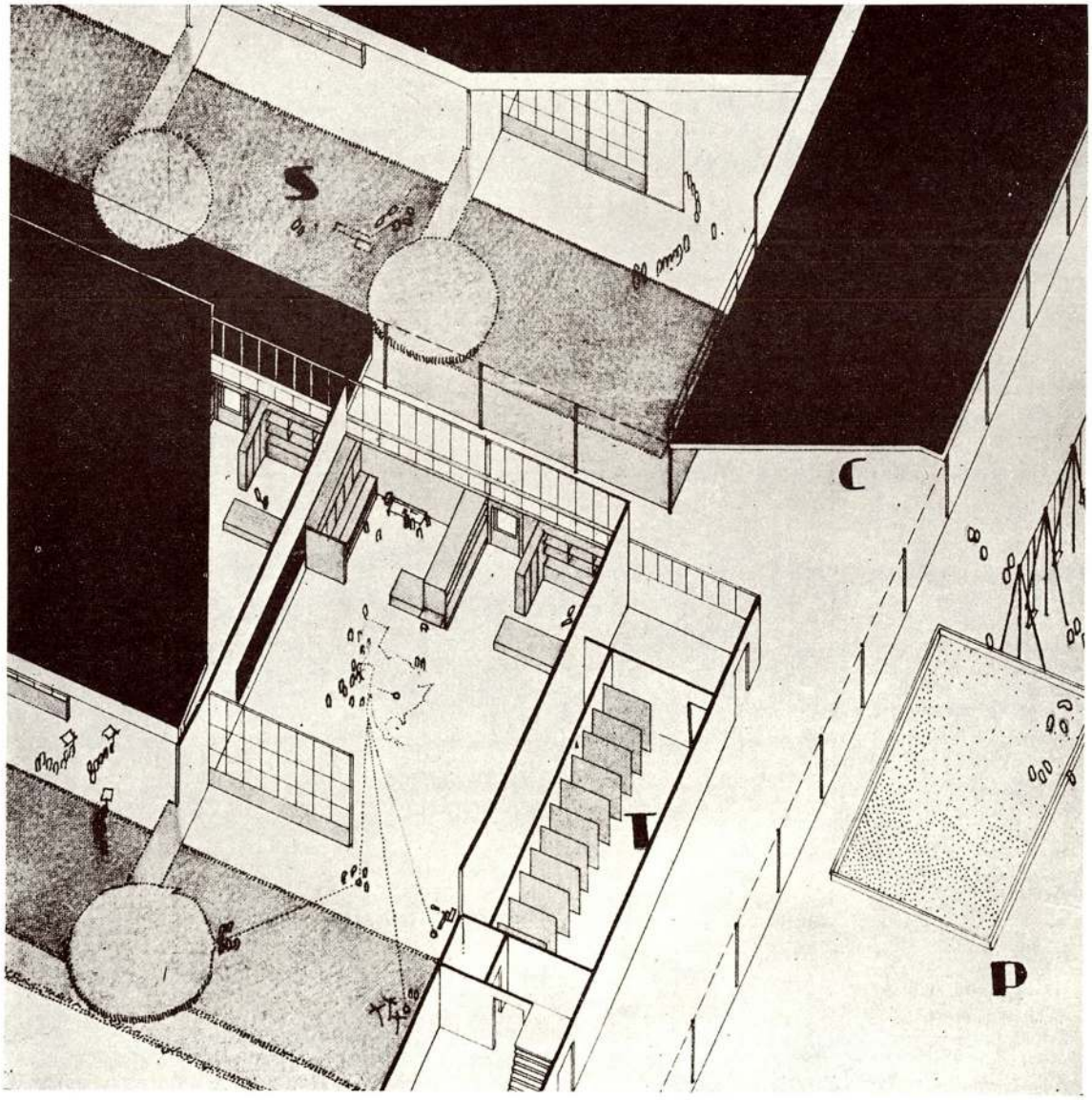
C	屋內教室
P	屋外教場
K	幼稚園
W	步廊
L	圖書室
A	集會場
PTA	父兄及教師懇談室
ST	舞臺
D	化粧室
T	教師室
PR	校長室
F	事務所
S	倉庫
M	智能及齒科診察室
T	教師食堂、休憩室及小調理室
J	守衛室



平面圖

（アメリカ）小學校校舍設計案の 1 例 (1)

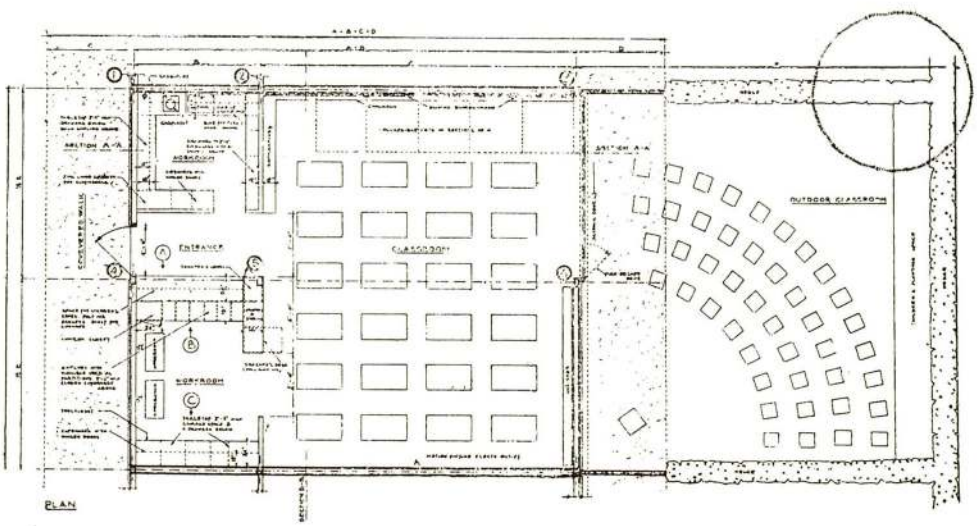
建築家　Richard J. Neutra



教場配景圖

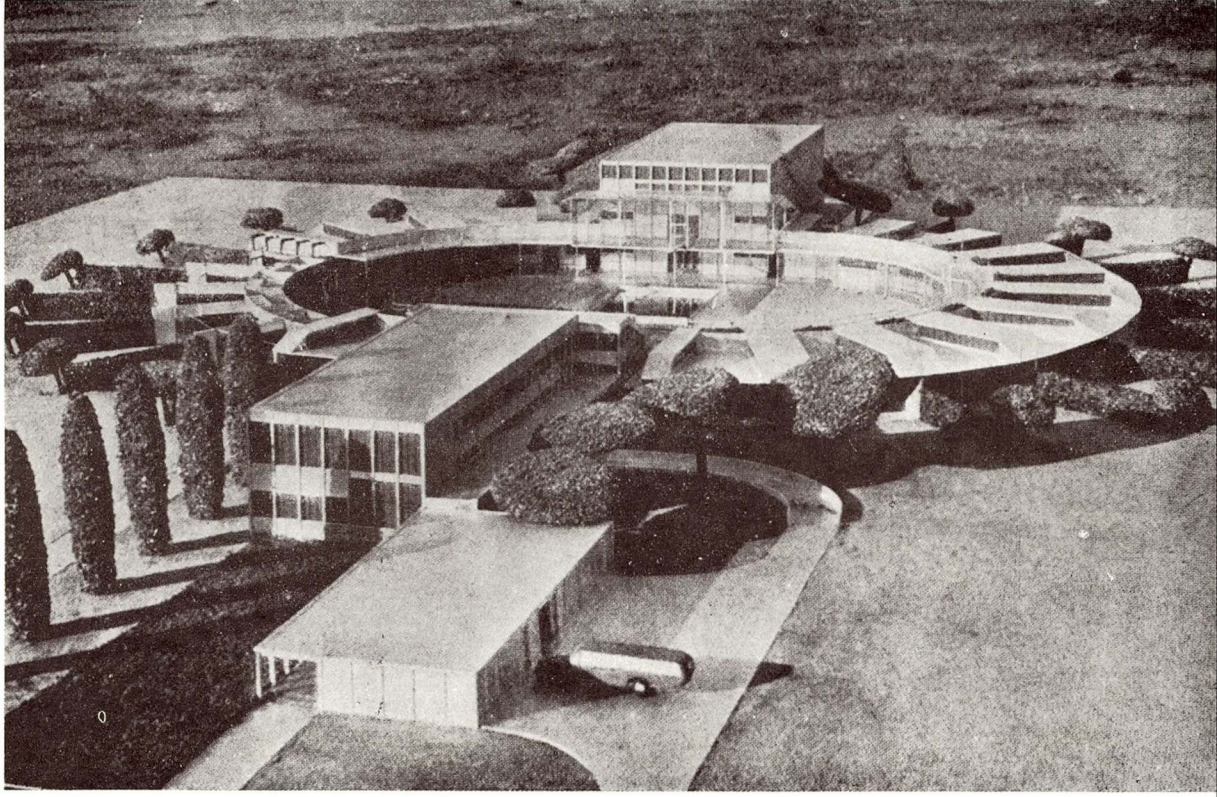
S　屋外教場
C　步　廊
T　便　所
P　運動場

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)

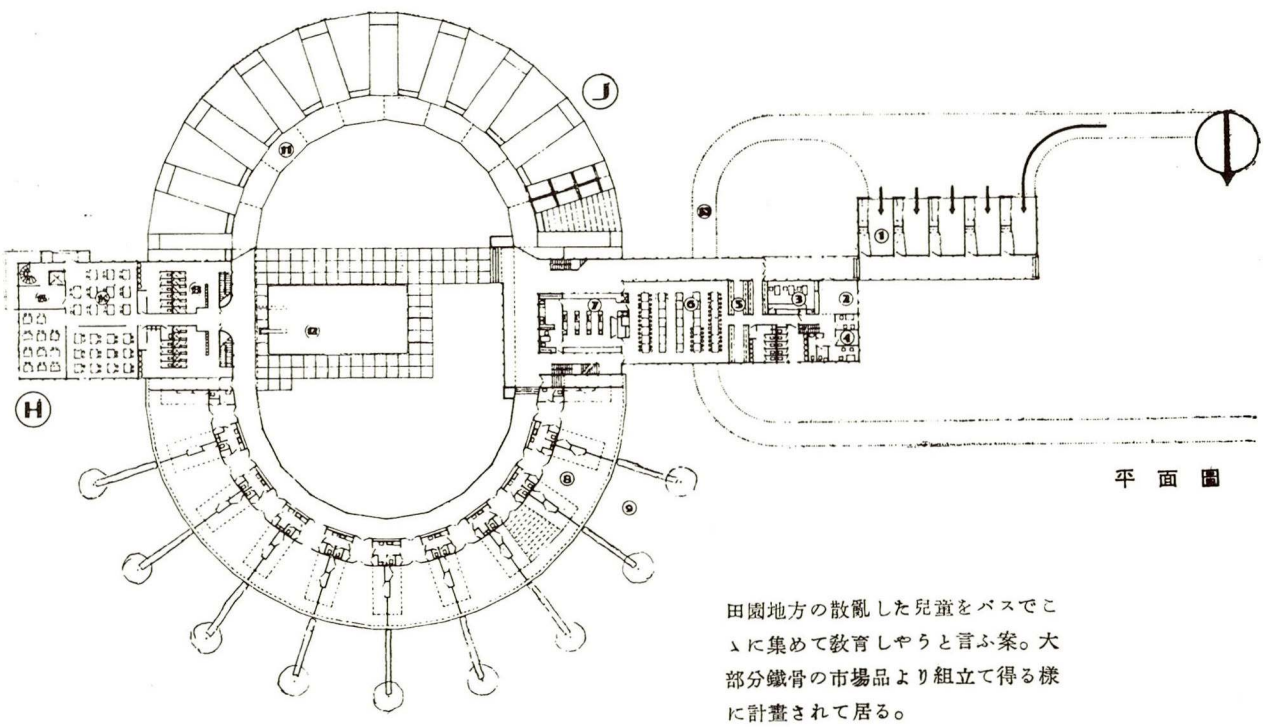


教場平面圖

III 152　(アメリカ) 小學校校舍設計案の1例 (1)　　建築家　Richard J. Neutra



外　觀



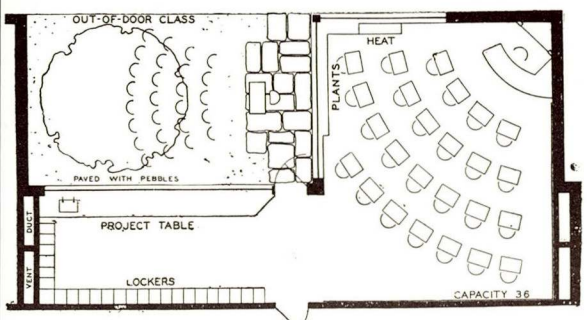
平面圖

田園地方の散亂した兒童をバスでこゝに集めて敎育しやうと言ふ案。大部分鐵骨の市場品より組立て得る樣に計畫されて居る。

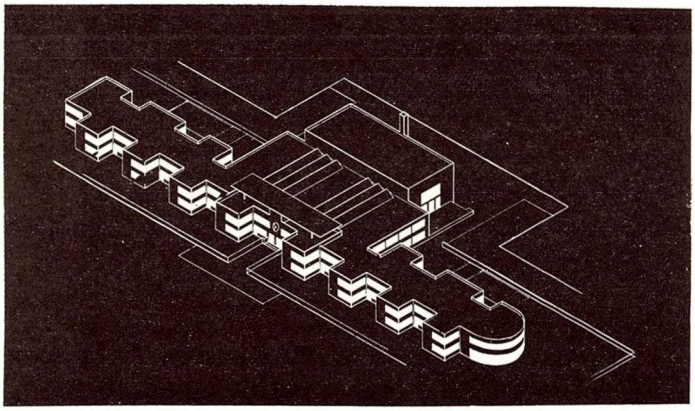
（Architectural Forum 誌より　新名種夫）

1,200 名の兒童が作業し勉强しそして遊ぶのに最も能率よく考へられた近代的プラン。

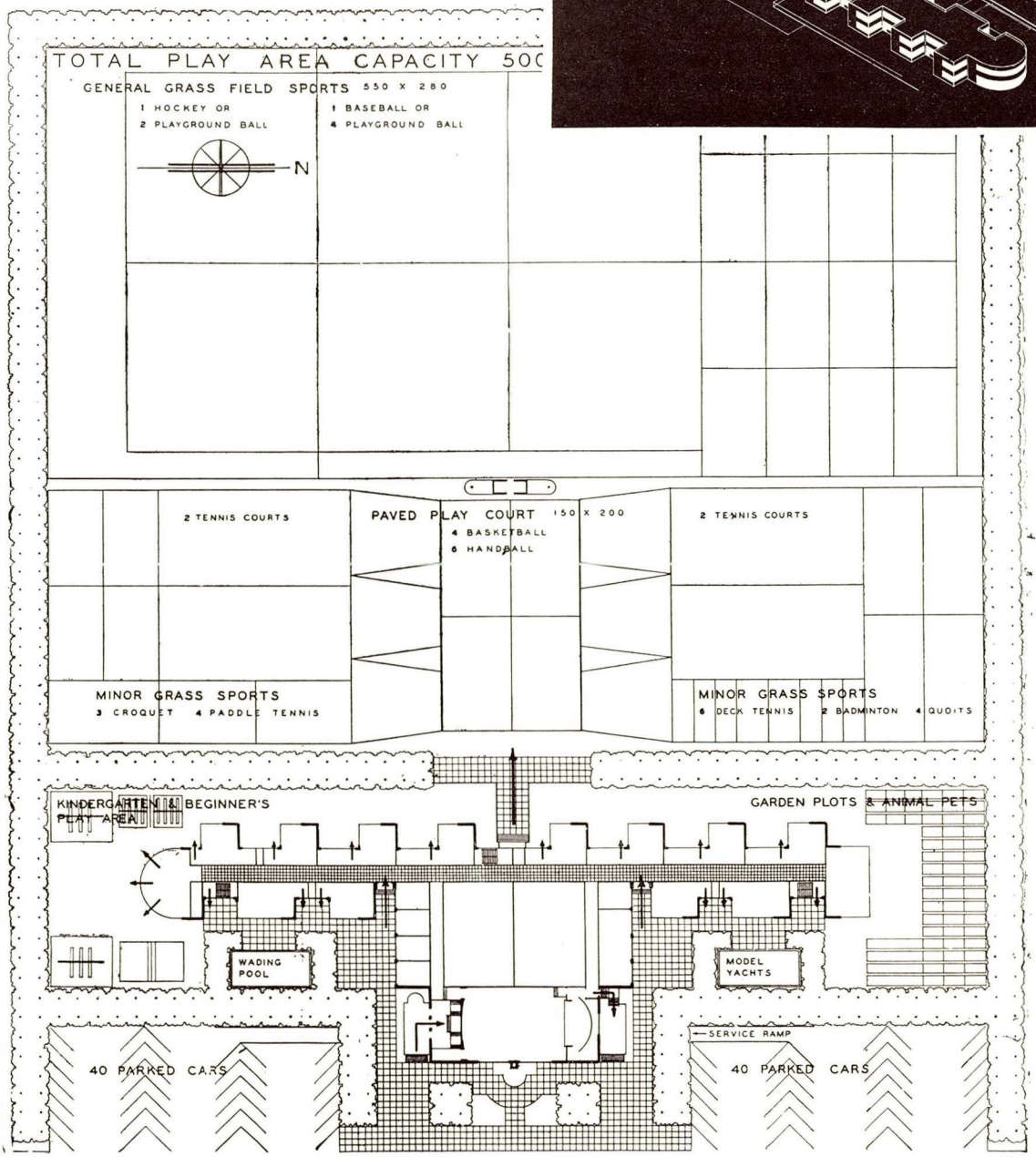
(Architectural F.rum 誌より新名種夫)



教室のテイピカル・プラン



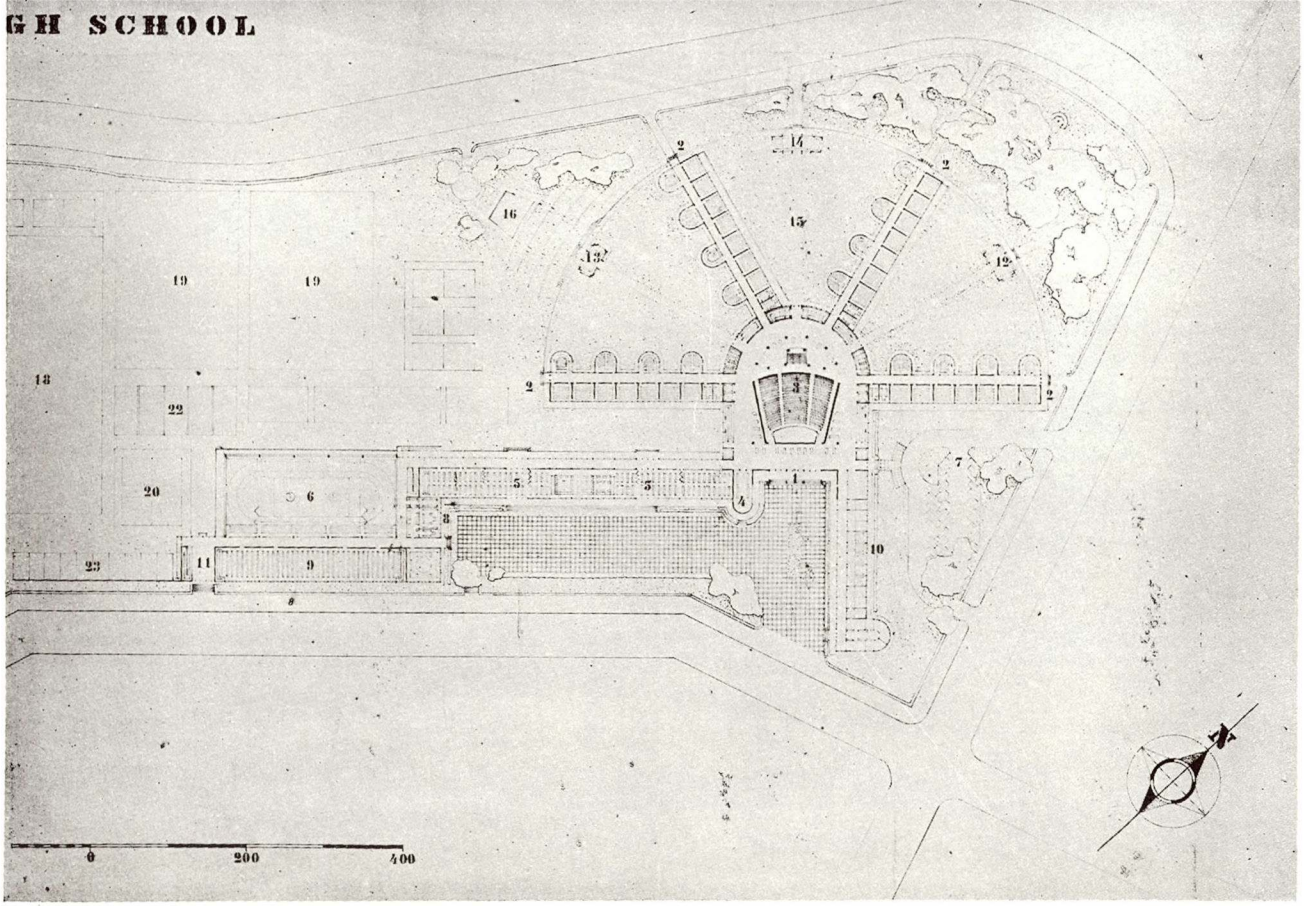
配景圖



配置圖

III 154 (アメリカ) 小學校校舍設計案の1例 (3)

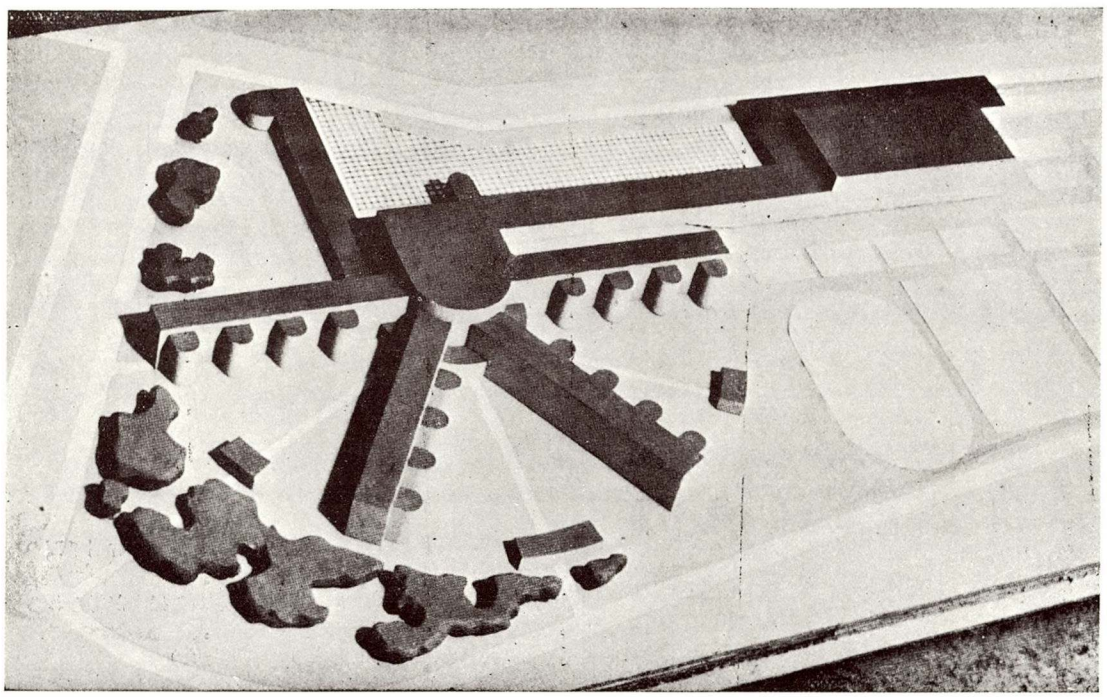
建築家 W. Pope Barney 及 Roy W. Bauwell



平面圖

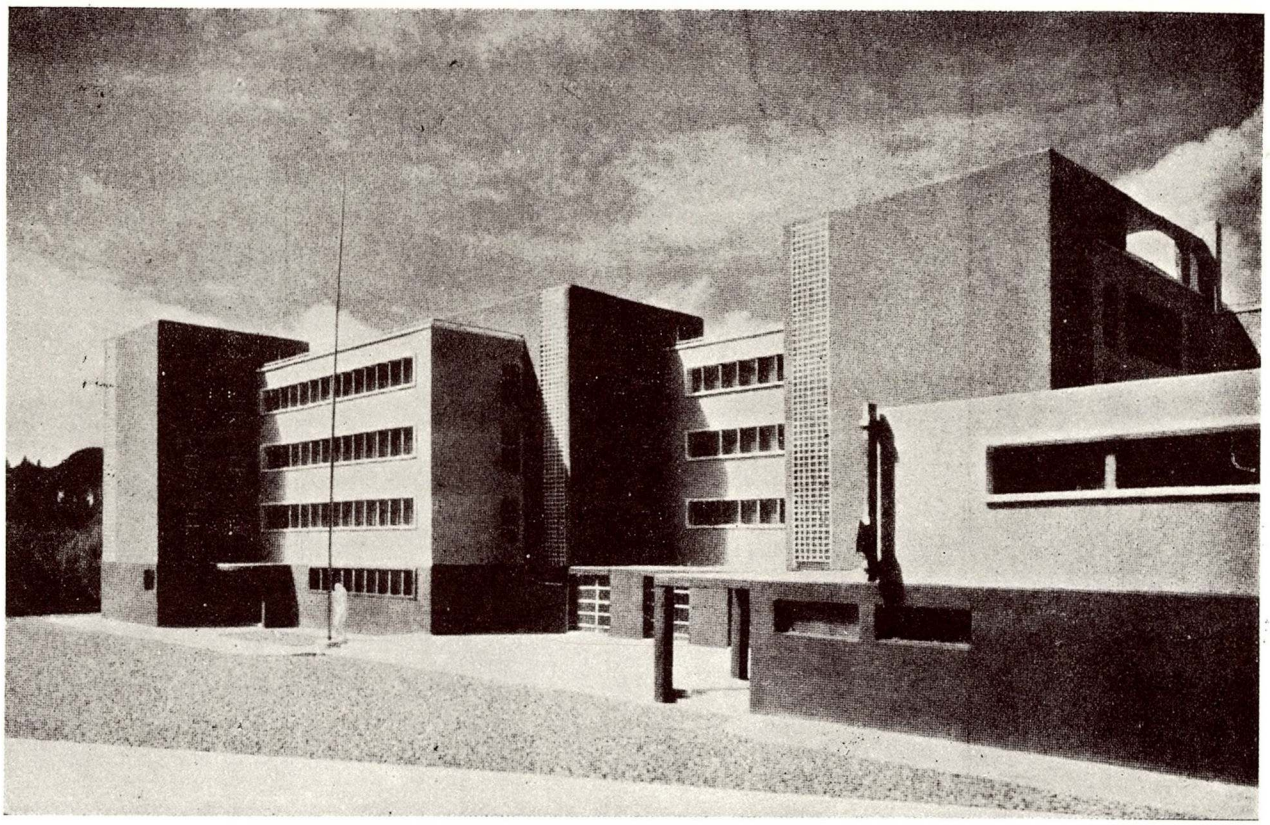
1. 玄關　2 階は圖書室
2. 教　室
3. 講　堂
4. 陳列室
5. 食堂、研究室
6. 體操場
7. 前　庭
8. 醫療部
9. 更衣室　地階はプール及更衣室
10. 本　部
11. 運動場入口
12. 養禽所
13. 溫室
14. ペルゴラ
15. 休憩場
16. 屋外講演場
17. 競技場
18. フツトボール競技場
19. サツカー競技場
20. テニスコート
21. バスケツトボール
22. バレーボール
23. ハンドボール

（Architectural Forum 誌より　新名種夫）

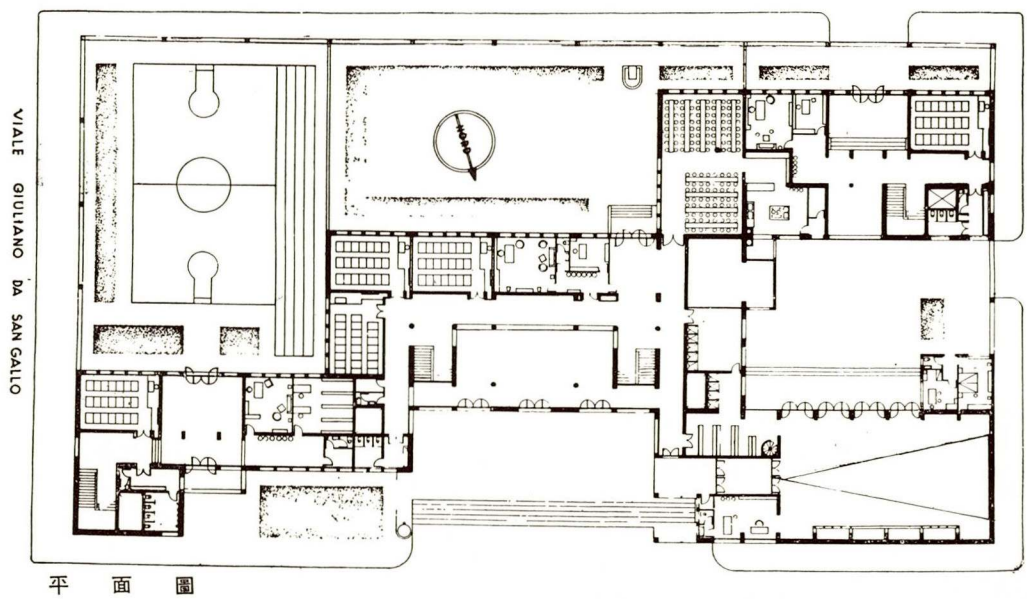


模型

（アメリカ）國民高等學校計畫案　　建築家　Wallacek Harrison



外　觀



平　面　圖

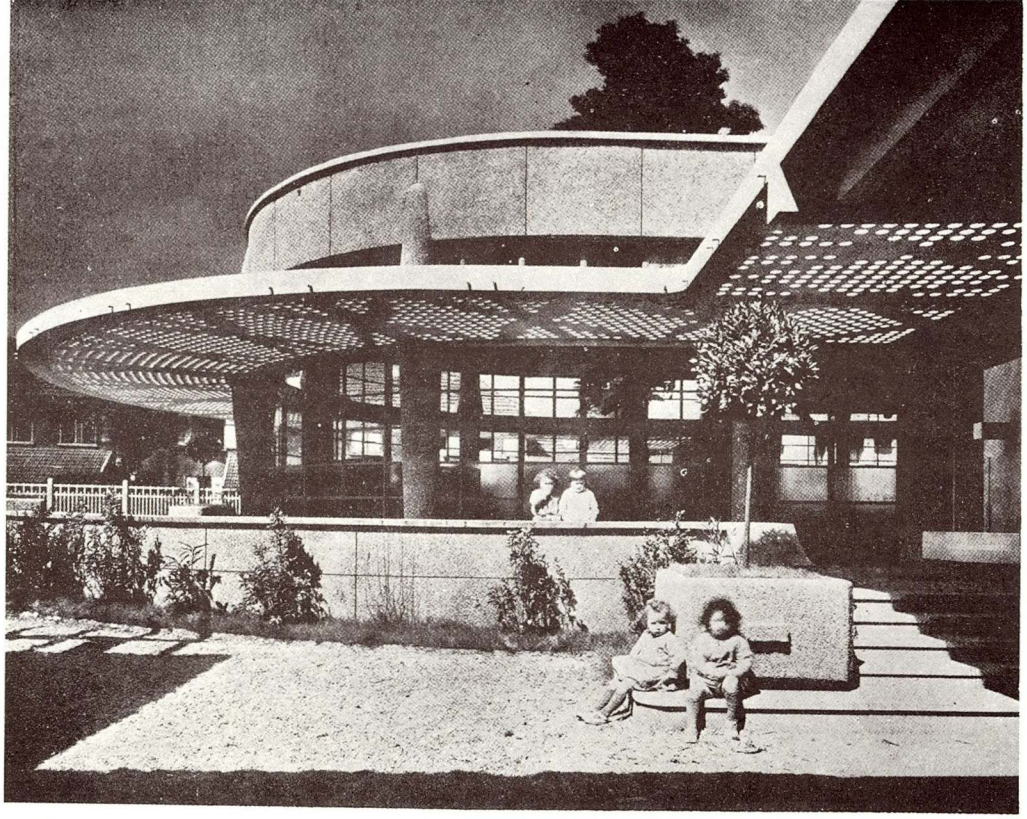
3 種の學校が互に聯絡を保ちつゝ 1 つの建物の中にコムパクトに整頓せられた所が特徴である。平面圖の左は中等學校で別箇の休憩室を持つて居る。中央部は初等學校で幾分高い地盤の上に建てられて居る。これも別の遊戲場と 1 つの食堂とを持つて居る。

右端上部は體育學校で南方に別の入口を持つて居る右端平面の下方は體操場で必要なる設備が備つて居る。

平面圖は 1 階であるが上階では教室の 2 方から採光が得られる樣に 1 教室の幅にセットバックされて居る。

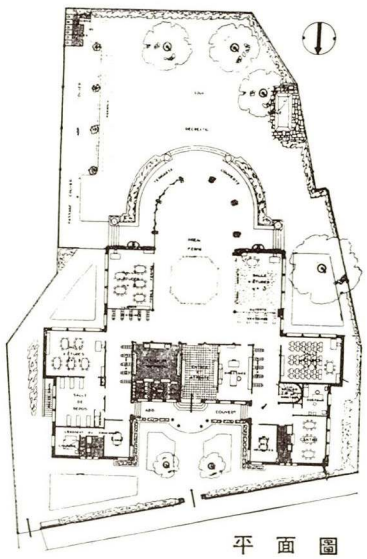
（Architectural Forum 誌より　新名種夫）

III 156　（イタリー）整頓せられた學校建築の 1 例　　建築家　Ignaris Guidi

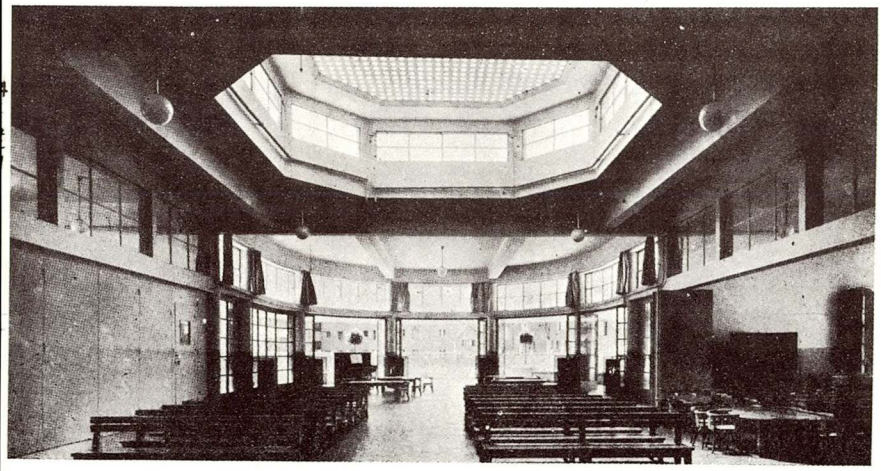


室內遊戲場外觀

雨の日には庇の下ではあるが、充分明るくそして廣い場所で遊ぶことが出來るし、晴れた日には半圓形の周圍の建具を全部開放して、戸外及屋外遊戲の聯絡を充分につけることが出來る。
戸外運動場の東北端に豫備の便所を設けてあるから、戸外の子供達が用達しの爲めに使用中の屋內遊戲場を横切ることがない。
屋內遊戲場に接した２つの教室は折疊みの間仕切を除くことに依つて屋內遊戲場の１部となる。天窓及デツキグラスよりの柔かい光線を以てその部分の採光を行つて居る。
（Architectural Forum 誌より　新名種夫）



平面圖



室內遊戲場內部

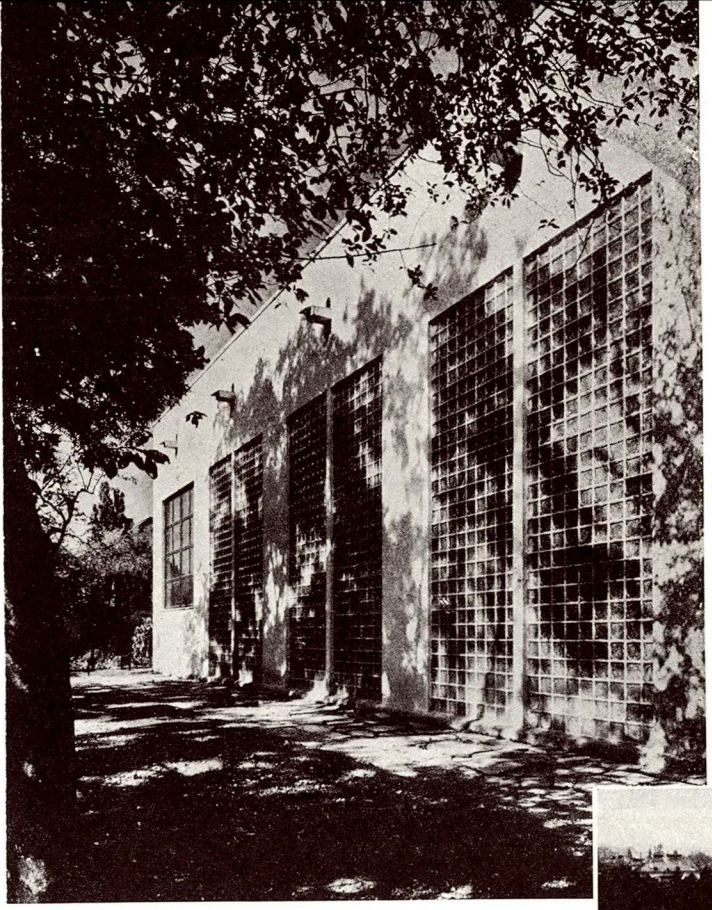
（フランス）Geunelliers の幼稚園

建築家　F. Dumail

Vienna の女學校

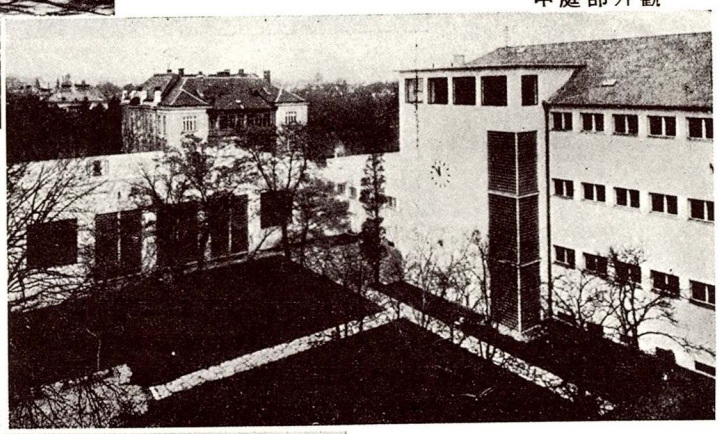
プリズムグラスを學校建築に盛に用ひたる 1 例、晝間外部より木の葉の影をもたらす太陽の光線を受けてもよし夜間屋内の照明によつて更によし。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



外　　觀

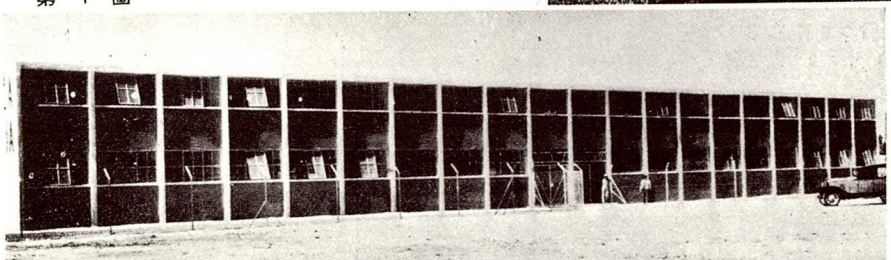
中庭部外觀



第 1 圖

經濟的な學校建築

學校建築をその最も簡單な要素に還元し、1 つの標準的なプランと構造を持つた單位を必要な丈繰返して 1 つの學校建築を作り上げる完全に機能本位であり美的價値を無視しては居るがそれでも取扱ひ方によつて充分美しくあり得る。

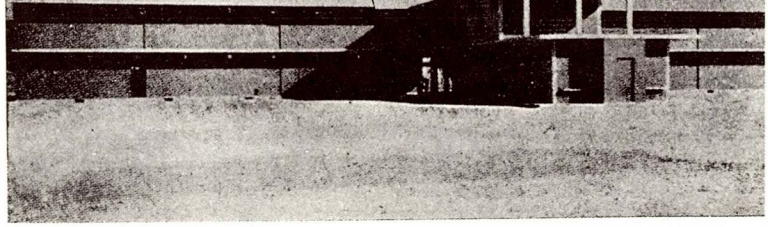


第 2 圖

此の程度の學校ならば、可成り貧乏な地方でも安い費用と短い工期とを以て相當の數だけ建築し得るであらう。工費は寫眞に示す程度の大さのもので米貨 20,000 弗位である。

工費節約の爲に廊下は第 1 圖に示す如くカンテイレバーのバルコニーになつて居る。

(Architectural Forum 誌より　新名種夫)



上 圖 (オーストリヤ) Vienna の女學校　　建築家　S. Theiss, H. Jaksd

下 圖 (メキシコ) 經濟的な學校建築　　建築家　Juan O'Gorman

時　　報

市街地建築物法施行細則中改正

京　都　府

京都府令第一號

昭和七年京都府令第十五號市街地建築物法施行細則中左ノ通改正シ昭和十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年一月十六日

京都府知事　鈴木信太郎

第二條中　「醍醐警察署」ヲ「山科警察署」ニ改ム

第五條中　第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第二項ヲ削ル

但シ知事ソノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル敷地ニハ法第八條ノ本文ノ規定ニ拘ラズ建築ヲ許可スルコトアルベシ

一　昭和十年一月三十一日以前ニ指定シタル建築線ニ接スル敷地

二　罹災地、住宅經營地區其ノ他一團ノ土地ニ亘リ指定シタル建築線ニ接スル敷地ニシテ近ク道路竣成ノ見込アリト認ムルモノ

三　前條ノ建築線ニ接スル敷地

四　河川、水路、溝渠等ノ敷地ヲ隔テテ道路ニ接スル敷地

五　山間部等ニシテ家屋連擔ノ見込ナシト認ムル土地ニ於ケル敷地

第六條ノ三　昭和十年一月三十一日以前ニ存在シ現ニ長 1.5 メートル以上2メートル未滿道路敷地ニ接スル建築物ノ敷地ハ規則第四條第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ建築ヲ許可スルコトアルベシ法施行前ヨリ存在シ長 15 メートル未滿道路敷地ニ接スル建築物ノ敷地ハ建築物ノ用途及四圍ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認ムルモノニ限リ長 1.5 メートル以上道路敷地ニ接セシムルトキ亦前項ニ同ジ

第九條　劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場、集會場、公會堂、百貨店等ノ建築物ハ其ノ主タル出入口ニ面スル道路敷地ノ境界線ヨリ其ノ觀客定員又ハ收容人員七百五十人以上ノモノハ5メートル、二百五十人以上ノモノハ3メートル、其ノ他ノモノハ2メートルノ距離ヲ後退シタル線ヲ前面ノ壁面ノ位置トス　但シ上階ノ壁面等ニシテ知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條中　「避難階段」ヲ「非常階段」ニ改ム

第十九條中　「避難階段」ヲ「非常階段」ニ改メ第二號ヲ左ノ通改ム

二　蹴上及踏面ノ寸法ハ各段均一ナラシムルコト

第三十七條ノ二　建築物竣功シタルトキハ建築物檢査濟證ヲ貼附スベシ　但シ大修繕、大變更、用途變更又ハ一部ノ增築、改築ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ建築物所有者又ハ占有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

警　視　廳

警視廳告示第二十九號

昭和七年六月警視廳告示第二百六號市街地建築物法令中取扱ニ關スル件左ノ通改正ス

昭和十年二月一日

警視總監　小栗　一雄

(一)ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

(二)　市街地建築物法第八條但書ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ

一　建築物ノ敷地ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ保安上支障ナシト認ムルモノニ在リテハ市街地建築物法第八條但書ノ規定ニ依リ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得ルモノトス

イ　昭和十年一月三十一日以前ニ於テ指定シタル建築線ニ接スルモノ

ロ　罹災地區、住宅經營地區等一團ノ土地ニ亘リ指定シタル建築線ニ接スル敷地ニシテ近ク道路竣成ノ見込アルモノ

ハ　市街地建築物法施行細則第九條ノ規定ニ依ル指定建築線ニ接スルモノ

ニ　幅員 1.8 メートル以上ノ通路ヲ含ミテ指定シタル建築線ニ接スルモノ

ホ　河川、水路、溝渠等ノ敷地ヲ隔テヽ道路敷地ニ接スルモノ

ヘ　其ノ他土地ノ狀況ニ依リ特ニ已ムヲ得ズト認ムルモノ

「(二)」ヲ「(三)」トシ以下順次之ヲ繰下グ

(三)ノ項中第二號ヲ削ル

兵庫縣

兵庫縣令第五號

昭和七年四月縣令第十五號市街地建築物法施行細則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年二月六日

兵庫縣知事　湯淺三千男

第五條中　「區劃整理施行者」ヲ「土地區劃整理施行者等」ニ改ム

「第二章建築線、高、空地」ヲ「第二章建築線、壁面ノ位置、高、空地」ニ改ム

第六條中　「幅員九尺未滿ノ公道ニ在リテハ道路敷地」ヲ「幅員六尺以上九尺未滿ノ公道ニ在リテハ其ノ路幅」ニ改メ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ建築線ニ接スル建築敷地ニ在リテハ法第八條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第七條　左記各號ノ一ニ該當スル土地ニ於テ必要ト認ムルトキハ建築線ヲ指定ス

一　道路ノ開設、變更、擴張又ハ整理ヲ要スト認メタルモノ

二　建築物ノ燒失セル一團ノモノ

三　建築物ヲ除却セル一團ノモノ

前項ニ依リ建築線ヲ指定スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ土地所有者若ハ建築物所有者ニ對シ關係書類又ハ圖面ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第八條　左ニ揭グル建築物ヲ建築セントスル場合ニ在リテハ其ノ敷地ノ前面建築線ヨリ左記各號ノ距離ヲ後退シタル線ヲ越エテ壁面ヲ突出セシムルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ別ニ壁面ノ位置ヲ制限スルコトアルベシ

一　劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建築物ニシテ觀客定員五百人以上ノモノ、集會場、公會堂及之ニ類スル建築物ニシテ收容定員七百五十人以上ノモノハ四メートル

二　劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建築物ニシテ觀客定員二百五十人以上ノモノ、集會場、公會堂及之ニ類スル建築物ニシテ收容定員五百人以上ノモノ、階數四以上ノ百貨店、勸工場及之ニ類スル建築物ハ三メートル

前項ニ該當セザル建築物ニシテ必要ト認ムルトキハ其ノ壁面ノ位置ヲ制限スルコトアルベシ

本條ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第十條中　「道路敷地ノ境界線」ヲ「道路ノ建築線」ニ改ム

第十四條第二項中　「道路境界ニ於ケル路面」ヲ「道路ノ路面」ニ改ム

第十五條　令第十四條但書ニ依リ指定スル角地其ノ他ノ地區左ノ如シ（道路面ヨリ一メートル五以上低キ場合ヲ除ク）

一　交角三十度以上百二十度以下ノ道路ノ隅角ニ位スル土地ニシテ其ノ面積ノ二分ノ一ガ左ニ該當スル區域內ニアル角地

建築敷地ノ各部分ヲ通ズル水平線中建築線ト等角ヲ爲シ其ノ建築線間ノ長ガ道路幅員ノ和ノ二倍以內ニシテ且三十六メートル以內ノモノト當該建築線間ニ介在スル區域但シ各道路幅員ハ五メートル五以上ノ場合ニ限ル

二　平行セル道路又ハ其ノ交角三十度未滿ノ道路ニ接スル敷地ニシテ其ノ各部分ヲ通ズル水平線中建築線ト等角ヲ爲シ其ノ建築線間ノ長ガ道路幅員ノ和ノ一倍二分ノ一以內ニシテ且三十メートル以內ノモノト當該建築線間ニ介在スル地區但シ各道路幅員ハ三メートル五以上ノ場合ニ限ル

公園、廣場、河、海ノ類ハ前項ノ適用ニ於テ道路ト看做ス

第十八條　建築物ノ敷地ニハ其ノ接スル道路及建築線ニ沿ヒ適當ナル勾配ヲ有スル溝渠ヲ設クベシ但シ必要ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前條及前項ノ溝渠ハ幅內法二十センチメートル以上深十センチメートル以上ノモノヲ謂フ

第二十二條中　「幅二十センチメートル」ヲ「幅十八センチメートル」ニ改ム

第二十五條　階段ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一　公衆ノ使用ニ供スルモノハ蹴上二十センチメートル以下踏面二十一センチメートル以上ト爲スコト

二　多人數ノ使用ニ供スルモノハ其ノ階段幅、踊場ノ長及幅ハ各內法一メートル以上ト爲シ廻階段ト爲サザルコト

第二十七條但書中　「床面ヲ不燃材料ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラズ」ヲ「床面ハ不燃材料ヲ以テ被覆スルコトヲ得」ニ改ム

第三十條第一號中「法第八條ニ依ル建築線」ヲ「道路」ニ改ム

第三十二條　强度計算ニ適用スル各種床動荷重ノ最少限ハ規則第百五條ノ定メアル外左ノ規定ニ依ルベシ

床ノ種類	動荷重(1平方米ニ付瓩)
共同住宅、旅館、下宿屋、寄宿舍、貸座敷ノ類	三二〇

陸屋根ノ動荷重ニ付テハ昇降ノ設備ナキ場合ト雖モ一平方メートルニ付百五十キログラムヲ下ルベカラズ

第三十四條　建築線ノ指定、解除又ハ變更ノ申請ヲ爲サントスルモノハ第一號樣式ノ申請書ニ地圖ヲ添附シ提出スベシ申請者土地所有者ニ非ザル場合ニハ土地所有者ノ連署又ハ承諾書ヲ添附スベシ但シ土地區劃整理施行者又ハ耕地整理施行者ニシテ規約及本申請ニ關スル決議事項ノ寫ヲ添附スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ地圖ハ左記各號ニ依リ作製スベシ

一　關係土地ヨリ周圍ノ主要道路ニ至ル區劃內ヲ表示シ且方位ヲ記入スルコト

二　前號ノ區劃內ニ付次ノ事項ヲ記載スルコト

イ　旣設道路、通路、河等ノ配置、相互間ノ距離及幅員、私道又ハ公道ノ別

ロ　建築物、田畑等ノ配置

ハ　斷崖、土端等ノ配置及其ノ著シキ高低差

ニ　町村名及申請ニ係ル地番

ホ　申請ニ係ル土地境界線ノ位置及要所距離

ヘ　申請人所有地又ハ借地ノ別及其ノ境界線ノ位置

ト　豫定建築物ノ配置

チ　申請ニ係ル建築線ノ位置（着色明示ノコト）長及建築線間ノ距離、土地境界線ヨリノ距離竝ニ在來通路等ヨリノ關係距離

リ　前號ノ建築線ニ係ル道路敷地及路面ノ位置竝ニ幅員

第四十六條但書中「建築主ノ異動ハ連署ヲ要ス」ノ次ニ「連署ヲ爲スコト能ハザル場合ハ事由ヲ具シ其ノ事實ヲ證スル書類ヲ添附スベシ」ヲ加フ

第一號樣式　用紙半紙

建　築　線　願

一申請者住所氏名　（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所所在地、代表者ノ氏名）

一申請者ノ資格　（在地所有者又ハ借地權者等）

一關係土地ノ位置　何市（郡）何町（村）何番地全部（又ハ一部）

一申請事項　（指定、解除、變更）

一申請事由　（道路開設、變更等ノ爲）

右及申請候也

年月日　申請者　氏名㊞

兵庫縣知事宛

兵庫縣告示第八十二號

市街地建築物法第八條但書ノ規定ニ依ル許可標準概目（細則第六條第三項所定ノモノヲ除ク）ヲ定ムルコト左ノ如シ

昭和十年二月六日

兵庫縣知事　湯淺三千男

記

一　昭和十年一月三十一日以前ニ指定シタル建築線ニ接スル敷地ニシテ當廳ニ於テ支障ナシト認ムルモノ

二　罹災地區、住宅經營地區其ノ他一團ノ土地ニ亘リ指定シタル建築線ニ接スル敷地ニシテ近ク道路竣成ノ見込アリト認ムルモノ

三　幅員六尺以上ノ通路ニ沿ヒ指定シタル建築線ニ接スル敷地

四　河川、水路、溝渠等ノ敷地ヲ隔テテ道路敷地ニ接スル敷地

五　山間部ニシテ家屋連擔ノ見込ナシト認ムル土地ニ於ケル敷地

大阪府

大阪府令第十五號

大正九年十二月大阪府令第九十四號市街地建築物法施行細則左ノ通改正ス

昭和十年三月一日

大阪府知事　安井英二

條文は別冊として本號に附錄としてゐますから參照して下さい。

會　　報

災害調査委員會

日　時　1月23日午後6時30分—9時
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　波江
　　幹　事　黒田
　　委　員　佐野　中島　三浦　矢田　山田
　　玉置　内藤　宮脇
　　囑　託　山口

1 昨年度調査事項を取纒め(11月號掲載)會長に調査報告書として報告すること
1 單行本刊行に付資料蒐集の爲大阪府建築課長外四宛照會依頼狀を發すること
1 調査分擔表を再度各委員に配付すること
1 主査、副主査を別紙の通協定し各委員に配布すること
1 2月末日迄に各委員分擔の原稿及資料を取纒めることに決定したるに付承知ありたき旨各委員に通知すること
1 次回は2月14日(木)委員會開催のことに決す
1 ユニバース寫眞師を大阪府内藤委員の手許に遣はし複寫すること

主　査	副主査	事　項
松井清之助	内藤亮一	工場、獨立塔、水害、設備
黒田　茂	矢田鐵蔵	住宅、都市、近縣
三浦尙史	山田誠	學校、古建築、輿論
波江悌夫	中島智喜	緒論、輿論、終篇

一月例會（新年宴會）

日　時　1月24日午後5時—8時40分
會　場　大阪ビル八階食堂
出席者　松井貴太郎氏外85名

1 天氣快晴にして寒氣最も强し午後4時40分（集合時5時）頃より來會者續々あり開宴前6時20分には70餘名の出席者あり
1 午後6時30分休憩室より一同宴會場に入り着席會食後松井副會長は會長に代り本日は新年宴會を兼ね一月例會を當場に於て開催したる處御多用中の御來會を謝し一場の挨拶あり續いて「テーブルスピーチ」に於て指名權を得て松室重光氏、澁谷五郎氏、松本禹象氏に順次指名し各氏其所感、意見を述べ何れも拍手を以て終り宴會を閉づ、次で別室の休憩室に入り餘興の講談を聞く時に8時
1 一同の着席を見て講談師金原亭馬生は左小刀と題して約40分の左甚五郎に付滑稽的の講談あり午後8時40分和氣靄々の裡に散會したり。

都市武裝促進委員會

時　　1月28日午後6時50分—9時20分
所　　建築倶樂部別室
出席者　委員長　池田
　　委　員　伊東恒　浦　清水　瀧澤　鳥井
　　捨　内藤　中西　山口　横山

1 委員長より本夕の出席に付て及昨年度の委員として御盡力に付て深甚の謝辭を述べられ尙當委員會は常置的の委員會となり本年も引續き御盡瘁下さることを希望す
2 本夕は差當り形式上の分擔及内容即ち研究事項に付協議したしとて協議に入り
　先づ當委員會の名稱に付檢討の結果尙研究の上決定することゝす
　次で昨年の趣意書を參考として其目的及實行方法に付審議の結果
　下記目的には異議なし

目　　的

1 防火防空建築の普及促進
1 防火地區の擴大
1 防火地區内建築完成の促進助成
1 避難施設の完備
1 環狀放射道路及公園廣場の設置
1 都市航空港の建設

3 次に實行方法に付研究し左の事項は緊急研究すべき要あるものと決し急速各自部會を開き研究を進むることに申合す

總　務　部

(1) 都市武裝に關する建議
　昨年に引續き建議する要あり從來のものを取調べ引續き建議を講ずること
　尙部分的の建議も必要なり
(2) 都市武裝週間の設置
　防空演習の一周期位に決行の要あり

調　査　部

都市航空港計畫案の懸賞募集

宣傳部

(1) 講演並映畫會に依る宣傳(地方都市)

(2) パンフレツトの發行頒布

研究部

學術其他より見たる內容の研究、即防空建築(防彈、僞裝、遮蔽、避難其他)を研究すること

4 委員の分擔は委員長一任と決し下記の通決定せり

都市武裝促進委員會分擔

委員長 池田實　副委員長 波江悌夫

總務部

部長	中澤誠一郎	幹事	內藤 亮一
委員	中西 六郎	同	三浦 尙史
同	山口 正城		

財務部

部長	安井 武雄	幹事	浦 英之助
委員	井上 福藏		

調査部

部長	鳥井 信	幹事	吉田 信武
委員	伊藤 和夫	同	川口 一二
同	桐本 楠雅		

研究部

部長	竹腰 健造	幹事	池田 宮彥
委員	伊東 恒治	同	瀧澤 眞弓
同	鳥井 捨藏	同	松井清之助
同	横山 尊雄		

宣傳部

部長	德政 金吾	幹事	本多 正道
委員	阪口芳三郎	同	岡田 孝男
同	篠原 太郎		

展覽部

部長	村野 藤吾	幹事	加藤 善吉
委員	玉置豐次郎		

演習部

部長	竹腰 健造	幹事	池田 宮彥

記錄部

部長	高橋 榮治	幹事	秋田喜代治
同	新名 種夫		

會計部

部長	清水 榮二		

常設各委員會總會

時　2月2日午後6時20分—8時

所　建築倶樂部

出席者 役員 片岡會長　澁谷監事　北垣主記
池田主記　伊東主計　清水主計
谷 主計　岡田編輯　島田編輯

委員

都市計畫委員會

國藤 福知　山下

法制委員會

石川 津田　坪井　山口　矢崎

敎化委員會

酒井 篠原 鈴木 永澤 中野
堀口

材料委員會

浦 楠瀨 作間 境 高岡 高松
松久保 道田

災害强度委員會

佐野 谷 三浦尙 矢田

設備委員會

小笠原 神谷 志岐 竹內 田中
增井 村田

住宅委員會

小川陽 小川安 木村 松本 增
山

1 朝日ビル十階アラスカに於て一同會食、片岡會長より常設委員依囑に付謝辭及希望等一場の挨拶あり、尙本夕は委員長及幹事の互選並定例會合日の決定等を協議報告ありたきことを希望し建築倶樂部に於て各委員會席を異にして初回の委員會を開き下記の通協議決定報告ありたり

都市計畫委員會(每月定例日第一第三火曜日)

委員長 鳥井　信

幹事 加藤 善吉　同　吉田 信武

敎化委員會(每月定例日第二木曜日)

委員長 古宇田 實　幹事 篠原 太郎

災害强度委員會(每月定例日第二木曜日)

委員長 波江 悌夫

幹事 黑田　茂　同　松井清之助

法制委員會(每月定例日第一第三水曜日)

委員長 津田 敏雄

幹事 坪井 誠一　同　玉置豊次郎

材料委員會(每月定例日第一第三水曜日)

委員長 高橋 榮治

幹事 浦 英之助　同　松久保敬三

設備委員會(每月定例日第二第四水曜日)

委員長　小笠原　鋧
幹　事　末澤　周次　　同　　增井　敏克
住宅委員會(未定)

(五十音順敬稱略)

常　務　會　(第3回)

時　　2月4日午後6時—8時30分
所　　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡會長　武田副會長
監事　澁谷監事
常務　伊藤主記　池田主記　北垣主記
伊東主計　清水主計　谷　主計
岡田編輯　島田編輯

議　事

1 特設委員會委員決定の件……
…會員、建築會館の兩委員會特設のことに決定
2 常設委員會委員一部變更の件……承認
3 災害調査委員會より昭和十年度に於ける豫算要求の件……次回常務會に委員長の出席説明を求むることに決定
4 主計常務より協議事項の件……承認
5 廣告係專任書記採用に關する件……可決
6 內閣統計局より統計資料索引に關する件照會に對し回答の件……可決
7 名譽賛助員一部變更の件……可決
8 建築倶樂部併合に關する件……未決
9 會員詮衡

報　告

1 災害調査委員會昭和九年度に於ける調査報告
2 二月例會準備報告
3 建築學會昭和十年度大會を關西に於て擧行の件

2　月　例　會

日　時　2月8日午後6時30分—9時50分
會　場　建築倶樂部
出席者　安藤金吾氏外39名
1 午後6時30分松井副會長司會の下に開會先づ松井副會長より當2月例會を開き講演を聽くことにしたりとて講演者府立測候所長前田末廣氏を紹介す
1 同氏は下記演題の下に2時間餘の長講演あり「暴風及地震に就いて』
1 講演後氣象に付各種の質問百出し應答の後松井副會長より講演者に謝辭を述べ一同拍手を以て之に和し2月例會は閉會を告げたり時に9時50分なり

住　宅　委　員　會

日　時　2月9日午後6時30分—7時30分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員　小川(安)　小川(陽)　岡本　木村　增山
1 長谷部鋭吉氏を住宅委員に依囑することを希望し會長に要求することに決定(補欠)
1 委員長を葛野壯一郎氏に依頼することに決定
1 幹事選定に付ては協議の結果下の通決定
幹事　小川陽吉氏　　同　小川安一郎氏
1 毎月定例日を第1木曜日とす
但し2月に限り第3木曜日に會合のこと

教　化　委　員　會

日　時　2月14日午後6時—8時30分
會　場　建築材料陳列場
出席者　幹事　篠原
委員　酒井　高木　永澤
1 本年度教化委員會事業計畫に就て
(イ)次回委員會に各學校選出委員に於て本年度事業計畫私案を各學校少くとも一案宛持寄のこと
(ロ)高等小學校工業科の教科指導の件
實狀調査依囑高木、永澤、篠原各委員
(ハ)各町村長の學校計畫に關し相談に應じ適當に指導するの件
(ニ)建築に關する各學校の卒業計畫又は協會主催の設計募集圖の展覽會開催の件
(ホ)各學校の建築科の住宅設計圖を募集して展覽會を開き之を更に各女學校(家事科のため)に於て巡回展覽會開催の件
(ヘ)建築讀本編輯の件

災害强度委員會

日　時　2月14日午後6時—8時30分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　波江
幹　事　黒田
委　員　佐野　鳥井捨　中島　矢田
1 午後6時50分波江委員長座長となり開會本年度研究事項に付協議し下記の通決定
昭和10年度研究事項
(1) 石崖に關する研究
(2) 地盤沈下に關する研究
(3) 型枠に關する研究
(4) 混凝土用材料に關する研究

1 右研究事項を左の通2分科に分ち研究を進むることに決定

第1分科　石崖に關する研究
　　地盤沈下に關する研究

第2分科　型枠に關する研究
　　混凝土用材料に關する研究

1 委員の分擔を下記の通決定

第1分科（7名）

波江　松井　鳥井　佐野　谷　青柳　園部

第2分科（8名）

黒田　三浦　中島　渡部　矢田　堀田　淺野　山田

1 上記分科設置に付次の五氏に當委員會委員依囑方會長に要求することに決定

青柳貞世氏　淺野新一氏　園部泰文氏　堀田獻次郎氏　山田誠氏

常務會（第4回）

日　時　2月18日午後6時—8時30分
場　所　建築倶樂部別室
出席者　理事　片岡會長
　　監事　澁谷監事
　　常務　伊藤主記　池田主記　北垣主記
　　保田主記　伊東主計　清水主計
　　谷　主計　新名編輯　島田編輯
　　三浦編輯

議　事

1　災害調査委員會豫算要求に關する件（波江委員長出席説明）……修正可決
2　災害强度委員長より寶塚劇場火災取調に關し經費要求の件……可決
3　災害强度委員會より要求の分科設置に付委員增員の件……可決
4　住宅委員會より要求の委員補充依囑の件可決
5　安井武雄氏より建築會館委員辭退申出の件……承認
6　3月例會に關する件……未定
7　木材市場品寸法規格案に關する會員意見交換會開催日取決定の件……可決
8　特設（會員建築會館）委員會初會開催日取決定の件……可決
9　處務細則一部改正並實施に關する件……可決
10　建築倶樂部併合に關する件……未決
11　聯合紙器株式會社申出に係る「コルゲートボード」を使用したる「アパート」見學に關する件……材料委員會へ廻附
12　雜誌交換及寄贈（發行都度）に關する件…可決
13　會員銓衡

報　告

1 建築學會大會に關する件
2 2月例會終了報告
3 日本建材協會創立に關する件
4 雜誌廣告に關する件
5 住宅委員會委員長及幹事決定報告
6 9年度決算會計檢査終了報告
7 1月分會計報告
8 工業博覽會に關する件

都市計畫委員會

日　時　2月19日午後6時30分—9時10分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　鳥井信
　　幹　事　吉田
　　委　員　喜多村　國藤　福知　山下

1 午後6時30分一同着席鳥井委員長座長となり開會
1 本夕は初回のことなれば委員長より委員會の性質及既往に於ける調査研究したる事項等に付説明あり
1 次て本年度研究事項に付凝議の結果大阪市の南方中心の阿倍野橋附近の改造の最も急務にして又興味あることに意見一致し即ち「南大阪都心計畫」に付研究を進むることに決定せり

材料委員會

日　時　2月20日午後6時30分—9時30分
會　場　建築倶樂部別室
出席者　委員長　高橋
　　幹　事　松久保
　　委　員　作間　境　道田

1 午後6時30分高橋委員長座長となり開會
先づ常務會より廻附ありし聯合紙器株式會社より申出に係る「コルゲートボード」實地使用したる建築物の見學の件に付協議し
差し當り時日は定め難きも好機會あれば見學することに決定したり
1 次て研究事項に付協議の結果「アスファルト防水の施工」に關し研究を進むることに決し其第一歩として次回の定例日に2・3實務家の出席を求め研究會を開くことゝなり尙當日は協會員有志の參加希望を周知するため下記の如き會告をなすことを會長に要求することに決す

會　　告

アスファルト防水の施行に關する研究會開催に付協會員の隨意參加希望の件

今回本協會材料委員會に於てアスファルト防水の施行に關し二、三實務家を加へ意見の交換會を下記の通開催致しますから協會員各位の隨意御參加の上研究談を御洩し下さることを希望いたします

時　3月6日(水)午後正6時開會—9時閉會

所　建築倶樂部（北區中之島朝日ビル4階）

追て夕食は準備いたして居りませんから御了承を願ひます

昭和10年3月

日本建築協會

法制委員會

日　時　2月20日午後7時30分—10時

會　場　建築材料陳列場別室

出席者　委員　石川　宮脇　山口　矢崎

1 市街地建築物法施行規則第53條中の質疑に對し研究せり

横臥材に對し添柱を施行し胴差しを施工せし場合は柱の小徑を何れに採るか

1 鐵筋コンクリート柱に對する有効斷面積の疑義質疑に對して研究せり

1 文部省の訓令に成る學校建築注意書を採錄し中小學校關係者に配布方委員長より會長に進達することを申合せり

住宅委員會

時　　2月21日午後7時—8時40分

所　　建築材料陳列場別室

出席者　幹事　小川陽　小川安

委員　岡本　長谷部　增山

1 午後7時開會

2 本年度の研究方針に付協議し下記2案を得たり

第1案　委員10名を10ケ月に割當て當番者に研究題目を選定せしめそれを中心として委員が意見を述べること

第2案　住宅の床、天井、壁體、屋根、窓入口建具等の種類、用材、構造、施工等に關する最も進歩したる施工法を討議研究すること

3 以上の2案の内第2案を以て本年度の研究方針として進むことに決定

4 故に當委員會に下の分科を設置することに決す

第一分科　研究事項　住宅の用材、構造等

第二分科　研究事項　住宅の施工、種類等

5 當委員會に分科を設けたる爲委員の增員を要するに付下の諸氏に委員依囑方を會長に要求することゝなる

赤松修氏　黒澤研氏　小林三造氏　塚本猛次氏　本間乙彦氏

6 下の如く分科委員を定めたり

第一分科

赤松修　小川安一郎　岡本新次郎　木村寛一　小林三造　長谷部鋭吉　三木來三

第二分科

小川陽吉　黒澤研　塚本猛次　本間乙彦　松本儀八　增山新平　村野藤吾

災害調査委員會

時　　2月21日午後7時—9時

所　　建築倶樂部

出席者　幹事　黒田

委員　谷　中島　三浦　矢田　山田　篠原　本多　内藤　宮脇

1 午後7時波江委員長缺席に付黒田幹事座長となり開會

1 同幹事より調査書出版豫算に付去る18日開會の常務會に波江委員長と出席し要求に付て說明交涉したる結果を詳細報告あり

1 次て出版豫算決定に付實施計畫協議に入り

(1) 大阪府廳の寫眞並說明を撰擇して必要なる分を本月二十三日借用すること

(2) 右に付黒田、矢田、中島3委員に委囑す

(3) 學校建築原稿　擔を決定す

(4) 原稿作成の爲3月5日當委員會を開催することに申合す

(5) 昨年風水害の際大毎に於て古建築（名所旧蹟）の被害連續揭載されたるに付其寫眞一式分讓方を大毎中尾保氏(若は直接)を經て購入することに決定(西谷書記交涉のこと)

名譽賛助員　關　一氏

名譽賛助員從四位勳三等法學博士關一氏昭和0年1月26日病を以て逝かるゝに哀悼に堪へず茲に照骨と略歷を揭げ謹みて弔意を表す、關一氏は東京府士族關近義氏長男として明治6年9月26日出生同25年東京高商卒業、大藏屬、兵庫縣立神戸商業教諭、新潟市立新潟商業學校長兼教諭を經て同30年11月東京高商教授に就任、翌31年ベルギーに留學、42年正五位に叙せられ43年法學博士の學位をうけ大正2年文部省督學官を兼任、翌3年7月10日大阪市助役に就任、同12年11月30日池上市長の



後をうけて大阪市長となりその職にあること3期12年といふ大都市の異例を作つた、同12年12月本協會名譽賛助員に推擧せらる、昭和5年7月勳四等瑞寶章に叙せられ9年7月地方自治體に力を致した功により貴族院議員に勅選さる帝國復興院評議會評議員、社會事業調査會臨時委員、帝國經濟會評議員、鐵道會議臨時委員、ガス事業委員、中央職業紹介委員會委員、失業對策委員會委員、電氣委員會委員、鐵道運賃審議會委員を兼ね佛、白兩國から勳章の贈呈をうけてゐる。

會員動靜

入會者

名譽賛助員推薦

文部次官　三邊　長治閣下
大阪府知事　安井　英二閣下
京都府知事　鈴木信太郎閣下
兵庫縣知事　湯淺三千男閣下
大阪市長　加々美　武夫殿

會員

正岡　普君　大阪府廳營繕課(同課)
林　政一君　大正區三軒家濱通1ノ32(合名會社竹中工務店)
竹中　錬一君　神戸市葺合區熊内町6ノ5(合名會社竹中工務店)

特別賛助員

中村　信義君　兵庫縣川邊郡花屋敷(近江セールズ株式會社大阪出張所)

普通賛助員

龜岡　二郎君　港區二條通1ノ10
澤田　清一君　住吉區鷹合町176ノ1(合名會社竹中工務店)
吉川　秀夫君　府下豊能郡岡町幸通3丁目竹中寮(合名會社竹中工務店)

退會者

會員

木野山照雄君、佐藤好夫君、藤田登君、磯島信一君、足立芳助君

普通賛助員

沖村德一君、角戸義一君、千本成一君、佐藤佐君
山村彼面君、栗井重男君

轉居轉勤

會員

鈴木　孫市君　北區常安町中之島寮
安田　則世君　住吉區阪南町西4ノ15
篠原　清孝君　府下中河内郡久寶寺村字三津98
遠藤　司君　愛知縣碧海郡安城町内外綿株式會社内
遠山　久君　兵庫縣神崎郡粟賀村福本307
田中　彌一君　住吉區山阪西之町3ノ24レイキサイドハウス

地方會員

田島市兵衛君　佐賀市上多布施町14　松尾組内
福永佐和吉君　東京市世田ケ谷區玉川中町1丁目927ノ7
布袋　國雄君　東區南久太郎町2丁目住友銀行船場ビル長谷部竹腰建築事務所
若林茂太郎君　大分縣南海部郡八幡村日本セメント佐伯工場内
小栗　治平君　德島市中通町3丁目丸之内旅館内

特別賛助員

萩原　貞君　府下豊能郡麻田村麻田924
田中　一君　東京市澁谷區氷川町9

普通賛助員

白井　俊雄君　兵庫縣川邊郡小田村潮江字角田26
齋藤小三郎君　府下三島郡鳥飼村西鳥飼日本ヴルッ絹糸工場新築工事場
福島　繁君　堺市寺地町東2丁50
久保　欽吾君　南區鰻谷仲之町53(營業所)
田中喜久雄君　京都市上京區紫竹芝本町41
弓馬　重美君　神戸市須磨區太田町3ノ82
中島　八郎君　神戸市灘區王子町3ノ312
山本　正重君　旭區今福町60大阪工場共會
古賀　繁登君　旭區今福町60大阪工場共會
戸田　和夫君　兵庫縣武庫郡甲子園月見ノ里
上田　虎男君　府下三島郡山田村字小川(大阪市東淀川區役所)
河杉　親一君　北區芝田町112
村田　眞一君　府下三島郡山田村字小川(大阪市役所建築課)

改名

會員　久保田種吉君　(舊名筆雄)

社團法人 日本建築協會役員及委員 （昭和十年）

役員

常務會（定例日 第一第三月曜日）

會長 片岡安
副會長 武田五一
副會長 松井貴太郎
監事 岡部顯則
監事 澁谷五郎
主記 伊藤和夫
主記 池田宮彥
主記 北垣熊之介
主記 中澤誠一郎
主記 保田虎太郎
主計 伊東宗太郎
主計 清水榮二
主計 谷隆夫
編輯 岡田孝男
編輯 新名種夫
編輯 島田良馨
編輯 三浦尙史

評議員會

評議員 今林彥太郎
同 伊藤和夫
同 伊東宗太郎
同 池田宮彥
同 岡田孝男
同 大倉三郎
同 片岡安
同 加藤善吉
同 河合貞一郎
同 北垣熊之介
同 國藤武
同 兒玉廣太郎
同 佐野俊三
同 酒井勇三郎
同 作間日出生
同 清水榮二
同 新名種夫
同 白石登喜男
同 島田良馨
同 志岐善吉
同 鈴木金太郎
同 園部泰文
同 武田五一
同 高橋榮治
同 玉置豊次郎
同 谷隆夫
同 瀧澤眞弓
同 鳥井信
同 中澤誠一郎
同 平塚鎗吉
同 藤本賢太郎
同 本間乙彥
同 松井貴太郎
同 松久保敬三
同 牧野忠
同 松井清之助
同 三浦尙史
同 矢田藏誠
同 山田誠
同 山口久五郎
同 保田虎太郎
同 渡部圭吾
同 渡實幸

建築材料陳列場幹事會

幹事長 德政金吾
幹事 伊東宗太郎
同 浦英之助
同 岡部顯則
同 北垣熊之介
同 中西六郎
同 渡部圭吾

「建築と社會」編輯部會（定例日 第一木曜日）

編輯部員 桐本楠雅
同 東畑謙三
同 中西六郎
同 內藤亮一
同 本多正道
同 吉田信武
同 和田登

「建築學研究」編輯委員會

委員 伊東恒治
同 新名種夫
同 武田五一
同 瀧澤眞弓
同 棚橋諒
同 坂靜雄
同 藤井厚二
同 吉田信武
同 橫山尊雄
同 森田慶一

委員

都市計畫委員會（定例日 第一第三、火曜日）

委員長 鳥井信
幹事 加藤善吉
同 吉田信武
委員 喜多村義雄
同 國藤武
同 椎原兵市
同 德政金吾
同 福知秀夫
同 福富正治
同 山下國太郎

法制委員會（定例日 第一第三、水曜日）

委員長 津田敏雄
幹事 玉置豊次郎
同 坪井誠一
委員 石川寬三
同 白石登喜男
同 內藤亮一
同 三浦茂
同 宮脇晴美
同 山口久五郎
同 矢崎高儀

教化委員會（定例日 第二、木曜日）

委員長 古宇田實
幹事 篠原太郎
委員 伊東恒治
同 酒井勇三郎
同 鈴木忠五郎
同 高木太作
同 永澤毅一
同 中野順次郎
同 姬野武
同 堀口甚吉

材料委員會（定例日 第一第三、水曜日）

委員長 高橋榮治
幹事 浦英之助
同 松久保敬三

會計部

部長　清水榮二

災害調査委員會

委員長　波江悌夫
幹事　黒田茂一
委員　淺野新雅三
同　桐本楠三郎
同　佐野俊夫
同　篠原太郎
同　谷隆夫
同　玉置豐次郎
同　鳥井捨藏
同　中島智喜
同　内藤亮一
同　松井清之助
同　本多正道
同　三浦尙史
同　宮脇晴美
同　水原大造
同　矢田巖藏
同　山口儀三郎
同　山田誠吾
同　渡部圭夫
囑託　竹内成夫
同　野村安太郎

建築會館委員會

委員長　竹腰健造
幹事　鈴木末尾
同　谷民藏
委員　大林賢四郎
同　阪口芳三郎
同　阪井米吉
同　德政金吾
同　波江悌夫
同　中澤誠一郎
同　松室重光
同　山脇友三郎

會員委員會

委員長　富士岡重一
幹事　今林彦太郎
同　酒井勇三郎
委員　池田谷久吉
同　大倉三郎
同　川口一二
同　籠田定憲
同　古宇田實
同　澁谷五郎
同　中澤誠一郎
同　松本儀八
同　宮本長治
同　山脇友三郎

彦平八三
乙新儀來精
間山本木野
本增松三本

同同同同同

都市武裝促進委員會

委員長　池田實
副委員長　波江悌夫

總務部

部長　中澤誠一郎
幹事　内藤亮一郎
委員　中西六尙史
同　三浦口正城
同　山

財務部

部長　安井武雄
幹事　浦英之助
委　井上禰藏

調査部

部長　鳥井信
幹事　吉田信武
委員　伊藤和二雅
同　川口一楠
同　桐本

研究部

部長　竹腰健造
幹事　池田宮彦
委員　伊東恒治
同　瀧澤眞弓
同　鳥井捨藏
同　松井清之助
同　横山尊雄

宣傳部

部長　德政金吾
幹事　本多正道
委員　岡田孝男
同　阪口芳三郎
同　篠原太郎

展覽部

部長　村野藤吾
幹事　加藤善吉
委員　玉置豐次郎

演習部

部長　竹腰健造
幹事　池田宮彦

記錄部

部長　高橋榮治
幹事　秋田喜代治
新名種夫

澈生
出日正三
瀨間
作境
楠高高
一吉郎郎郎
太治次
與平泰政
岡松田本
高道吉

委同同同同同

災害强度委員會

（定例日第二、木曜日）

第一分科

委員長　波江悌夫
幹事　松井清之助
委員　青柳貞俊
同　佐野部泰
同　園谷隆
同　鳥井捨藏

第二分科

幹事　黒田茂一
委員　淺野新喜
同　中堀島智郎
同　田猷次史
同　浦尙巖
同　矢山田誠
同　渡部圭吾

設備委員會

（第二、四、水曜日例日）

委員長　小笠原銅次
幹事　末澤周克
委員　增井敏彦
同　神谷光吉
同　志岐善夫
同　竹内成造
同　西中直彦
同　塙村安信
同　小田一

住宅委員會

（定例日第一、木曜日）

委員長　葛野壯一郎
幹事　小川陽吉
委員　小川安一郎
同　赤松修
同　岡本新次郎
同　木村寬一
同　黒澤研
同　小林造
同　塚本猛次
同　長谷部銳吉

編　輯　後　記

○新大阪ホテルの完成を機として、3 月號は「ホテル」號とした。

○同ホテル、上高地ホテル、蒲那ホテル、琵琶湖ホテル等最近に竣工したるホテルに關する寫眞を中心として編輯した。

○新大阪ホテルに就いては、計畫、意匠、構造、設備、施工等に關するまで、記事も寫眞も出來るだけ網羅しようと試みた。

○同工事に關係の方々の殆んど全部から、御多忙中に拘らず原稿を頂いたこと、御依頼により上高地、蒲那、琵琶湖の各ホテル設計者、工事關係者等より直に寫眞の御送附にあづかつたこと、編輯として大に感謝する所である。

○國際新建築の紹介が遲れると言ふお小言があつた。雜誌の頁數に制限がある爲に、記事の頁數が多くなつた場合、國際新建築の紹介を翌月廻しにしたことに依る。本月號より出來るだけ月々に載せる樣にし度いと思つて居る。

○本月號より本協會の使命に觸れる如き記事を毎號載せることにした。會員各位のこの方面に關する記事を期待する次第である

（新名）

建　築　と　社　會

第 18 輯第 3 號

毎月1回1日發行　定價　1册 .50圓(郵稅2錢)　12册 6.00圓(同 24 錢)

昭和10年2月25日印刷　昭和10年3月1日發行

發行・編輯　印刷人　鷹取陽

西宮市今津町津門字賓津605番地

印刷所　大阪活版所

大阪市東區內淡路町1丁目7番地

發行所　社團法人 日本建築協會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話長本局(23)4500番(6)

振替口座大阪39.975番

特約販賣店　柳々堂書店

大阪市西區京町堀羽子板橋西

電話土佐堀 2440番

振替口座大阪 2084番

禁　轉　載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣　告　掲　載　料　金

普　通	1 頁	1 回	15.00
普　通	½ 頁	1 回	8.00
普　通（前附第1頁）	1 頁	1 回	45.00
普　通（前附第2頁）	1 頁	1 回	40.00
普　通（後附第1及最終頁）	1 頁	1 回	25.00
アート（中　揷）	½ 頁	1 回	20.00
表　紙 2	1 頁	1 回	60.00
表　紙 3	1 頁	1 回	45.00
表　紙 4	1 頁	1 回	80.00
建築事務所錄	1 欄	1 回	1.50
（建築關係職業者案內）	1 欄	1 回	5.00

御　注　文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店券振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵へ代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者
1・6	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社
2～4	木工品	日本樂器製造株式會社大阪支店
5	合板寄木フローリング	富士建築工藝株式會社
7	リノリユーム其他附屬品	東洋リノリユーム株式會社
8～9	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野澤幸三郎商店
10	トラバーチン	金王石工所
11	ロールプラッグストップリーグ	ユニオントレーヂングコンパニー
12～14	アサヒライトSSSプラスターソリヂツトスタイン	工材社
12～14	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
15	特許能美式自働火災警報裝置及消火裝置其他	合資會社能美商會
16	衛生器具	大阪城口研究所
17	衛生器具	株式會社須賀商會
18	衛生器具	西原衛生工業所
19	水洗便所ヨネフラッシュバルブ	米本榮商店
20～21	衛生陶器附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所
22	銅鐵製窓枠	榮進社大阪出張所
23	内裝用藥掛タイル	淡陶株式會社大阪支店
24	カールプラグ及カールエキスパンションボールト	合名會社小野逞三商店
25	タイル	山本窯業商店
26	各種タイルテラカツター	大阪窯業株式會社
27～28	テラカツター衛生陶器	大阪陶業株式會社
29	タイル	有田製陶所
30	洋家具裝飾	船木由松商店
31	テラカツタータイル等	伊奈製陶株式會社
32	金庫寫眞カタログ	大谷金庫店
33	硝子製品	旭硝子株式會社
34	ドアーチエツク、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエツク製作所
35	町野式水道消防器具	ヂヨイント商會大阪支店
36	ドアーハンガー	平松釣戸車製造所
37	建具金物	近江セールズ株式會社
38	大理石及人造石	矢橋大理石商店
39	大理石	大理石工業株式會社
40	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社

棚番號	材料種別	出品者
41	ルーフキング	田島應用化學工業所
42～43	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道銅管	住友伸銅鋼管株式會社
44	銅眞鍮アルミニウム	古河電氣工業株式會社
45～46	ラス類一式	奥村重兵衛商店
47	スチールサッシュ、シヤッター見本	合名會社汎建製作所
48	板硝子	日本板硝子株式會社
49	石材並ニ彫刻物	一營商會
50	建建金物	大塚正治郎商店
51	ベニヤ板及加工品	ベニヤ商會
52	金屬天井板	佐渡島西店建材部
53	便利瓦	木下謹三商店
54	一般石材	關西石材株式會社
55	石綿スレート	淺野スレート株式會社
56	ダンローア	大澤商會大阪支店
57	オリエンタルメタル浪板	オリエンタルメタル製造所
58	ベニヤ板見本ドアーセクシヨン	内外木材工藝株式會社
59	專賣特許特殊ゴム床敷物	ライトラバー工業合資會社
60	田中式カストストーン	合名會社田中タイリング商會
61	アスファルト	榎商店
62	日之出アスファルト加工品	日本建築紙工大阪支店
63	ルーフキング	佐久間パブコ工業株式會社
64～65	キングブロックアスファルト鐵鋼類	マルエス工業株式會社
66	バルボイド、メトロストンベークライト	合資會社大洋組建材部
67	建築諸材料	合資會社建材社
68	セメント防水劑モリノイト保溫盤ウオータイト	日本セメント防水劑製造所
69	防水劑ロータス	關城化學工業株式會社大阪營業所
70	スカイライト、エービーメタル	内外土木建築材料合資會社
71	水性塗料	岩城塗料製造株式會社
72	硝子製品	株式會社島田硝子製造所
73	洋瓦各種	宇野洋瓦株式會社
A	裝飾織物	高島屋裝飾部
B. 1	コルク板	梁瀨商店
B. 2	美素	美素工業所
B. 3	ヤハズラス	日本防火建材製作所
B. 4	人造大理石	旭マーブル研究所
C	KU式自働復式火難求助器	苅野鐵工所

建築と社會第18輯第3號　廣告索引

ア　阿部鐵工所……44
　旭硝子株式會社……43
　朝日建材株式會社……1
　淺野スレート株式會社……45
　淺海商會……30
イ　礒田塗料工店……5
　岩元商店建材部……30
エ　榮進社……13
　英進商會建材部……34
オ　大阪窯業セメント株式會社……中挿
　大阪伊丹商店……24
　大野製作所……表紙 4
　奥村重兵衛商店……27
　岡田建材店……12
　大澤商會……17
カ　關西煉瓦販賣株式會社……8
キ　木下謹三商店……49
　桐田商會……33
　協和商會……20
ク　黒川化學工業所……22
　久保商店……18
ケ　建盛商會……36
　建築裝飾協會……表紙 3
コ　後藤商店……36
サ　佐渡島西店……41
　笹岡家具裝飾店……34
　三機工業株式會社大阪支店……表紙 2
　三共株式會社……15
シ　清水組……2
ス　須賀商會……37
　杉本製作所……3
セ　政正合資會社……39
　清光社……18
タ　田中昌司商店……32
　田島應用化學工業所大阪支店……48
　田村商會……46
　大洋組建材部……28
　大元塗料店……20
　ダンロップ護謨株式會社……中挿
　タカラ商會……42
ト　東洋リノリユーウム株式會社……23
　東洋陶器株式會社……6
　東洋キヤリヤ工業株式會社……表紙 2
ナ　內外土木建築材料合資會社……35
　中松組鐵工部……7
　南滿鑛業株式會社……28
　中野鐵平石店……24
ニ　日本建築紙工株式會社……39
　日本エレベーター製造株式會社……4
　日本金具株式會社……中挿
　西原衛生工業所……16
　西孫南店建築金物部……29
ノ　野澤幸三郎商店……11
ヒ　平松釣戸車製作所……42
　日立製作所……47
フ　福島合名會社……14
　藤田庄藏商店……9
ホ　ボルネオ物産商會出張所……12
マ　マルエス工業株式會社……21
ミ　ミナト製作所……22
　三井物産株式會社……25
　三村芳太郎商店……10
ヤ　矢橋大理石商店……26
　大和護謨製作所……19
　山本東作商店……32
ユ　ユーニオントレーデングコンパニー……38
ヨ　横河橋梁製作所……31
　米本榮商店……6
ラ　ライトラバー工業合資會社……40
レ　玲光社(木內眞太郎)……14